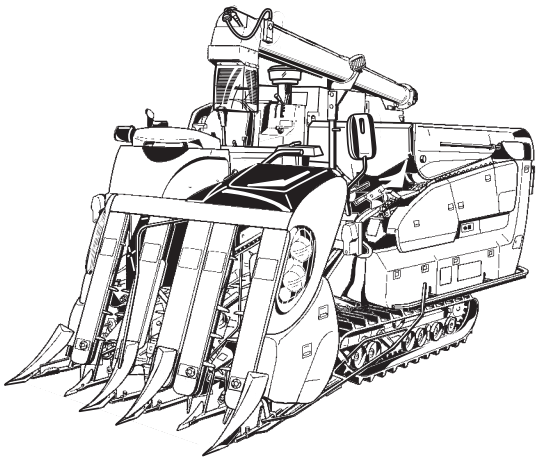
クボタコンバイン

取扱説明書

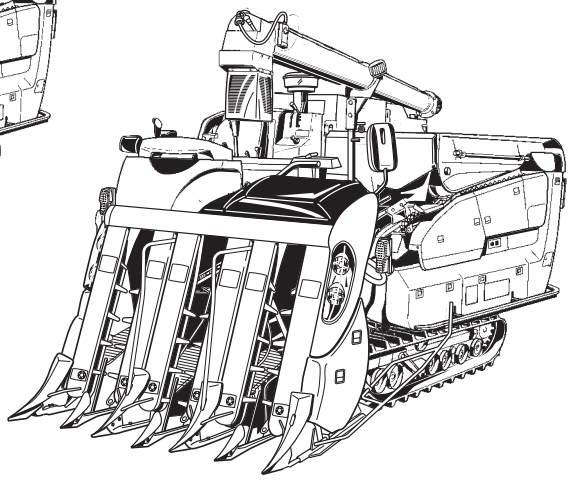
エアロ☆スター ワールド

WR572



1ARAEAZAP0740

WR698



1ARAEAZAP0870

OPERATOR'S MANUAL

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ホーン
	エンジン回転数［**低回転**］
	エンジン回転数［**高回転**］
	ウインカランプ
	ヘッドランプ
	ヘッドランプと作業灯

	エンジン停止
	駐車ブレーキ
	燃料
	水温
	エンジン油圧
	バッテリ充電

専門用語の説明

• **パワーステアリングレバー**	油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
• **デバイダ**	こくかんを分けすくい上げる部分
• **ドレーン（プラグ）**	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
• **刈取一方クラッチ**	前進のときに刈取部を駆動し，後進のとき刈取部の駆動を断つ部品
• HST	油圧式の無段変速装置
• **アジャスト**	調節を意味する
• **主変速レバー**	**［前進］［後進］**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
• **１番スクリュ**	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
• **２番スクリュ**	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
• **チャフシーブ**	こく粒を粗選する桟状の板
• **トウミ**	選別風を発生させるファン
• **グレンシーブ**	こく粒を精選するあみ体
• **送じん調節レバー**	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
• **排じん調節**	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
• **こぎ胴**	脱こくするドラム
• **フィードチェーン**	稲を挟持搬送するチェーンコンベア
• **縦スクリュ**	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
• **こぎ胴オープン**	こぎ胴を上に上げる機構
• **揺動板（シーブケース）**	揺動運動してこく粒を選別する装置
• **アンローダ**	グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り･収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は［WR572］を基本とし，［WR572］と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

［例］　WR572　M-H
①　②③

①エンジン出力（刈取条数）……［572］（５条刈り･72PS）
［698］（６条刈り･98PS）

②自動車体水平制御装置……［M 仕様］

③作物適応範囲（草丈の全長）によって
- ･550～1300(mm)……［表示なし］
- ･500～1200(mm)……［H 仕様］

諸装置		備考
自動化装置	自動こぎ深さ制御	
	アンローダ自動旋回制御	
	自動エンジン停止	
	エンジン正逆転ファン	
	刈取オートクラッチ［刈取部上昇時搬送駆動停止機能］	
方向微調整		
バイブロシャッタ		もみ排出時連動
アンローダリモコン		
パワークラッチ［脱こく・刈取・もみ排出］		電動
集中注油		電動
プレクリーナ		
スクリュ式拡散		オプション部品
スイスイデバイダ		オプション部品
キャノピ		オプション部品
刈取防じんカバー		オプション部品

目　次

⚠安全に作業するために

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください **1**
安全作業するための表示ラベル **24**
　表示ラベルの内容・貼付位置 24
表示ラベルの手入れ **36**
　表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る 36

サービスと保証について

小型特殊自動車について

装置の名称と取扱い

機体方向説明 **4**
装置の名称と各部のはたらき **5**
　メインスイッチ 9
　アクセルレバー 9
　非常エンジン停止レバー 10
　主変速レバー・副変速レバー 10
　ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 11
　パワーステアリングレバー・方向微調整スイッチ 11
　フットレスト 12
　運転席（シート） 12
　刈取下降ロックスイッチ 13
　脱こく・刈取クラッチレバー 13
　引起し変速レバー 13
　刈取りかき込みペダル 14
　パワーアップこぎ胴スイッチ 14
　エンジン停止スイッチ 15
　トウミ調節レバー 15
　チャフ調節レバー 15
　もみ排出スイッチ 16
　メータユニット 16
　エンジンシステム異常ランプ 17
　コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ 18

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき **19**
　自動車体水平制御装置（モンロー） 20
　水平操作レバー 22
　自動こぎ深さ制御装置 22
　手動こぎ深さスイッチ 23
　刈取オートクラッチ 24
　アンローダ自動旋回制御装置 24
　アンローダレバー 25
　アンローダリモコンスイッチ 27

運転前の点検

日常点検項目 **29**

移動走行と輸送

新車時の扱いかた **31**
　ならし運転について 31
エンジンの始動と停止のしかた **31**
　始動のしかた 32
　停止のしかた 34
移動走行について **35**
　走行前の準備 36
　発進のしかた 37
　旋回のしかた 39
　停車･駐車のしかた 40
　道路走行について 40
輸送について **41**
　トラックとあゆみ板の準備 41
　コンバインの準備 41
　コンバインの積込み･積降しのしかた 42
　トラック上での処置 43

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件 **44**
　作物の条件 44
　ほ場の条件 44
ほ場の準備 **45**
　ほ場の準備 45
コンバインの準備 **45**
　準備のしかた 45
刈取作業のしかた **51**
　ほ場の出入りのしかた 51
　刈取作業の手順 52
　ほ場の刈りかたと旋回のしかた 55
　作物に合わせた変速の選びかた 56
　もみの排出のしかた 56
　手刈り（枕刈り）脱こくのしかた 60
　作業に合わせた各部の調整･調節のしかた 61
　右デバイダの調節 62
　引起し爪高さの調節 62
　刈刃の高さ調節 63
　こぎ室送じん調節レバーの調節 63
　排じん調節板の調節 64
　トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）の開度の調節 64
　排出調整板の調整 65
　メータユニットによる異常と処置 66

メンテナンス

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた **69**
　防じんカバーオープン 69

目　次

運転席下カバー及び運転席下側板の脱着 . . 69
こぎ胴オープン 70
カッタオープン 74
シーブケースの脱着 75
受あみの脱着 82
引起しサイドカバー右・左の脱着 82
引起しカバーの脱着 83
左サイドカバーの脱着 83
グレンタンク下カバーの脱着 85
カッタ左サイドカバーの脱着 85
排わら切換えカバーのオープン 86
グレンタンクオープン 86
各部の掃除と注油のしかた 88
各部の掃除 89
各部の注油 94
定期点検 103
オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整 104
廃棄物の処理について 104
洗車時の注意 105
使用者が行なってはいけない修理 105
定期点検一覧表 106
給･注油（水）点検一覧表 112
燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換 . 114
燃料 114
エンジンオイル 115
トランスミッションケースオイル 117
刈刃駆動ケース 118
油圧オイルタンクオイル 118
HST 入力フランジのオイル. 119
フィードチェーン駆動ケースオイル 120
レール台ブッシュへの注油 120
トラックローラ部への注油 121
各部のグリース 122
ラジエータ冷却水の点検・交換 124
プレクリーナの点検・掃除 126
エアクリーナの点検･掃除･交換 127
パイプ･ホース類の点検 128
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除・オイルクーラフィンの掃除 129
油水分離器（セパレータ）の点検・排水・掃除 130
フューエルフィルタカートリッジの交換 . 131
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 133
HST オイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジの交換・HST 吸入フィルタの洗浄・交換. 134
各部ワイヤの点検・調整 135
駐車ブレーキワイヤ 136
フィードチェーンオートクラッチワイヤ . 136
脱こくクラッチワイヤ・刈取クラッチワイヤ 137
排わら切換えワイヤ 138
各部ベルトの点検･調整 139
ファン駆動ベルト 143
ミッション駆動ベルト. 145
刈取駆動ベルト. 145
脱こく駆動ベルト. 145
トウミ駆動ベルト. 145
補助搬送（突起付）ベルト. 146
こぎ胴駆動ベルト. 146
2 番駆動ベルト 147
1 番駆動ベルト 147
2 番トウミ駆動ベルト 148
揺動駆動ベルト. 148
排わらチェーン駆動ベルト. 149
カッタ駆動ベルト. 149
タンク駆動ベルト. 149
タンククラッチ駆動ベルト. 150
各部チェーンの点検･調整. 150
引起しチェーン. 152
右穂先チェーン. 153
中穂先チェーン・左穂先チェーン. 153
株元供給チェーン. 154
右株元チェーン・中株元チェーン・左株元チェーン. 155
供給サポートチェーン. 157
供給サポートチェーン駆動チェーン. 157
こぎ深さチェーン. 157
フィードチェーン. 158
排わら株元チェーン. 158
排わら穂先チェーン. 159
刈刃の点検・調整. 159
こぎ歯の点検･交換. 163
わら切刃の点検・組換え・交換. 164
カッタ部の点検･調整･増締め. 166
カッタ刃の交換. 170
排わらチェーン押えの点検・調整・交換. 174
吐出口ブーツの点検･交換. 174
バッテリの点検･交換. 175
電気の各配線コード･各ヒューズの点検･交換 179
ランプ（電球）の点検･交換・ホーンスイッチの点検. 182
反射器の点検・交換. 183
クローラの点検･調整. 183
トラックローラ（転輪）の点検. 184
ドライブローラの点検・左右入換え・交換185
刈取作業後の手入れ 186
毎日の作業後. 186
長期格納時. 186

コンバインの不調と処置

わらが詰まる 188
自動エンジン停止装置がはたらいたとき. 188
もみが詰まる 190
アンローダからもみが排出されないとき. 190
その他 191
けん引フックについて. 191
緊急刈脱ハンドルについて. 191

付表

主要諸元 **192**
付属部品 **194**
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） **194**
スイスイデバイダ 194
刈取スタンド 194
刈取り防じんカバー 194
種子用交換部品 194
キャノピ 194
バックミラー 195
スクリュ式拡散装置 195
カッタ後部ドロッパ 195
消耗部品（純正部品を使いましょう） ... **195**
クボタ純オイル **208**
オイルはクボタ純オイルをお使いください。 208
クボタ純グリース 208

索引

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

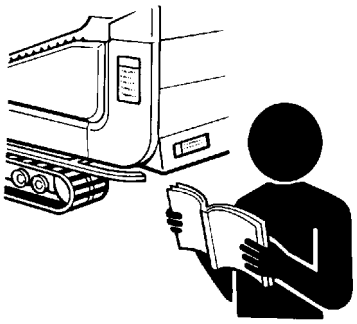
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

◆ 一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。



1BBAAAAAP0280

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  ・お酒を飲んでいる方　・睡眠不足の方
  ・妊娠中のご婦人　　・過労，病気の方
  ・16 歳未満の方

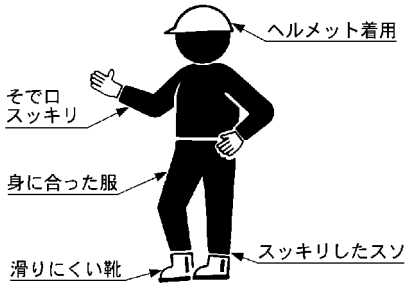
1ARAEABAP0420

[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

⚠作業時には運転者，補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット，滑りにくい靴を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。
- 必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用する。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用する。
  作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護メガネ，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用する。
  各保護具は使用前に機能を確認する。

[守らないと]
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0450

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

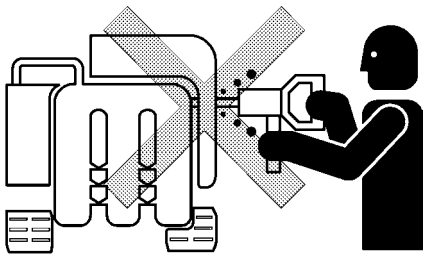
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

1AAACAAAP008A

⚠機械を改造しない。

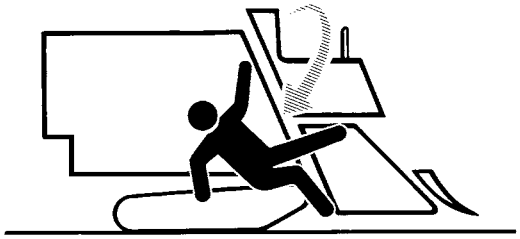
[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。


1ARABAHAP0040

⚠運転席に乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしない。

- 平坦な場所でハンドルをしっかり握り，すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。

[守らないと]
転倒・転落し，傷害を負うおそれがあります。


1ARADBHAP2410

⚠運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

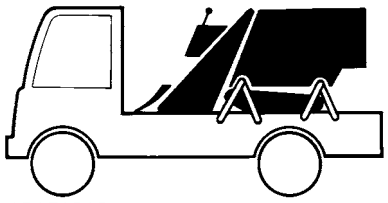
[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1ASABAAAP3730

⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

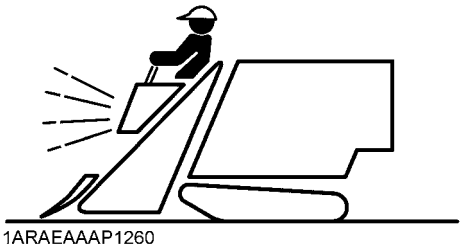
[守らないと]
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0440

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP1260

◆ 作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

[守らないと]
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

1ARAEAAAP0560

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止める。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

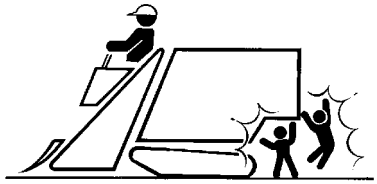
[守らないと]
火災の原因になります。

1AAACAAAP001A

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

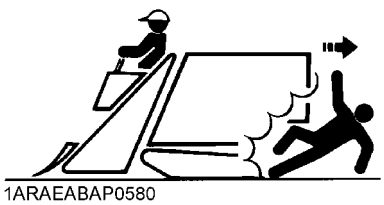
- **エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバーを［停止］位置，副変速レバーを［N］（中立）以外の位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- **機械を発進するときや脱こく・刈取各クラッチレバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0780

- **初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。**

[守らないと]
思わぬ事故の原因となります。


1ARAEABAP0580

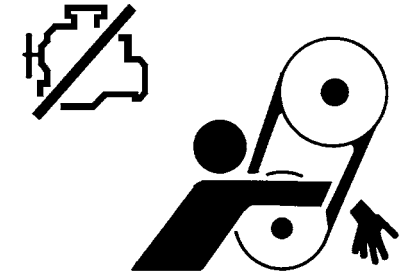
⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

■ 運転の前には点検項目（29 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

1ARAEABAP0460

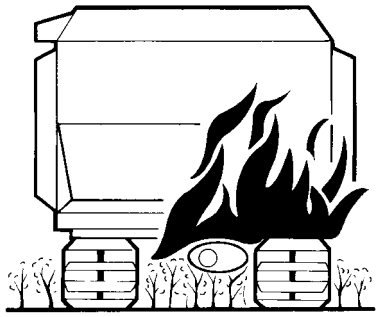
[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。


1ASADACAP4900

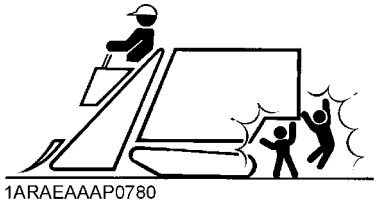
[守らないと]
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。


1ARAEABAP0600

[守らないと]
火災の原因になります。

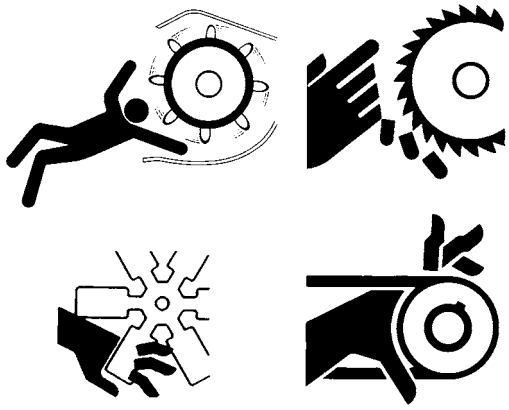
■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。


1ARAEAAAP0780

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠こぎ胴，カッタ，グレンタンクをオープンするときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- 各部のオープンは平坦な場所で行なう。
- こぎ胴，カッタをオープンしたときは，ストッパを掛ける。
- オープンしたままエンジンを始動しない。

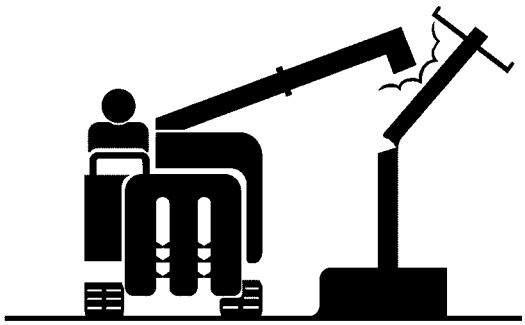


1ARAAAAAP1130

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ 移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

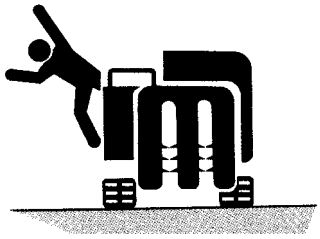
⚠移動走行するときは，次の事項を守る。


1ARADAFAP3120

- 各作業クラッチ（脱こく･刈取クラッチ，もみ排出）を**［切］**位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出する。
- 副変速レバーを切換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを**［停止］**位置にし，走行をいったん止めてから行なう。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取付ける。
- 補助デッキ，左分草かん，補助ステップを収納して，機体幅を狭くする。
- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

［守らないと］
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠移動走行時は急旋回をしない。

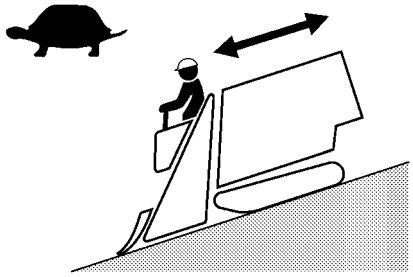

1ARAEAAAP0870

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。

［守らないと］
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しない。

- 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では，上り又は，下り方向に低速でゆっくりと走行する。
- 坂道（傾斜地）では，右又は，左に傾いた方向に走行しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回をしない。

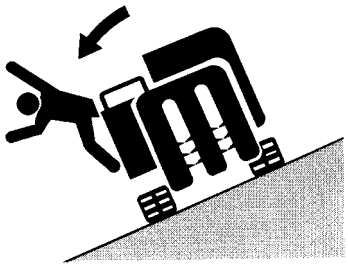

1ASAAAHAP367B

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

1ASAAAHAP368B

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

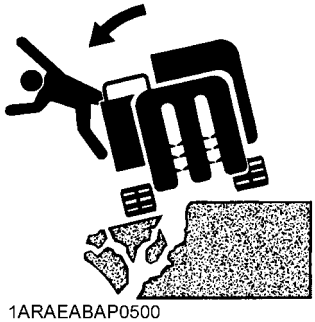
- もみは全て排出する。
- 坂道（傾斜地）では，パワーステアリングレバー，副変速レバー，ブレーキペダル，水平操作レバー，かき込みペダルを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。


1ARAEAAAP0860

[守らないと]
暴走したり，転倒するおそれがあります。

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

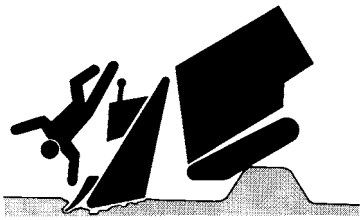
- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。


1ARAEABAP0500

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

⚠ほ場の出入りで，あぜなど段差のあるところではあゆみ板を使う。

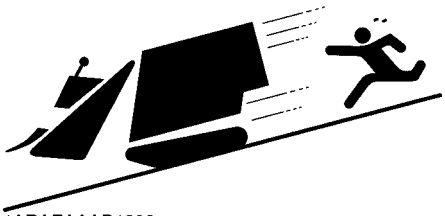
- 10㎝以上の段差のあるところでは,段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて排出する。


1ASABAAAP3710

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平坦な場所に止め，副変速レバーを［標準］又は，［倒伏］位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

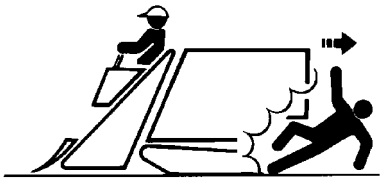
- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。


1ARAEAAAP1290

[守らないと]
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

◆ 作業時の注意事項

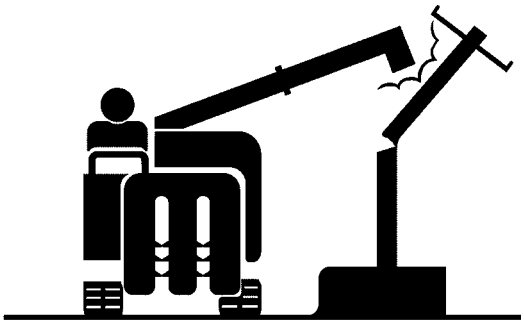
⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。


1ARAEABAP0580

- エンジン始動時, 及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは, ホーンなどで合図し, 必ず補助者の OK をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは, 運転者に知らせることを徹底させる。

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

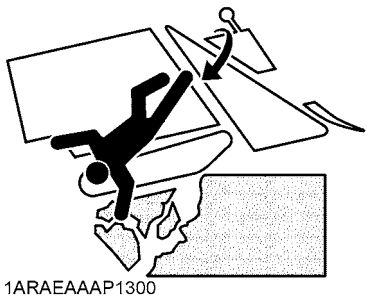
⚠アンローダを動かすときは, 旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。


1ARADAFAP3120

- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- アンローダは, アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。

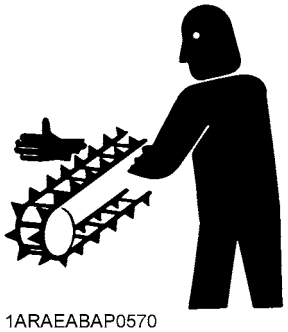
[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。


1ARAEAAAP1300

[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

⚠手こぎ作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。


1ARAEABAP0570

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛ける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 刈取クラッチを**[切]**にして，枕こぎプレートを下げた状態で，プレートの上にわらを乗せて手刈り脱こくを行なう。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に入れるときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，少量ずつ行なう。

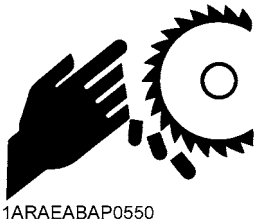
[守らないと]
チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，キーを抜く。

1ARAEAAAP0460

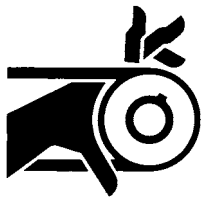
- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，各作業クラッチ（脱こく･刈取，もみ排出）を**[切]**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

[守らないと]
カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー, 及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。



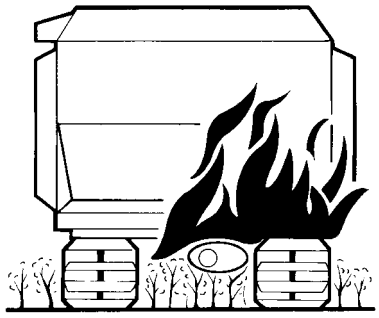
1ARAEAAAP0460

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ 作業後・格納時の注意事項

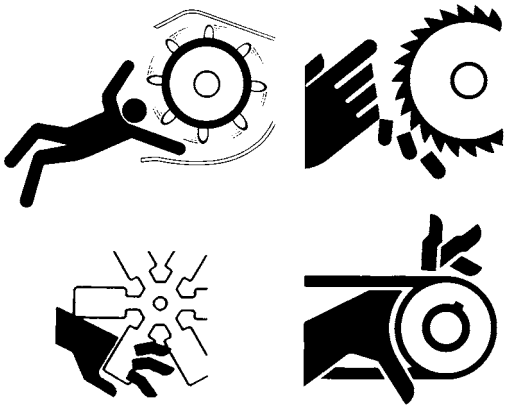
⚠わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

[守らないと]
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAAAAAP1130

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

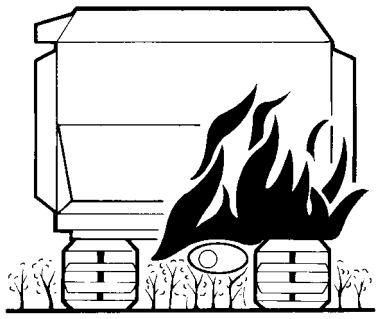
- エンジン本体・マフラ・排気管は，エンジン停止直後は触れない。

[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。

1AKADACAP1390

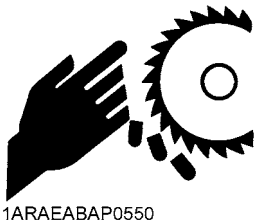
⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内，配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

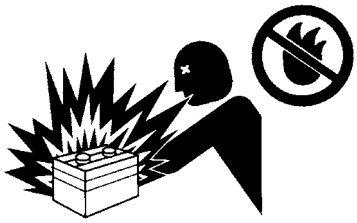
⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルをショートさせない。

[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。


1ARAEABAP0110

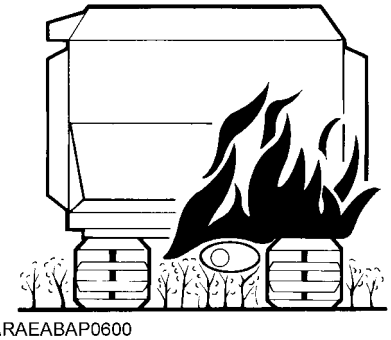
⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。

1ARAEAAAP0410

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

◆ 点検整備時の注意事項

⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

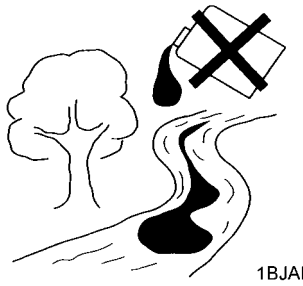
[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0460

⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

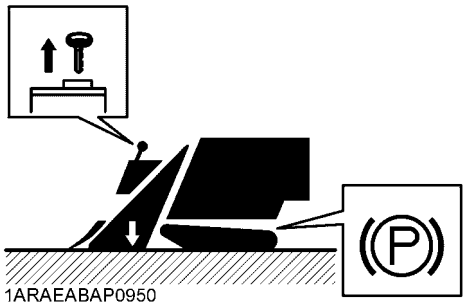
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。

[守らないと]
環境汚染につながります。


1BJABAAAP0180

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜き，各クラッチを [切] 位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

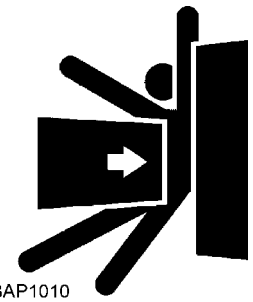
[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0950

⚠こぎ胴，カッタ，グレンタンクをオープンしたときは，ストッパで固定する。

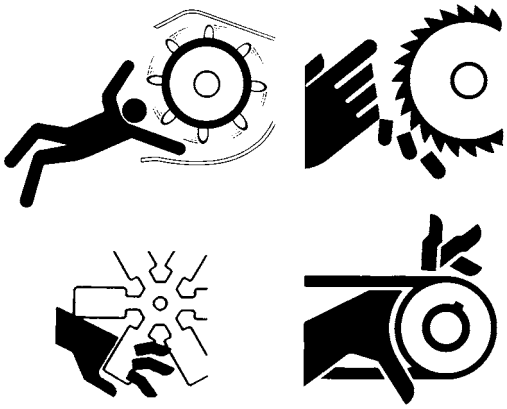
[守らないと]
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP1010

⚠刈取部，こぎ胴，カッタ，グレンタンクをオープンしたままエンジンを回さない。

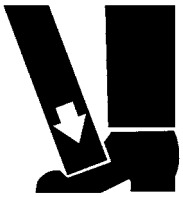
[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAAAAAP1130

⚠シーブケースや切断軸アッシなど重量物の脱着作業は，3 人以上で行なう。

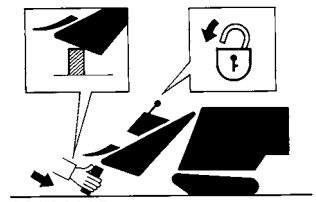
[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。



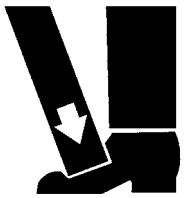
1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

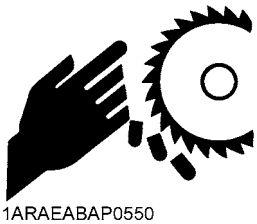

1ASACAAAP3630

[守らないと]
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0910

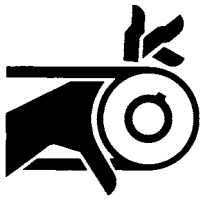
⚠刈刃，カッタ刃，わら切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

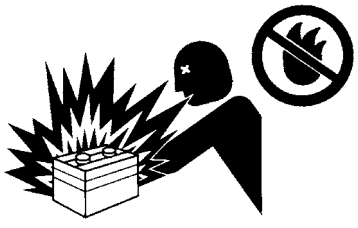
[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0460

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（−）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ・ライタ・タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルのショートによるスパークをさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。

[守らないと]
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。


1ARAEABAP0110

⚠バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。[補水タイプ]

- バッテリ液が不足していれば,すぐに **UPPER LEVEL(上限)** と **LOWER LEVEL（下限）** の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

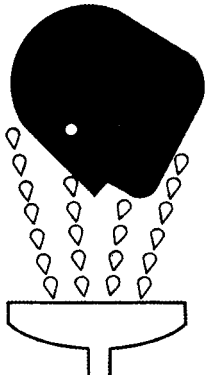
[守らないと]
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，爆発の原因となることがあります。

1ARAEABAP0130

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは,すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

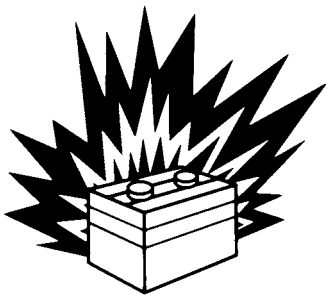
[守らないと]
失明やヤケドのおそれがあります。



⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

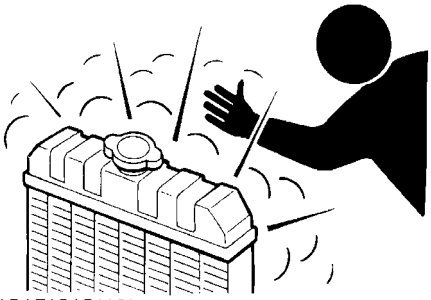
[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0120

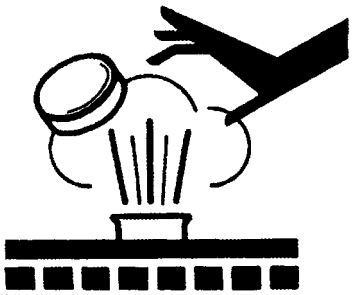
1ARAEABAP0620

⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。


1ARAEABAP0050

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0160

⚠燃料ホース，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。

1AAAAABAP0240

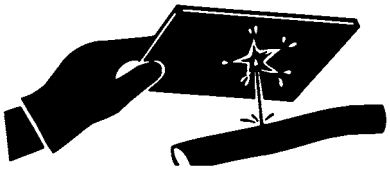
1ARAEABAP0970

⚠燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

1BAACAAAP010A

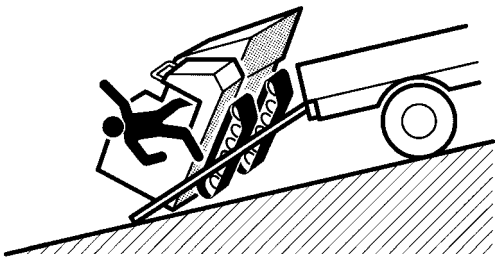
[守らないと]
油が皮ふに侵入して，強度のアレルギーや感染症を引起す可能性があります。



1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

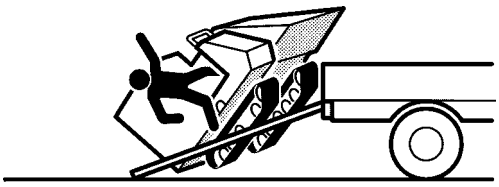
⚠トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。


1ARAAAAAP1010

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを**R（後進）**又は，**1速**に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかり固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。


1ARAAAAAP1020

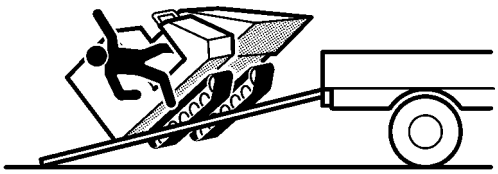
- あゆみ板の基準

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	70cm 以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が 3100kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

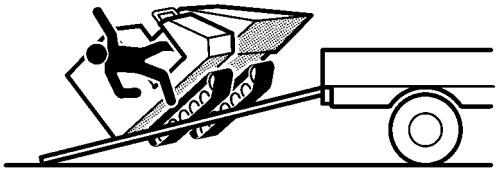
⚠積込み・積降し前に，もみはすべて排出する。


1ARAAAAAP1030

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。

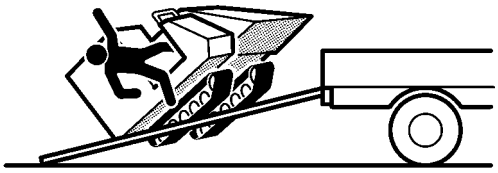


1ARAAAAAP1030

- 各作業クラッチ（脱こく・刈取，もみ排出）を**［切］**位置にする。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。

［守らないと］
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠あゆみ板の上では方向修正しない。

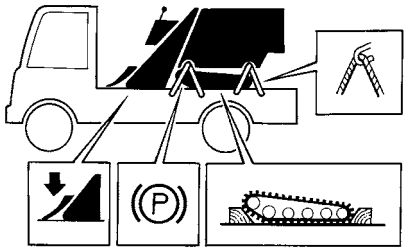


1ARAAAAAP1030

- あゆみ板の上では，パワーステアリングレバー･副変速レバー･ブレーキペダル･水平操作レバー・かき込みペダルは操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

［守らないと］
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。



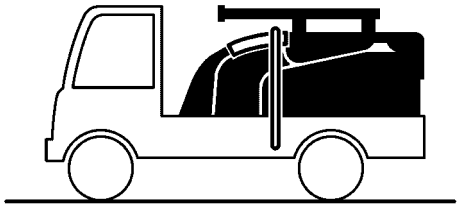
1AVAAAAAP2220

- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 副変速レバーを**［標準］**位置又は**［倒伏］**位置にし，駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の**［ロープ掛けフック（４箇所）］**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

［守らないと］
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

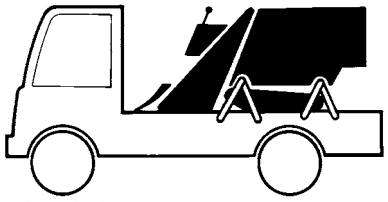
- 樹脂カバー・着脱の簡単なカバー・折りたたみ部品などは, ロープで確実に固定するか, 外して荷台に置く。


1ARAEABAP1000

[守らないと]
輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

[守らないと]
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。


1ARAEABAP0440

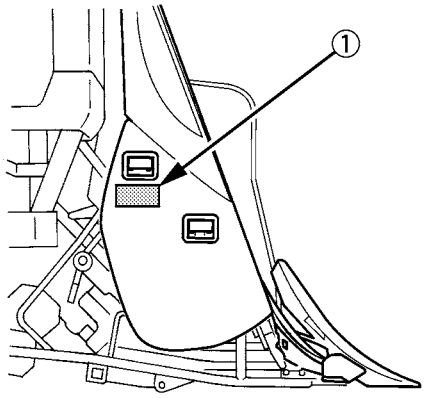
安全作業するための表示ラベル

■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　5K190-6432-1

⚠ 注　意
中に回転物がありケガをするので、 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J



1ARAEAZAP004A

②品番　5H601-4344-1

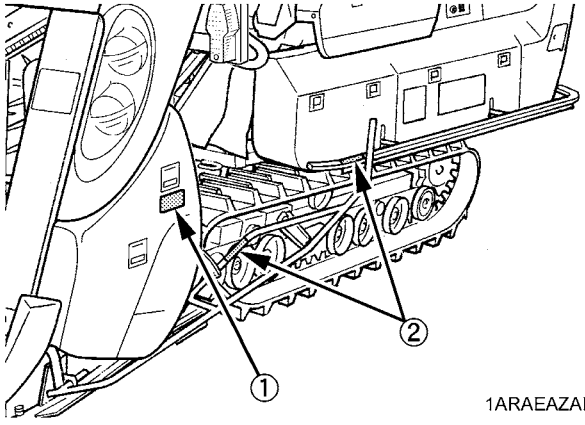
⚠注意	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、 移動するときは必ず収納すること。

1ARADBEAP342J

③品番　59700-4332-2

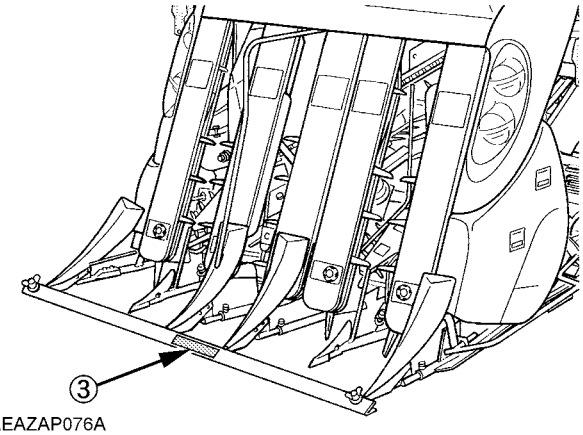
⚠注意	デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

1ARADBEAP344J



1ARAEAZAP075A

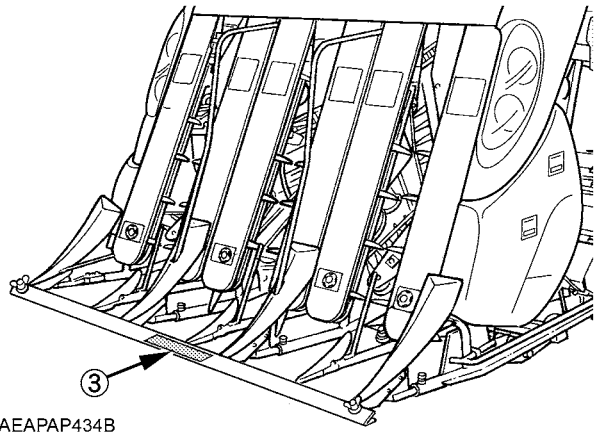
[572]



1ARAEAZAP076A

[572]

[698]



1ARAEAPAP434B

[698]

①品番　5H601-4348-1

⚠ 注　意

作業前
1.安全に作業するために，取扱説明書を読んで，機械の使い方を覚えること。
2.エンジンを始動するときは，主変速レバーを「停止」にし，駐車ブレーキペダルを踏み込み，各作業クラッチを「切」にすること。
3.屋内は排気ガスが溜まり易く，ガス中毒の危険があるので換気すること。
4.ケガをするおそれがあるので，掃除・点検・調整のときは，各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1.発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは，周囲の安全を確かめ合図して，機械に人を近付けないこと。
2.転落・転倒事故の危険があるので，傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3.走行を停止するときは，主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
※主変速レバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので，ノブを握らないこと。
4.道路交通法規定により，トラック運搬時（特にキャビン付）は，地上高３.８ ｍ以下で運行すること。
5.刈取作業時以外(あぜ乗越時，移動走行時，運搬時，格納時)は，「もみ」をすべて排出または降ろして，各作業クラッチを"切"にし，M仕様(車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にすること。

積込 ・積降ろし
1.転倒・転落事故の危険があるので，車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
1 積み込むときは前進で，降ろすときは後進にすること。
2 副変速を倒伏にし，エンジンの回転を落として(2000rpm 以上)，低速にすること。
3 あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上または荷台に戻って向きを正し，再度やり直すこと。
4 あゆみ板は段差の４倍以上の長さで，すべり止めがあり，基準に合ったものを使用すること。

駐・停車
1.火災の危険があるので，機械を停止するときは，切りワラや雑草の上に止めないこと。
2.急発進・暴走の危険があるので，副変速レバーを切り換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし，駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。
3.機械から離れるときは，エンジンを止めて始動キーを抜き，駐車ブレーキを必ずロックすること。また，坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

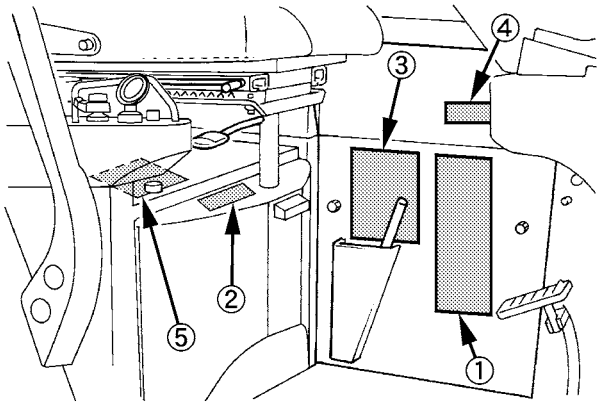
1ARAEAPAP003J

②品番　5H601-4342-1

⚠ 注　意

エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

1ARAEAZAP099J



1ARAEARAP020A

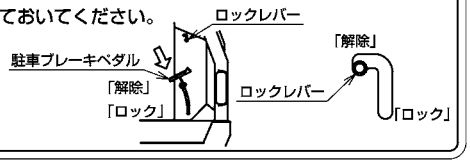
③品番　5H601-4358-3

⚠ 注　意

1．トラックへの積み降ろし中および，走行中に駐車ブレーキペダルを踏むと，急に機体の向きが変わり，転倒・衝突のおそれがあるので踏まないこと。
2．駐車ブレーキをかけるときは、副変速レバーを必ず「N」以外の位置に入れること。
※副変速レバーが「N」では、油圧ロックが作動しないため、坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。
3．坂道で駐車するときは、暴走を防ぐため、必ず車止めをすること。

駐車ブレーキの取り扱い

主変速レバーを完全に停止位置に戻してから、駐車ブレーキペダルをロックがかかるまで、強くいっぱいに踏んでください。駐車ブレーキペダルを踏みながらレバーを上に上げると駐車ブレーキが解除されます。
路上走行時はロックレバーは「解除」の位置に引上げておいてください。

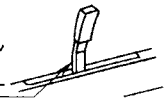


1ARAEAZAP073J

④品番　5H601-4354-1

⚠ 注　意

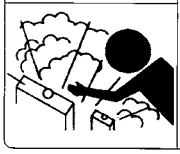
坂道で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと



1ARADBEAP348J

⑤品番　5H601-4343-1

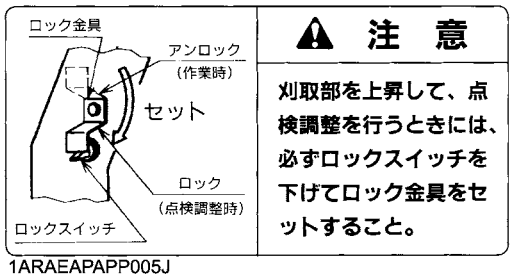
⚠ 注　意



オーバーヒートでエンジンルームを開けて点検、整備するときは、次の手順を守ること。
1．エンジンを止める。
2．必ず停止後３０分以上経過してからエンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

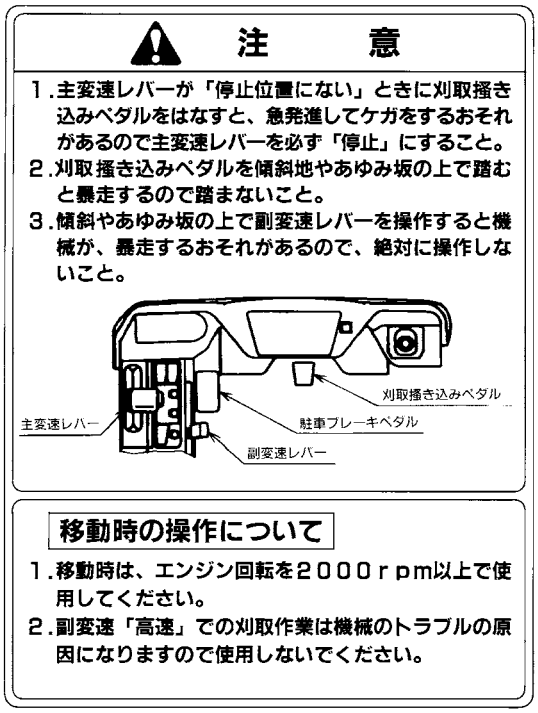
1ARADBEAP349J

①品番　5H601-4322-1

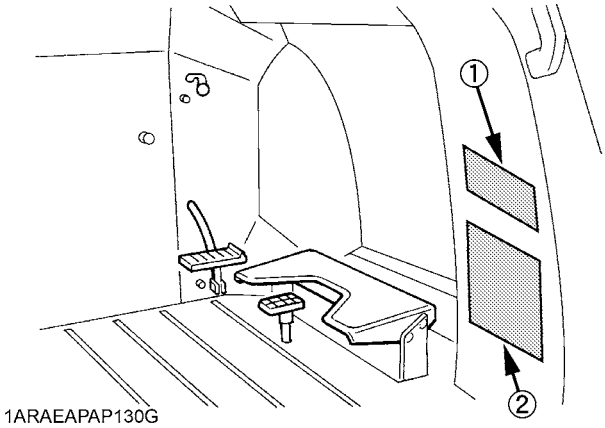


1ARAEAPAPP005J

②品番　5H601-4323-1



1ARAEAPAPP006J

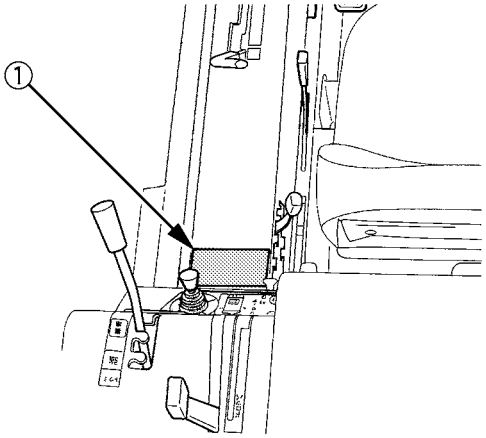


1ARAEAPAP130G

①品番　5H825-4329-1

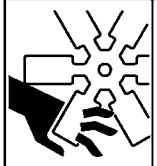
⚠ 注意		
	1．手をはさみ、けがをするおそれがあるので、アンローダササエの上に手を置かないこと。	2．アンローダ先端が大きく動き、けがをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないこと。

1ARAEBDAP180J

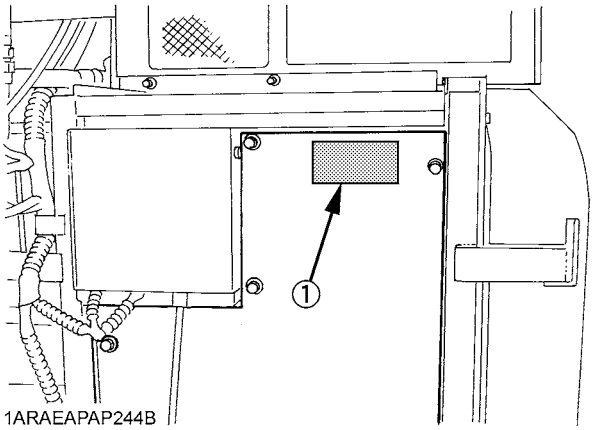


1ARAEAZAP011P

①品番　5H601-4342-1

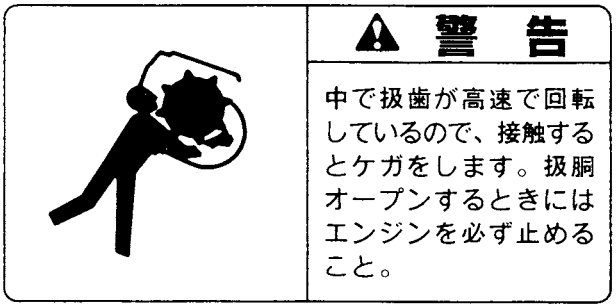
⚠ 注　意	
	エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

1ARAEAZAP099J

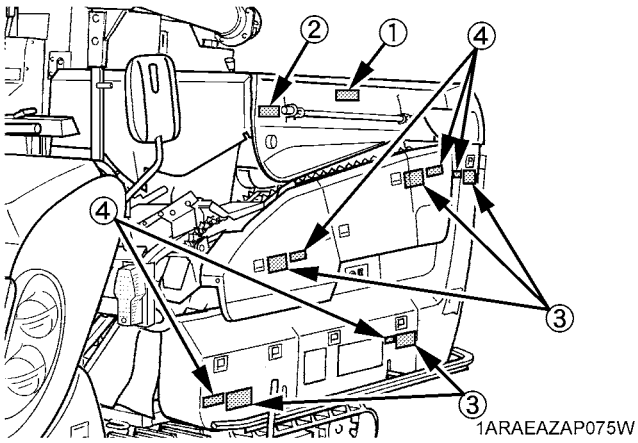


1ARAEAPAP244B

①品番　53982-6431-1

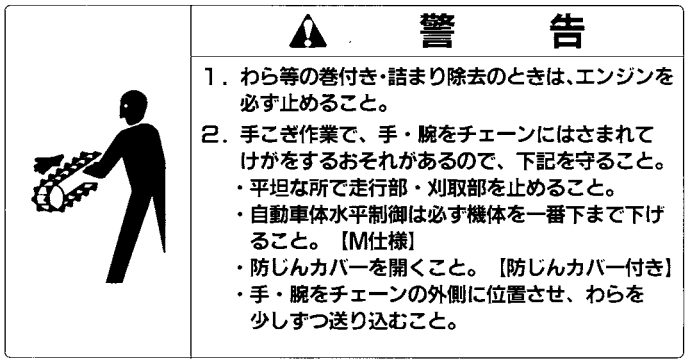


1ARADBEAP354J



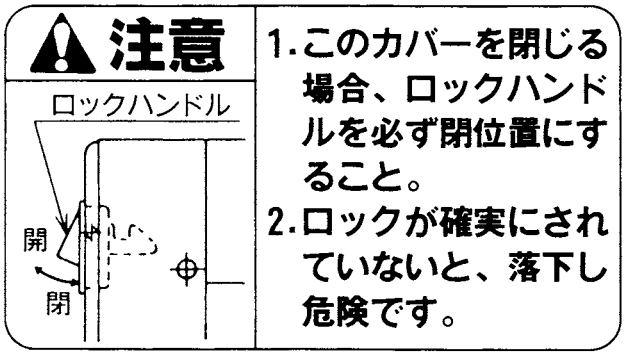
1ARAEAZAP075W

②品番　53649-6435-1



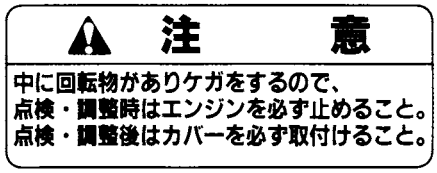
1ARADBEAP355J

③品番　5K190-6433-1



1ARADBEAP360J

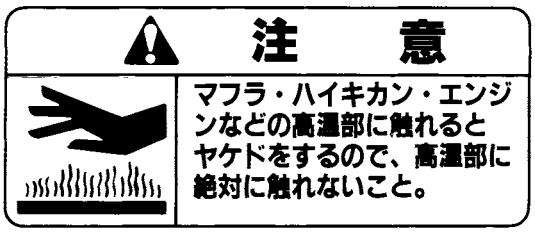
④品番　5K190-6432-1



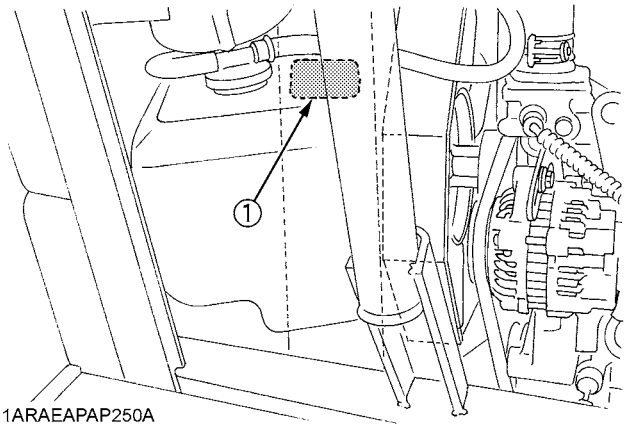
1ARADBEAP341J

---

①品番　52320-3159-1

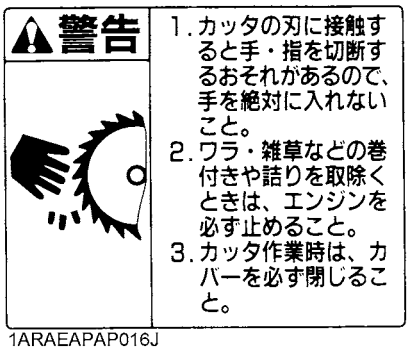


1ARADBEAP351J

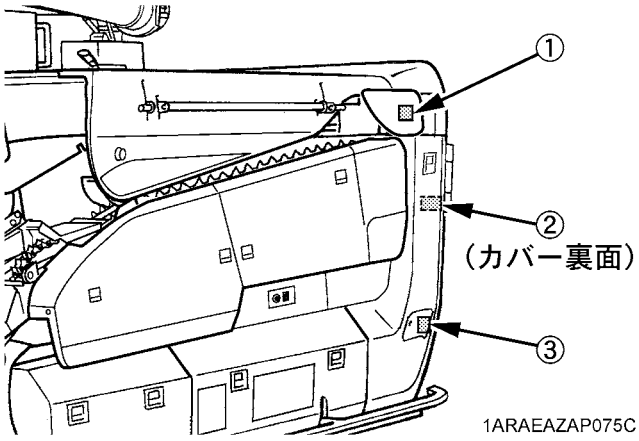


1ARAEAPAP250A

①品番　53981-6191-1

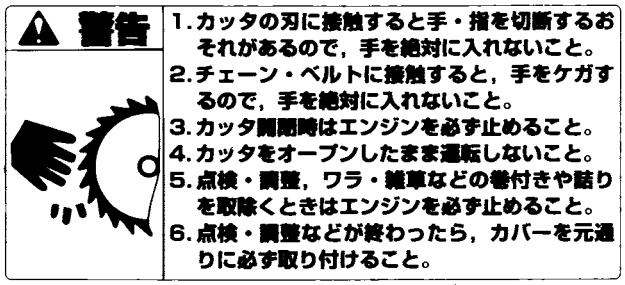


1ARAEAPAP016J

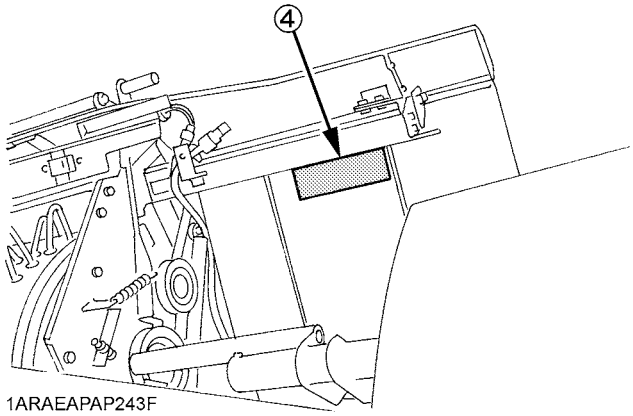


1ARAEAZAP075C

②品番　5K190-6442-2



1ARADBEAP359J

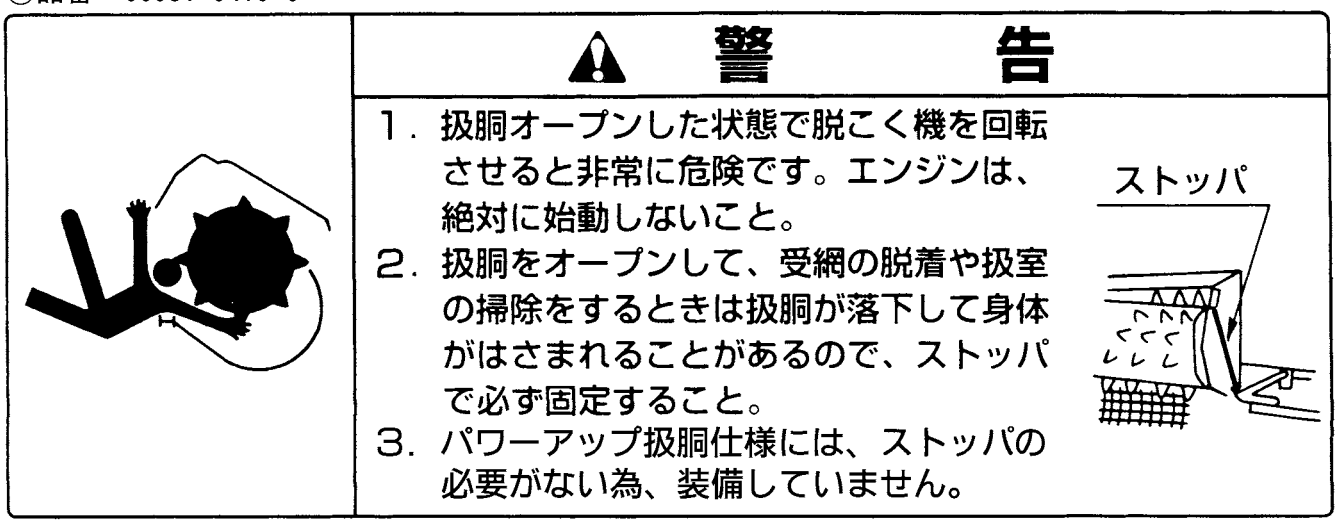


1ARAEAPAP243F

③品番　52166-2575-1

1ARADBEAP361J

④品番　53981-6416-3



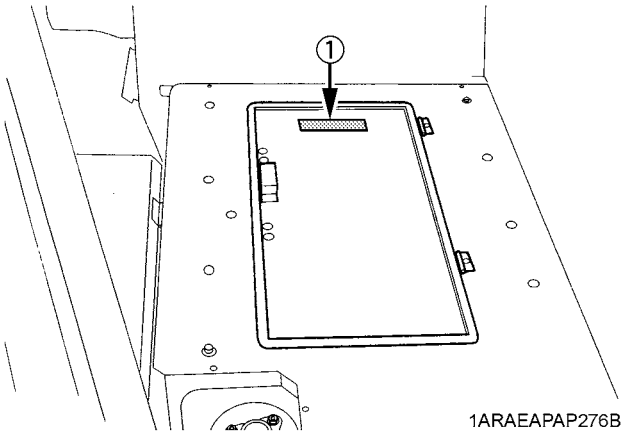
1ARADBEAP362J

①品番　53690-3129-2

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

1ARAEAPAP012J



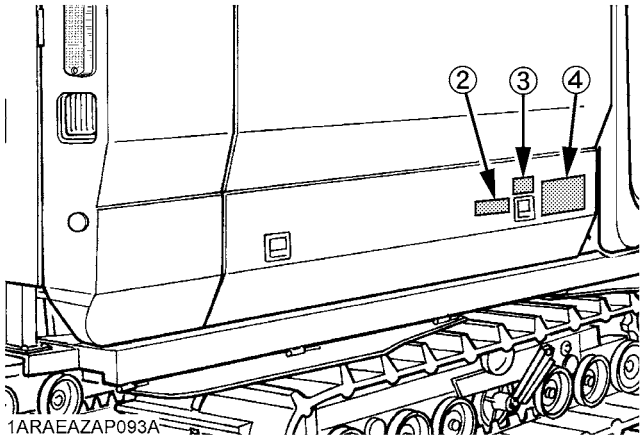
1ARAEAPAP276B

②品番　5K190-6432-1

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

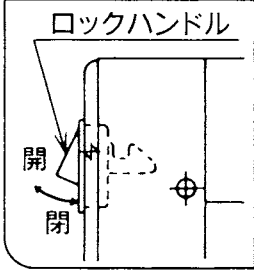
1ARADBEAP341J



1ARAEAZAP093A

③品番　5K190-6433-1

⚠ 注意



1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

1ARADBEAP360J

④品番　5G220-6314-1

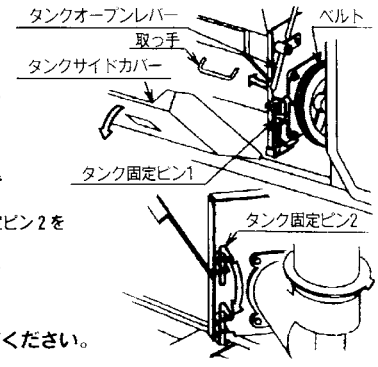
⚠ 注　意

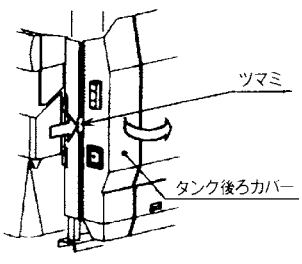
グレンタンクをオープンするときは、ベルトに手をはさまれたりタンクに身体がはさまれるおそれがあるので、平坦な場所で、内部の「もみ」を排出し、エンジンを停止してからオープンすること。

◆タンクオープンのしかた

1（タンク内を空にしてエンジンを停止してください。
2）張り出しを閉じてください。（張り出し付のみ）
3）タンクサイドカバーを外し、ベルトを外してタンク固定ピン1を解除してください。
4）タンク後ろカバーを開けてください。
5）タンクオープンレバーを持って手前に引き、取っ手を持ってタンクを開いてください。
開いた後はタンク後方に取り付けてあるタンク固定ピン2を右図の様に差し換えてタンクを固定してください。
6）タンクを閉じる時は上記の逆の順番で確実にタンクを固定しベルトをかけ忘れないでください。

◆タンクをオープンする時は、カッタを閉じてください。

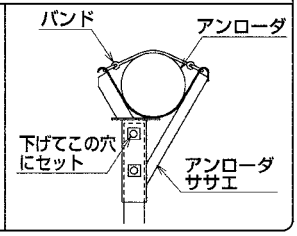




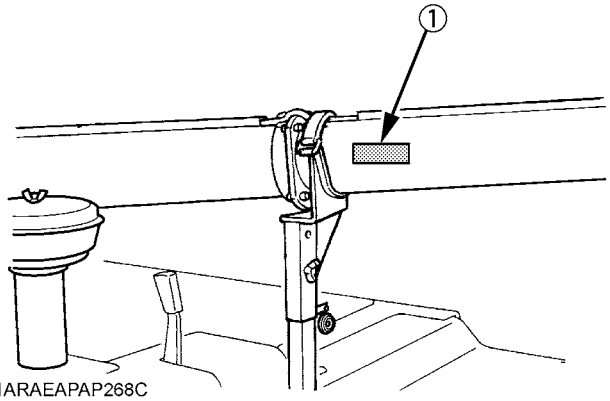
◆タンク後ろカバーを開く時は、ツマミを矢印方向に押してください。
閉じる時はタンク後ろカバーを押し込んでください。

1ARAEAPAP013J

①品番　5G200-7113-2

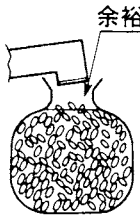
⚠ 注　意	
あぜ越え、移動走行時及びトラック等で輸送する場合、アンローダがササエから外れると人や物に当たり、ケガや損傷のおそれがあるのでアンローダは必ず、次の通りに収納固定すること。 1. アンローダササエを下げてセットする。 2. アンローダを収納する。 3. アンローダが浮き上がらないようバンドで確実に固定する。	

1ARAEBDAP187J

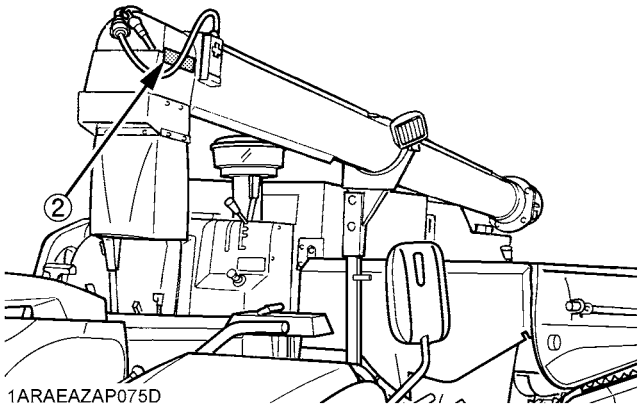


1ARAEAPAP268C

②品番　5G200-6425-1

⚠ 注　意	
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。	 袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。 アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。

1ARADBEAP366J



1ARAEAZAP075D

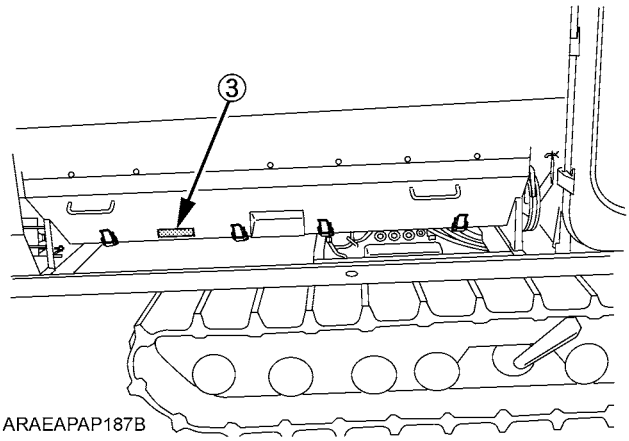
③品番　53981-6434-1

⚠ 注意

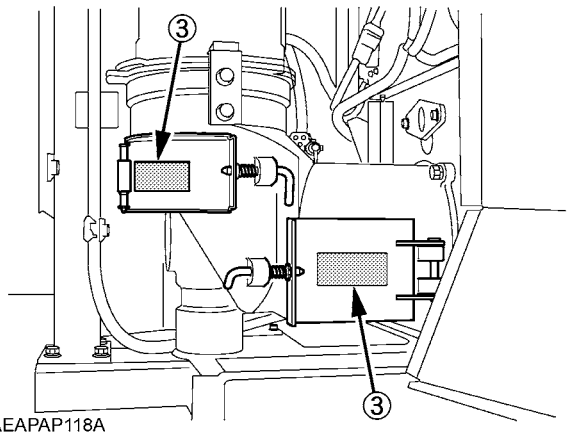
掃　除　口

中に回転物がありけがをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP369J

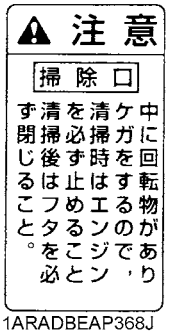


1ARAEAPAP187B

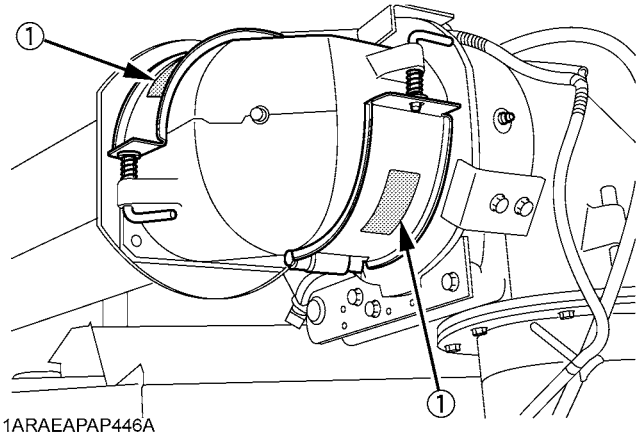


1ARAEAPAP118A

①品番　58071-8174-1

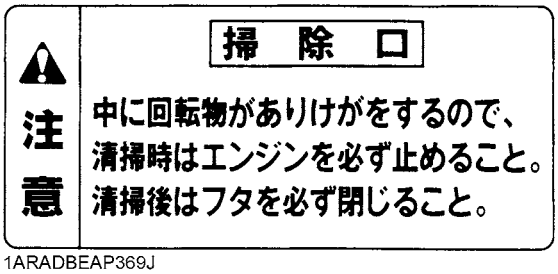


1ARADBEAP368J

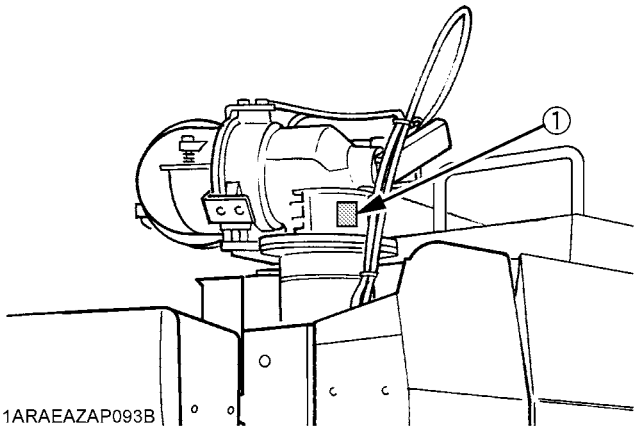


1ARAEAPAP446A

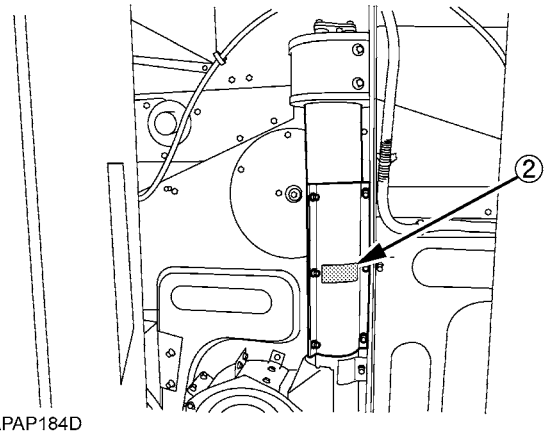
②品番　5K190-6461-1



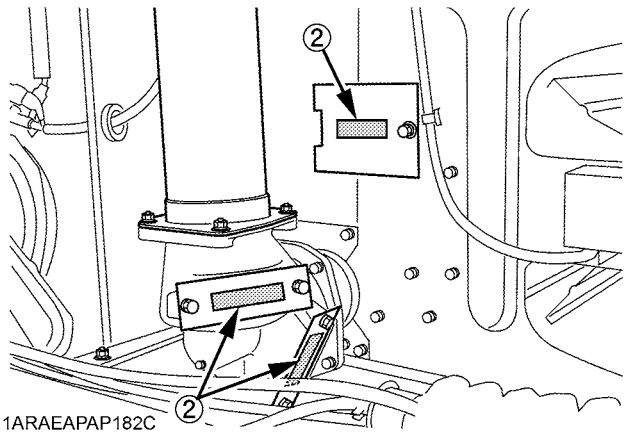
1ARADBEAP369J



1ARAEAZAP093B



1ARAEAPAP184D

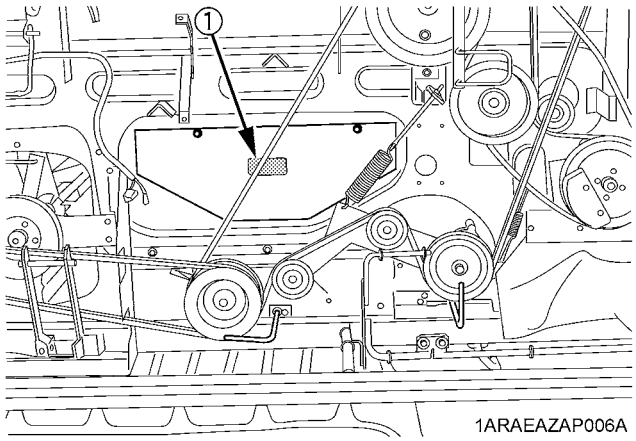


1ARAEAPAP182C

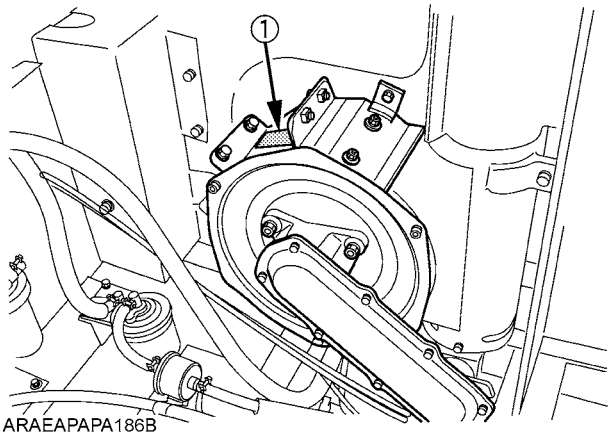
①品番　5K190-6461-1

⚠ 注意	掃　除　口 中に回転物がありけがをするので、 清掃時はエンジンを必ず止めること。 清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP369J



1ARAEAZAP006A

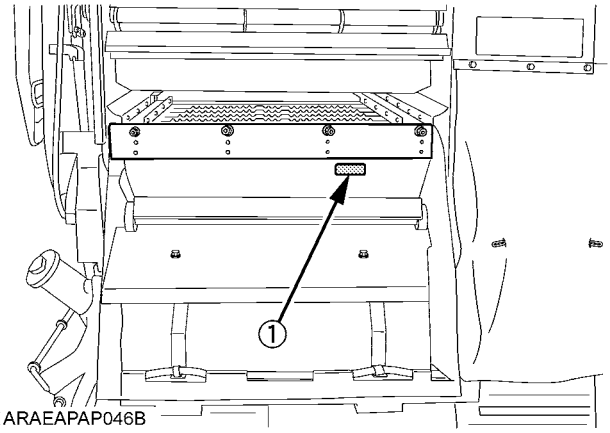


1ARAEAPAPA186B

①品番　5K172-6422-1

⚠ 注　意
シーブケースは重いので脱着 作業は3人で行うこと。

1ARAEAZAP062A



1ARAEAPAP046B

①品番　5K190-6432-1

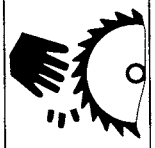
⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J

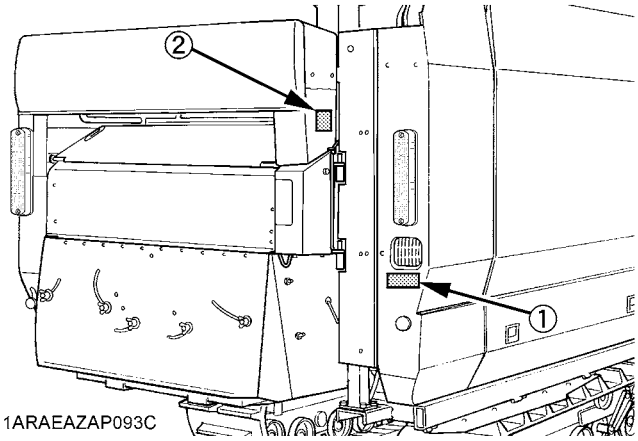
②品番　5K190-6446-1

⚠警告

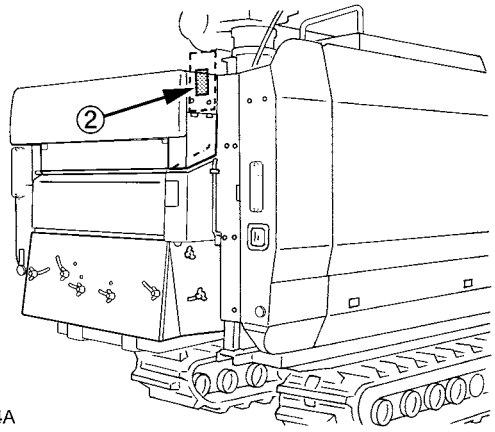


1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

1ARAEAPAP016J



1ARAEAZAP093C



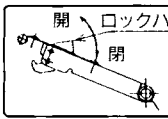
1ARAEAZAP094A

---

①品番　57691-5166-1

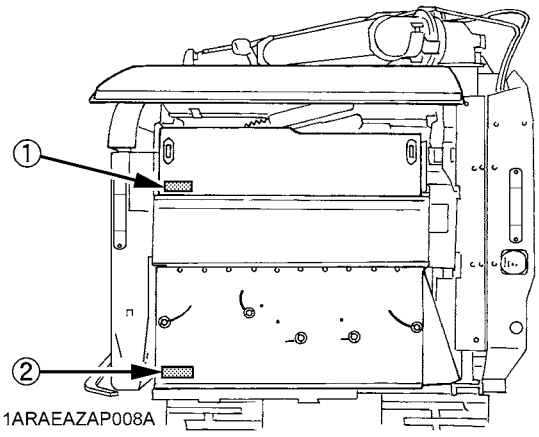
⚠警告

1．このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2．点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
3．点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと。



1．このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず「閉」位置にすること。
2．ロックが確実にされていないと、エンジンをかけ脱こくクラッチを入れるとエンジンが停止します。

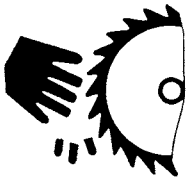
1ARADBEAP372J



1ARAEAZAP008A

②品番　57691-5315-1

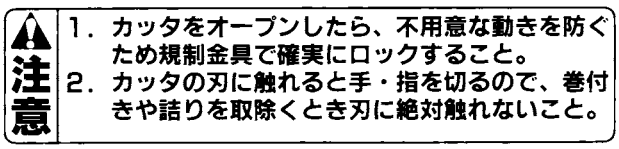
⚠警告



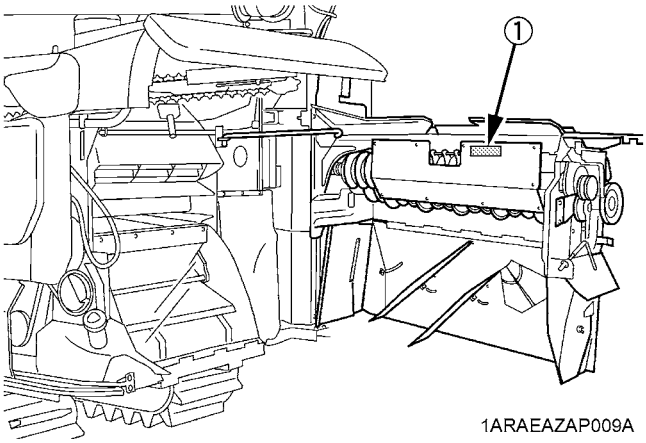
1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

1ARADBEAP373J

①品番　57745-5124-1



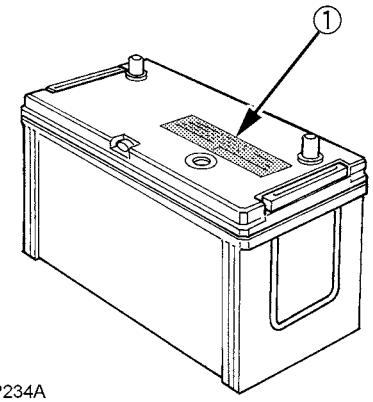
1ARADBEAP374J



1ARAEAZAP009A

①品番　3P200-9892-2

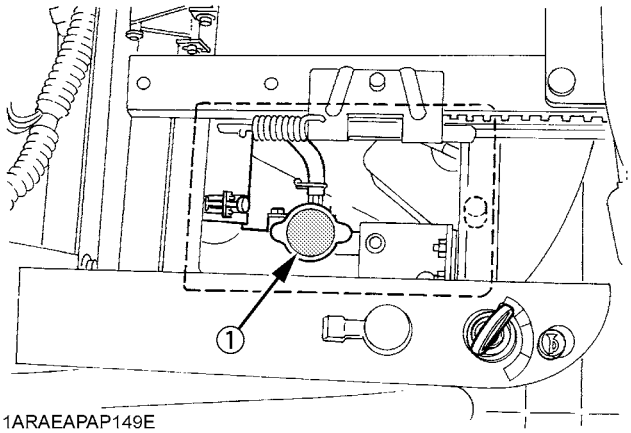
1ARAEAPAP017J



1ARAEAPAP234A

①品番　16667-8724-1

1ARADBEAP376J



1ARAEAPAP149E

表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**【ご相談窓口】**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際

1. 販売型式・区分と車台番号
2. とう載機関（エンジン）の型式名と機関番号をあわせてご連絡ください。

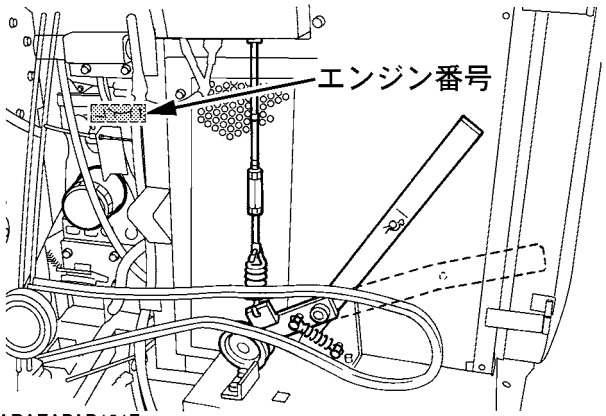
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

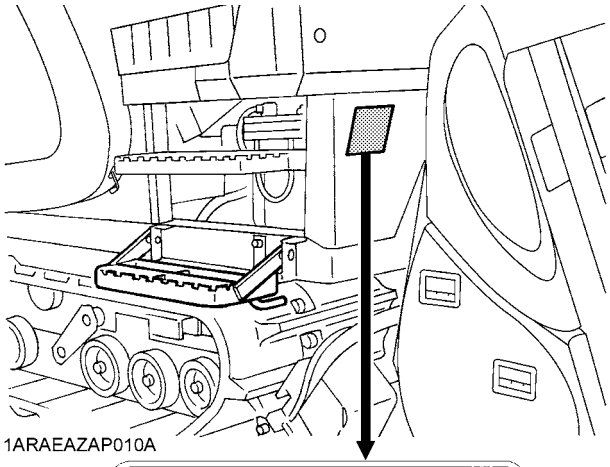
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。

重　要

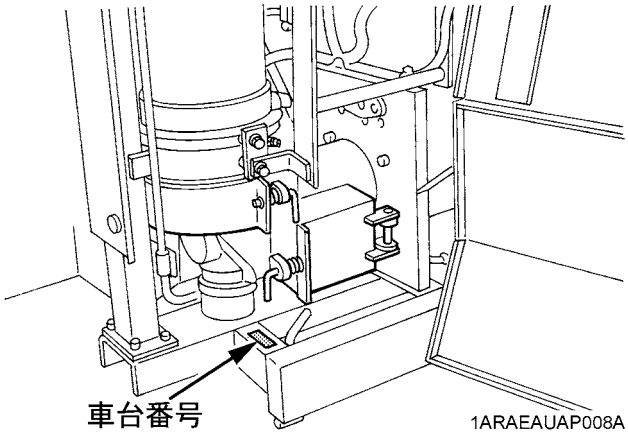
＊ 機械を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



1ARAEAPAP121F


1ARAEAZAP010A

農業機械の種類	コンバイン（自脱型）	
農機型式名	クボタ	
商品名		
区分		
車両型式名	クボタ	
車台番号		
刈取条数		条
とう載機関 型式名	クボタ	
とう載機関 機関番号		
とう載機関 最大出力	kW/	rpm
とう載機関 無負荷最高回転速度		rpm
製造元	株式会社クボタ	



1ARAEAUAP008A

サービスと保証について

◆ 認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

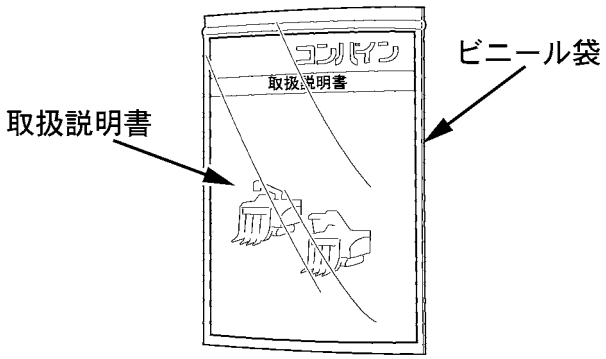
商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車	
			車両型式名	型式認定番号
WR572	クボタ R1001	35155	クボタ KDN-C516	農 3283
WR698	クボタ R1201	37113	クボタ KDP-C611	農 3314

◆ 補修用部品の供給年限について

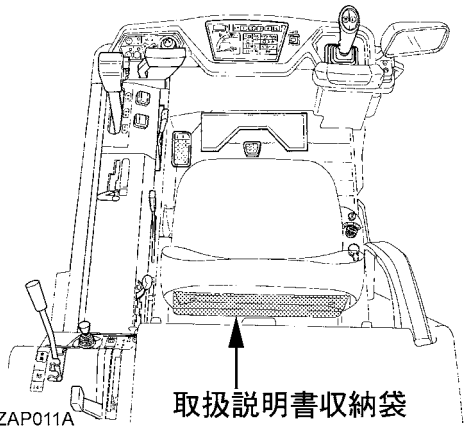
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は社内の規定といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に社内の規定といたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆ 取扱説明書の収納場所について

本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある収納袋に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）



1ARADBEAP042A



1ARAEAZAP011A

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

警　告

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

＊ このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両法の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

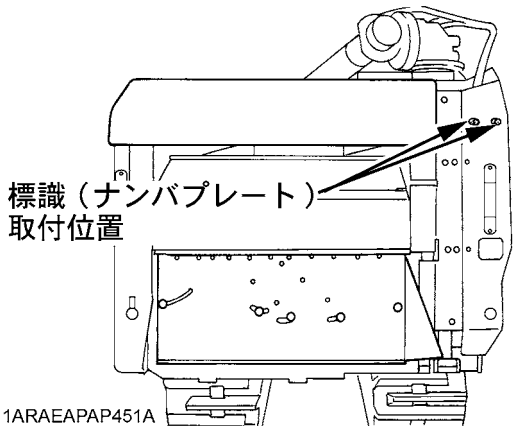
1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. ドロッパ，スイスイデバイダなどを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，トラック輸送（41 ページ参照）してください。（カッタは，装着したままで走行できます。）

◆ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。



◆ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

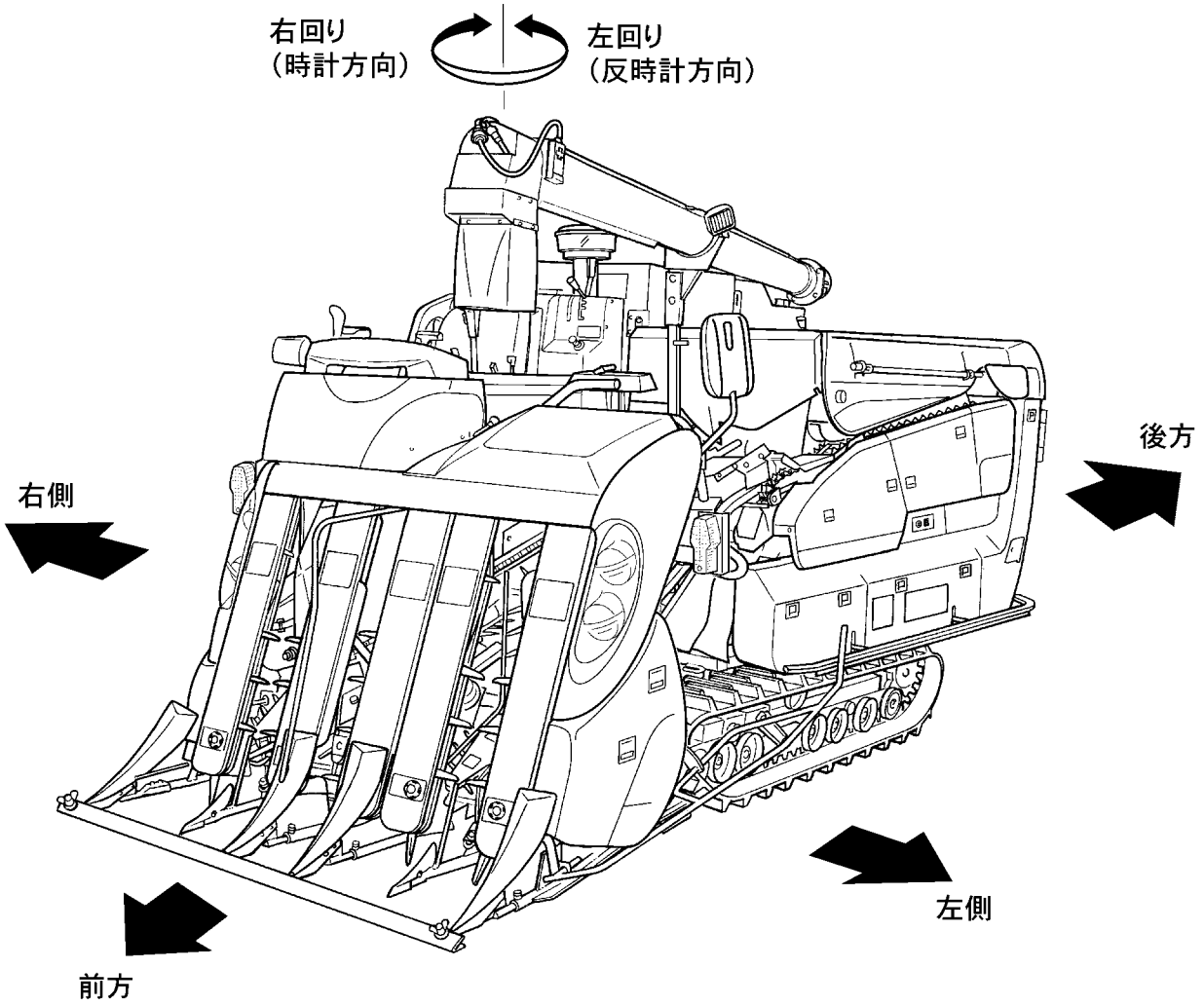
◆ 運転免許証の携帯

公道走行時は，大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

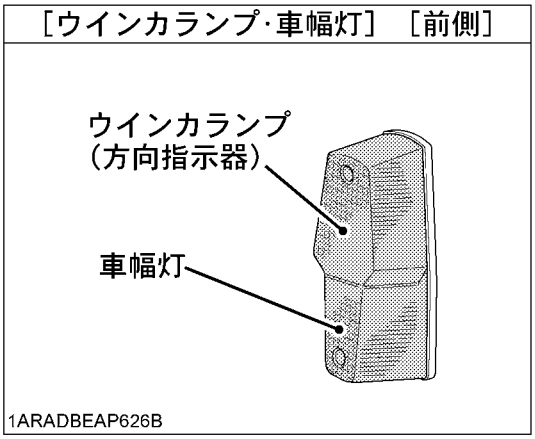


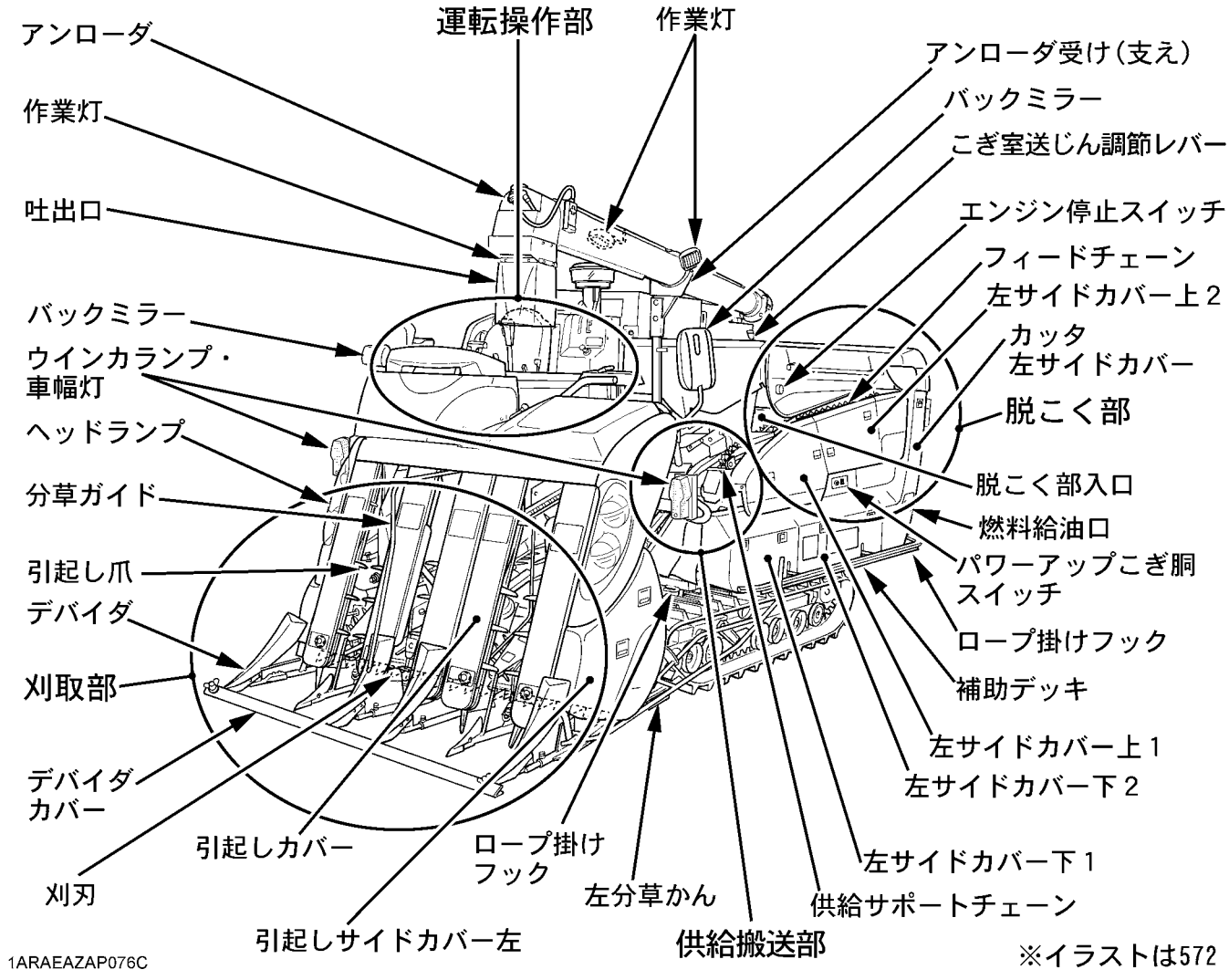
1ARAEAZAP076B

※イラストは572

装置の名称と各部のはたらき

［ウインカランプ･車幅灯］［前側］



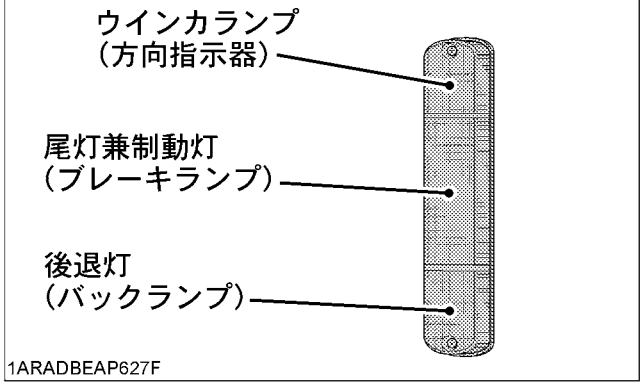


※イラストは572

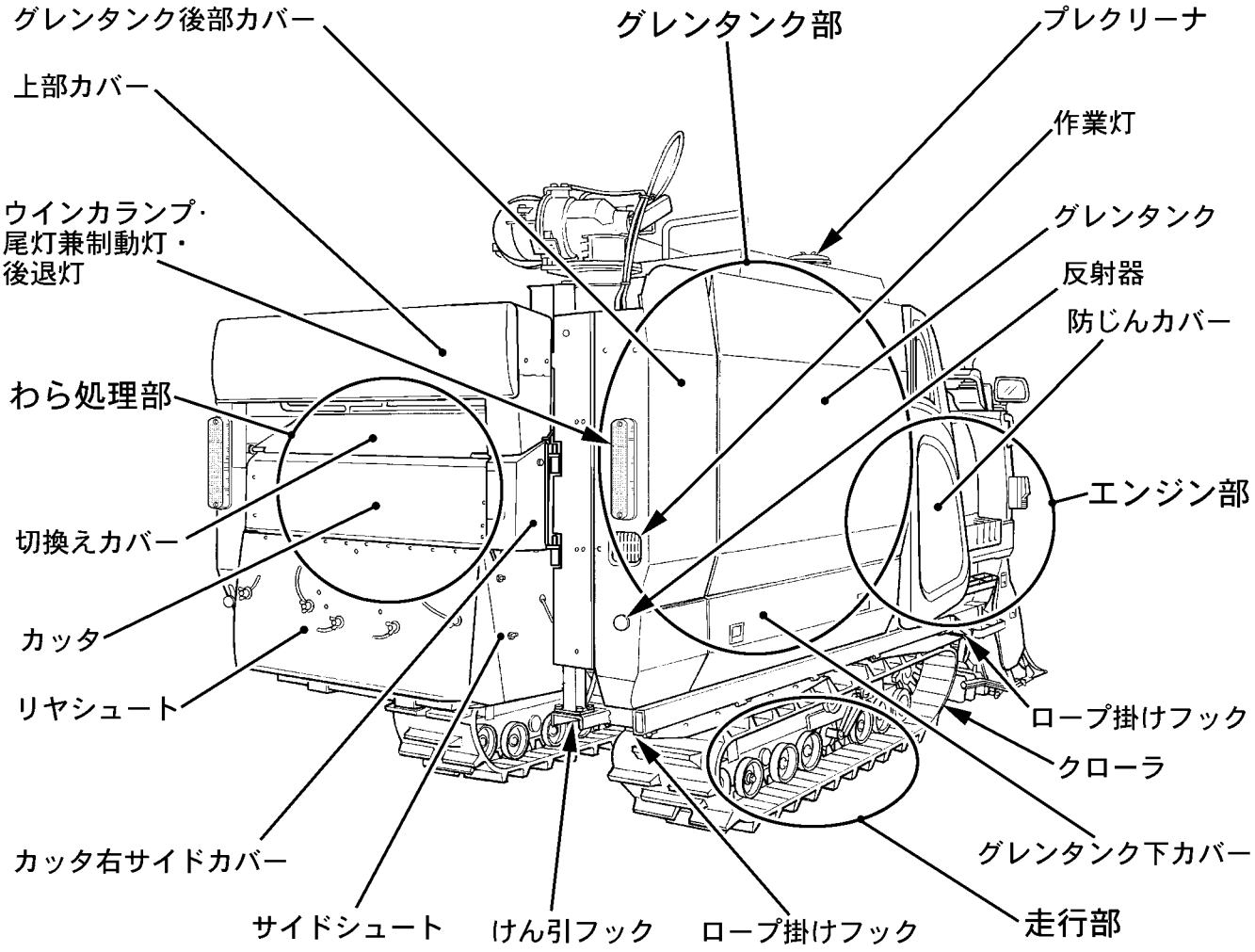
- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の引起しと刈取りを行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……グレンタンクからもみを排出する筒

装置の名称と取扱い

[ウインカランプ·尾灯兼制動灯・後退灯][後方]



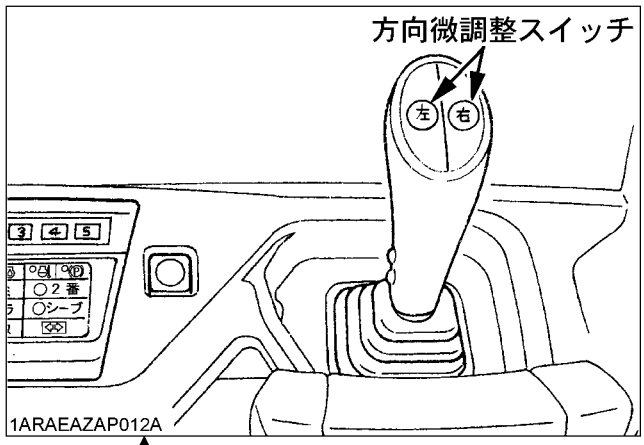
1ARADBEAP627F

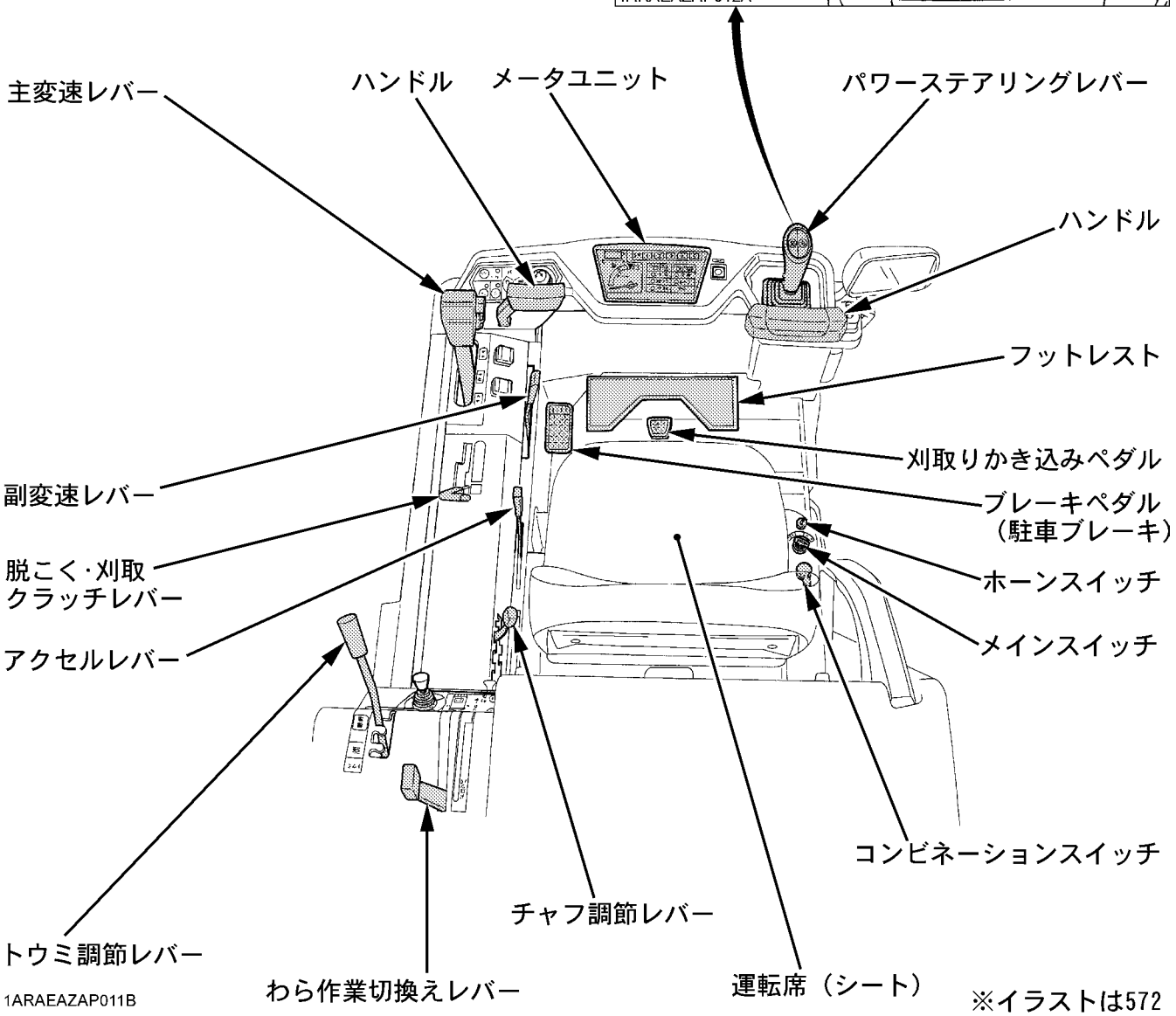


1ARAEAZAP093D

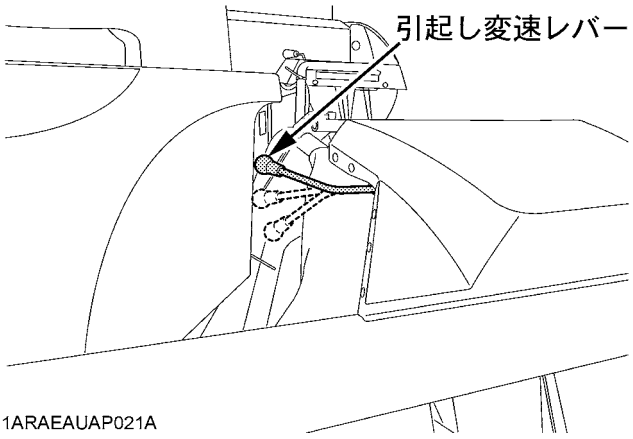
※イラストは572

- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**……わらの切断やばら落しなどわらの処理を行なうところ

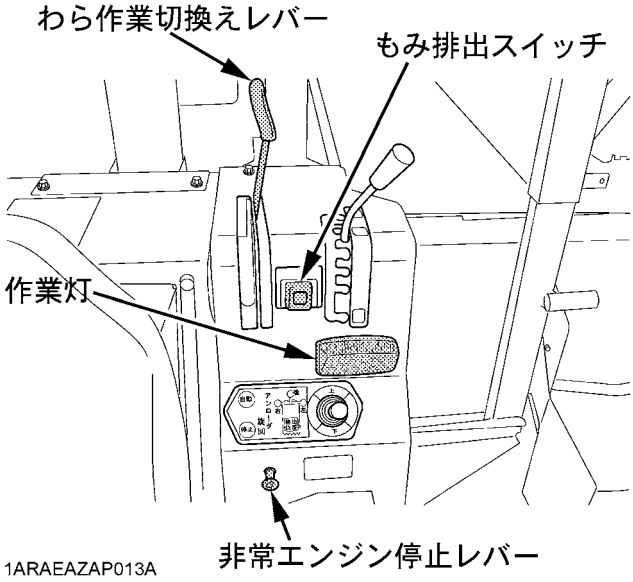

方向微調整スイッチ
左
右
1ARAEAZAP012A


主変速レバー
ハンドル
メータユニット
パワーステアリングレバー
ハンドル
フットレスト
副変速レバー
刈取りかき込みペダル
ブレーキペダル
（駐車ブレーキ）
脱こく･刈取
クラッチレバー
ホーンスイッチ
アクセルレバー
メインスイッチ
コンビネーションスイッチ
チャフ調節レバー
トウミ調節レバー
わら作業切換えレバー
運転席（シート）
1ARAEAZAP011B

※イラストは572

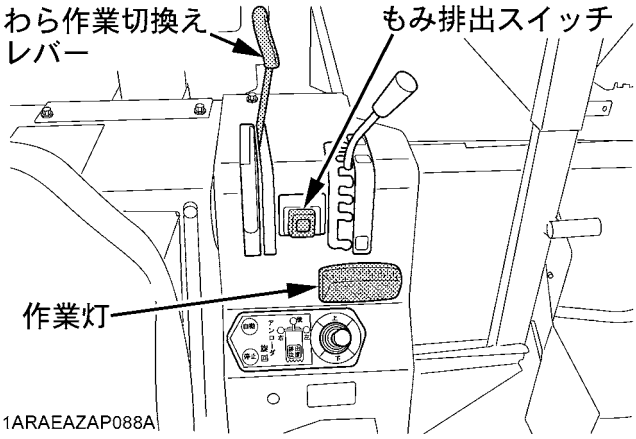


[572]

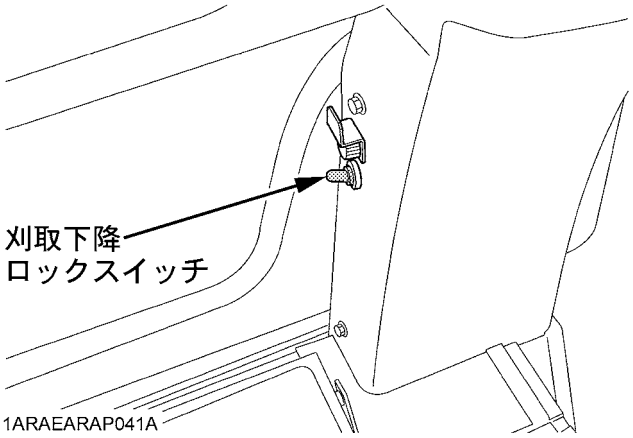


[572]

[698]



[698]

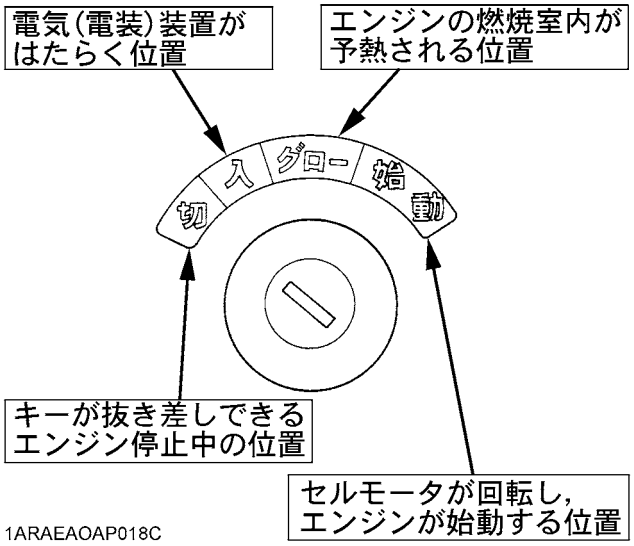


◆ エンジン操作関係

■メインスイッチ

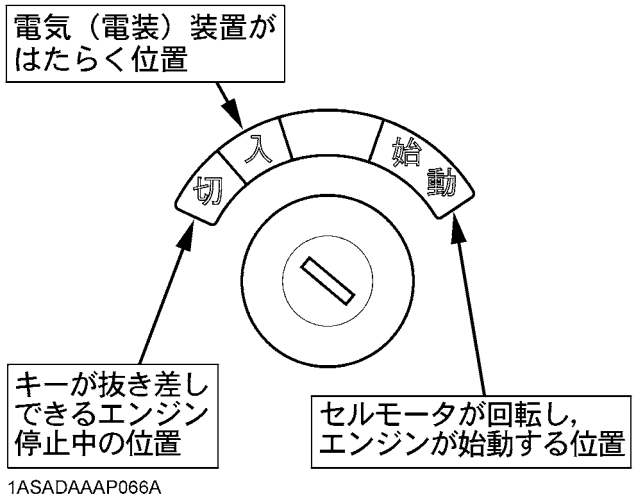
コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

[572]



[572]

[698]



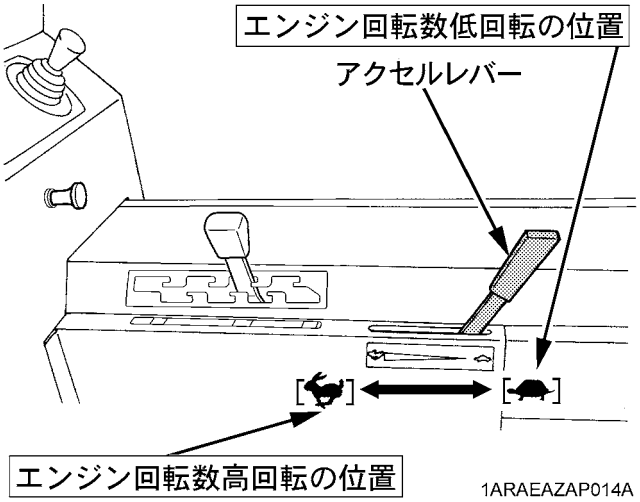
[698]

補　足

＊ エンジン始動後，メインスイッチのキーから手を離すとキーは，**［入］**の位置に戻ります。

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。



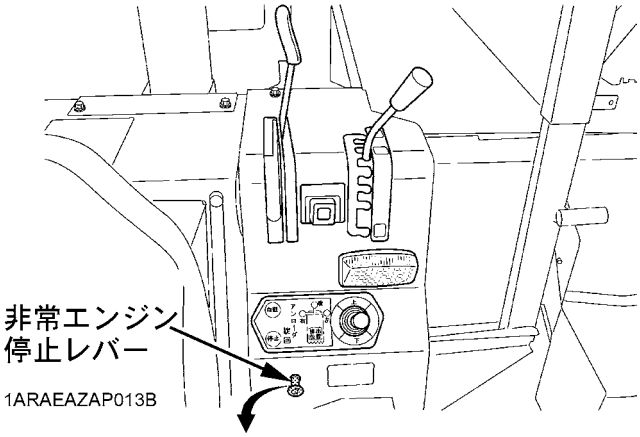
補　足

＊ エンジン回転計は，16 ページを参照してください。

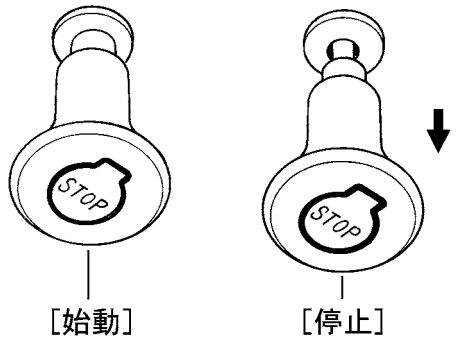
■非常エンジン停止レバー

[572]

メインスイッチのキーを**【切】**位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンを停止させるレバーです。



1ARAEAZAP013B



1ARADAFAP051B

補　足

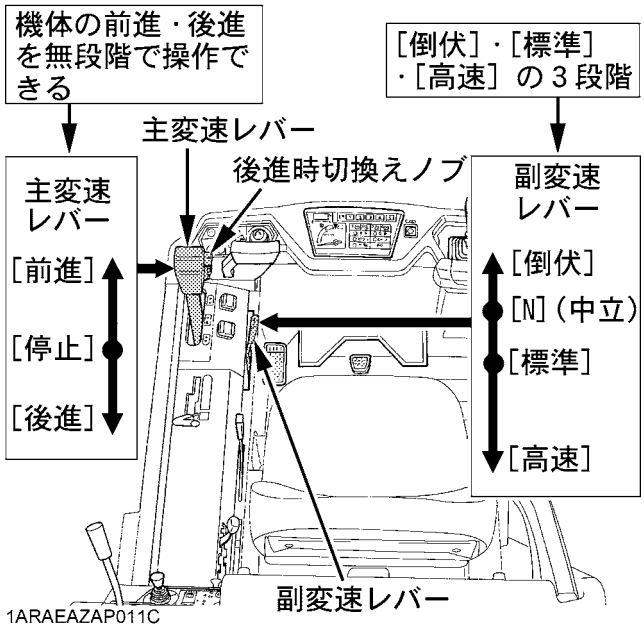
＊ レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

[572]

◆ 走行操作関係

■主変速レバー・副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。



1ARAEAZAP011C

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

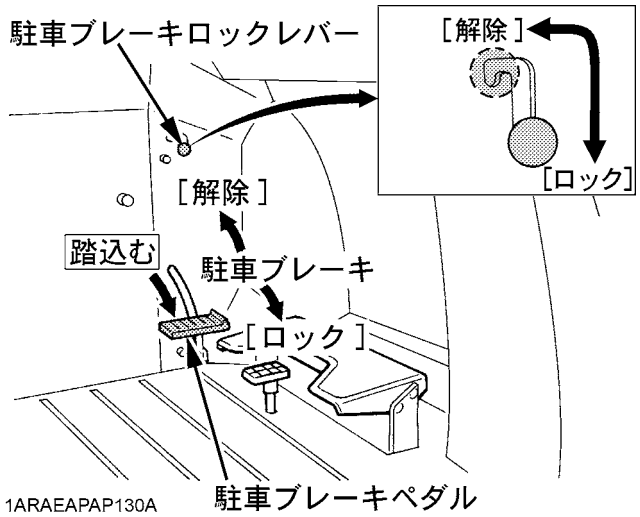
補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**【停止】**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

＊ 後進するときは，主変速レバーの後進切換えノブを押しながら**【後進】**側に引いてください。**【後進】**位置にするとバックブザーが鳴り，後退灯（バックランプ）が点灯します。

■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

ブレーキペダルを踏込むとブレーキが掛かります。また，駐車ブレーキロックレバーを**［解除］**位置から**［ロック］**位置にしたあと，ブレーキペダルを踏込むと，駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを少し踏込みながら駐車ブレーキロックレバーを**［解除］**位置に引上げてください。



補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**［停止］**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
＊ 移動（路上を含む）走行時は，駐車ブレーキペダルを**［解除］**位置にしてください。

■パワーステアリングレバー・方向微調整スイッチ

パワーステアリングレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。また，方向微調整スイッチは，方向修正を行なうスイッチです。

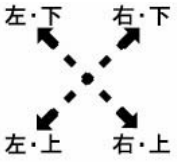
補　足

＊ 方向修正を行なうときは，パワーステアリングレバーと方向微調整スイッチを同時に操作することはできません。操作するときは，レバー又は，スイッチのどちらかを操作してください。
＊ 方向微調整スイッチは，方向修正を行なうスイッチです。旋回など機体を大きく方向転回するときは，パワーステアリングレバーを操作してください。

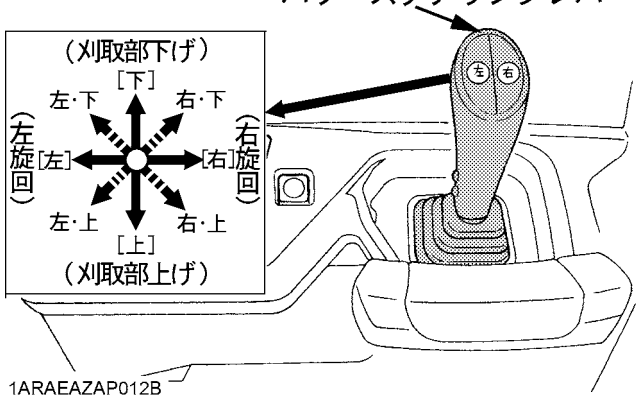
● パワーステアリングレバー

［左］⟷［右］ …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

［下げ］
↕
［上げ］ …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。



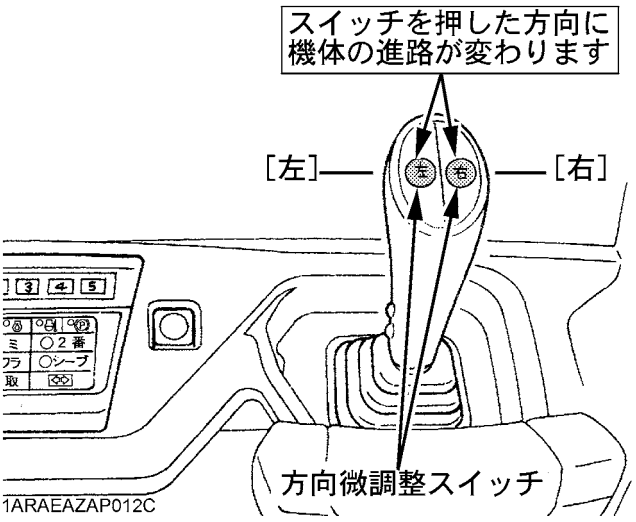
…… レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。



補　足

＊ エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときにパワーステアリングレバーを前方（**【下】**方向）に倒しても刈取部は下がりません。

● **方向微調整スイッチ**

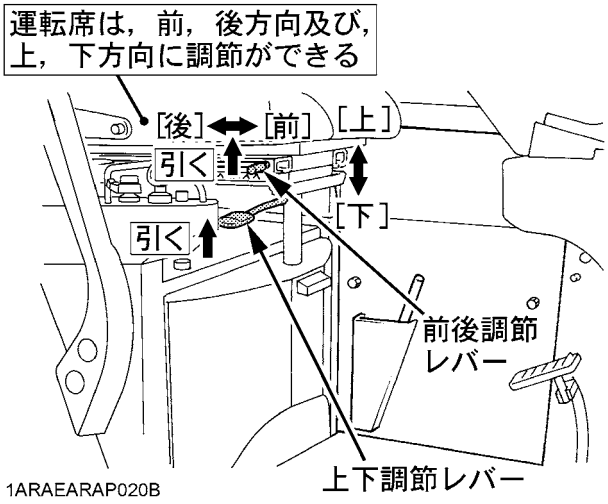


■フットレスト

必要に応じて切換えてください。

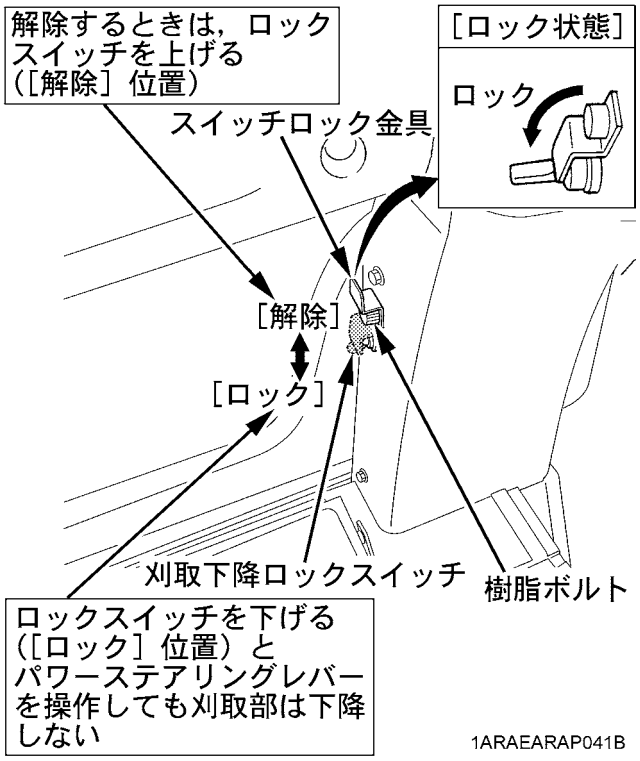
■運転席（シート）

運転席は，**前，後**方向及び**上，下**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバー及び，上下調節レバーを引いて行なってください。



■刈取下降ロックスイッチ

刈取部の下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる（**[ロック]** 位置）とパワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。



補　足

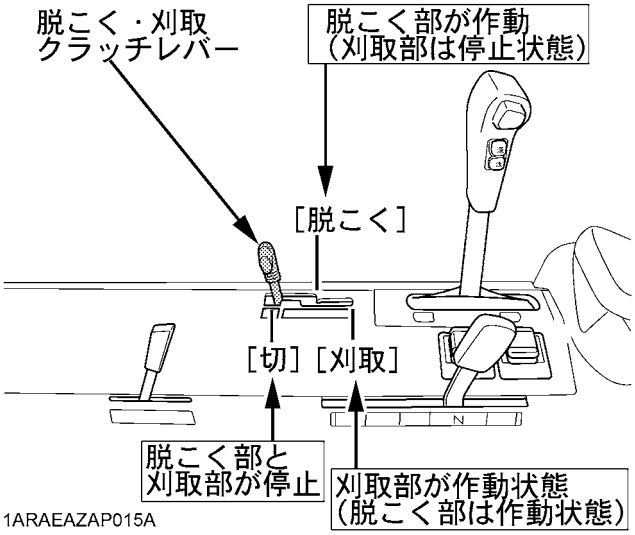
＊ ロックスイッチを下げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。

＊ エンジンを始動しないと刈取部は上昇，下降しません。

◆ 刈取・脱こく関係

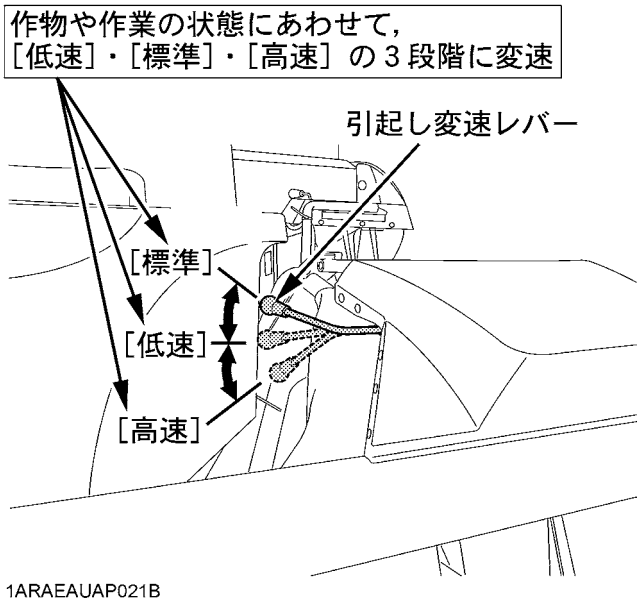
■脱こく・刈取クラッチレバー

脱こく部と刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



■引起し変速レバー

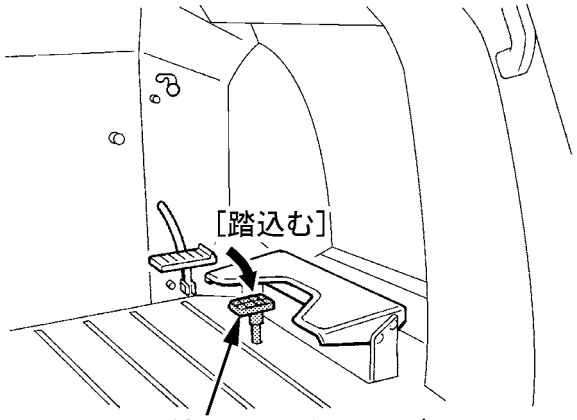
刈取部の速度を変えるレバーです。



■刈取りかき込みペダル

あぜぎわなどで前進しながら刈取作業が行なえないとき，機体の走行を停止した状態で作物の刈取りを行なうときに使用するペダルです。脱こく・刈取クラッチレバーを**【刈取】**位置にしたあと，かき込みペダルを踏込み，主変速レバーを**【前進】**側に操作すると刈取部及び搬送部が動き，作物の刈取り（かき込み）を行ないます。

かき込み作業を行なうときは，主変速レバーをいったん**【停止】**位置に戻したあと，かき込みペダルをいっぱいまで踏込んでください。そのあと，主変速レバーを再度**【前進】**側に操作してください。また，かき込み作業を終了するときは，主変速レバーをいったん**【停止】**位置に戻したあと，かき込みペダルから足を離してください。



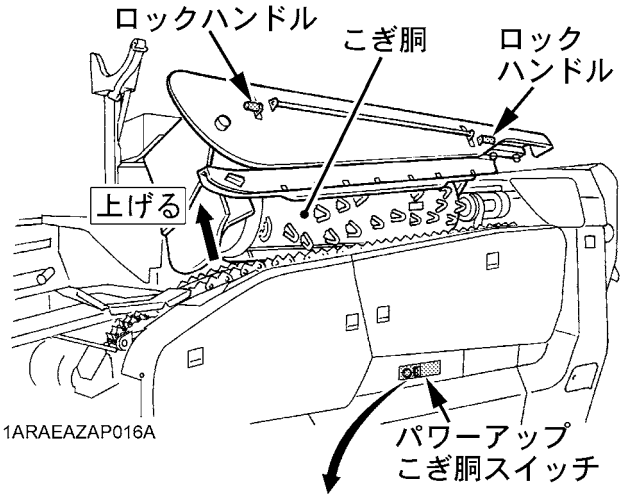
1ARAEAPAP130D

補　足

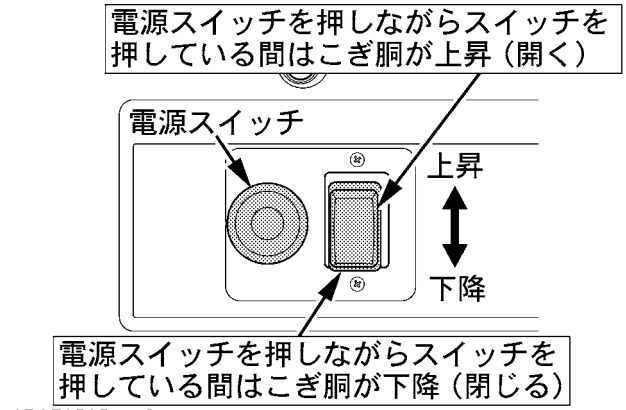
＊ 誤操作による急発進を防ぐため，主変速レバーをいったん**【停止】**位置近くまで戻さないとペダルを離しても発進しません。
＊ かき込み作業中にペダルから足を離してもかき込みは行ないますが，ペダルから足を離した状態で主変速レバーを**【停止】**位置近くまで戻す途中にかき込みをしながら動くことがありますので，必ずかき込み作業中はペダルから足を離さないでください。
＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，かき込みは作動しません。
＊ 脱こく・刈取クラッチレバーが**【刈取】**位置のとき，ペダルを踏込むと機体の走行は停止します。

■パワーアップこぎ胴スイッチ

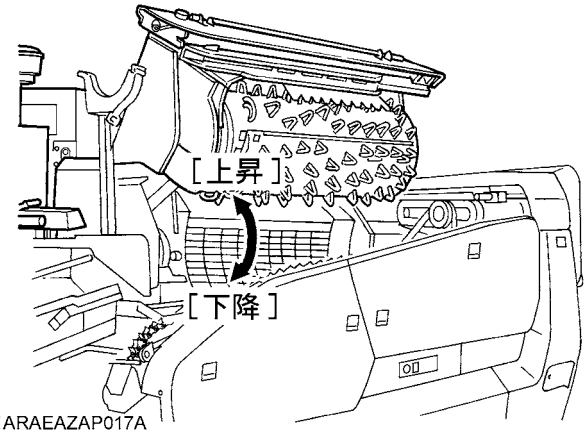
こぎ胴の**上昇，下降**（開，閉）を行なうスイッチです。



1ARAEAZAP016A



1ARAEAPAP188C



1ARAEAZAP017A

重　要

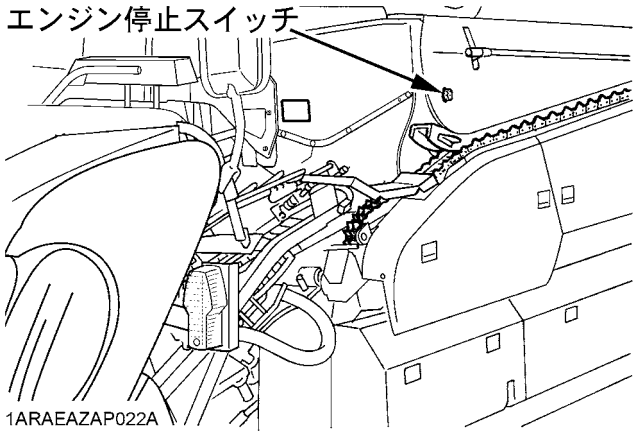
＊ 開く（オープンする）ときは，前後２箇所のロックハンドルのロックを必ず解除し，少し上げた状態にしてください。モータの故障の原因となります。(70 ページ参照)
＊ こぎ胴が開閉後もスイッチを押し続けるとシューと音が鳴ります。そのあともスイッチを押し続けるとモータの故障の原因となります。
＊ こぎ胴の上昇，下降を連続して繰り返さないでください。モータが加熱し，故障の原因になります。

補　足

＊ メインスイッチのキーが**【切】**位置でも操作が行なえます。

■エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。

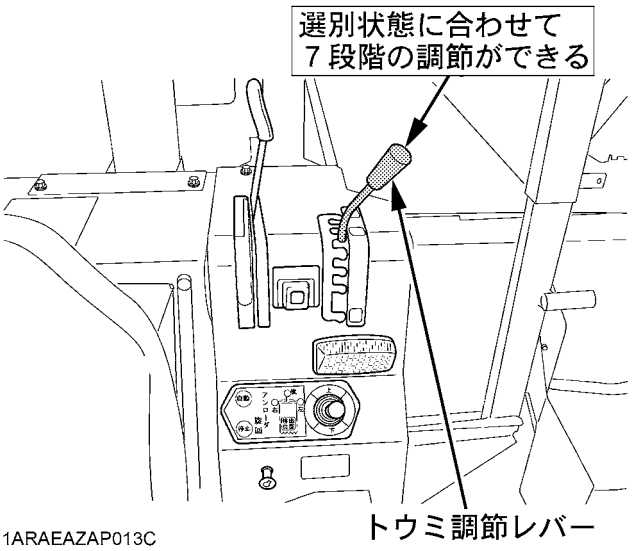


補　足

＊ メインスイッチのキーを**【切】**位置にするとブザーは止まります。
＊ メインスイッチのキーを**【切】**位置に戻してからエンジンを再始動してください。

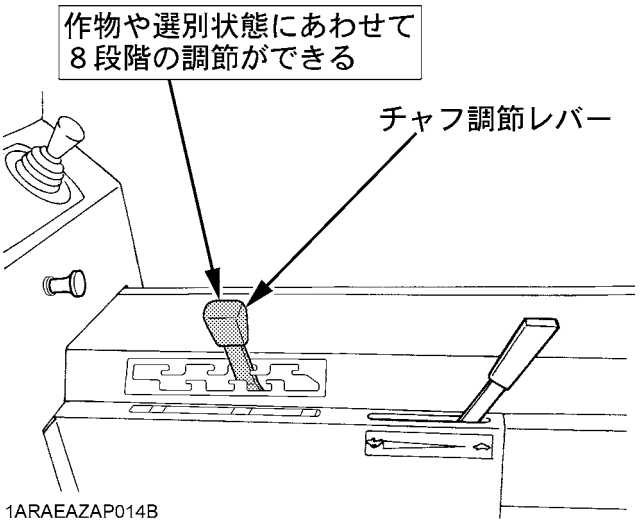
■トウミ調節レバー

トウミの風力調節を行なうレバーです。



■チャフ調節レバー

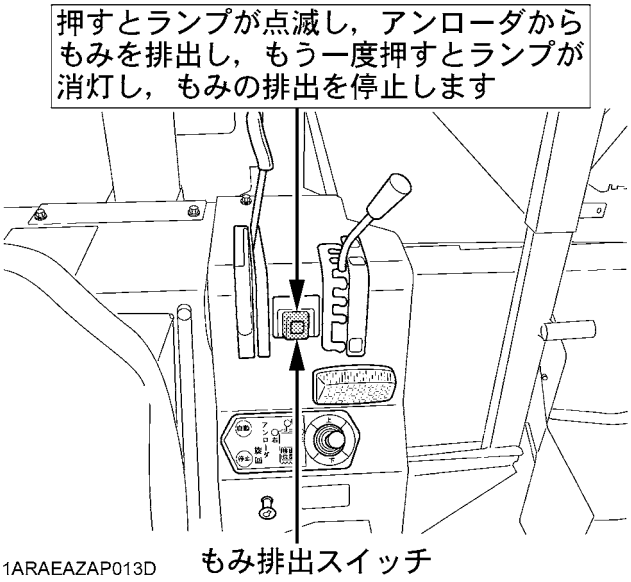
シーブケースにある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。



◆ グレンタンク関係

■もみ排出スイッチ

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。



1ARAEAZAP013D

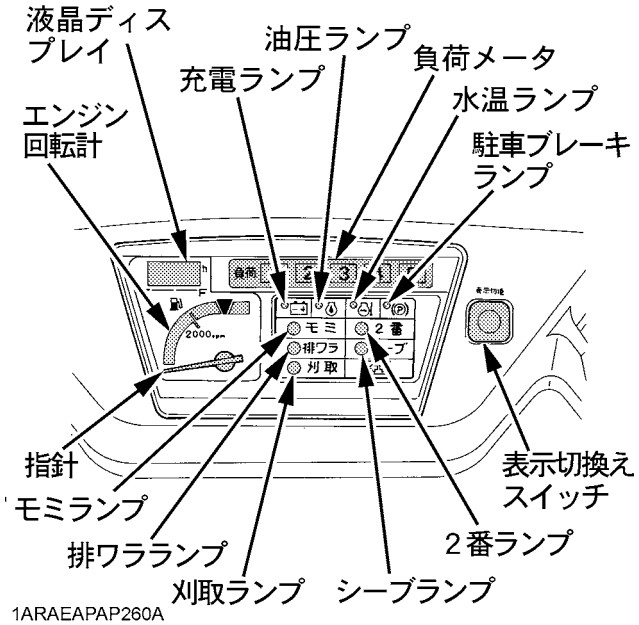
補　足

＊ スイッチを押してランプが点灯するともみが排出し，再度スイッチを押すとランプが消灯しもみの排出が停止します。

＊ エンジン始動後にアンローダが収納状態では，もみ排出スイッチを操作しても，もみは排出されません。

◆電装関係

■メータユニット



1ARAEAPAP260A

◆ 各メータ

● エンジン回転計（単位：rpm）

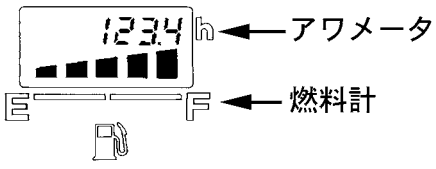
１分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● 燃料表示

燃料の残量を液晶の目盛り（５段階）で表示します。

● アワメータ表示**（単位：h［時間］）**

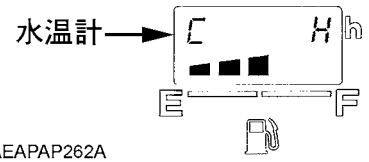
エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。



1ARAEAPAP261A

● 水温表示

エンジンの冷却水温を液晶の目盛り（５段階）で表示します。



1ARAEAPAP262A

補　足

＊ 表示切換えスイッチを押すと，燃料計・アワメータと水温計を交互に表示します。
＊ 機械に異常が発生すると，アワメータ表示部にエラーメッセージ（例：E-012）を表示します。エラーメッセージが表示されたときは，購入先に連絡してください。また，エラーメッセージが表示されているとき表示切換えスイッチを押すと燃料・アワメータ又は，水温表示に換わります

● 負荷メータ
刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

◆ 各ランプ

補　足

＊ 処置については，66 ページを参照してください。

● 充電ランプ
充電系統に異常が発生すると点灯します。

● 油圧ランプ
エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると点灯します。

● 水温ランプ
エンジン冷却水温が高温になると点滅します。

● 駐車ブレーキランプ
駐車ブレーキを掛けると点灯します。

● モミランプ
グレンタンク内のもみが満杯になると点滅します。

[698]

補　足

＊ グレンタンク内のもみの量が半分程度になるとモミランプが点滅し，一定時間ブザーが鳴ります。ブザー停止後もモミランプは点滅状態です。その後，もみが満杯になるとブザーが鳴ります。

[698]

● 2番ランプ
2番処理ケース内又は，2番縦スクリュケース内が詰まると点滅します。

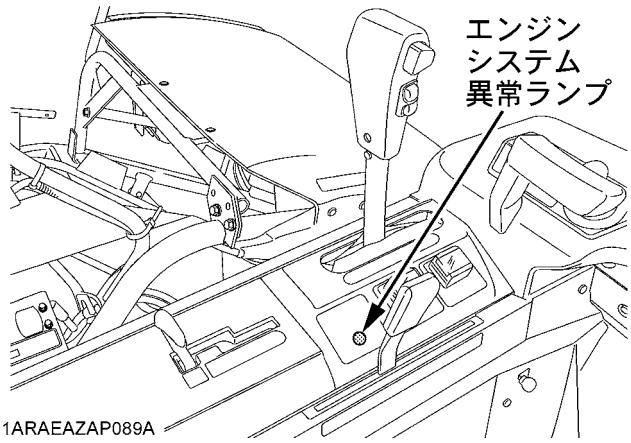
● シーブランプ
脱こく機の選別板上のもみの量が異常に多くなったとき点滅します。

● 刈取ランプ
供給搬送部にわらが詰まり，エンジンが自動停止**（エンジン自動停止装置）**すると点滅します。

● 排ワラランプ
フィードチェーン終端部及びわら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止**（エンジン自動停止装置）**すると点滅します。

■エンジンシステム異常ランプ

[698]



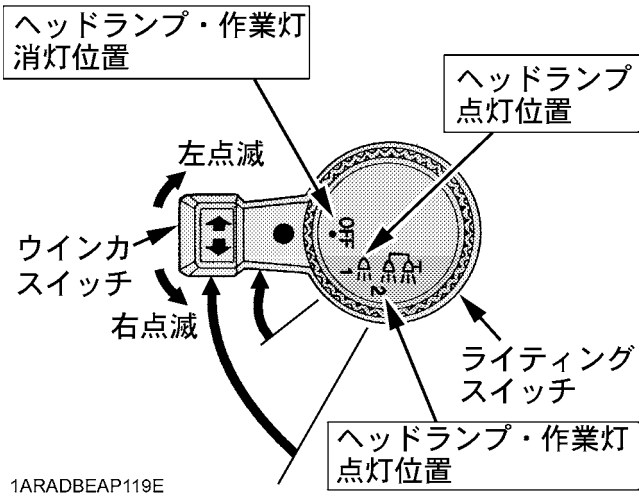
エンジンに何らかの異常があると点灯します。点灯した場合は，すぐにエンジンを停止させ，購入先に連絡してください。

補　足

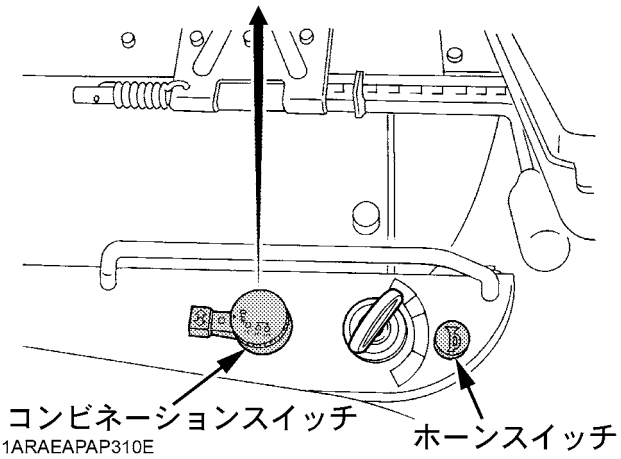
＊ メインスイッチのキーを**【入】**にすると，ランプは点灯しますが，この場合は異常ではありません。エンジン始動後は異常がなければ消えます。

[698]

■コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ



1ARADBEAP119E

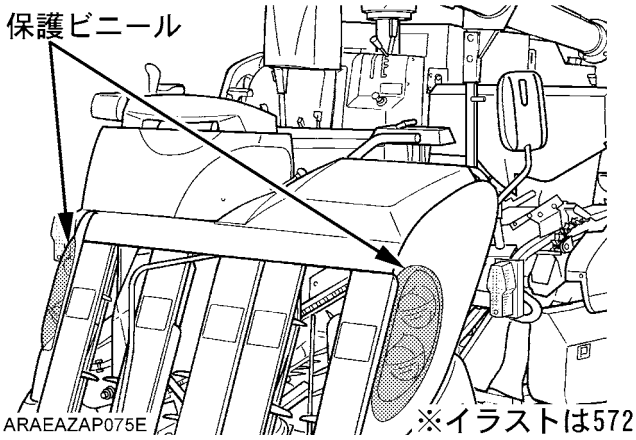


1ARAEAPAP310E

● ライティングスイッチ
スイッチを操作するとランプが点灯します。

重　要

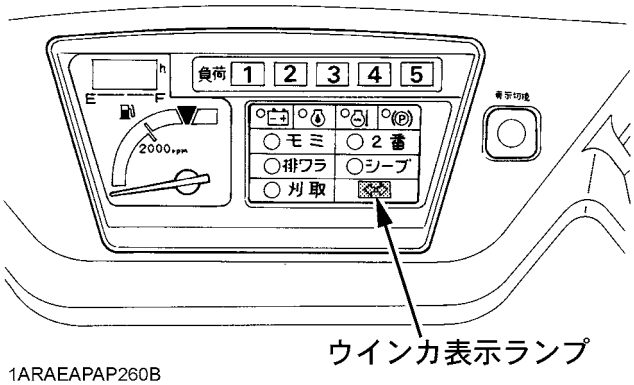
＊ 刈取部の左，右にあるヘッドランプと作業灯のカバーに保護ビニールが貼られているときは，保護ビニールをはがしてください。ランプの熱でビニールが溶けたりランプが高熱になり破損する原因となります。



ARAEAZAP075E ※イラストは572

● ホーンスイッチ
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

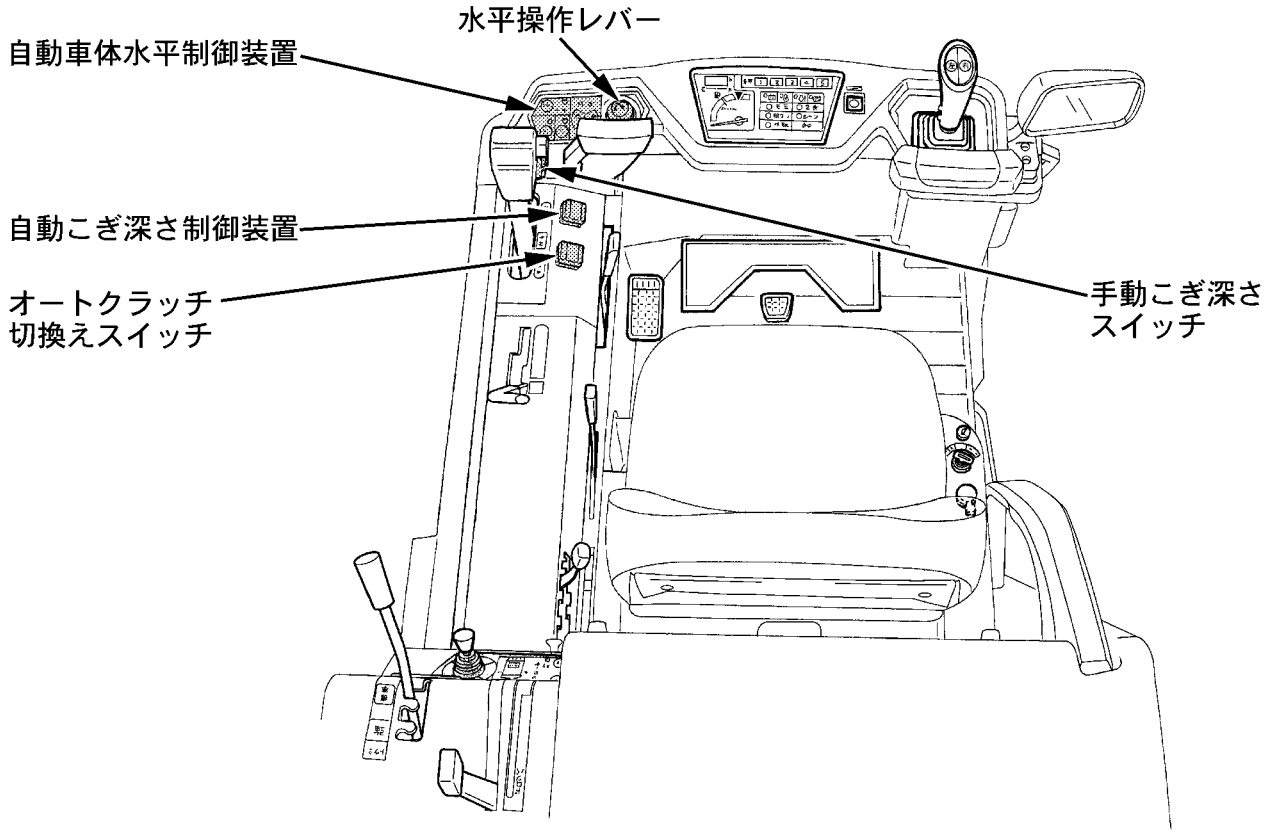
● ウインカスイッチ
旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅すると同時にメータユニットのウインカ表示ランプが点滅します。



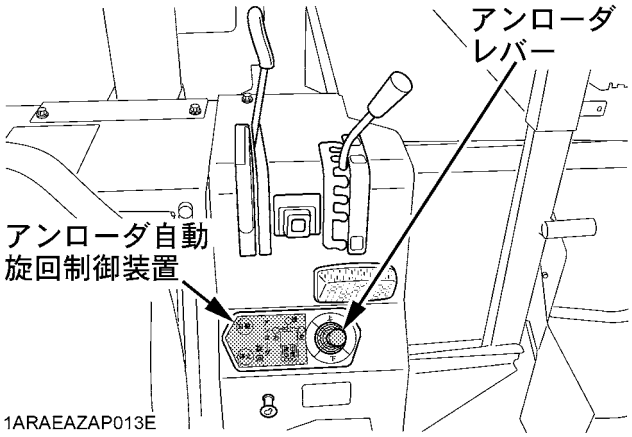
1ARAEAPAP260B

自動化装置の名称と取扱い

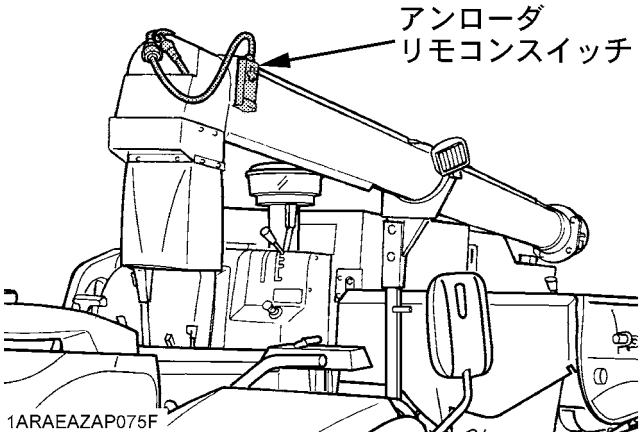
装置の名称と各部のはたらき



1ARAEAZAP011D



1ARAEAZAP013E



1ARAEAZAP075F

◆ 走行操作関係

■自動車体水平制御装置（モンロー）

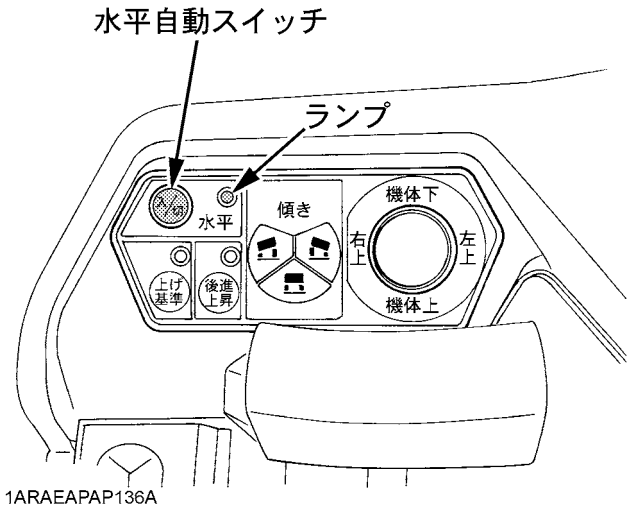
自動車体水平制御装置は，脱こく部が作動しているときに機体が左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

● 水平自動スイッチ

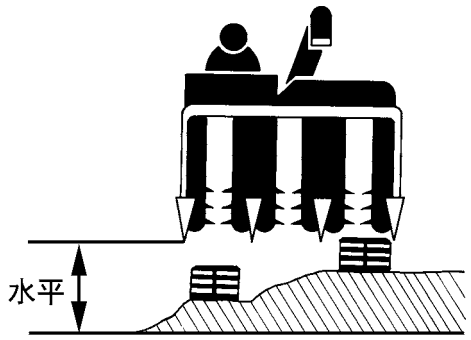
自動車体水平制御の**入／切**をするスイッチです。

自動車体水平制御［入］…… ランプが点灯し，自動制御が作動します。

自動車体水平制御［切］…… ランプが消灯し，自動車体水平制御が解除されます。



1ARAEAPAP136A



1ARAEAPAP137A

補　足

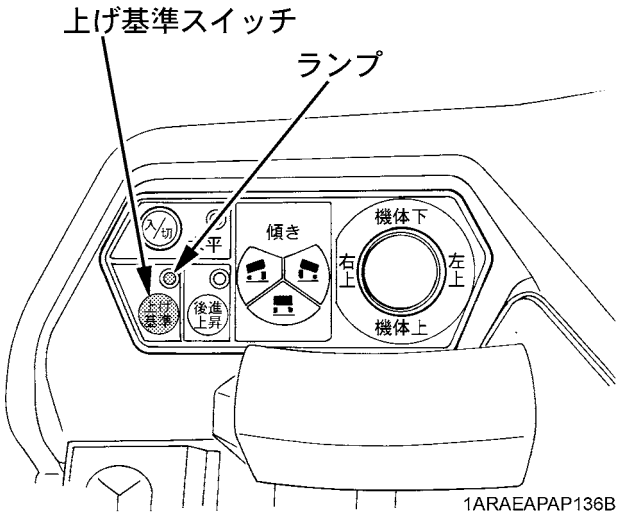
＊ 自動で作業した後，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にするか，又は水平自動スイッチを**［切］**位置にすると，機体は左右共にいったん一番下まで下がります。また，下降中に，水平操作レバーを操作すると下降が停止します。

● 上げ基準スイッチ

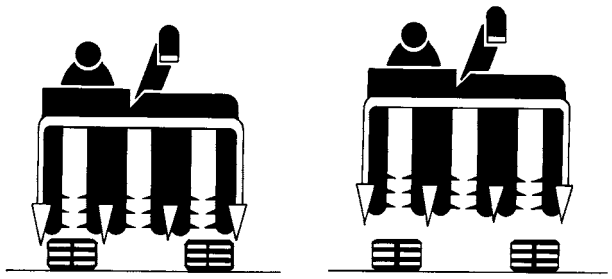
自動車体水平制御がはたらいているとき，水平制御を行なう基準の高さを切換えるスイッチです。

上げ基準［入］…… ランプが点灯し，上げ基準で作動します。

上げ基準［切］…… ランプが消灯し，下げ基準で作動します。



1ARAEAPAP136B



1ARAEAPAP138A

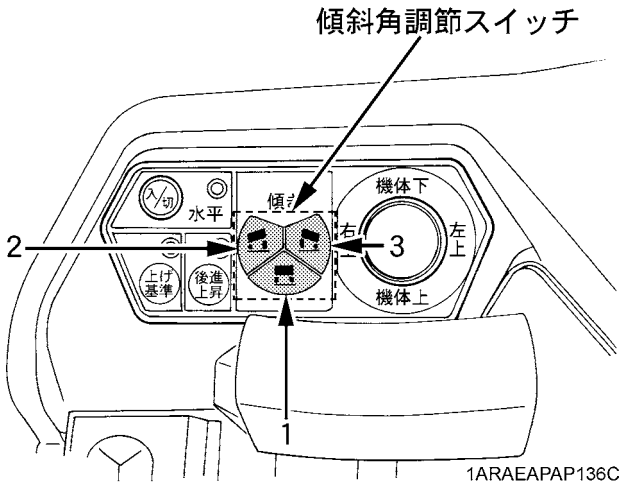
補　足

＊ 通常は**［下げ基準］（ランプ消灯）**にて，作業してください。深い湿田での刈終り時に，旋回が困難な場合にスイッチを押して**［上げ基準］（ランプ点灯）**状態にさせることにより，旋回が容易になります。直進刈取状態になれば，再びスイッチを押して**［下げ基準］（ランプ消灯）**にしてください。

＊ 超湿田で**［上げ基準］**を選択したまま刈取り作業を行なうと，車体が深みにはまった場合，脱出不能となることがあります。超湿田の刈取作業は**［下げ基準］**で行なってください。

● 傾斜角調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，左又は，右に機体を傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。



1 …… スイッチを押すと水平制御に戻ります。

2 …… スイッチを押すと，右上がり気味に制御します。

3 …… スイッチを押すと，左上がり気味に制御します。

補　足

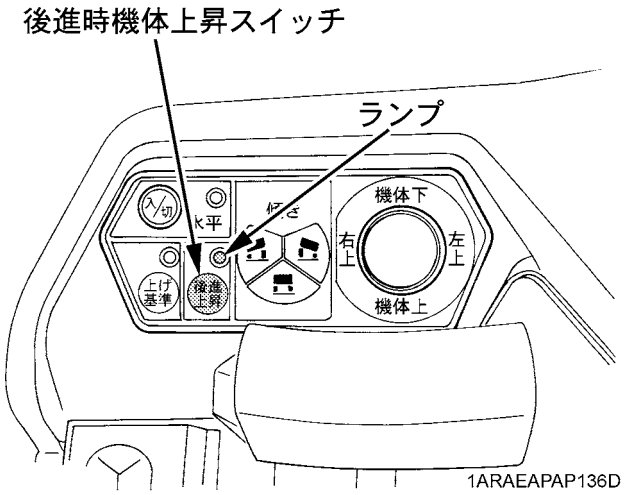
＊ 機体傾斜は３段階調節が行なえます。

● 後進時機体上昇スイッチ

自動車体水平制御が**下げ基準**で制御されているとき，機体が後進時のみ，**上げ基準**に切換えるスイッチです。

後進時上昇［入］…… ランプが点灯し，後進時**上げ基準**で作動します。

後進時上昇［切］…… ランプが消灯し，**下げ基準**で作動します。



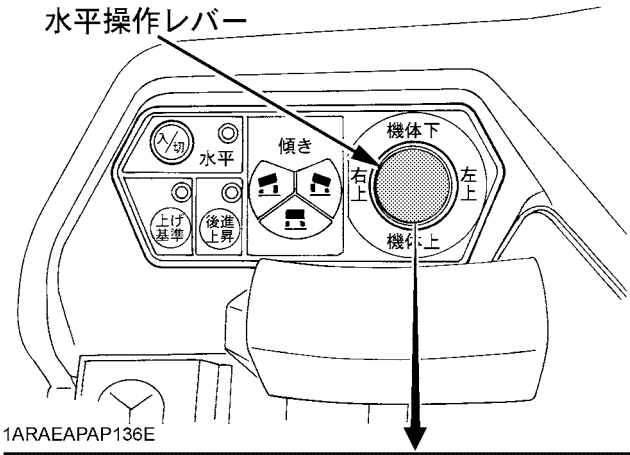
補　足

＊ 乾田では**【切】**位置にしてください。

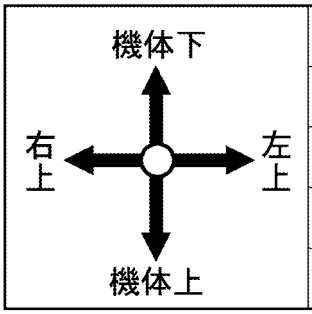
＊ 湿田で後進時に機体が後上りになり後進しにくいときは，後進時機体上昇スイッチを**【入】**位置にしてください。

■水平操作レバー

車体の**上昇⟷下降**を行なう手動操作レバーです。



1ARAEAPAP136E



レバーの操作方向	機体の動き
機体上	上昇
機体下	下降
右上	右上がり
左上	左上がり

補　足

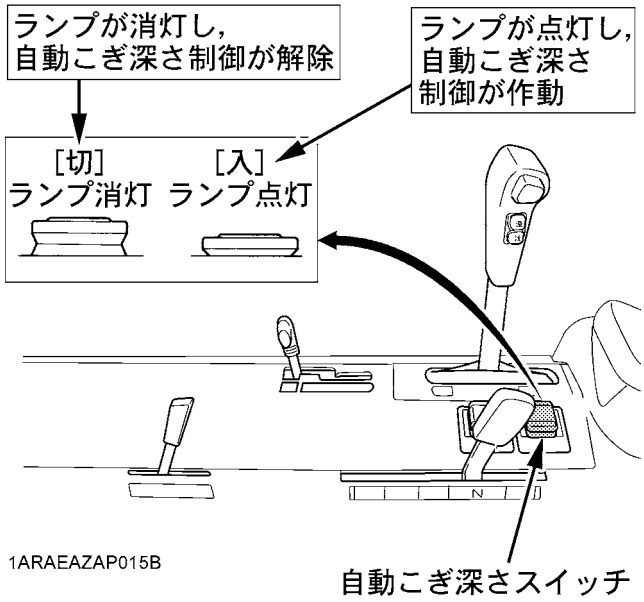
＊ 機体の動く方向は，運転席に座って見たときです。
＊ 自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作レバーによる操作が優先されます。
＊ 傾斜地では操作しないでください。
＊ モンロー操作時（特に全上昇，全下降）は，エンジン回転数を上げてください。

◆ 刈取・脱こく関係

■自動こぎ深さ制御装置

自動こぎ深さ制御装置は，作物の長さに応じて，適正なこぎ深さを保つ装置です。

● こぎ深さ自動スイッチ



1ARAEAZAP015B

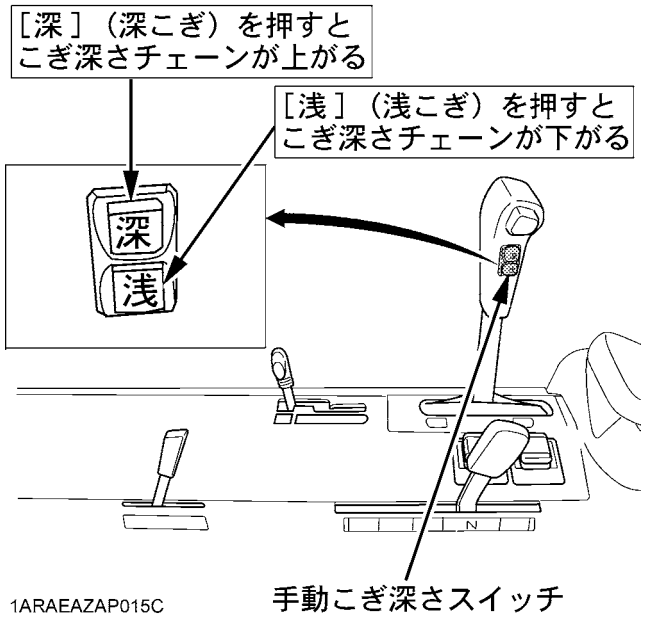
補　足

＊ 穂先センサ（株元側，穂先側）に浮きわらや雑草が引っ掛かると，正常な自動制御ができませんので取除いてください。
＊ 下記のときは，手動で操作してください。
- 長かん作物（約 130cm 以上）を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しが出るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 雑草が多いとき
- 倒状作物を低速で刈取るとき

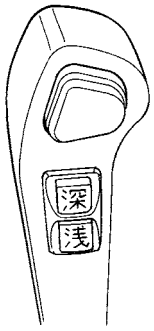
■手動こぎ深さスイッチ

● 手動こぎ深さスイッチ

こぎ深さの調節を手動で行なうスイッチです。



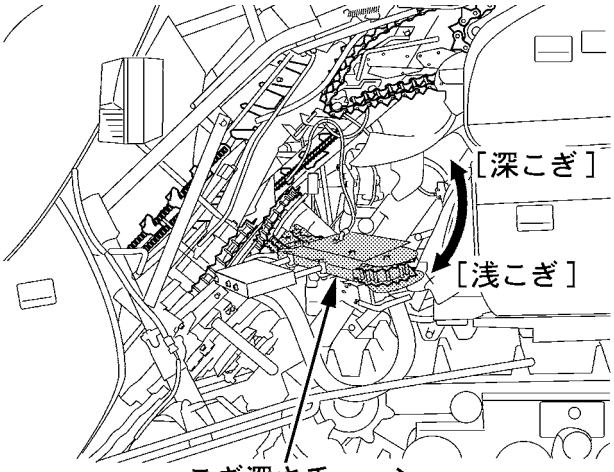
1ARAEAZAP015C

	スイッチの操作	こぎ深さチェーンの動き
	深	上がる
	浅	下がる

1ARAEAPAP140A

補　足

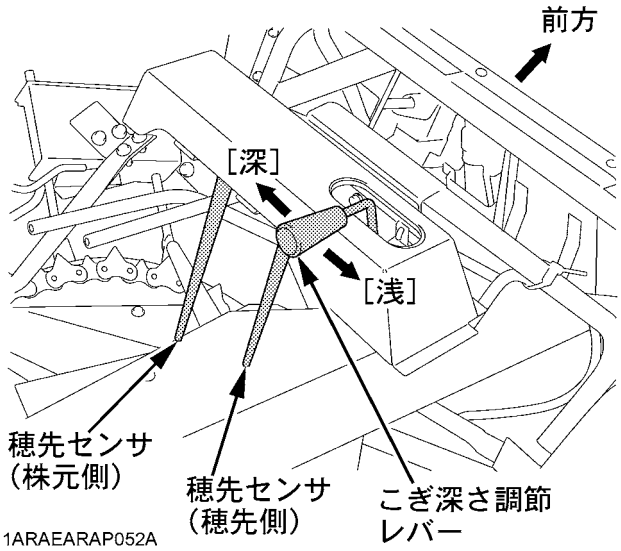
＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。



1ARAEARAP051A

● 穂先センサの位置調節について

通常は**［ほぼ中央］**に合せてください。調節は，レバーを**［深］**の方向に倒すと，深こぎ気味に保持され，レバーを**［浅］**の方向に操作すると，浅こぎ気味に保持されます。

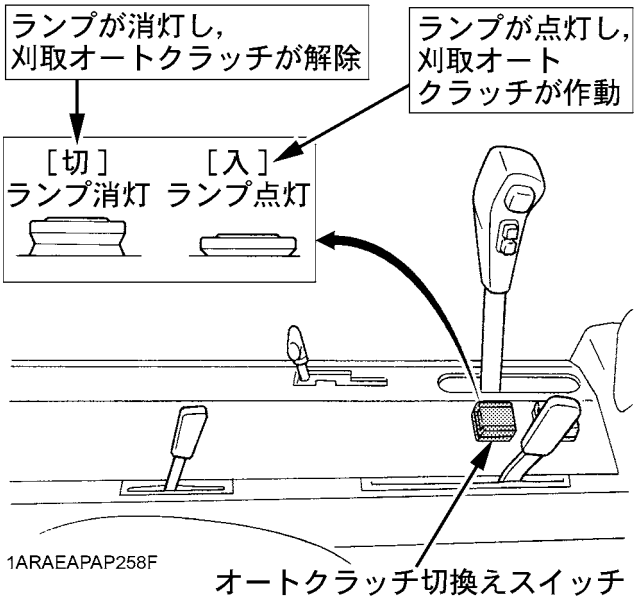


1ARAEARAP052A

■刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中にパワーステアリングレバーを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部及び，フィードチェーンが停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

- **オートクラッチ切換えスイッチ**
  刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。



◆ グレンタンク関係

■アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は，スイッチの操作により，アンローダが**収納位置⟷排出位置**に自動旋回する装置です。

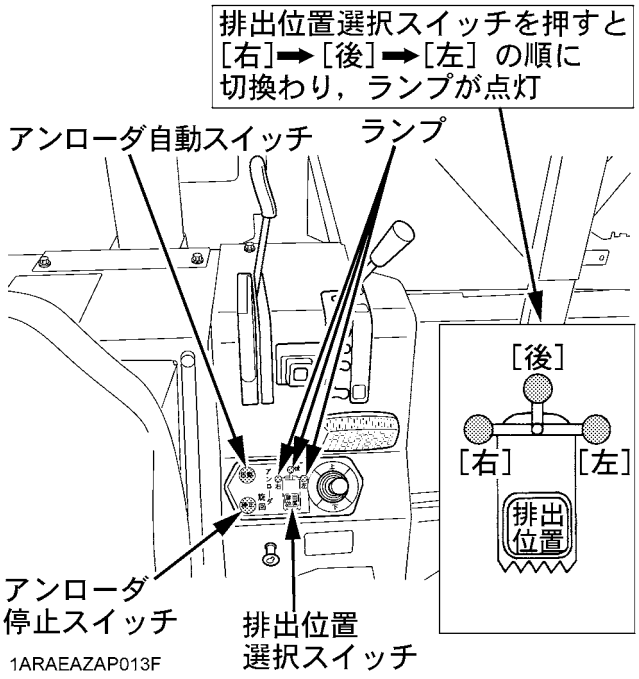
- **アンローダ自動スイッチ**
  自動スイッチを押すと，アンローダが排出位置又は，収納位置まで自動旋回します。

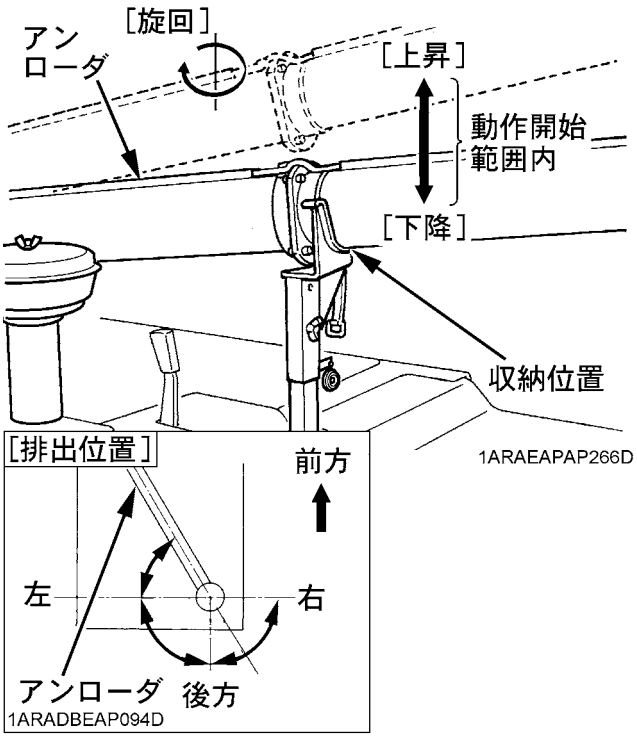
補　足

＊ アンローダが動作開始範囲で停止しているときに自動スイッチを押すと，アンローダは排出位置まで上昇及び自動旋回をします。

- **アンローダ停止スイッチ**
  自動上昇・旋回・下降途中で停止スイッチを押すと，その位置でアンローダが停止します。

- **排出位置選択スイッチ**
  自動スイッチを押すとアンローダが自動旋回し，停止する排出位置（**[右]・[後]・[左]** の３方向）の選択を行なうスイッチです。





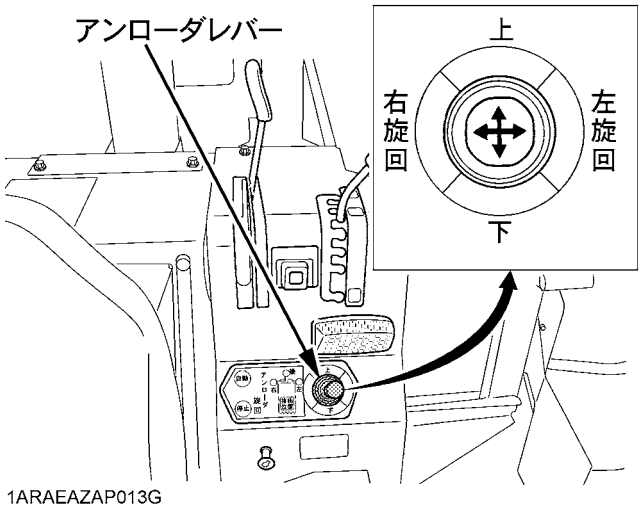
補　足

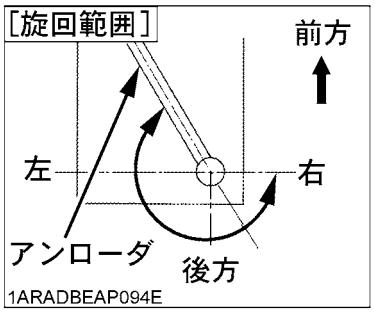
＊ 自動旋回制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

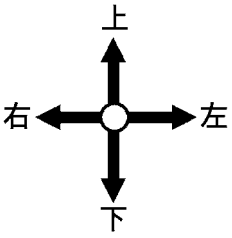
＊ 自動旋回制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10 秒程度待ってから自動スイッチを押す又は，停止スイッチを 1 度押してから自動スイッチを押してください。

■アンローダレバー

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。





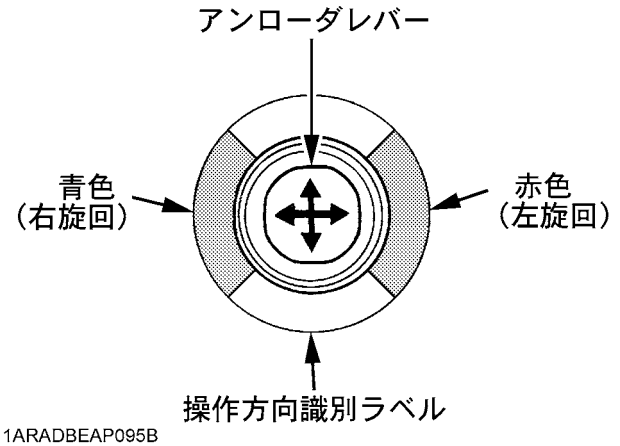


レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
左（赤色）	左回り（反時計方向）に旋回
右（青色）	右回り（時計方向）に旋回

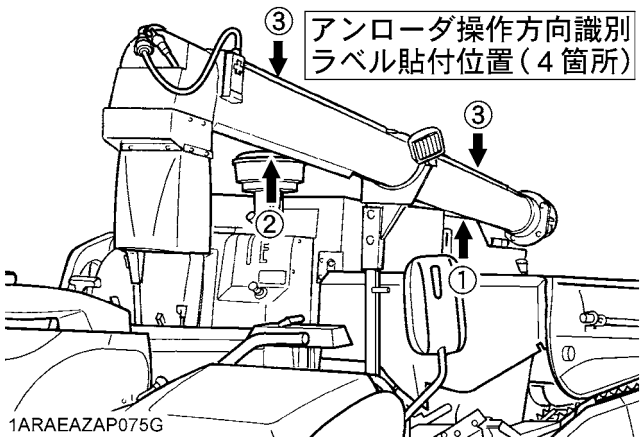
補　足

＊ アンローダレバーとアンローダリモコンを同時に操作したときは，アンローダリモコンによる操作が優先されます。

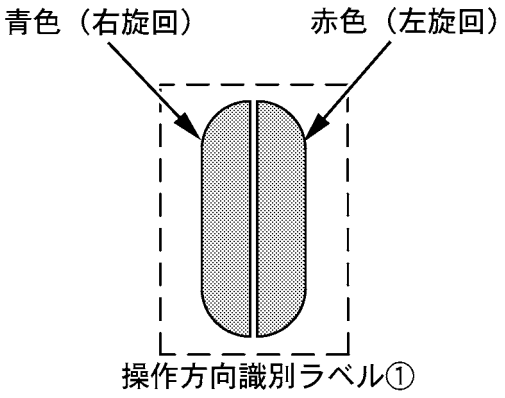
＊ アンローダレバーとアンローダに貼付している操作方向認識ラベルを確認し，アンローダレバーを操作してください。アンローダレバーを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。



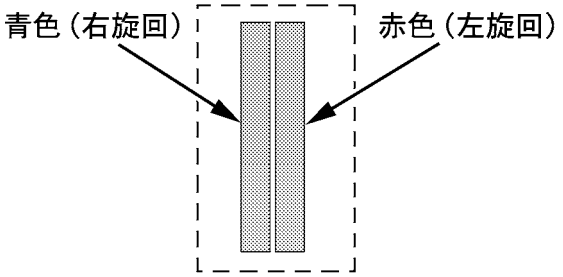
1ARADBEAP095B



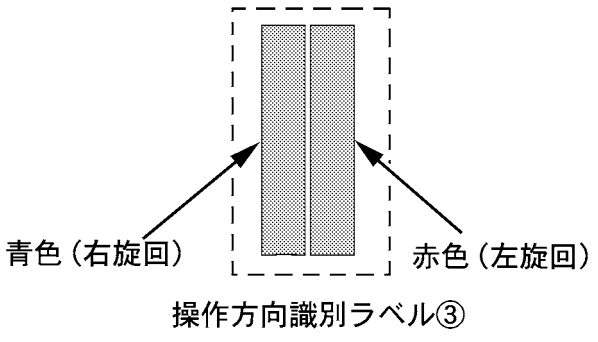
1ARAEAZAP075G



1ARADBEAP096A



1ARADBEAP097A

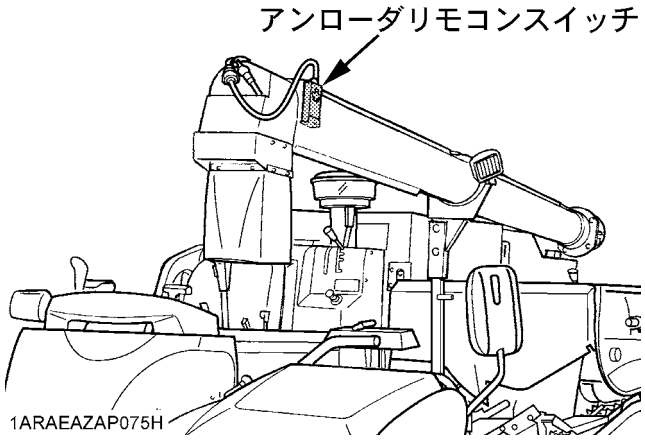


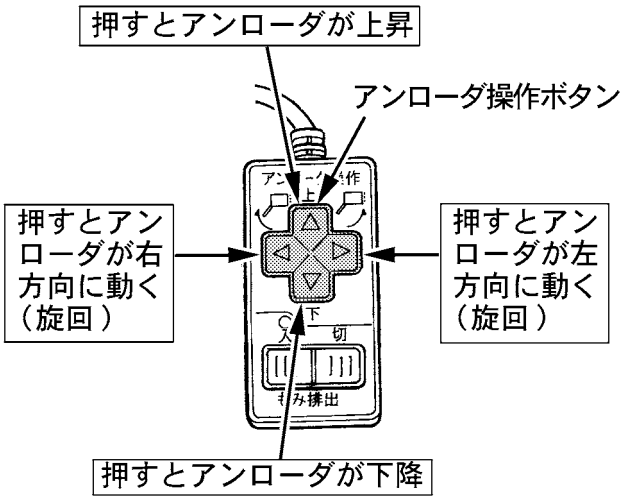
1ASADACAP695A

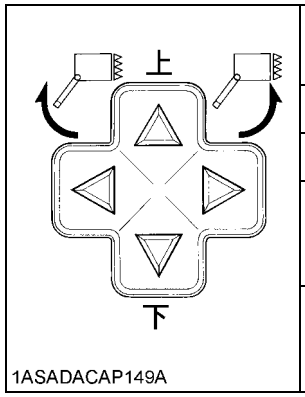
■アンローダリモコンスイッチ

アンローダの吐出口（先端）側からアンローダの上昇・下降及び旋回とグレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。

● 上昇・下降及び旋回操作

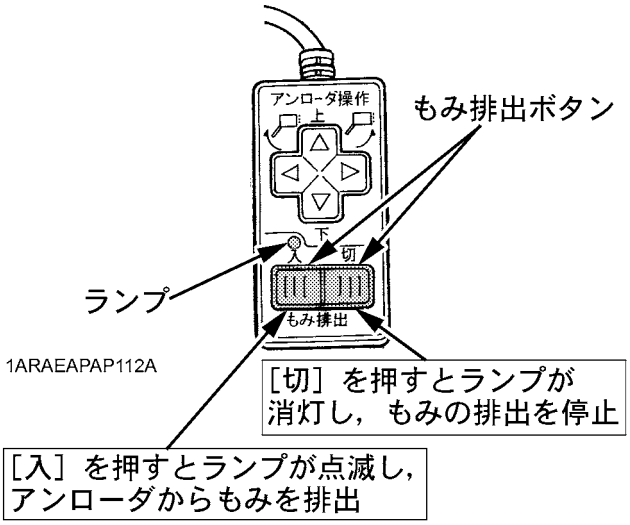






操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
	左回り（反時計方向）に旋回
	右回り（時計方向）に旋回

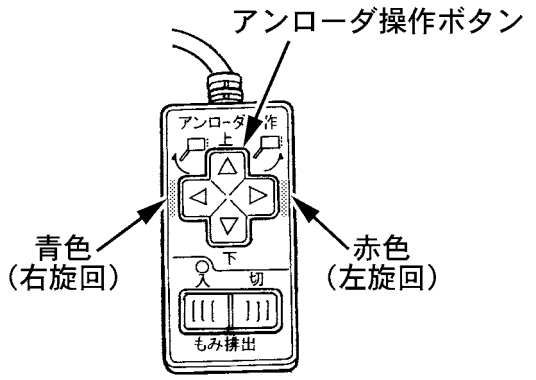
● もみの排出操作



補　足

＊ アンローダレバーとアンローダリモコンを同時に操作したときは，アンローダリモコンによる操作が優先されます。

＊ アンローダ操作ボタンとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ操作ボタンを操作してください。アンローダ操作ボタンを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ操作ボタンを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。



＊ アンローダ受けにアンローダが収納状態のとき，もみ排出ボタンの**［入］**を押してももみは排出されません。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，69 ページ以降を参照）

警 告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを始動してからの確認作業以外は，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜き，駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊ バッテリの点検･充電･交換中は火気厳禁です。
＊ 各部の調整･点検･交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などを巻込むおそれがあり危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，必ず指定の**［クボタ純オイル・クボタ純グリース］**を使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参照ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	— — 128 88，188 ⚠-24
刈刃，わら切刃，カッタ刃	・刃の損傷はないか。	・交換する。	159，164，170
受あみ，こぎ歯	・極端な摩耗や破損はないか。（摩耗量の確認）	・組換え又は，交換する。	82，163
クローラ	・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	183
防じんあみ	・詰まりはないか。	・掃除する。	129
反射器	・汚れや損傷はないか。	・掃除又は，交換する。	183
グレンタンクを開いて			
油水分離器（セパレータ）	・カップ内に水が溜まっていないか。	・排水する。	130
エンジン回りを確認して			
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル **[572]**……D10W-30 スーパー CD **[698]**……D10W-30 スーパー CF	115
ラジエータ冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	124
ラジエータフィン オイルクーラフィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	129
プレクリーナ	・コレクタにほこりがたまっていないか。	・掃除する。	126
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	127
ファン駆動ベルト	・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	143
パイプ，ホース	・油もれや水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	128
配線コード	・コネクタの外れはないか。 ・被覆の損傷はないか。	・接続する。 ・交換する。	179

運転前の点検

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参　照 ページ
運転席に座りメインスイッチを入れて			
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの切れを調べ交換又は，接続をする。 ・バッテリの充電又は交換する。	175，179，182
液晶ディスプレイ	・表示はされているか。 ・表示切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか。		
燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。	・軽油を補給する。	114
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	179，182
バックブザー	・主変速レバーを**【後進】**位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリ	・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	175
エンジンを始動して			
エンジン回転計	・回転計の作動に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	—
エンジン（マフラ）	・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	—
刈刃，各チェーン	・注油後の動きに異常はないか。	・調整又は，交換する。	150，159
各レバー	・各レバーの作動に異常はないか。	・調整する。	135 ～ 138
駐車ブレーキ	・機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	・調整する。	136
エンジン停止スイッチ	・スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	15，179

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

警 告

＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。

注 意

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ コンバインに乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。
＊ 副変速レバーが［N］（中立）位置では，油圧ロックが作動しないため，坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。

■始動のしかた

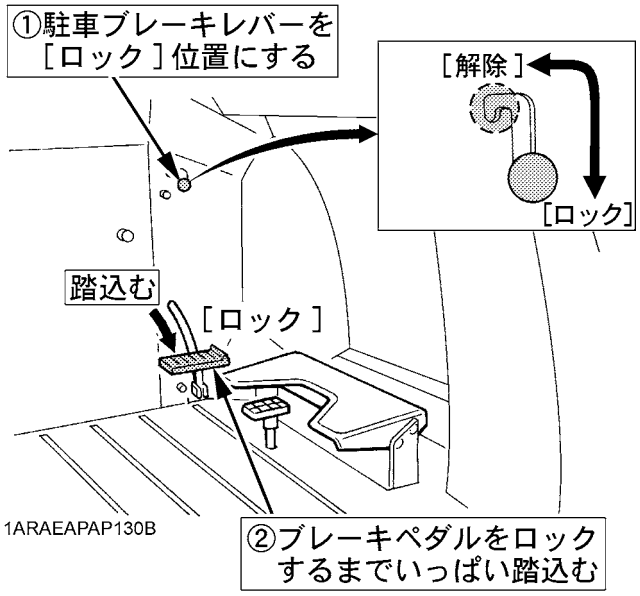
1. ハンドルをしっかりと握り，補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

重　要

＊ 運転席へ乗降りするときは，ハンドル以外は握らないでください。特にパワーステアリングレバーを握って乗降りすると，変形したり，破損する原因となります。またパワーステアリングレバーが変形したり破損すると，正常なコンバインの運転が行なえなくなるおそれがあります。

2. 運転のしやすい位置に運転席（シート）を調整します。（12 ページ参照）

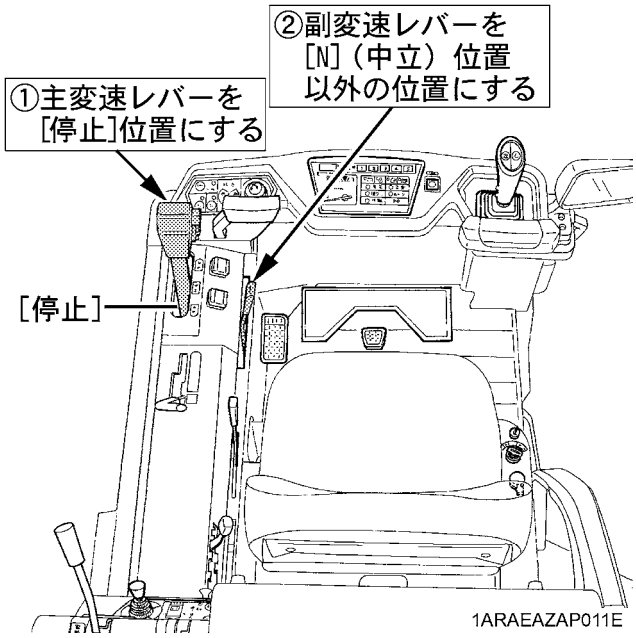
3. 駐車ブレーキを掛けます。

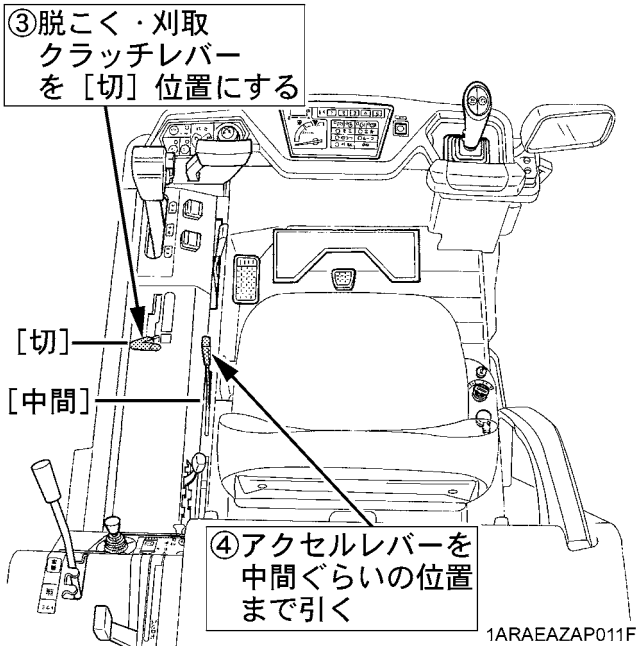


補　足

＊ 駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが**［停止］**位置に戻ります。また，ブレーキペダルが**［ロック］**位置の場合は，主変速レバーは動きません。
＊ 駐車ブレーキペダルを踏んでいないと，スイッチキーを回してもエンジンは始動しません。

4. 各レバー位置の確認をします。

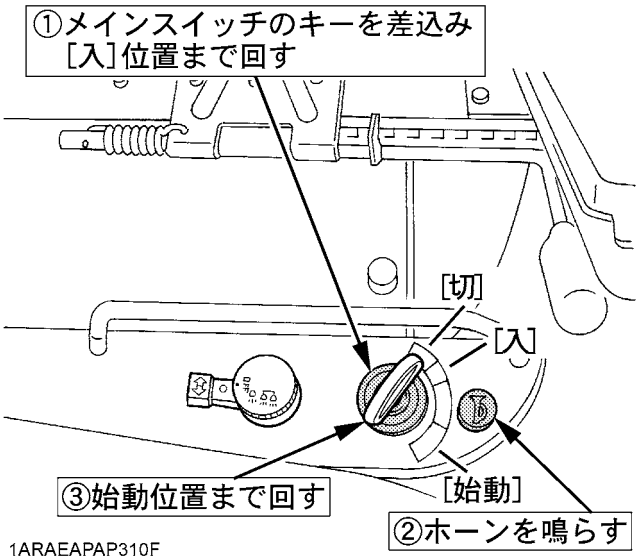




補　足

＊ 主変速レバーは**［停止］**位置にあり，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にし，ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは掛かりません。

5． エンジンを始動します。



1ARAEAPAP310F

重　要

＊ メインスイッチのキーを**【始動】**位置に回して 10 秒たっても始動しないときは，いったんメインスイッチのキーを**【切】**位置にして，30 秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10 秒以上の使用は故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，メインスイッチのキーを**【始動】**位置に回すと故障の原因になります。
＊ エンジン始動後，油圧ランプ，充電ランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

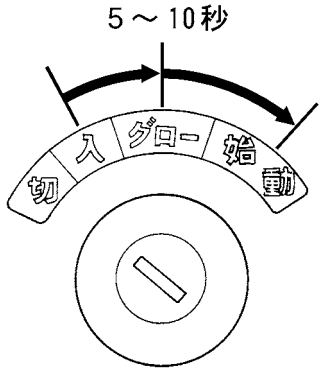
◆ 暖機運転について

エンジン始動後，エンジン回転数を約 1500rpm に合わせて通常（寒冷時以外）約 5 ～ 10 分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

◆ 寒冷時の始動のしかた

[572]

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にメインスイッチのキーを**【グロー】**位置で 5 ～ 10 秒間予熱したあと**【始動】**位置に回してください。



1ARAEAOAP018B

[572]

重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。
＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとパワーステアリングレバーが操作できなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
0 ℃～ -10 ℃	約 10 分
-10 ℃～ -15 ℃	10 ～ 15 分
-15 ℃～ -20 ℃	15 ～ 20 分
-20 ℃以下	20 分以上

◆ 燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びメインスイッチのキーを**【切】**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかた**の**1 ～ 4** を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊ メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると約 5 ～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

◆ バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。(175 ページ参照)
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは，必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの**（＋）端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**（－）端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。
2. アクセルレバーを**［🐢］**（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを**［切］**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが**［入］**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。

移動走行について

注　意

＊ グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 運転者以外の人を乗せないでください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリートの畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ 水平操作レバーで機体をいっぱい下げた状態にしてください
＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，副変速レバーを［倒伏］位置にし，低速で走行してください。
走行途中に停止するときは，主変速レバーを操作して停止してください。
＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）の走行途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダル・水平操作レバー・かき込みペダルを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。
＊ あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ 下記のようなところは，転倒しケガをするおそれがあるので走行しないでください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いとろこにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**

重　要

＊ 路面の凹凸（溝や穴など）や荒れた路面上は走行しないでください。クローラの破損や早期摩耗の原因となります。
＊ アンローダ受けにアンローダを必ず収納してください。

補　足

＊ ドロッパ，スイスイデバイダなどを装着している場合は**，［道路運送車両法］**の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
＊ **［道路運送車両法］**の**［保安基準］**に抵触するおそれがあるため，公道走行する前には必ず下記項目を確認し，異常があるときは購入先に連絡して処置を行なってください。また，異常があるときは必ずトラック輸送を行なってください。
- 機械の周囲を回って油もれ，水もれ，燃料もれが発生している場合
- エンジン音に異常がある場合
- 旋回異常がある場合
- ブレーキ，各変速，各クラッチに異常がある場合
- 各警報（ブザー），灯火装置（スイッチ，ランプ）に異常がある場合

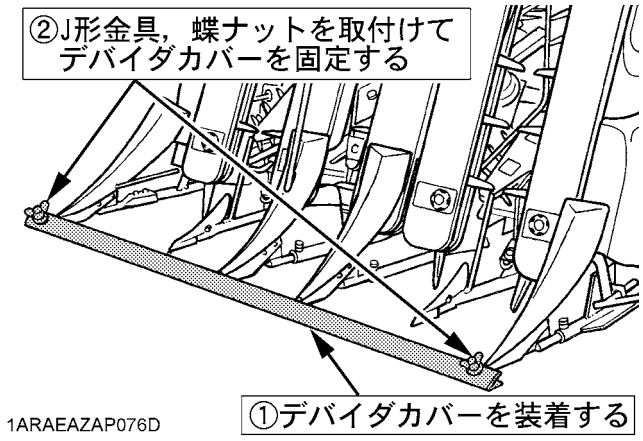
■走行前の準備

注 意

＊ 平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 木や電線に接触して破損したり，周囲の人にケガをさせるおそれがあるのでアンローダを収納状態にしてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(56 ページ参照)
2. デバイダカバーを取付けます。

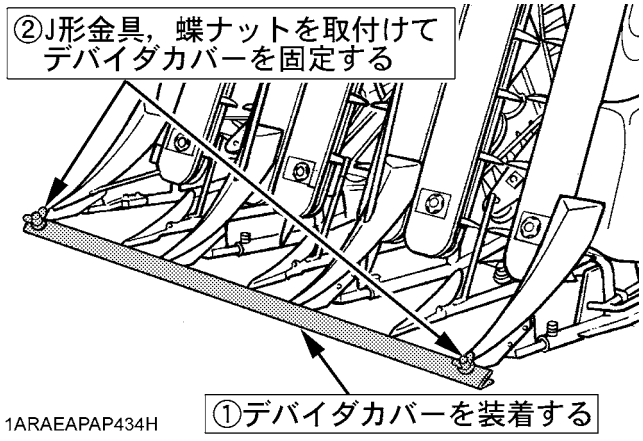
[572]



1ARAEAZAP076D

[572]

[698]

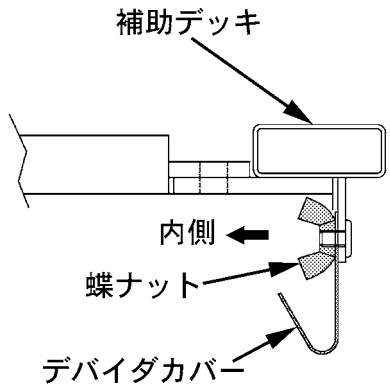


1ARAEAPAP434H

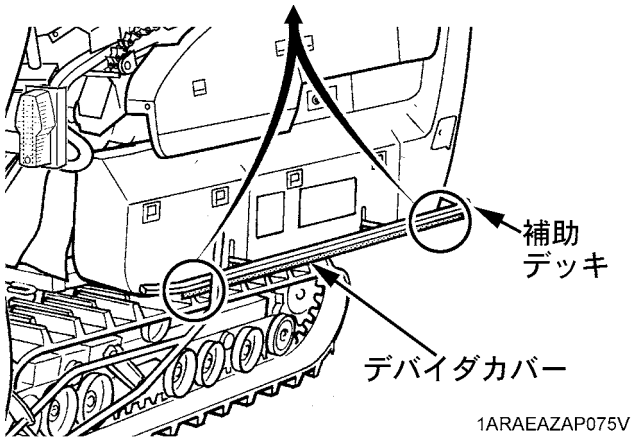
[698]

補 足

＊ 補助デッキ内側に収納しているデバイダカバーを蝶ナットを外して取外し，デバイダに取付けてください。このとき，J 形の金具は収納している工具箱から取出してください。

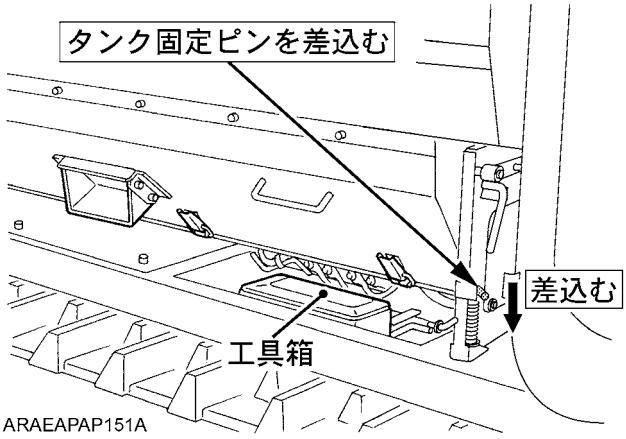


1ARAEAPAP063A



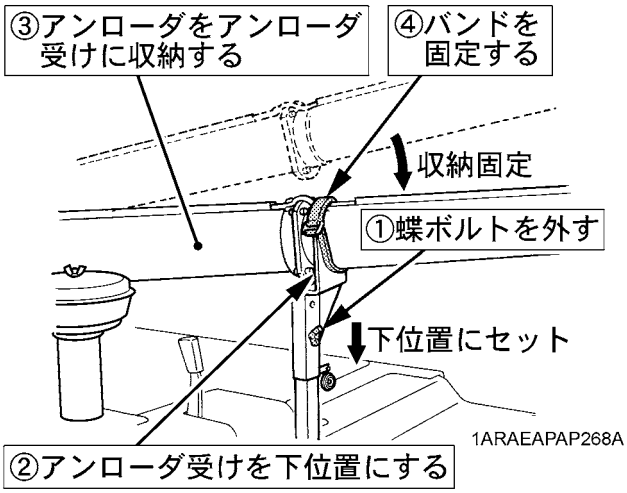
1ARAEAZAP075V

3. グレンタンク下カバーを取外したあと，グレンタンクを固定し，グレンタンク下カバーを取付けます。

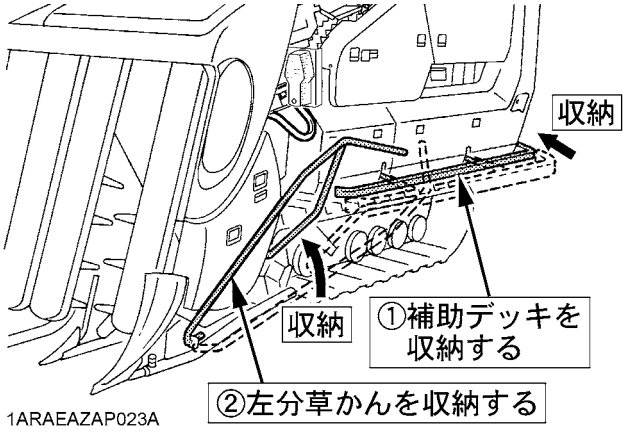


1ARAEAPAP151A

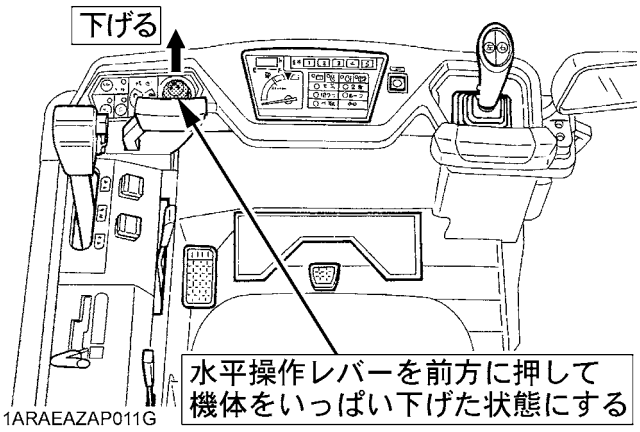
4. アンローダを収納します。



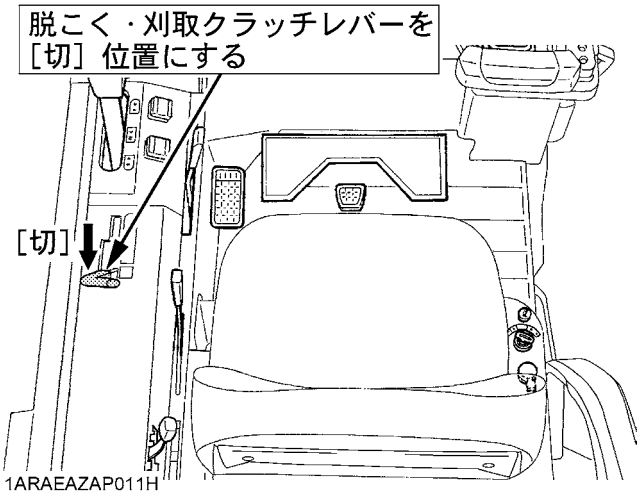
5. 補助デッキ，左分草かんを収納します。



6. 自動車体水平制御スイッチを**［切］**にし，水平操作レバーで機体をいっぱいまで下げます。



7. 脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。

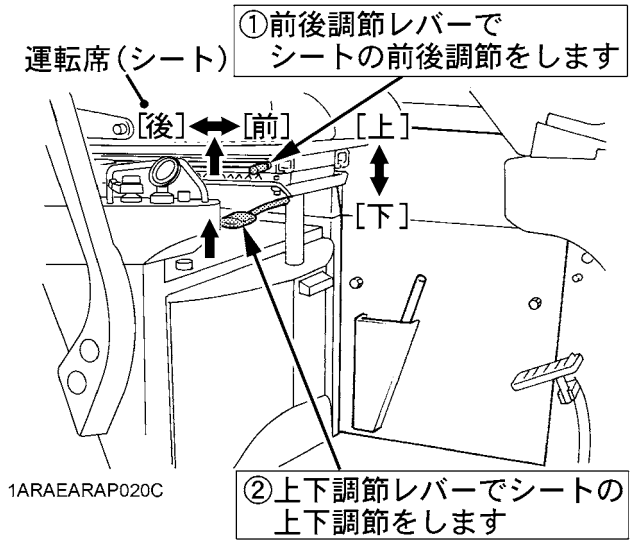


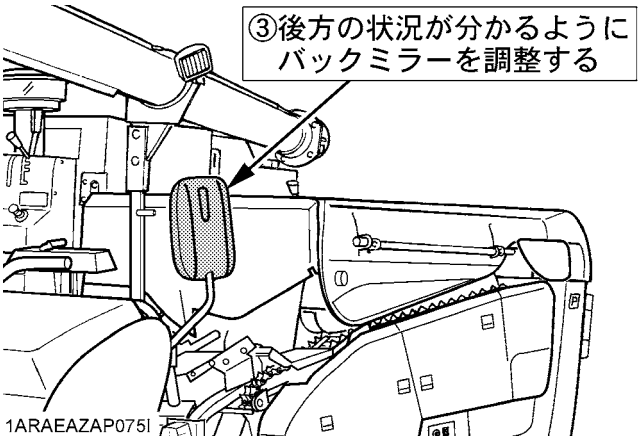
■発進のしかた

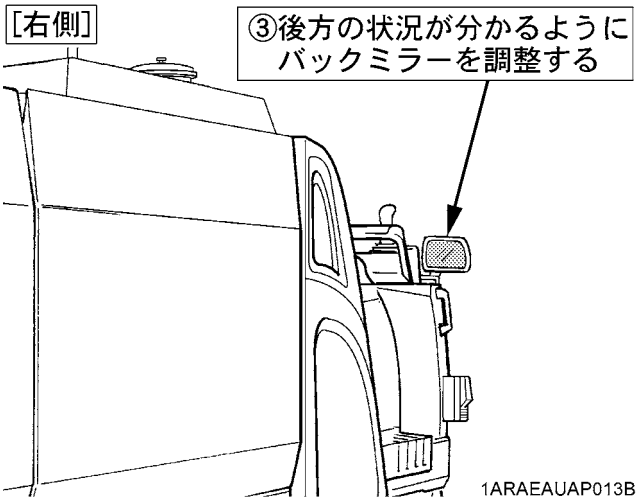
注 意

＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。
＊ 機体の前進を停止するとき，主変速レバーを［停止］側にするときは，後進時切換えノブを押さないでください。［後進］側に入り機体が後進するおそれがあります。

1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

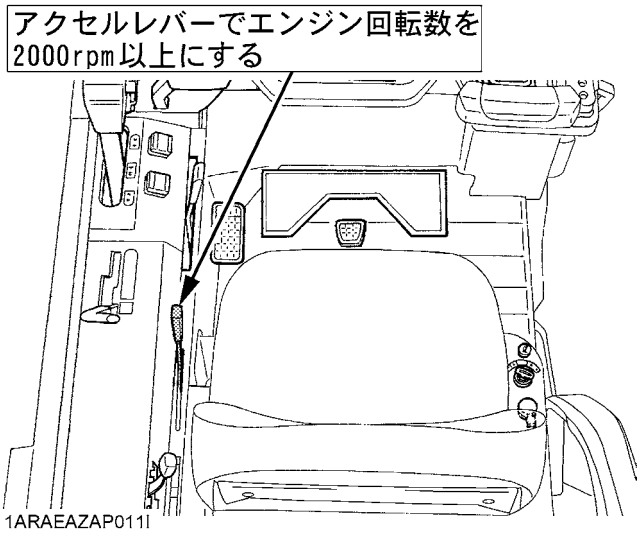




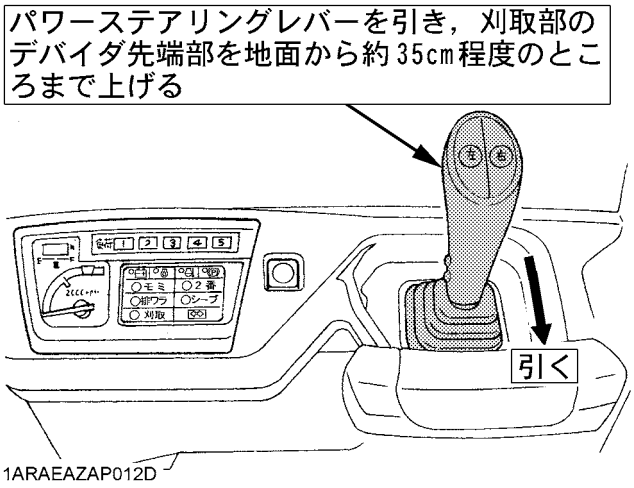


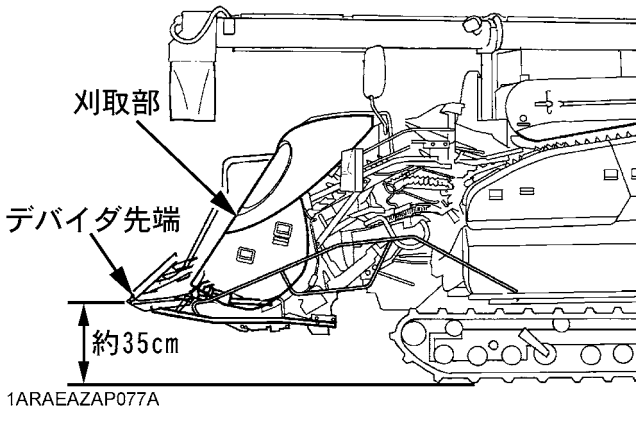
2. アクセルレバーを操作します。

エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作します。



3. 刈取部を上げます。



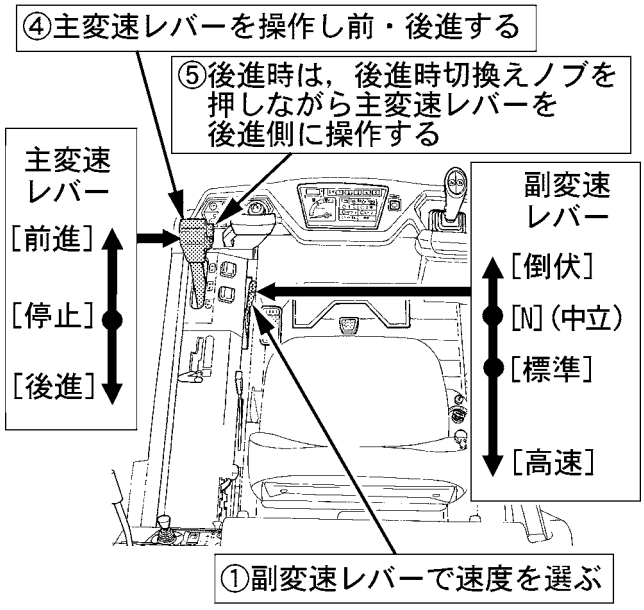


4. 走行速度を選んで発進します。

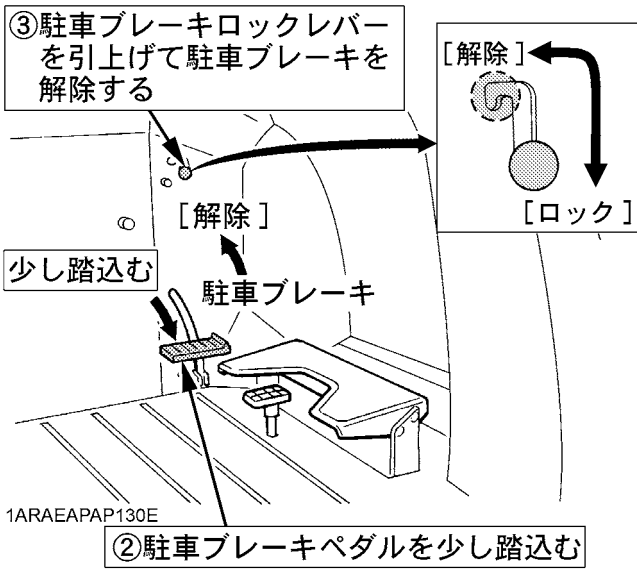
主変速レバーを**【停止】**位置より前に押すと**前進**し，後に引くと**後進**します。後進するときは，主変速レバーの後進時切換えノブを押しながら**【後進】**側に引きます。

補　足

＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し**【前進】**側に動かして**【停止】**に戻してから，切換えてください。



1ARAEAZAP011J



1ARAEAPAP130E

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

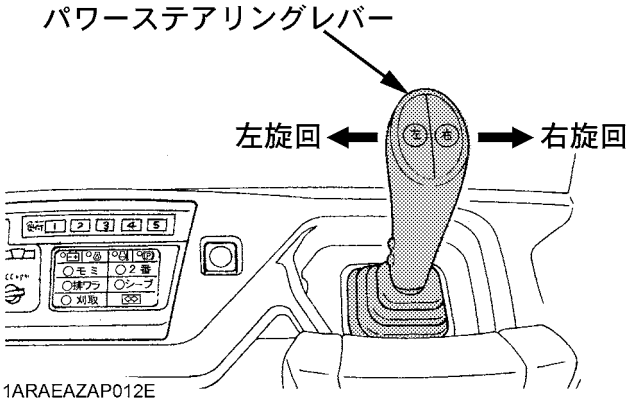
＊ 副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**【停止】**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

■旋回のしかた

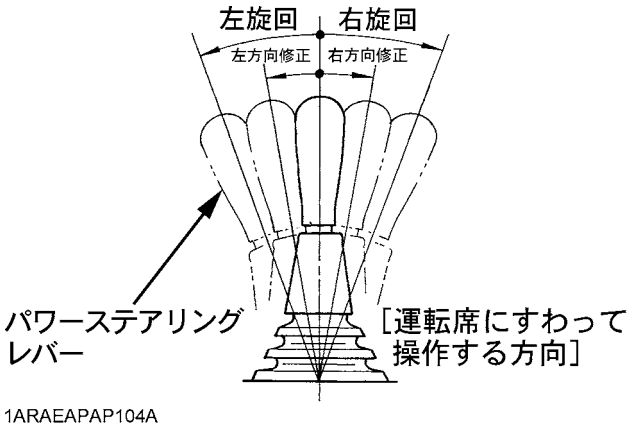
注　意

＊ 高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



1ARAEAZAP012E



1ARAEAPAP104A

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車･駐車のしかた

注　意

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ かき込みペダルを踏込んで走行を停止しないでください。
＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを**［停止］**位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. アクセルレバーを**［🚗］（低回転）**位置にします。
4. 副変速レバーを**［N］（中立）**以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして地面に接地します。
6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

■道路走行について

注　意

＊ ドロッパ，スイスイデバイダなどを装着した状態で移動するときは，トラック輸送してください。
＊ 夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯は必ず消灯してください。

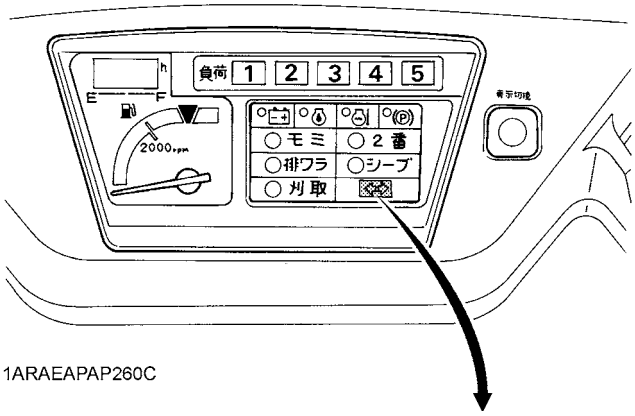
移動走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

補　足

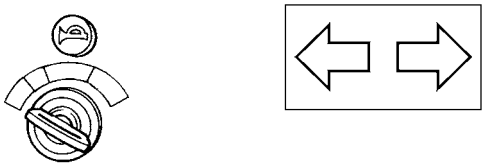
＊ 道路を走行するときは，大型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。
＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第 42 条（灯火の色などの制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

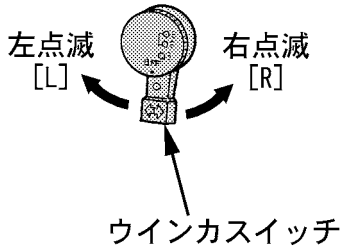
● **ウインカスイッチ**

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，メータユニット内のウインカ表示ランプが点滅します。



1ARAEAPAP260C





1ARAEAAAP360C

補　足

＊ 旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを R（後進）又は，1 速に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかりと固定してください。

＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（70cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	**トラックの荷台の高さの 4 倍以上**
幅	**70cm 以上**
数　量	**2 枚**
強　度	**1 枚が 3100kg 以上の重量に耐えうる**

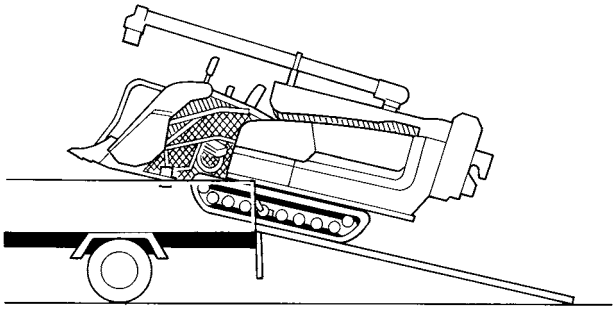
■コンバインの準備

もみをすべて排出し，アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納後，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にし，自動車体水平制御（モンロー）を機体いっぱいまで下げ，補助デッキや左分草かんをそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付けます。（36 ページ参照）

■コンバインの積込み･積降しのしかた

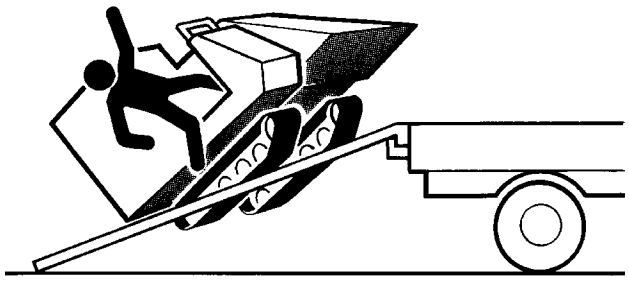
注　意

＊ 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。
＊ 平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前後に人を近づけないでください。



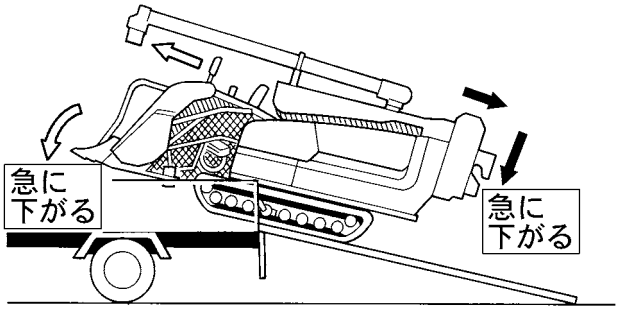
1ARAEAZAP019A

＊ あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダル・水平操作レバー・かき込みペダルを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下り直してください。



1ARADBEAP122A

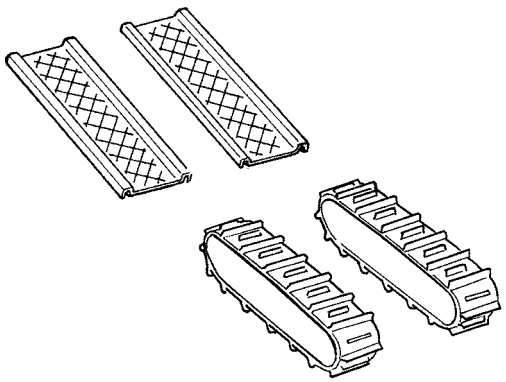
＊ 機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



1ARAEAZAP019B

◆ 操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを**【切】**位置にします。
2. 水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。
3. パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。
4. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を2000rpm以上にし，副変速レバーを**【倒伏】**位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。



1ARADBEAP124A

6. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

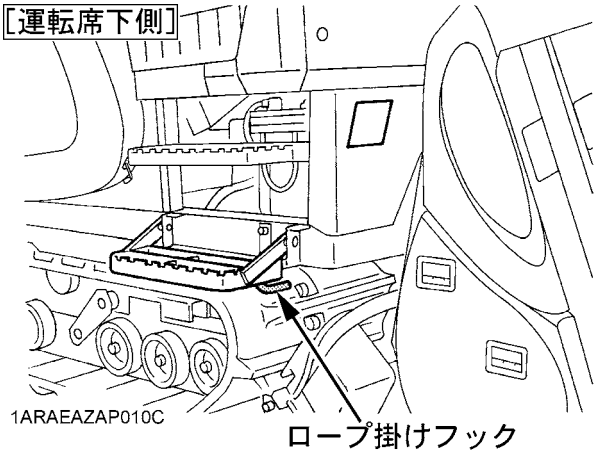
■トラック上での処置

注　意

＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

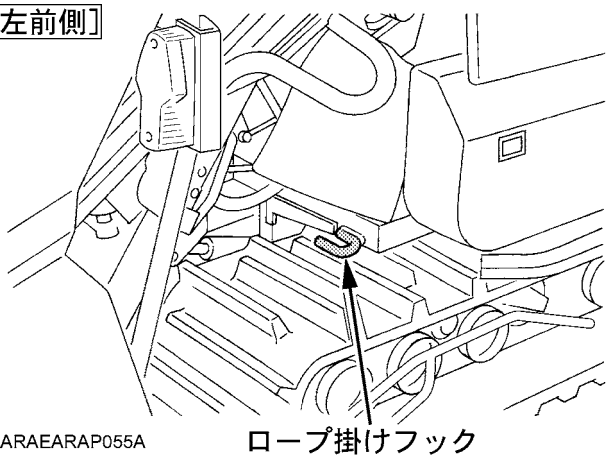
1. コンバインをトラックの荷台に乗せたあと，刈取部を床まで降ろし，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. コンバインにロープを掛けます。ロープを掛けるときは，必ず指定のロープ掛け用のフック 4 箇所に掛けてください。

［運転席下側］



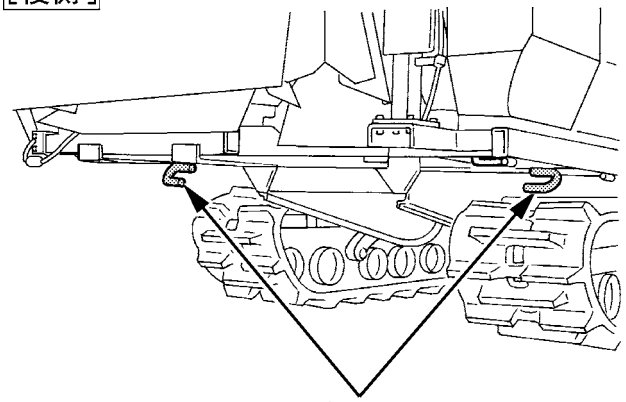
1ARAEAZAP010C

［左前側］

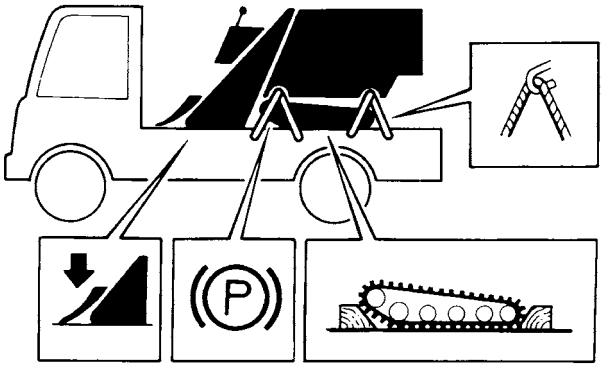


1ARAEARAP055A

［後側］



1ARAEAPAP155A



1ARADBEAP127A

重　要

＊ フック以外の所には，ロープを掛けないでください。
＊ ロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。また，けん引作業を行なうときにロープをロープ掛けフックに掛けないでください。
＊ サイドシュートをロープで押さえつけないでください。変形するおそれがあります。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆ 作物の長さ

刈取れる長さは，標準の刈高さで

……全長約 55 ～ 130cm **[標準仕様]**

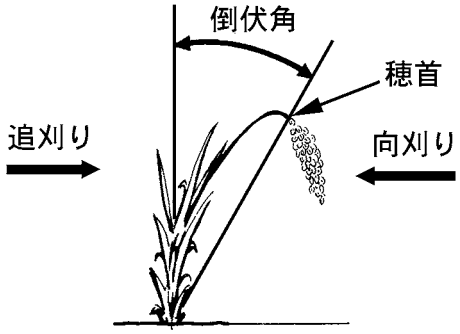
　　全長約 50 ～ 120cm **[H 仕様（短かん用)]**

1ARADBEAP129A

◆ 作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追刈り	85 度以下
向刈り	70 度以下



1ARADBEAP130A

◆ 作物のぬれ

作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

重　要

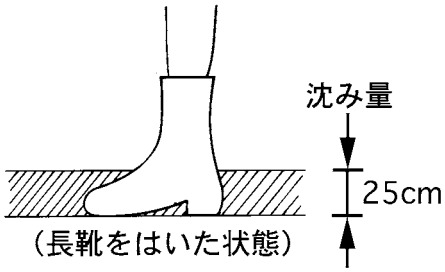
＊ 湿田の倒伏やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受あみが目詰まりを起すことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受あみの目詰まりを取除いてください。

掃除を行なうときは，必要に応じて受あみを取外してください。(82 ページ参照)

■ほ場の条件

◆ ほ場のぬかるみ

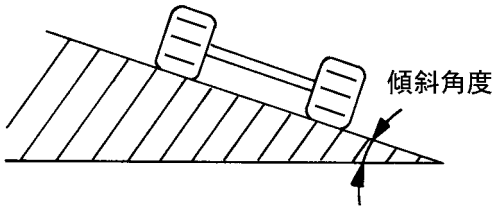
足の沈み量を測って目安にしてください。



1ARADBEAP131A

◆ ほ場の傾き

傾斜角度 5 度以上では，作業できません。

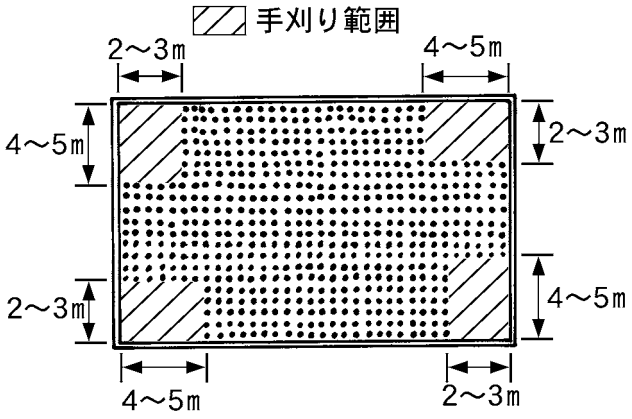


1ARADBEAP132A

ほ場の準備

■ほ場の準備

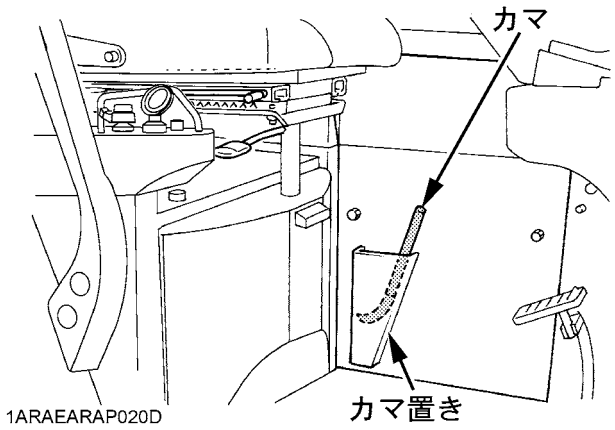
コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。



1ARADBEAP133A

補　足

＊ カマの収納場所は下図の位置にあります。



1ARAEARAP020D

コンバインの準備

注　意

＊ 平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■準備のしかた

1.　各部への注油

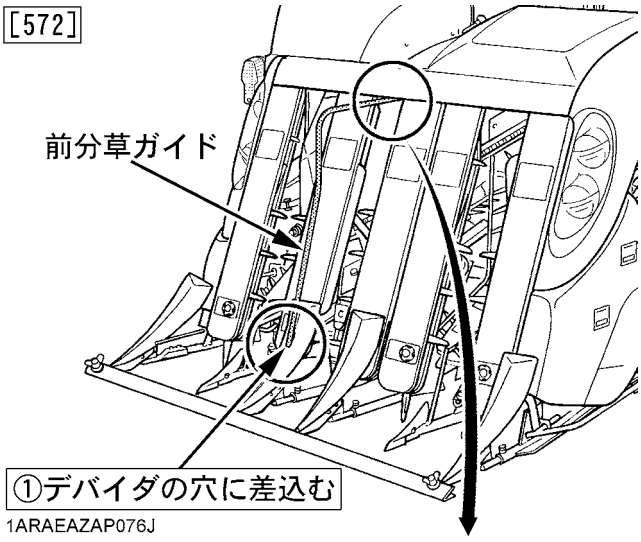
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(94 ページ参照)

2.　前分草ガイドの取付け

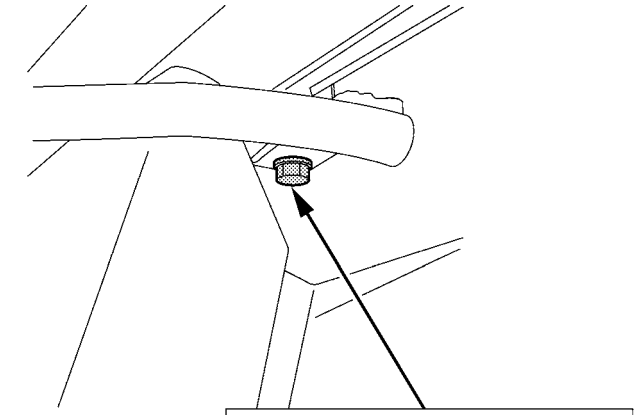
下記のほ場や作物条件に合わせ，前分草ガイドの取付け又は，取外しを行なってください。

- 長かん作物で倒伏した作物を刈取るときは，付属部品の前分草ガイドを取付けてください。
- 雑草の多いほ場や引抜きを起こしやすい作物を刈取るときは，前分草ガイドを取外してください。

[572]

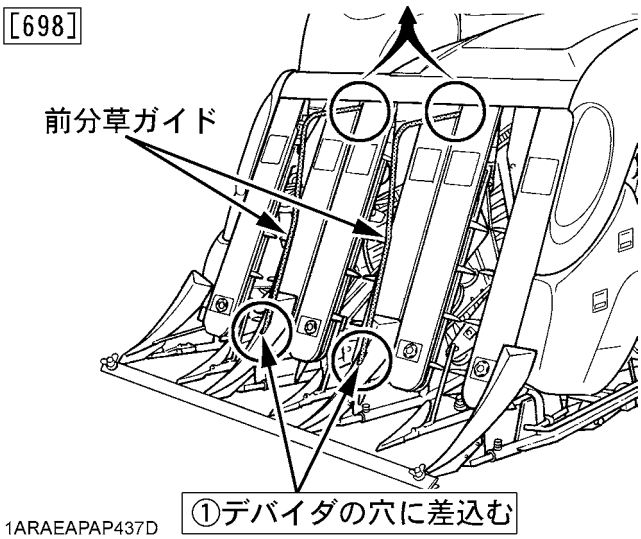


1ARAEAZAP076J



1ARAEAPAP341A

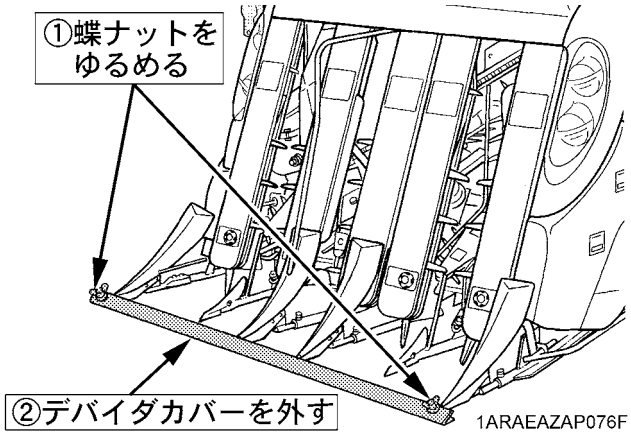
[698]



1ARAEAPAP437D

3. デバイダカバーの取外し

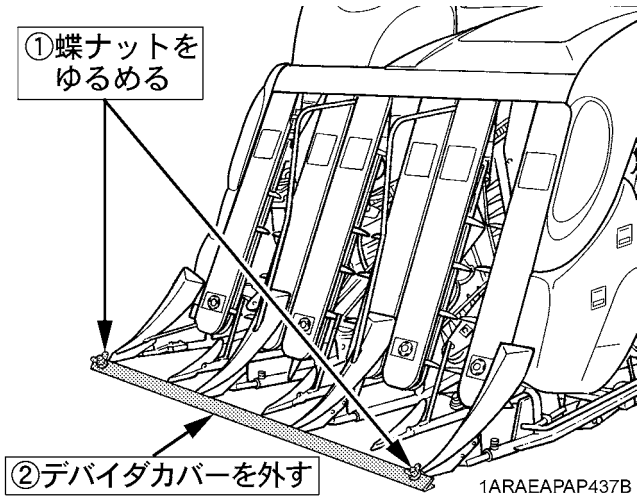
[572]



1ARAEAZAP076F

[572]

[698]

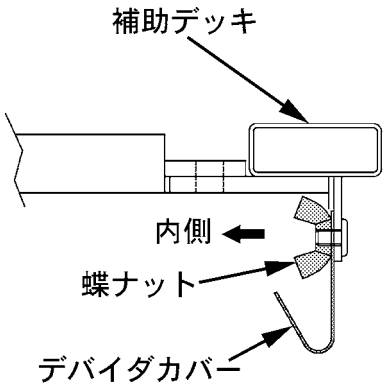


1ARAEAPAP437B

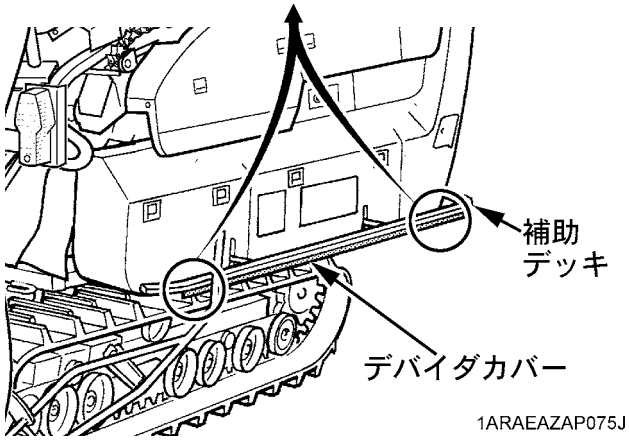
[698]

補　足

＊ デバイダカバーを取外したあと，補助デッキ内側にデバイダカバーを収納してください。収納するときは，補助デッキ内側にある２箇所のボルトにデバイダカバーの取付穴を通し，取外した蝶ナットを締付けて取付けます。また，取外したＪ形の金具は工具箱に保管してください。

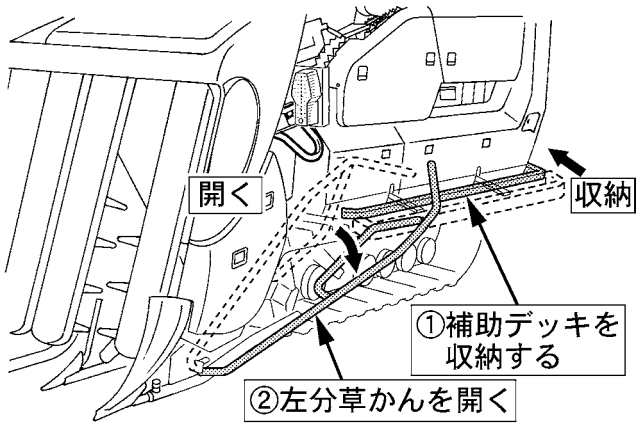


1ARAEAPAP063A



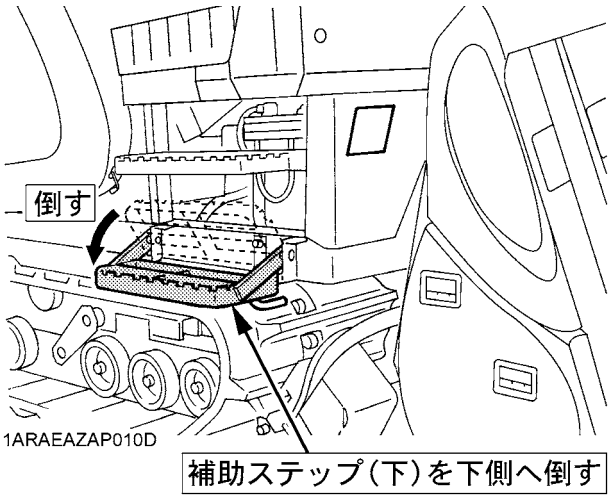
1ARAEAZAP075J

4.　左分草かんのセット



1ARAEAZAP023B

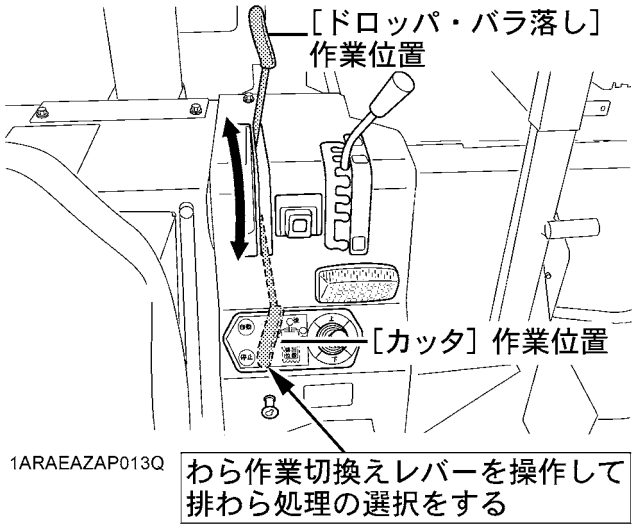
5.　補助ステップ（下）のセット



1ARAEAZAP010D

6.　排わら処理の選択

わら作業切換えレバーを操作して**［カッタ］作業**又は**［ドロッパ・バラ落し］作業**の切換えを行なってください。また，わら作業切換えレバーで切換えたあと，排わらレール 2 の切換作業を行なってください。



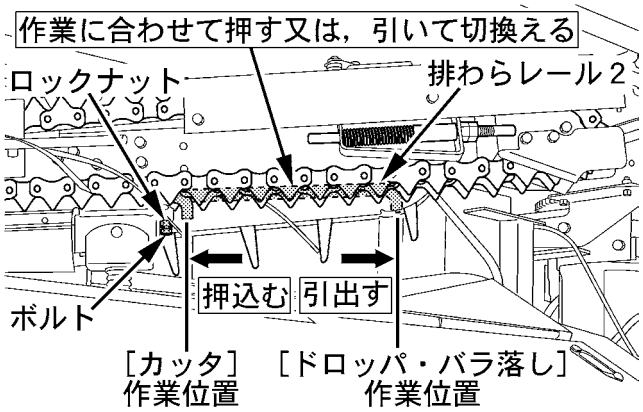
1ARAEAZAP013Q

重　要

＊ 作業中に切換えレバーを切換えるときは，搬送されている作物が完全に流れ終わってから脱こく機が作動状態で行なってください。故障の原因となります。

◆ 排わらレール 2 の切換え

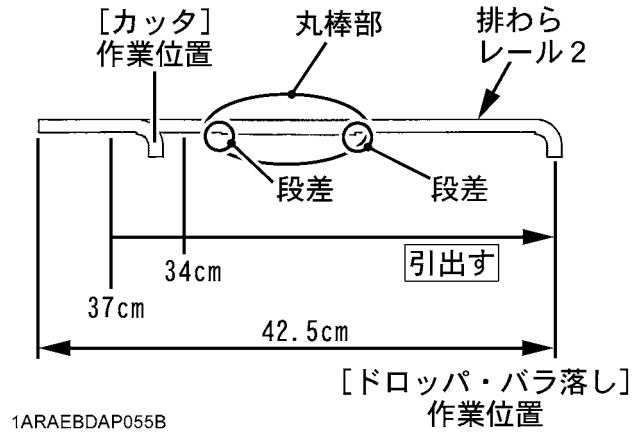
1. 上部カバーを上げます。
2. 排わらレール 2 を固定しているロックナットをゆるめたあと，ボルトをゆるめます。
3. わら作業切換えレバーを**［カッタ］作業**位置に切換えたときは，排わらレール 2 をいっぱいまで押込みます。また，**［ドロッパ・バラ落し］作業**位置に切換えたときは，排わらレール 2 を引出します。
4. ボルトを締付けたあと，ロックナットを締付けます。



1ARAEBDAP054B

補　足

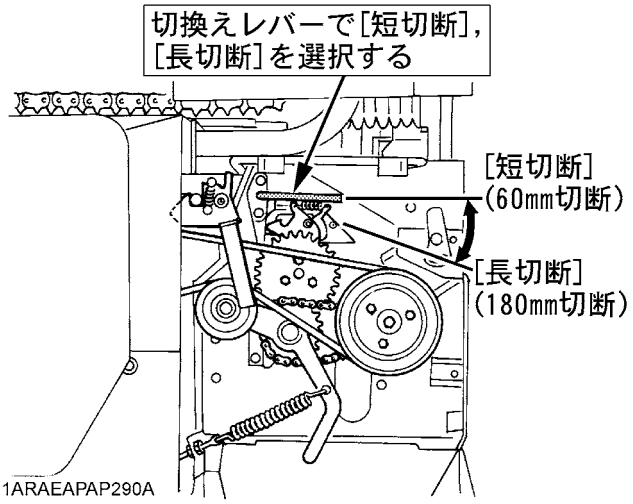
＊ 排わらレール 2 を引出して**［ドロッパ・バラ落し］作業**位置に切換えたときは，下図のように排わらレール 2 の先端部からの出代を 34 ～ 37cm まで引出してください。
＊ 排わらレール 2 の長さは 42.5cm です。
＊ 排わらレール 2 を押込む又は，引出すときは，丸棒部との段差の引っ掛かりに注意してください。



1ARAEBDAP055B

7.　排わら切断長さの選択

わらの切断長さの切換えを行なってください。
切換えるときは，カッタ左サイドカバーを外し，切換えが終わったあとはカッタ左サイドカバーを取付けてください。



1ARAEAPAP290A

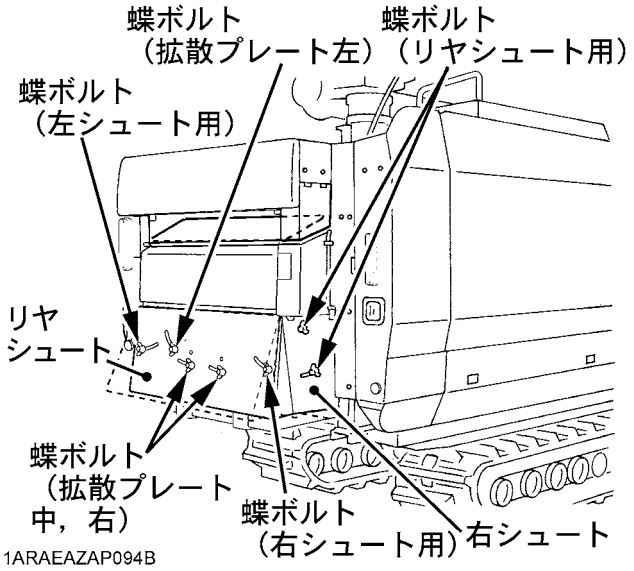
補　足

＊ シュータ式拡散装置は，切断長さに応じてリヤシュートを前、後方向に調節してください。

8.　リヤシュート・サイドシュートの準備

◆ セットのしかた

排わらの切断長さや拡散又は，中割り作業に応じてリヤシュート及びサイド（右，左）シュートの調整を行なってください。また，調整が終わったあとは，蝶ボルトを確実に締付けてください。



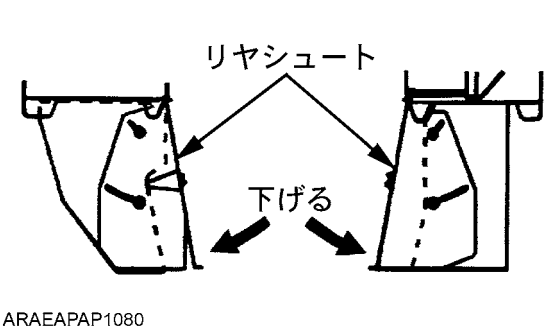
1ARAEAZAP094B

◆ 調整のしかた

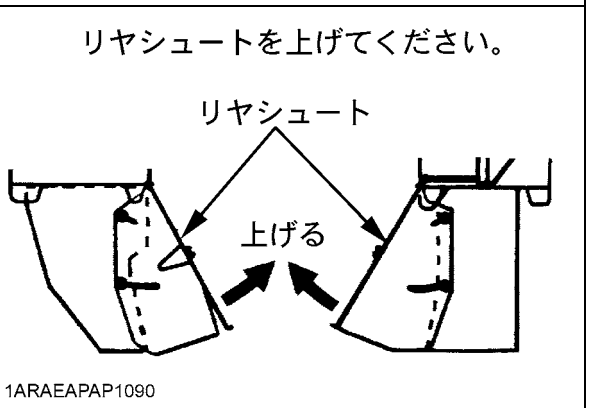
● 切断長さ

左, 右のシュートの蝶ボルト各２本をゆるめてリヤシュートを前後に調整してください。
[短切断]（60㎜ 切断）…リヤシュートを下げる
[長切断]（180㎜ 切断）…リヤシュートを上げる

短切断作業



長切断作業



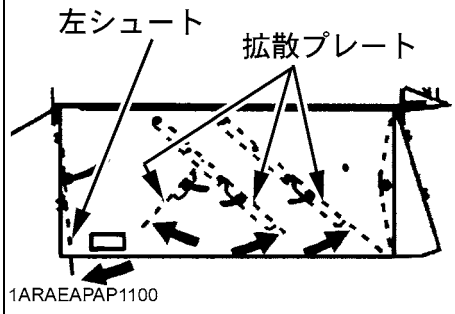
● 拡散作業⟷寄せ作業

リヤシュート側にある蝶ボルト５本をゆるめて, 左, 右のシュートと拡散プレートを調整してください。

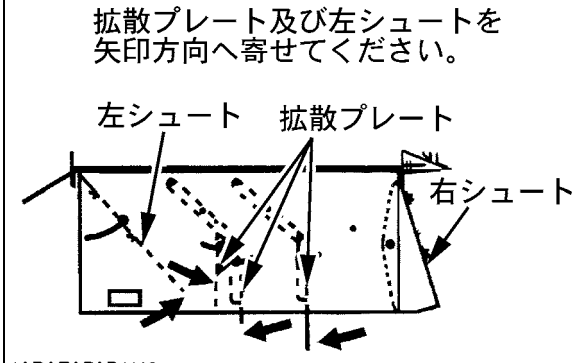
拡散作業… 左，右のシュートを外側に広げたあと，拡散プレート左を左側，拡散プレート中，右を右側にします。

寄せ作業… 左のシュートを内側に寄せたあと，拡散プレート左を右側，拡散プレート中，右を左側にします。

拡散作業



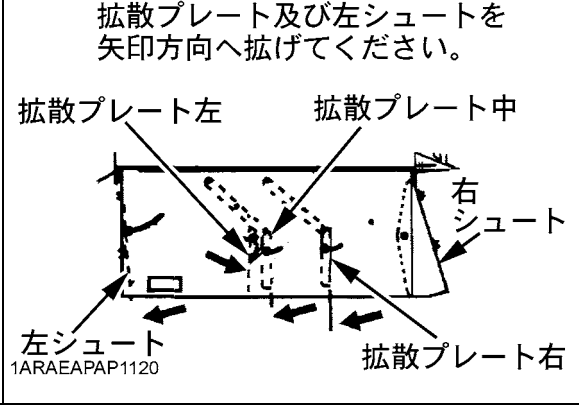
寄せ作業



重　要

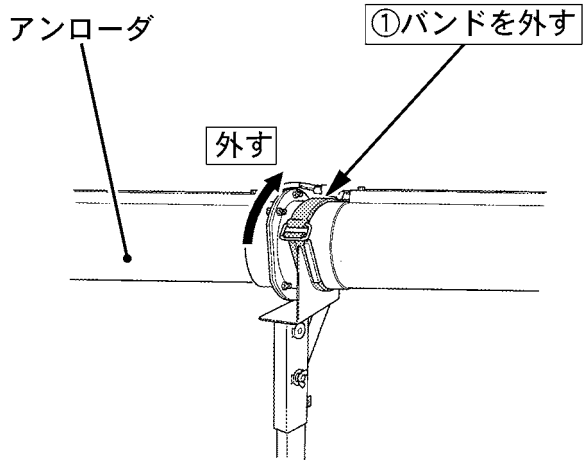
＊ 高水分作物や濡れ作物の拡散作業を行なうとき，右シュート付近で詰まりが発生する場合は，拡散プレート左を右側，拡散プレート中と右を左側にし，左シュートを左側にしてください。シュートやプレートが破損するおそれがあります。

濡れ作業

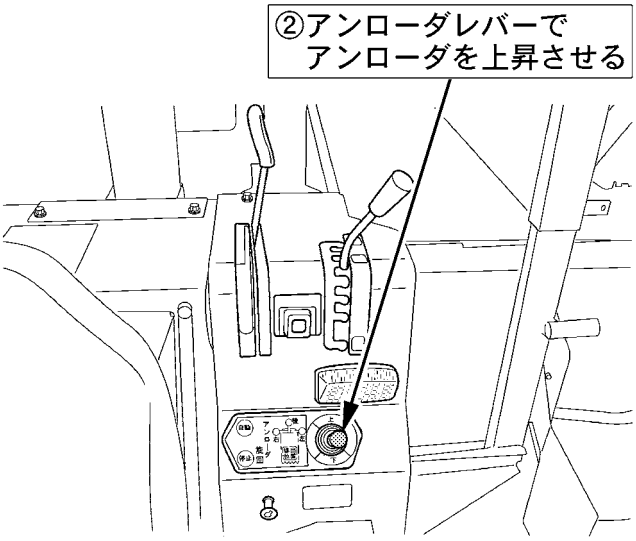


10. アンローダの準備

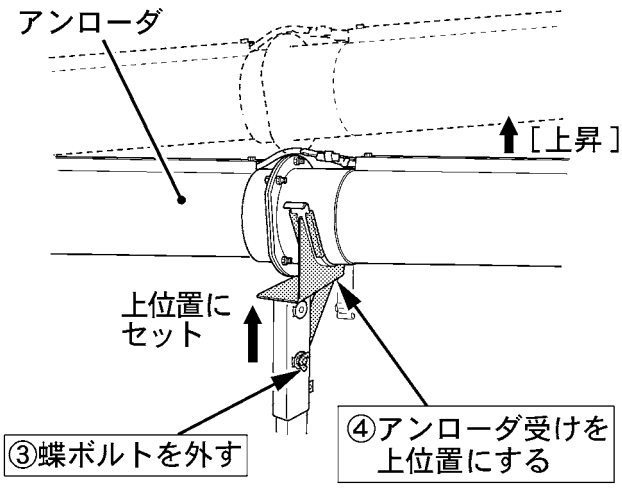
1. エンジンを始動して，アンローダを作業状態にします。



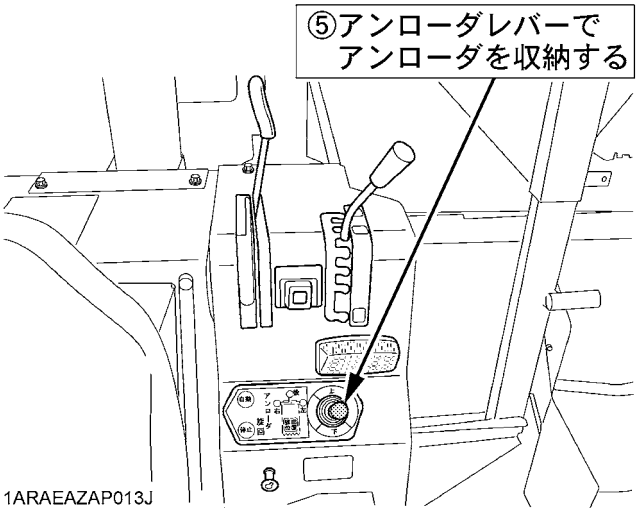
1ARAEARAP057B



1ARAEAZAP013I



1ARAEARAP024C



1ARAEAZAP013J

2. エンジンを停止します。

刈取作業のしかた

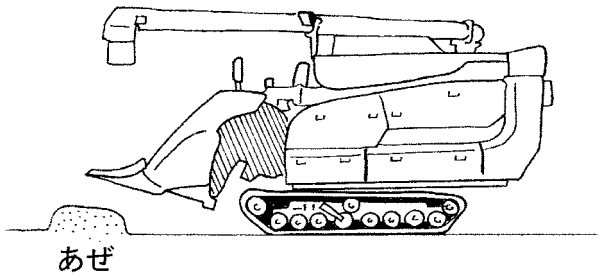
■ほ場の出入りのしかた

注　意

＊ グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ あゆみ板はじゅうぶんな強度，幅（70cm　以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準（41ページ参照）に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また，あゆみ板はあぜに直角に置いてください。
＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。
＊ あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。
斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御（モンロー）は機体をいっぱい下げた状態にしてください。
＊ 右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体が傾き転倒するおそれがあります。
＊ 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

1. 副変速レバーを**［倒伏］**位置にし，アクセルレバーを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速であぜ越えしてください。

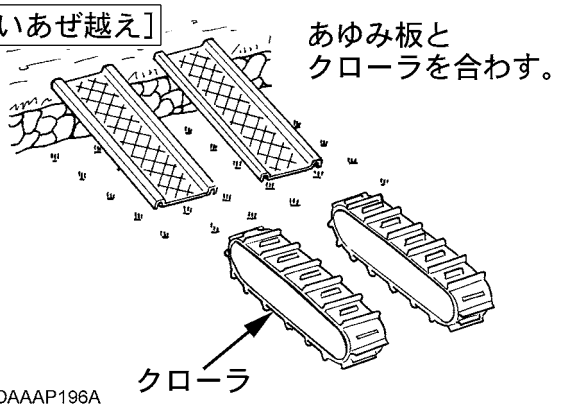
［低いあぜ越え］



1ARAEAZAP021A

2. 10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

［高いあぜ越え］



1ASADAAAP196A

■刈取作業の手順

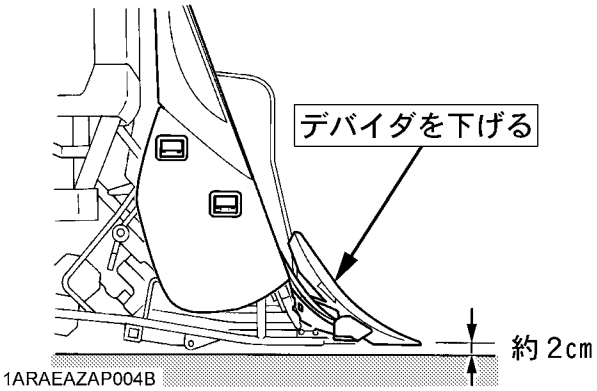
注　意

＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。
＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ 傾斜地で刈取作業中にかき込みペダルを踏込むと，機体がすべるおそれがあるため，傾斜地では刈取かき込みペダルは踏まないでください。
＊ 夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
＊ 共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なってください。

重　要

＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 副変速レバーを**【高速】**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

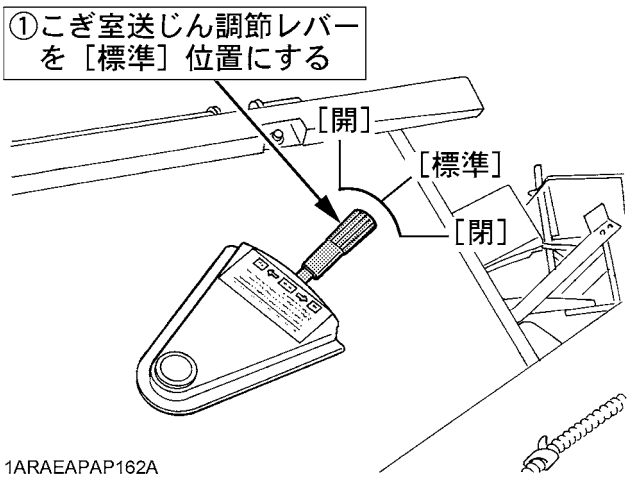
1. パワーステアリングレバーを操作し，通常はデバイダの先端を地面すれすれ（約２ cm 程度）のところまで刈取部を下げます。



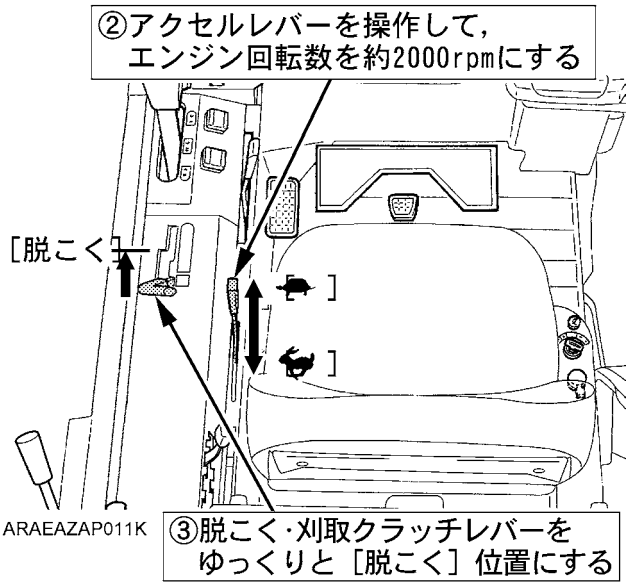
補　足

＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。



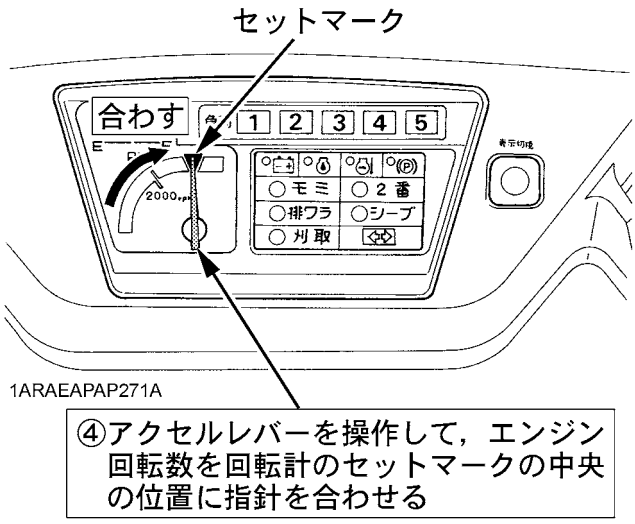
1ARAEAPAP162A



1ARAEAZAP011K

重　要

＊ エンジン回転数が 2200rpm 以上のとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

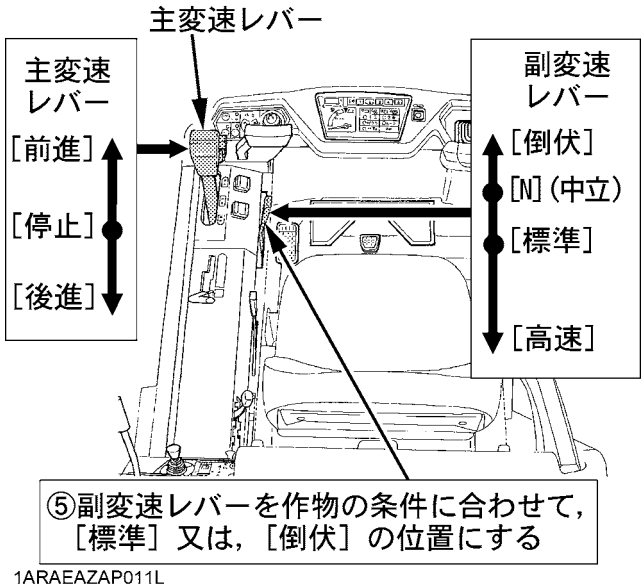


1ARAEAPAP271A

補　足

＊ エンジン回転数は脱こく・刈取クラッチレバーを**【脱こく】**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。

＊ エンジン回転数が低すぎると，ブザーがなります。



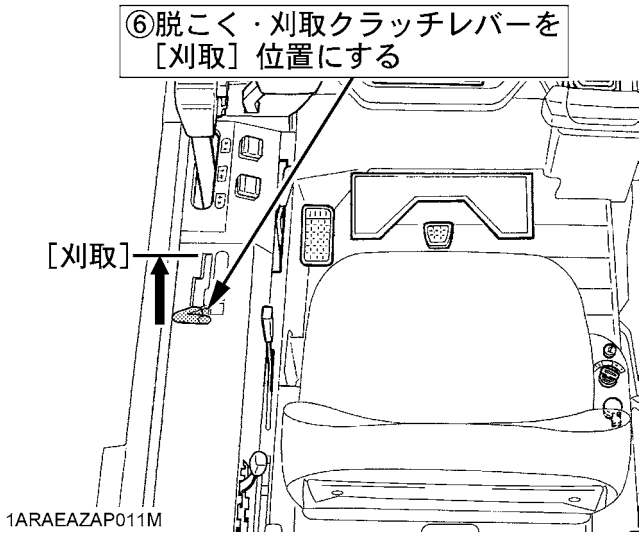
1ARAEAZAP011L

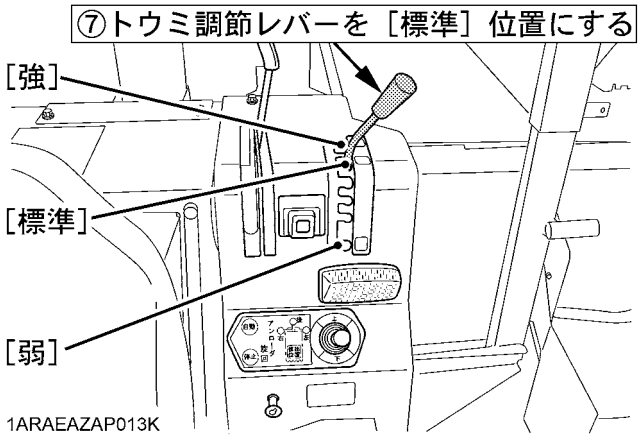
重　要

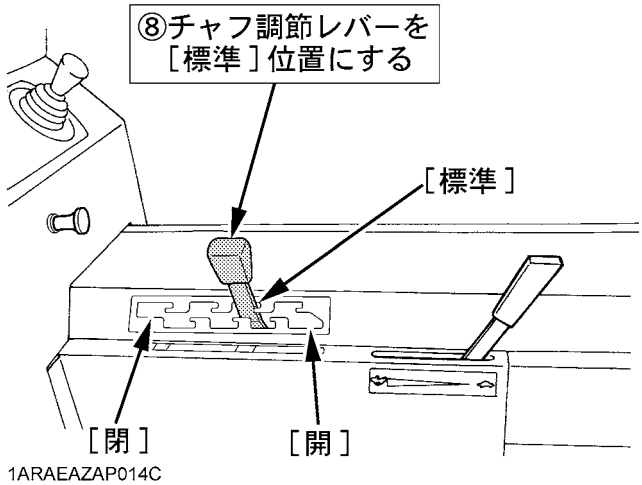
＊ 副変速レバーの切換えは，必ず平たんな場所で主変速レバーを**【停止】**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し**【前進】**側に動かして**【停止】**に戻してから切換えてください。





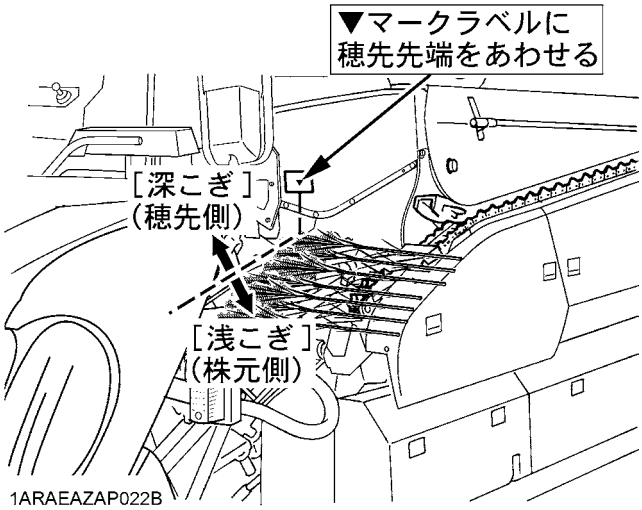


補　足

＊ トウミの調節は，脱こく機を必ず回転させてから行なってください。

＊ チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを**［入］**（ランプ点灯）にします。（22，23 ページ参照）
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。（56 ページ参照）
5. 作物の穂先先端を脱こく入口の**［▼マーク］**（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。（22，23 ページ参照）



補　足

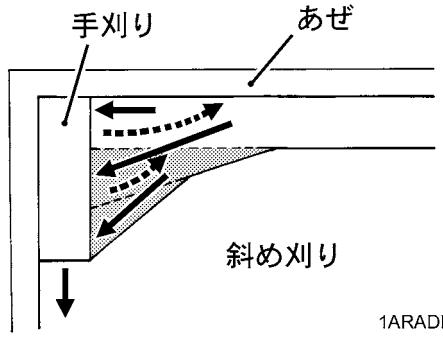
＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出て収穫量が下がったり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

6. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（63 ページ参照）を行なってください。
7. 刈取作業が終わると，脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく［入］**位置にし，脱こくが終わりもみが全て，グレンタンク内に入ったことを確認して，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。

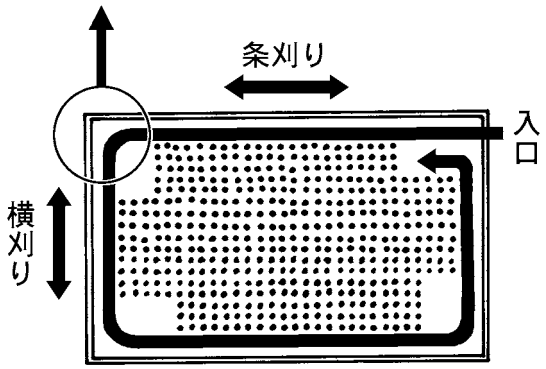
■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの 2 方向刈りを行なってください。

1. あぜは旋回できるまで２～４回斜め刈りします。

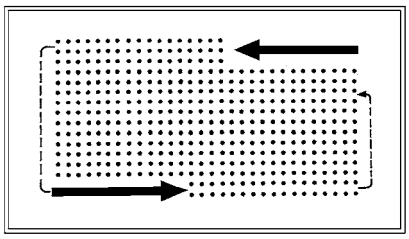


1ARADBEAP166A



1ARADBEAP133B

2. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら２方向刈りを行なってください。

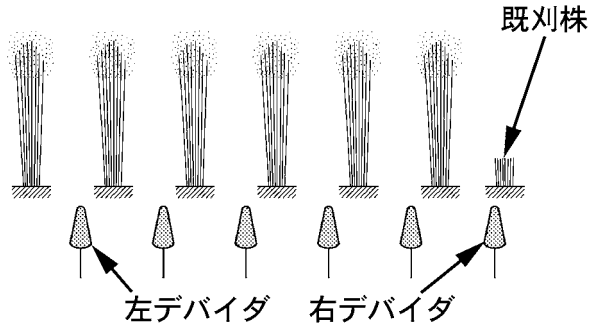


1ARADBEAP167A

◆ デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

● 通常の回り刈りのとき

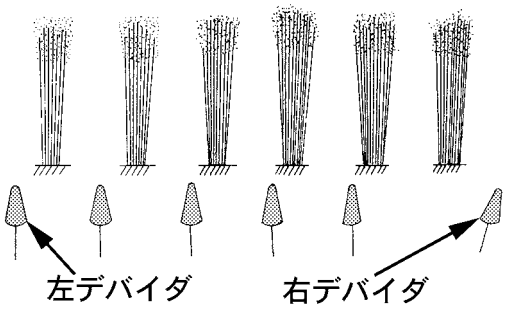
既刈株に右デバイダを合わせる。



1ARAEAUAP048D

● 中割り作業のとき

1. 右デバイダ基準で刈取ってください。
2. 植付け条間が広い場合は右デバイダを広げてください。



1ARAEAPAP099A

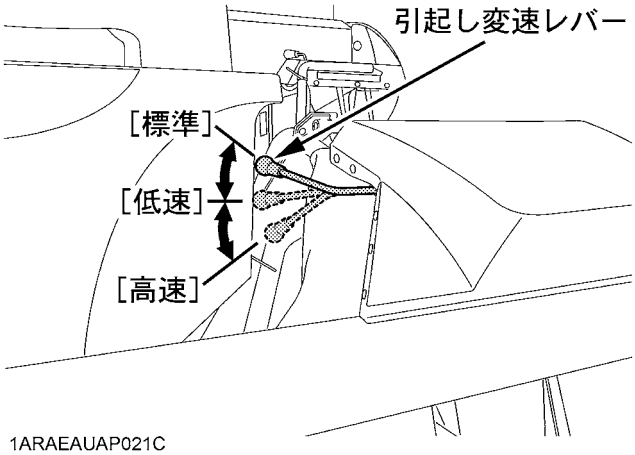
■作物に合わせた変速の選びかた

作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆ 副変速・引起し変速の選びかた

刈取部の引起し及び搬送の速度を作物の状態に合わせて，下表を参考にして，副変速レバーと引起し変速レバー（**［標準］**・**［低速］**・**［高速］**の３段階）の変速を行なってください。

作物状態		変速レバー位置	
倒伏度合	その他の条件	副変速レバー位置	引起し変速レバー位置
直立	一般的作物	**［標準］**	**［標準］**
	周囲刈りなど低速走行作業	**［標準］**（又は，**［倒伏］**）	
	脱粒しやすい作物（麦穂切れ大も含む）	**［標準］**（又は，**［倒伏］**）	**［低速］**
倒伏	45 度以下の倒伏作物		**［標準］**
	45 度以上の倒伏作物長かん作物	**［倒伏］**（又は，**［標準］**）	**［標準］**（又は，**［高速］**）



1ARAEAUAP021C

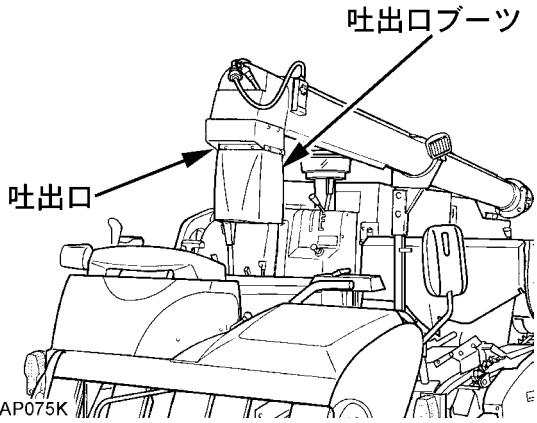
補　足

＊ 変速の選びかたの表は目安です。
＊ 出荷時は**［標準］**位置です。
＊ 刈取部の搬送速度は，車速に同調しています。

■もみの排出のしかた

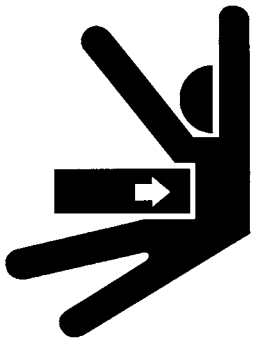
注　意

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。



1ARAEAZAP075K

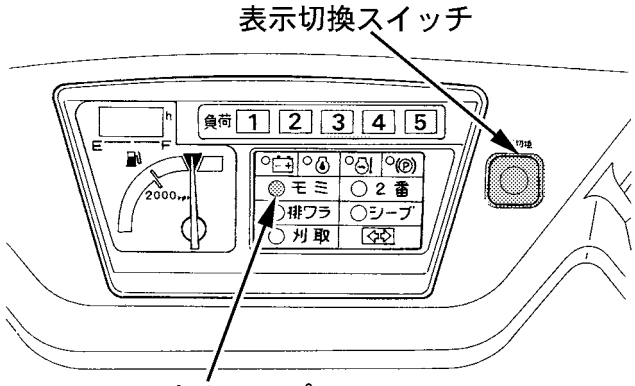
＊ 手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊ もみ排出スイッチを押して，もみがアンローダ排出口から排出されるとき，頭部や顔などをアンローダ先端部に近付けないでください。もみの重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。
＊ アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあります。



1ARADAFAP076A

＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。

1. グレンタンクが満杯になると，メータユニットのもみ表示ランプが点灯すると同時にブザーが鳴ります。



1ARAEAPAP271C

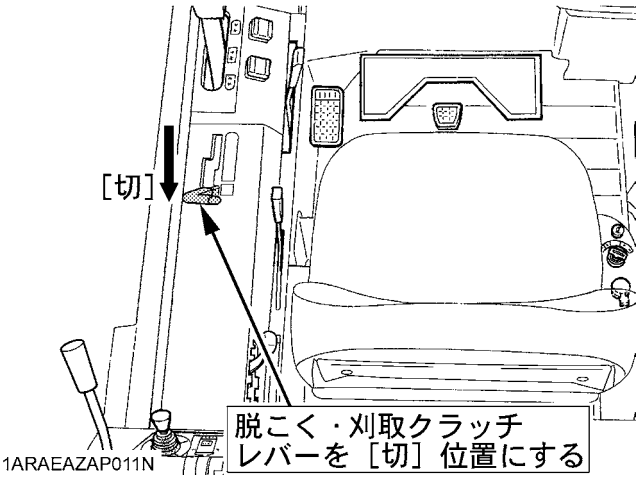
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

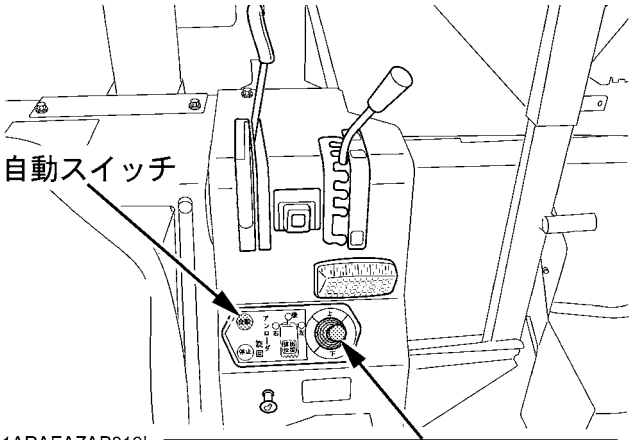
＊ 表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

2. 刈取作業をいったん中止し，30 秒以上待ったあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にして，所定の排出位置に移動します。



1ARAEAZAP011N

3. 主変速レバーを**［停止］**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。
4. アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。



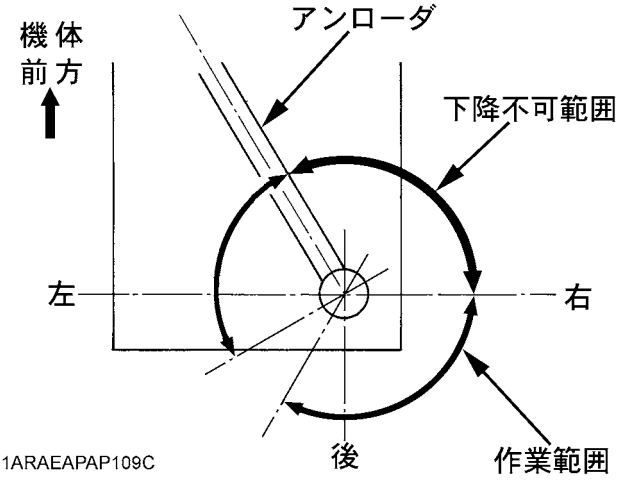
1ARAEAZAP013L

重　要

＊ 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）及び，アンローダホーム位置のズレによる収納不良の原因になります。
＊ 自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

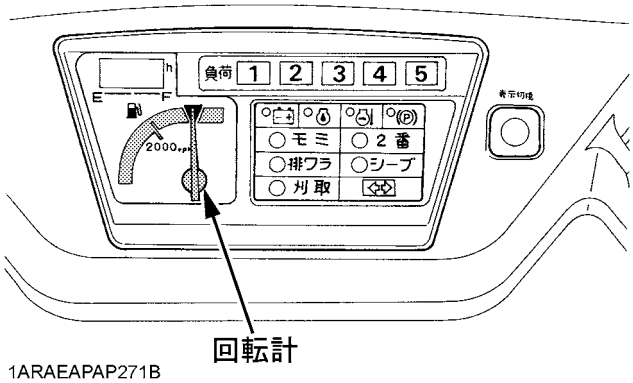
補　足

＊ 自動旋回制御装置作動中に，停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動旋回制御は停止します。停止状態から再度自動スイッチを押すと，アンローダの自動旋回制御が作動します。
＊ 自動旋回制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
＊ アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではレバーを操作しても下降しません。
＊ アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，レバーを操作しても**下降不可範囲**内には旋回しません。



1ARAEAPAP109C

5. 排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。

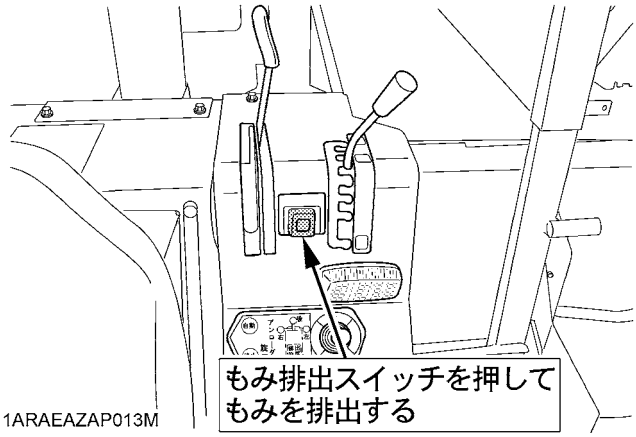


1ARAEAPAP271B

補　足

＊ 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm程度まで下げてください。

6. もみ排出スイッチを押すとランプが点滅し（スイッチ**【入】**），もみを排出します。

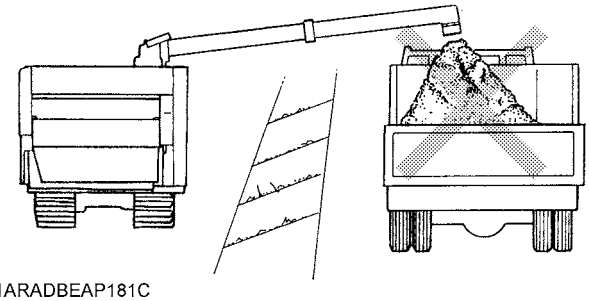


1ARAEAZAP013M

重　要

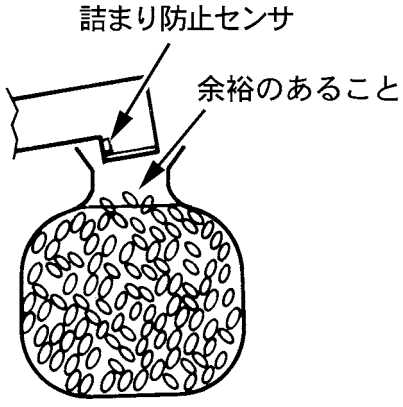
＊ 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

［アンローダ出口注意］　［吐出口をふさがない］



1ARADBEAP181C

＊ アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止センサに一定時間もみが接触するとセンサがはたらいてもみの排出が停止しますが，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出スイッチを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



1ASADACAP311A

7. 排出が終わると，もみ排出スイッチを**【切】**位置にし，排出を停止させたあと，アンローダ自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

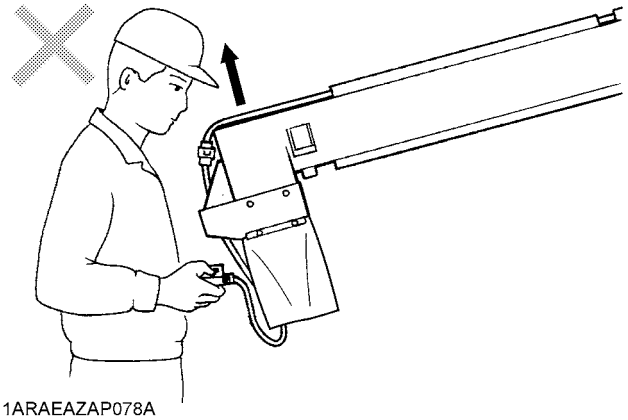
補　足

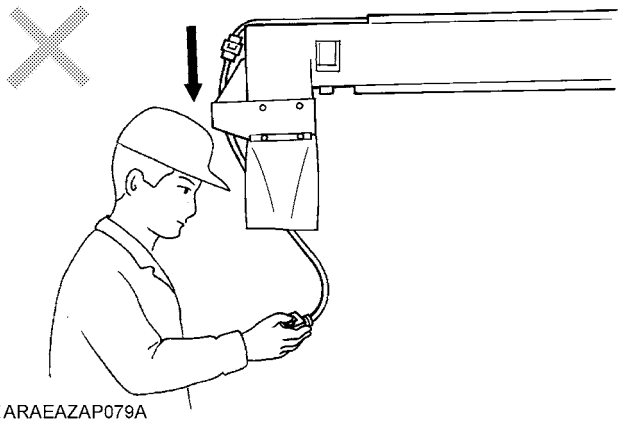
＊ アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

◆ アンローダリモコンについて

警　告

＊ 共同作業を行なうときは，合図を徹底させて行なってください。
＊ アンローダの先端部の位置を常に確認しながら作業を行なってください。リモコンスイッチの誤作動により，不意に動いてケガをするおそれがあります。


1ARAEAZAP078A

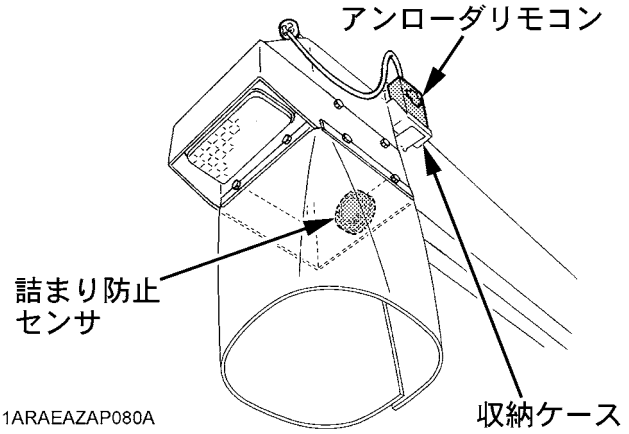

1ARAEAZAP079A

＊ アンローダリモコンの操作中に，運転席左側の操作パネルの各スイッチやレバーは絶対に操作しないでください。

重　要

＊ アンローダが水平位置より低いところで操作するときは，アンローダ受けに接触させないでください。

1. アンローダの自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置に移動します。
2. 操作収納ケースからアンローダリモコンを取外したあと，アンローダ操作ボタンを操作します。(27 ページ参照)



1ARAEAZAP080A

補　足

＊ 詰まり防止センサは，排出時のもみの損傷を防止するためのセンサです。袋詰めするときは，余裕を持ってもみ排出スイッチを切るようにしてください。
＊ もみ袋に排出するときは，もみ袋が倒れないように，共同作業者やもみ袋受け台などを準備してください。
＊ アンローダをゆっくり動かすときは，スイッチを小刻みに押し，大きく動かすときは，スイッチを押し続けてください。
＊ アンローダレバーとアンローダリモコンを同時に操作したときは，アンローダリモコンによる操作が優先されます。

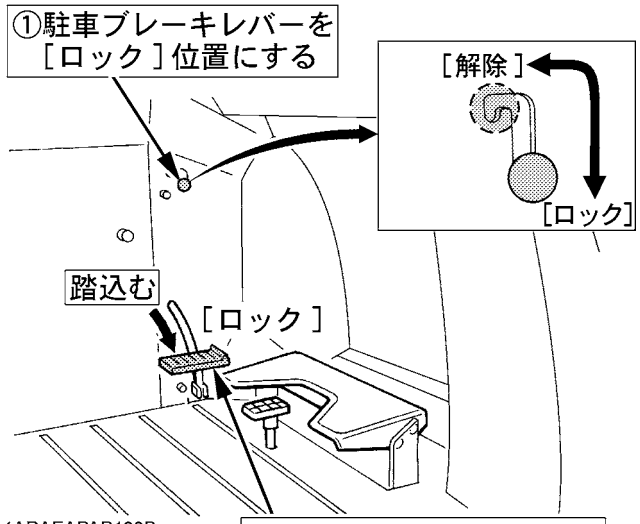
3. もみ排出スイッチを**【入】**位置にするとランプが点滅し，もみを排出します。
4. もみの排出が終わると，もみ排出スイッチを**【切】**位置にしてもみの排出を止めます。このとき，ランプが消灯します。
5. 作業が終わるとリモコンを収納ケースに収納します。

■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた

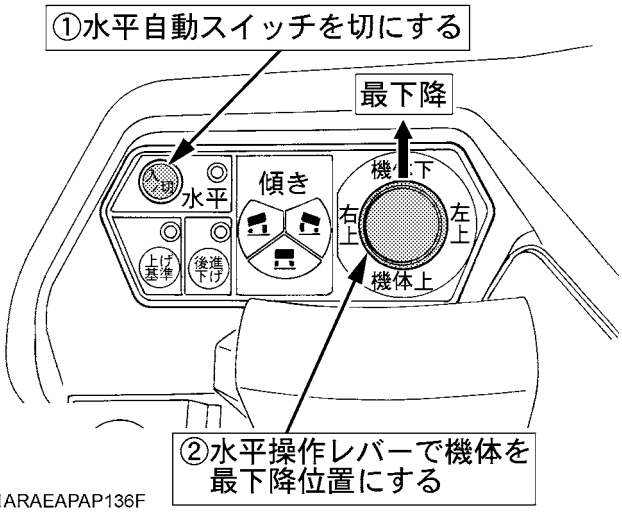
警　告

- **そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。**
- **コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。**
- **刈取部は地面に接地させて，停止してください。**
- **手刈り（枕刈り）脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして，作物を少量ずつ供給してください。**

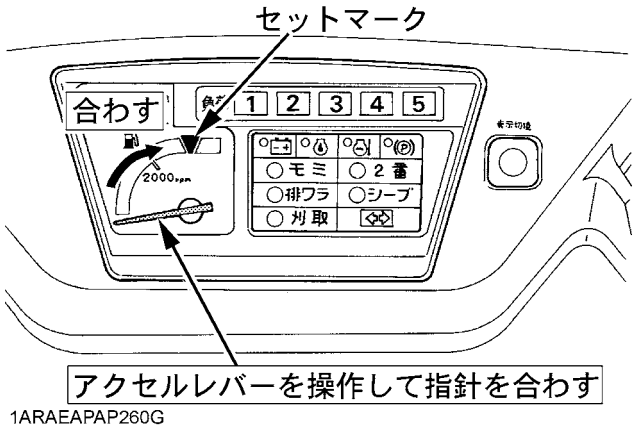
1. 駐車ブレーキを掛けます。



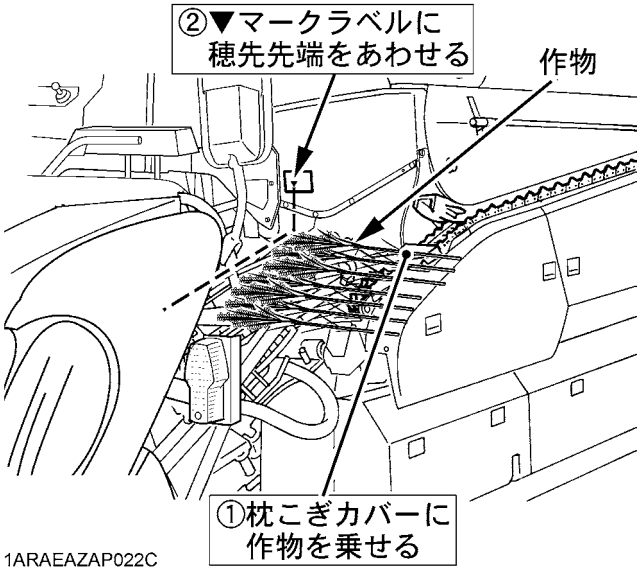
2. 機体を下げて，各部の準備をします。



3. 脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく［入］**位置にし，脱こく部だけを動かします。
4. アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を**セットマーク**の中央の位置に合わせます。

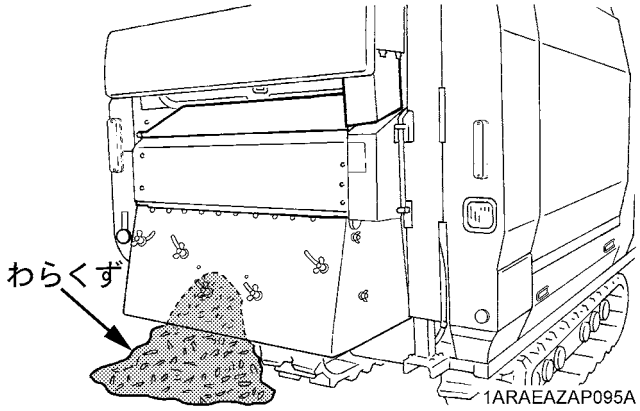


5. 作物を少量ずつフィードチェーンに供給します。

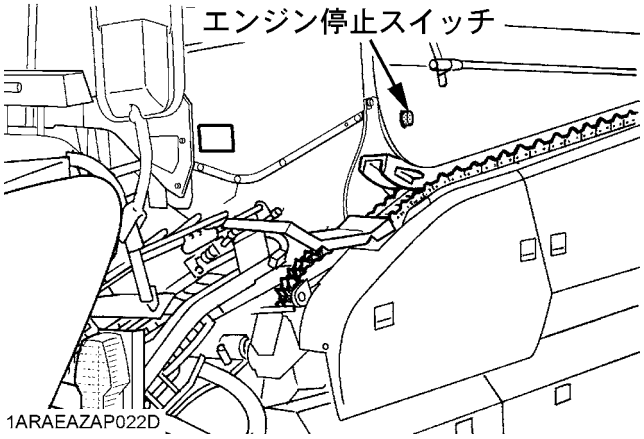


重　要

＊ １箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を定期的に移動させてください。
＊ 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。



＊ 手刈り脱こく時に万一異物などのかき込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。



■作業に合わせた各部の調整･調節のしかた

警　告

＊ 作業中の調整以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから，調整・調節を行なってください。
＊ 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

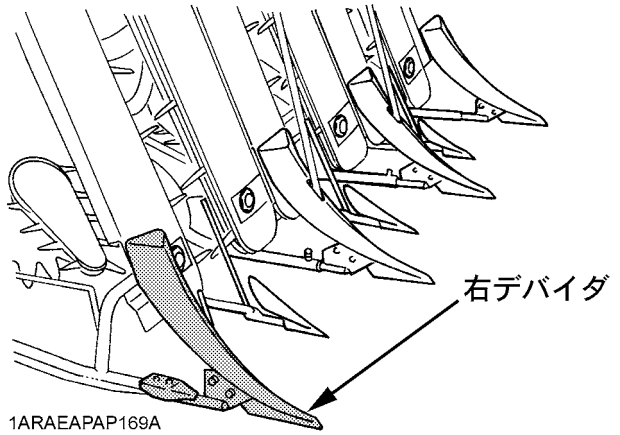
注　意

＊ 平たんで安定した場所で行なってください。
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

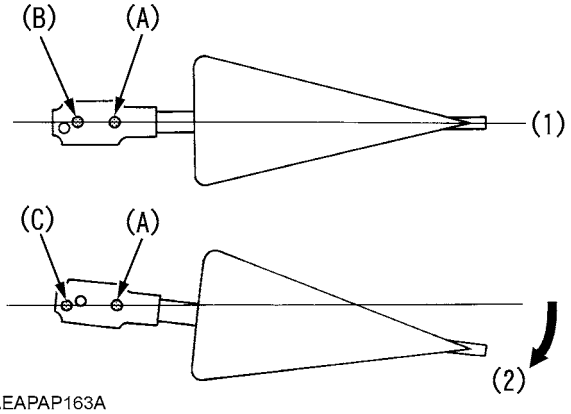
◆刈取部

■右デバイダの調節

作業条件に応じて，調節を行なってください。右デバイダは，外側に約 5.5cm 広げることができます。調節のしかたは，ボルト（A）と（B）又は（C）の２箇所をゆるめたあと，ボルト（B）又は，(C) の取付け位置を変更して下表を参照し調節を行なったあと，ボルト２箇所を締付けてください。



1ARAEAPAP169A



1ARAEAPAP163A

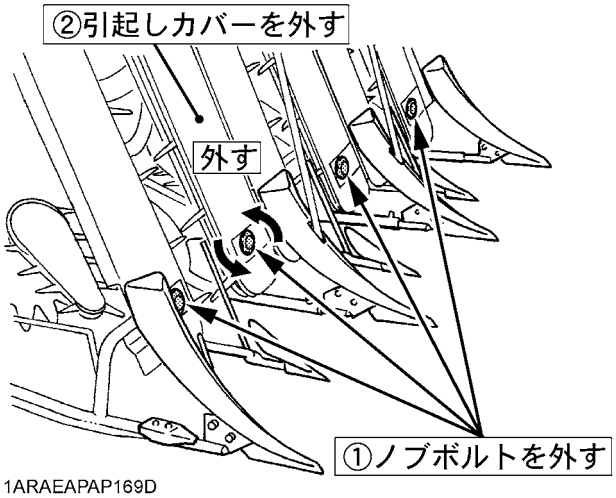
補　足

＊ デバイダカバーを取付けるときは，(1)（標準）の位置にしてください。

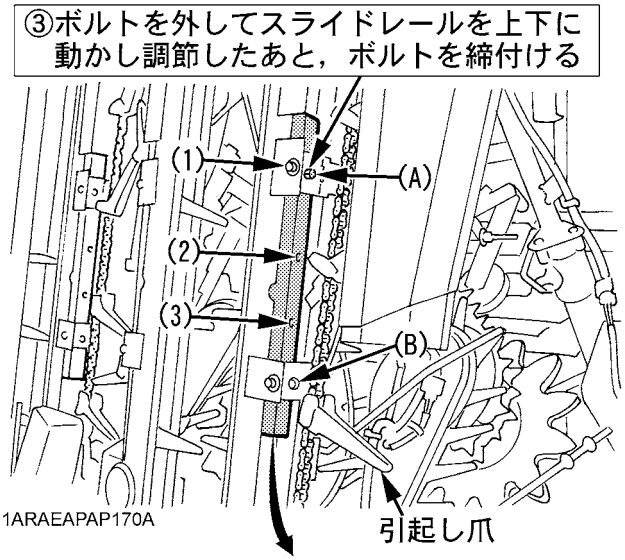
■引起し爪高さの調節

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1. 引起しサイドカバー左，右を取外したあと，引起しカバーのノブボルトを外して，引起しカバーを全て外します。



1ARAEAPAP169D



1ARAEAPAP170A

		スライドレール調節位置	ボルト取付位置
作物条件	標準の作物	（1）	(A)
	極長かん（130cm 以上）	（2）	(A)
	脱粒しやすい品種 わらちぎれの多い作物（過熟小麦など）	（3）	(B)
	長かんで倒伏している作物	（2）	(A)

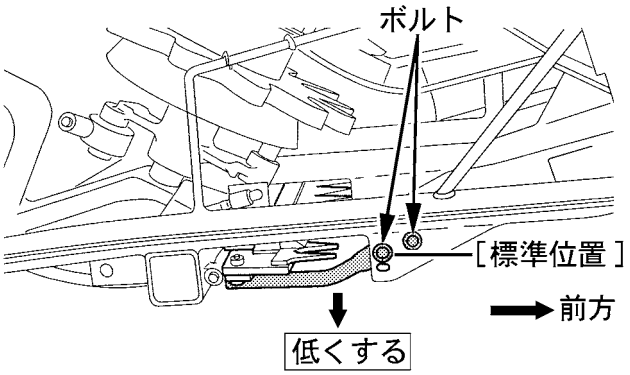
2. 引起しカバーを全て装着したあと，ノブボルトを締付けます。
3. 引起しサイドカバー左，右を取付けます。

■刈刃の高さ調節

注　意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊ 脱着作業は手袋をして，2 人で刈刃の両端を持って行なってください。

作物の刈高さを低くするときに８本の（左，右と中央２箇所）ボルトを外して，行なってください。



1ARAEAPAP313A

重　要

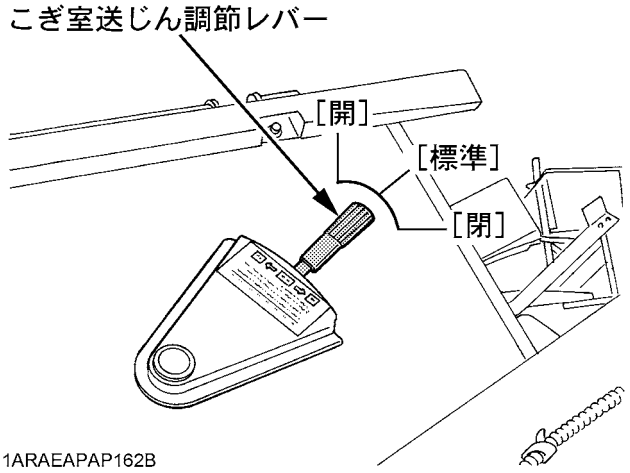
＊ 下記条件のときは，作業のしかたにより刈刃に泥・土がかかり破損の原因となりますので**標準位置**（出荷時）で作業を行なってください。
- ほ場が湿田のとき
- 作物が麦などのうねのあるほ場のときや，雑草が多いとき

◆脱こく部

■こぎ室送じん調節レバーの調節

1. 下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節します。

調節方向	現　象（状　態），条　件
［開］ ⬆ **［標準］** ⬇ **［閉］**	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
	● 選別が悪い 　● 芒・枝梗粒が多い 　● 穂切れ粒が多い 　● ササリ粒が多い ● 排じんロス（もみの飛散）が多い



1ARAEAPAP162B

■排じん調節板の調節

下表を参照して排じん調節板を調節してください。

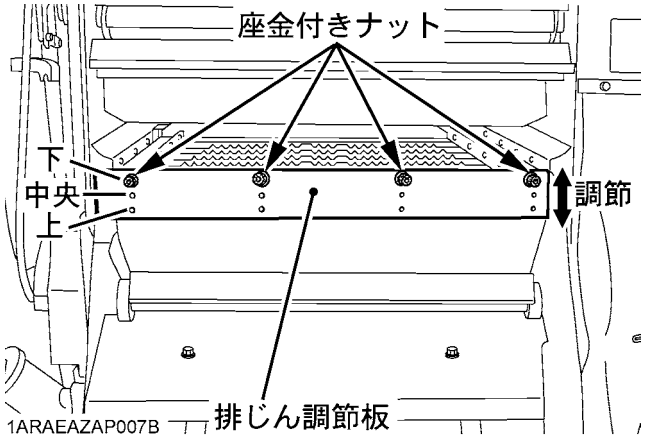
1. カッタをオープンします。(74 ページ参照)
2. 座金付きナット４個を取外して排じん調節板を外します。

補　足

＊ 出荷時の排じん調節板の位置は**下位置**です。

3. 現象（状態）に合わせて排じん調節板の取付け位置を変更します。

調節方向	現　象（状　態）
上 ⬆ **中央** ⬇ **下**	● 排じんロスが多い
	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）

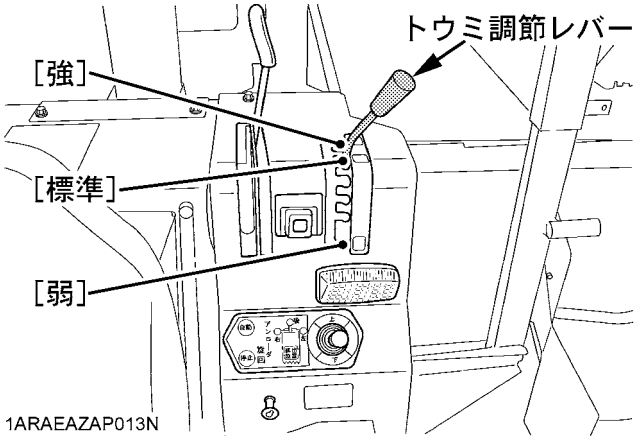


4. 座金付きナットを締付けて，カッタを閉じます。

■トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）の開度の調節

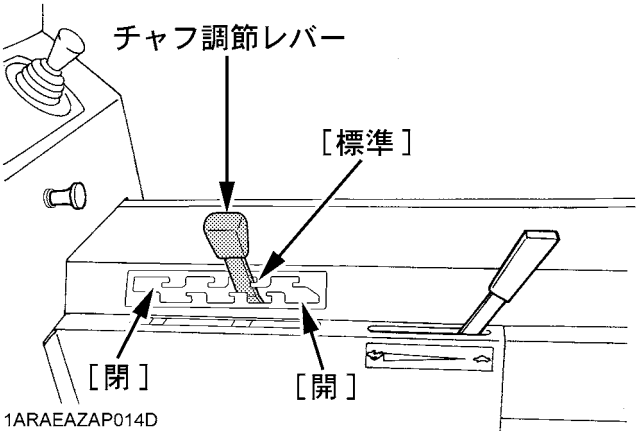
作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照してトウミ調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
[強] ⬆ **[標準]** ⬇ **[弱]**	● 選別が悪い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い



[チャフ（選別板のすき間）調節]
作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照してチャフ調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
[開] ⬆ **[標準]** ⬇ **[閉]**	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い
	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い



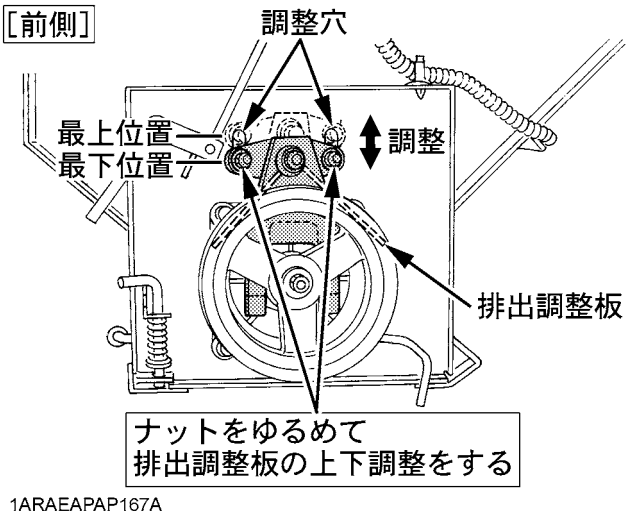
1ARAEAZAP014D

補　足
＊ トウミの調節は，脱こく機を必ず回転させて行なってください。
＊ チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

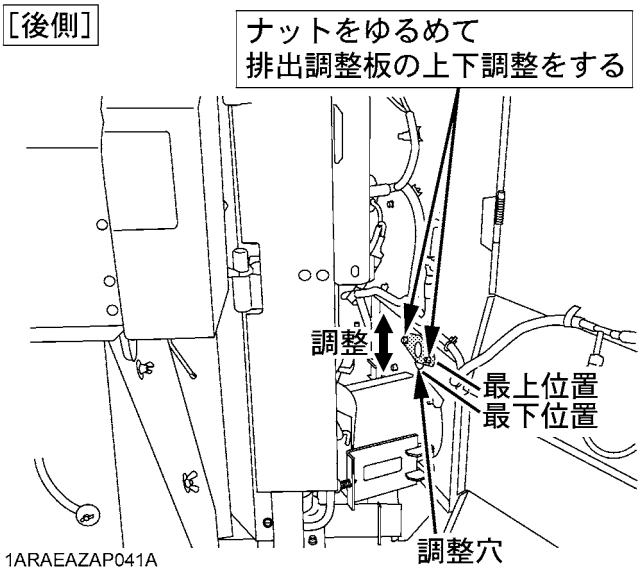
◆グレンタンク部

■排出調整板の調整
排出調整板を**最上位置**で，水分の多い小麦の刈取りを行なうと，スクリュに詰まりが発生するおそれがあります。その場合は，排出調整板の位置を**最下位置**にしてください。また，小麦以外の作物の刈取りを行なうときは，**最上位置**にしてください。

1. グレンタンクをオープンします。（86 ページ参照）
2. グレンタンクの前後の両側面にある排出調整板の上下調整を行ないます。
   (1) ナットをゆるめます。
   (2) 排出調整板を最上又は，最下位置にします。
   (3) ナットを締付けます。



1ARAEAPAP167A



1ARAEAZAP041A

3. グレンタンクを閉じます。

■メータユニットによる異常と処置

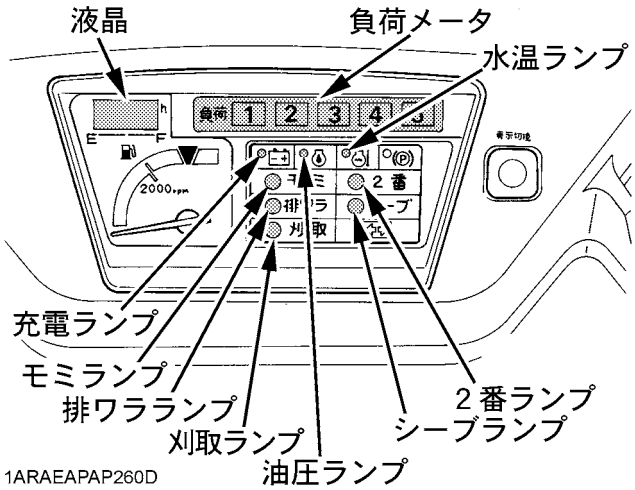
警　告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。

メータユニットに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。



警報の種類	警報		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
	液晶表示	ランプ／メータ表示				
燃料警報	残り１目盛が点滅	—	○ 断続 （約５秒後停止）	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると… **［エンジンが停止します。］**	・燃料を補給します。	114
油圧警報	—	油圧ランプ点灯	○ 断続 （処置後停止）	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると… **［エンジンが焼付きを起こし停止します。］**	・エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	115 128 128 －

警報の種類	警報		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
	液晶表示	ランプ/メータ表示				
水温警報	水温ランプが点灯すると同時に，液晶目盛が全て点滅	水温ランプ 点滅	○ 断続（処置後停止）	・エンジンの冷却水温が上昇しています。	・エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。 (1) 冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め (2) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (3) 防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く	124 124, 128 143 143 129
				・そのまま作業を続けると…**[エンジンが焼付きを起こし停止します。]**	・購入先へ連絡してください。	—
充電警報	—	充電ランプ 点灯	○ 断続（約５秒後停止）	・バッテリに充電されていません。	・エンジンを停止後，点検と処置をします。 (1) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (2) バッテリ 電圧低下…充電	143 143 175
				・そのまま作業を続けると…**[バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。]**	・バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	175
負荷警報	—	負荷メータ全ランプが点滅	○ 断続（処置後停止）	・エンジンや脱こく部に負担がかかっています。	・作業速度を落としてください。 ・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	9，52 56，63，64
				・そのまま作業を続けると…**[エンジンが停止します。]**		—
もみ満杯警報	—	モミランプ 点滅	○ 断続（処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止）	・グレンタンク内のもみが満杯です。 ・そのまま作業を続けると…**[グレンタンクからもみがあふれます。又は，１番スクリュが詰まります。]**	・刈取作業を中止し，もみを排出します。	56 —
２番警報	—	２番ランプ 点滅	○ 断続（処置後停止）	・１番縦スクリュケース内又は，２番処理胴（ツースバー），２番縦スクリュケース内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると…**[ベルトの焼付きやベルト切れとなります。]**	・１番縦スクリュケース又は，２番処理胴（ツースバー），２番縦スクリュケースを掃除します。	89 —

警報の種　類	警　報		警報ブザー（吹鳴時間）	現　象	処　置	参照ページ
	液晶表示	ランプ／メータ表示				
シーブ警　報	—	シーブランプ 点　滅	○ 断続（処置後停止）	・シーブケース上に詰まりが発生しています。 ・刈取量が処理能力をこえています。 ・そのまま作業を続けると… **［ロスや損傷米が増えたり，２番詰まりが発生します。］**	・刈取作業を中止し，脱こく部を空運転します。 ⬇ ・チャフ調節レバーを開方向に調節します。（チャフのすき間を開く） ⬇ ・チャフの調節が全開位置でもシーブ警報が出たときは，作業速度を落とします。	13，52 15，64 10，52 —
詰まり各警報	自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。 ⬇			・わら詰まりをしています。	・異常の原因（詰まり）を取除いて復帰します。	—
刈取詰まり警報	—	刈取ランプ 点　滅	○ 断続（処置後又は，メインスイッチ**［切］**で停止）	・刈取部の供給搬送部にわらが詰まっています。	・供給搬送部のわらを取除きます。	188
排ワラ詰まり警報	—	排ワラランプ 点　滅		・フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	・こぎ胴をオープンして，フィードチェーン終端部のわらを取除きます。	70，188
				・カッタ部にわらが詰まっています。	・カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除きます。	188

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警　告

＊ 平たんで安全な場所で，機械の移動や各部を動かすとき以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

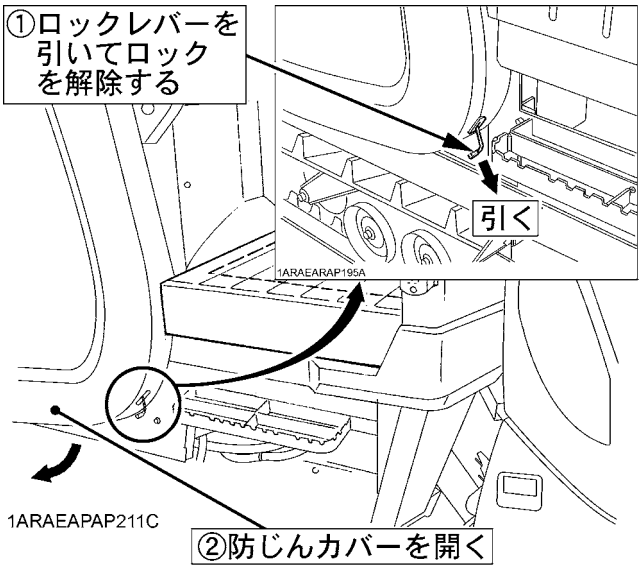
注　意

＊ エンジンルームを閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

■防じんカバーオープン

◆開きかた

ロックレバーを引きながら，防じんカバーを開いてください。



重　要

＊ 防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

補　足

＊ グレンタンクをオープンしたあと，防じんカバーを開いた状態で持上げると取外すことができます。

◆ 閉じかた

防じんカバーを完全にロックするまで閉じてください。

■運転席下カバー及び運転席下側板の脱着

注　意

＊ オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜く。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えていないとき，運転席下カバーを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

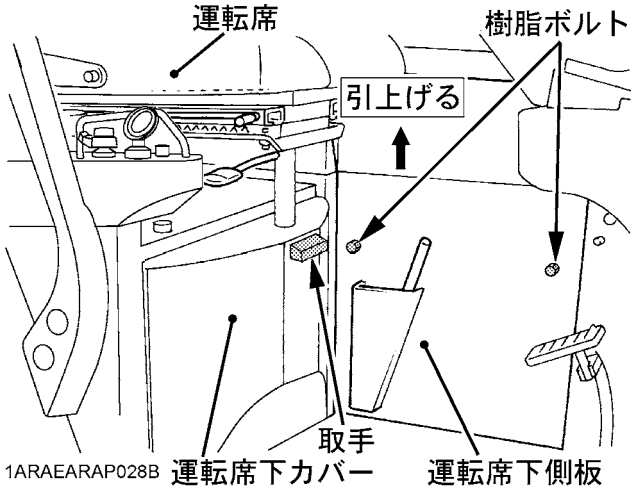
◆ 取外しかた

● 運転席下カバー

取手を引いて外します。

● 運転席下側板

樹脂ボルト２本を取外し，側板を引上げて外します。



◆ 取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

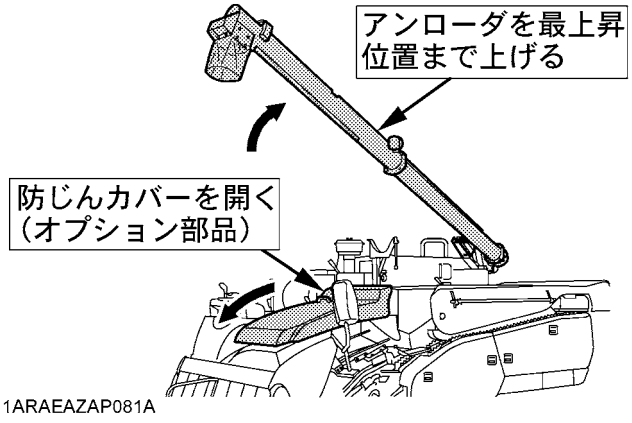
■こぎ胴オープン

警 告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴をオープンするときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

◆開きかた

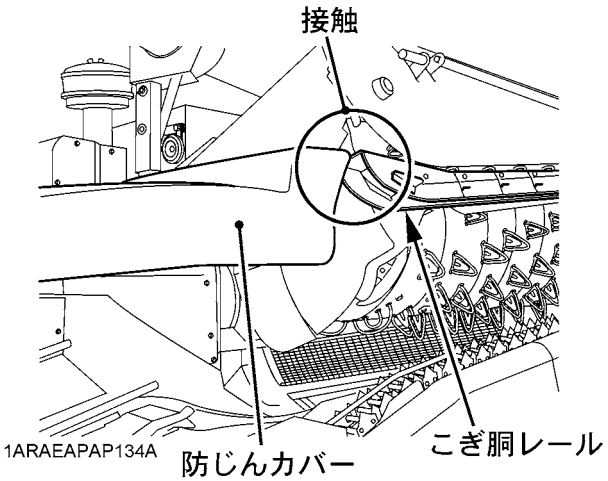
1. エンジンを始動し，オプション部品の防じんカバーを装置しているときは防じんカバーを開き，アンローダを最上昇させたあと，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜きます。



[防じんカバー付き仕様（オプション）]

重 要

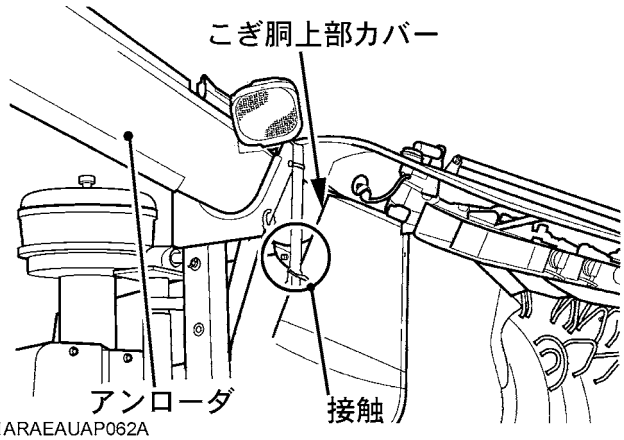
＊ オプション部品の防じんカバーが閉じているときにこぎ胴オープンすると，こぎ胴レールが防じんカバーに接触し，破損するおそれがあります。



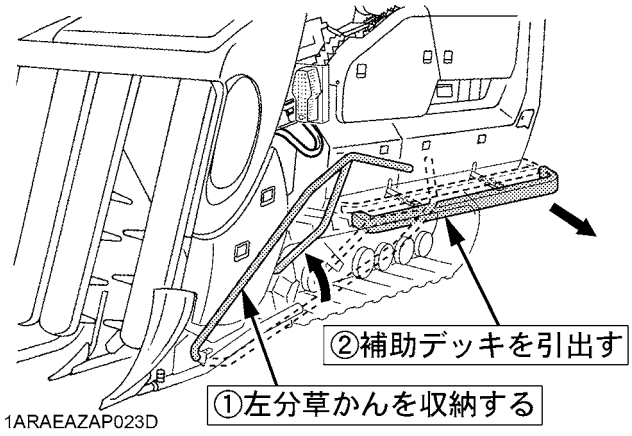
[防じんカバー付き仕様（オプション）]

重 要

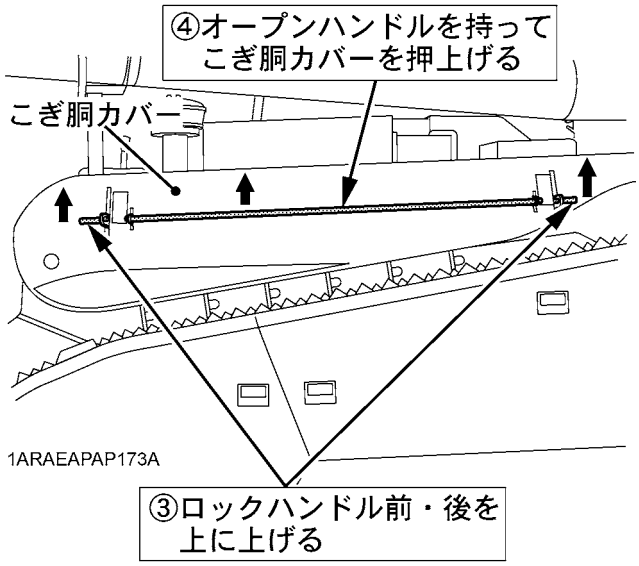
＊ アンローダが収納位置のときにこぎ胴オープンすると，こぎ胴上部カバーがアンローダに接触し，変形するおそれがあります。



2. こぎ胴をオープンします。



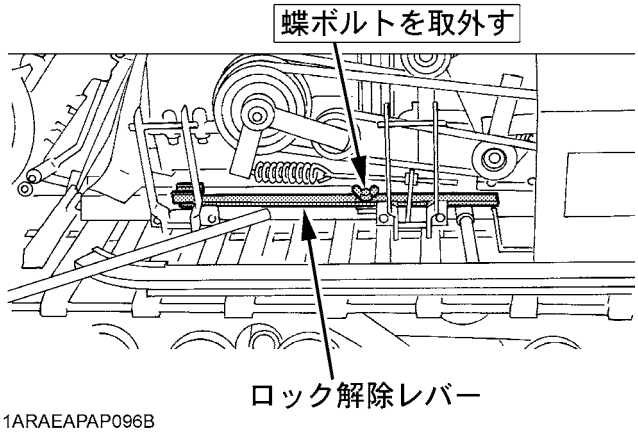
1ARAEAZAP023D



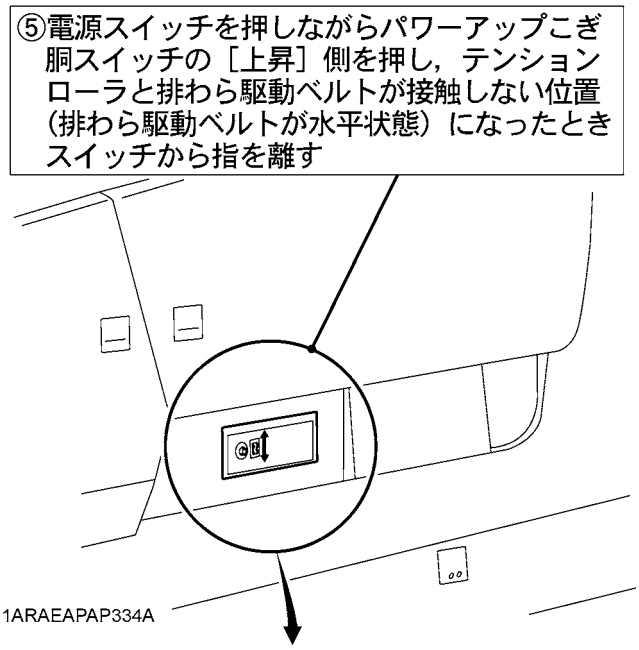
1ARAEAPAP173A

補　足

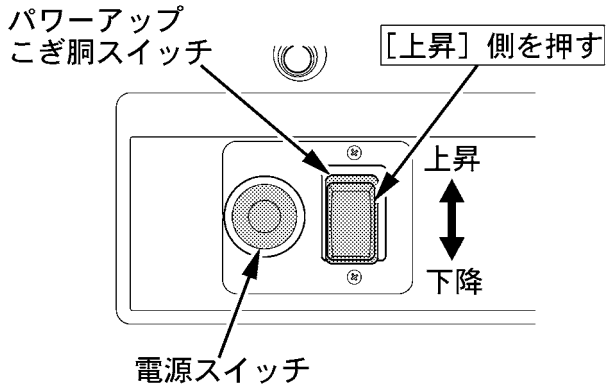
＊ 作物がこぎ胴で詰まり，ロックハンドル前・後を解除するのが困難な（固い）場合は，機体に装備しているロック解除レバーを使用して解除してください。



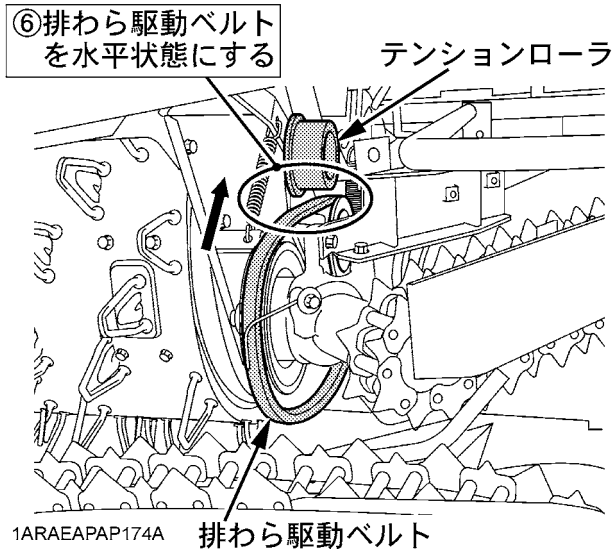
1ARAEAPAP096B



1ARAEAPAP334A



1ARAEAPAP188A

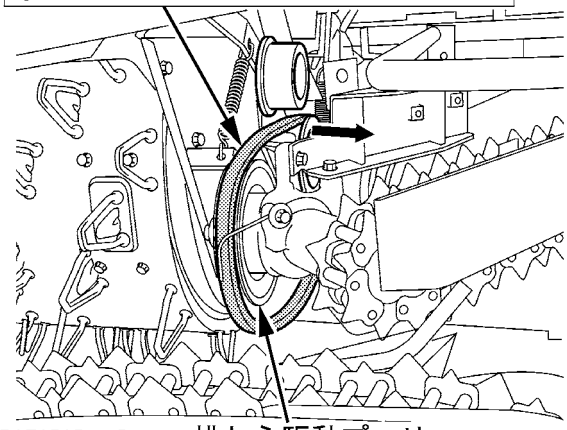


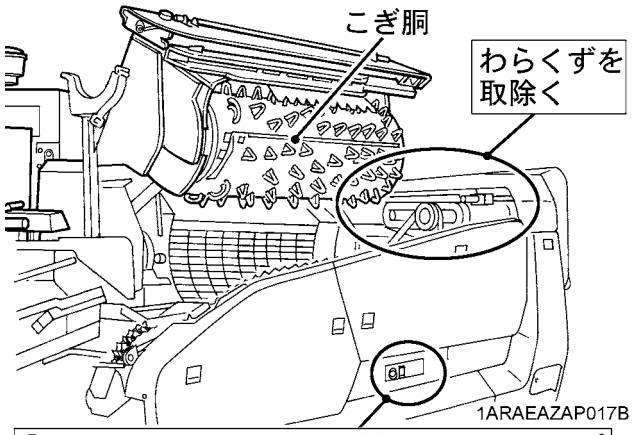
1ARAEAPAP174A

補　足

＊ メインスイッチのキーが【入】位置でも電源スイッチを押さないと，パワーアップこぎ胴スイッチを押してもこぎ胴は動きません。
＊ 電源スイッチを押しているときにパワーアップこぎ胴スイッチから指を離すと，こぎ胴の動きが停止します。また，逆にパワーアップこぎ胴スイッチを押しているときに電源スイッチから指を離すと，こぎ胴の動きが停止します。

⑦排わら駆動ベルトをプーリから外す





⑧電源スイッチを押しながら，パワーアップこぎ胴スイッチの［上昇］側を押して，こぎ胴を上げる

重　要

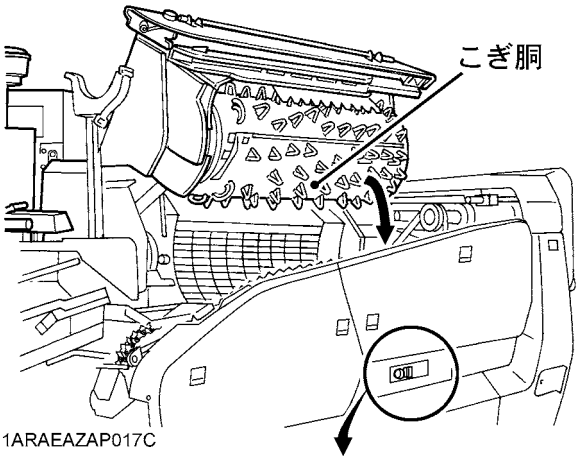
＊ こぎ胴カバーが最上昇後もスイッチを押し続けるとシューと音が鳴ります。そのあともスイッチを押し続けると電動モータの故障の原因となります。

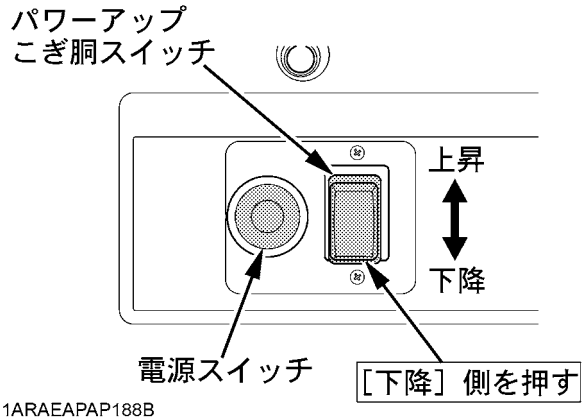
補　足

＊ こぎ胴をオープンしたあと，こぎ胴オープン用駆動モータ前側及びローラ付近のわらくずを取除いてください。

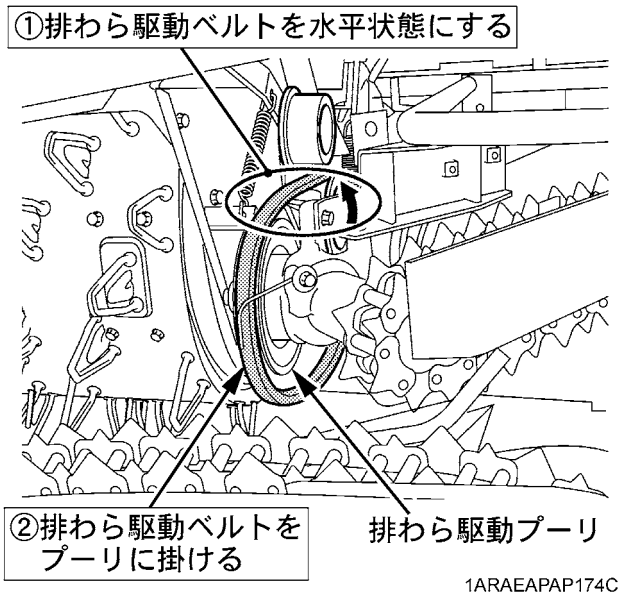
◆閉じかた

1. 電源スイッチを押しながらパワーアップこぎ胴スイッチを押して，こぎ胴をいったん下げます。





2. 開きかたの手順の排わら駆動ベルトを外したときと同じように，排わら駆動ベルトが水平状態の位置になるまで再度パワーアップこぎ胴スイッチを操作して，こぎ胴を少し上げます。
3. 排わら駆動ベルトをプーリに掛けます。



1ARAEAPAP174C

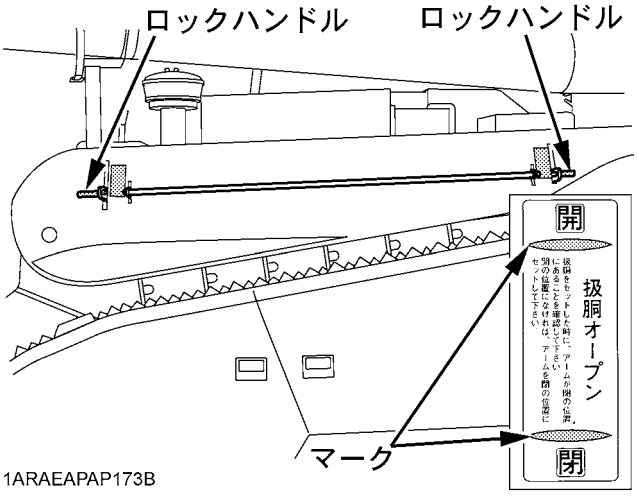
重　要

＊ ベルトを掛け忘れると故障の原因となります。

4. 再度電源スイッチを押しながらパワーアップこぎ胴スイッチを押してこぎ胴を下げます。このとき，スイッチを押し続けるとこぎ胴の下降が停止しますが，そのあともしばらくスイッチを押し続け，モータの作動音が**シュー**と高い音が低い音に変わったときにスイッチから指を離してください。

重　要

＊ モータの作動音が高い音の状態ではこぎ胴を手で閉じることができません。また，無理に閉じると故障の原因となります。
＊ こぎ胴の上昇，下降を連続して繰り返さないでください。モータが加熱し，故障の原因となります。
＊ こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドル前，後の**[⬭]**マークが，ハンドル横の**[開]⟷[閉]**ラベルの**[閉]**の**[⬭]**マーク位置にあることを確認してください。**[閉]**の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。



1ARAEAPAP173B

5. オープンハンドルを持って，こぎ胴を押下げます。
6. 補助デッキを収納したあと，**防じんカバー付き仕様**は防じんカバーを閉じ，アンローダを収納します。

■カッタオープン

警　告

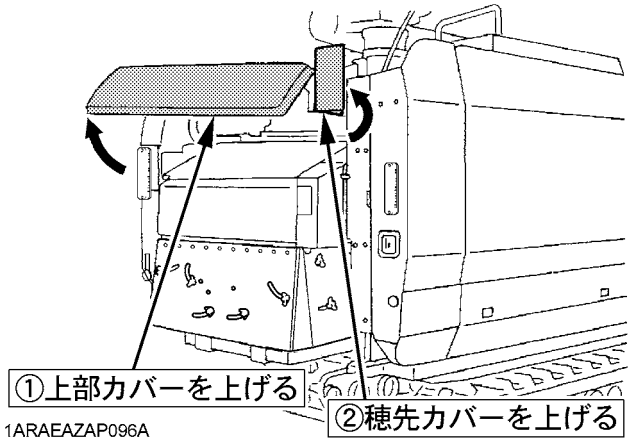
＊ カッタ部を開いているときは，カッタの刃先に注意してください。
＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ カッタ部を開いた状態で走行をしないでください。
＊ カッタ部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

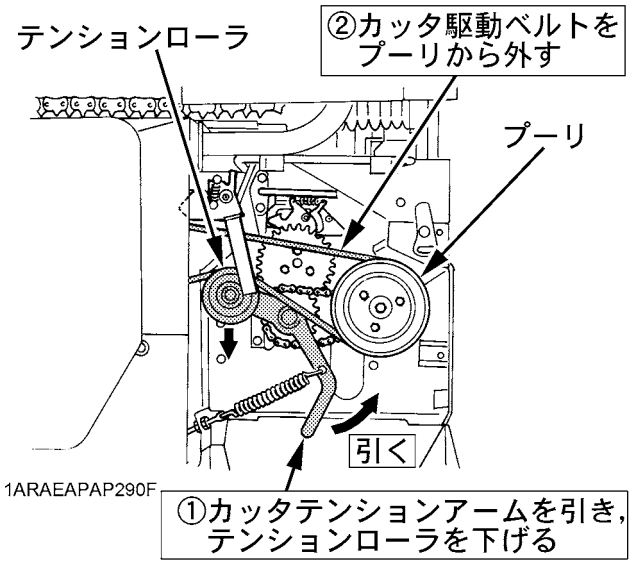
＊ 傾斜地では，カッタ部の開閉をしないでください。
＊ カッタ部を開いたときは，オープンストッパを必ず掛けてください。

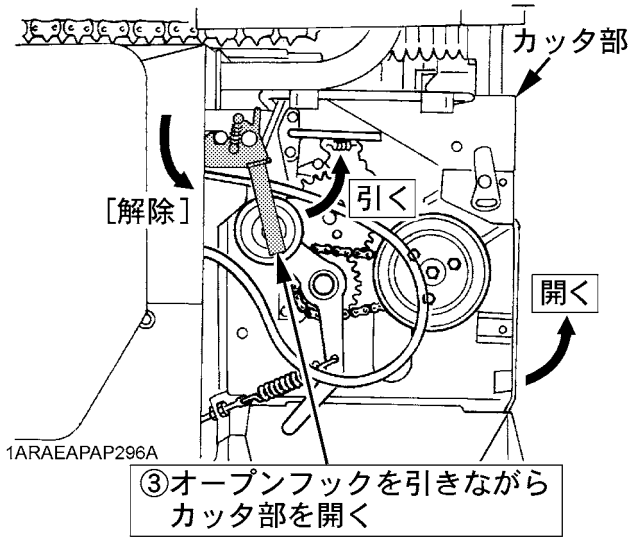
◆開きかた

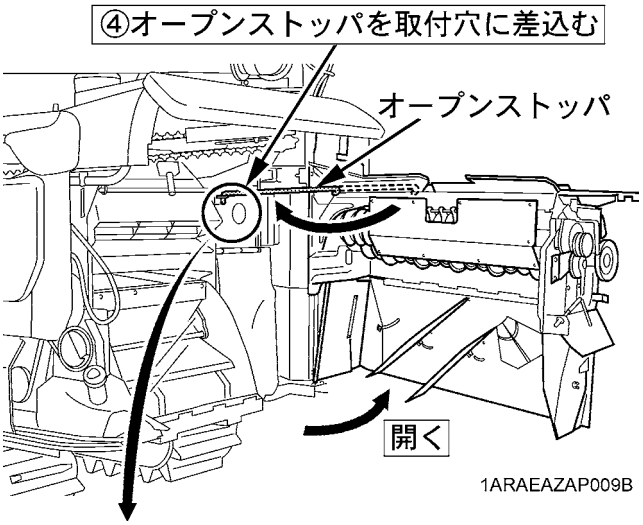
1. 上部カバーを上げたあと，穂先カバーを上げます。

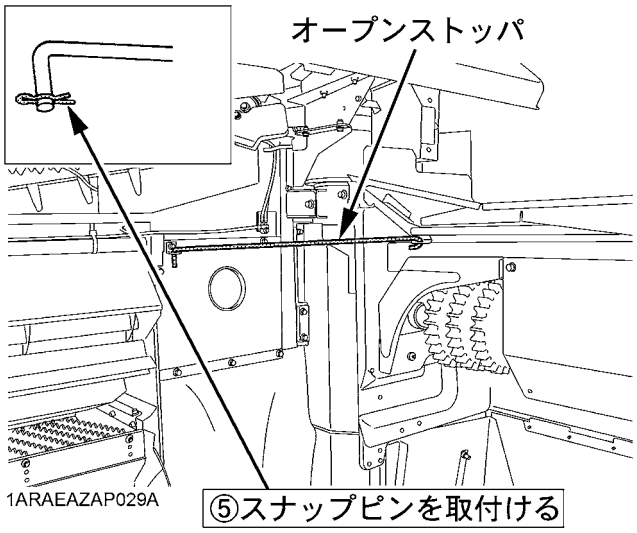


2. 取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。(85 ページ参照)
3. カッタをオープンします。









重　要

＊ カッタ部を開きすぎないでください。開きすぎると，破損の原因となります。

◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重　要

＊ カッタ部を閉じたあとは，オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
＊ ベルトはオープンフックの下側を通してください。掛け間違えると破損の原因となります。

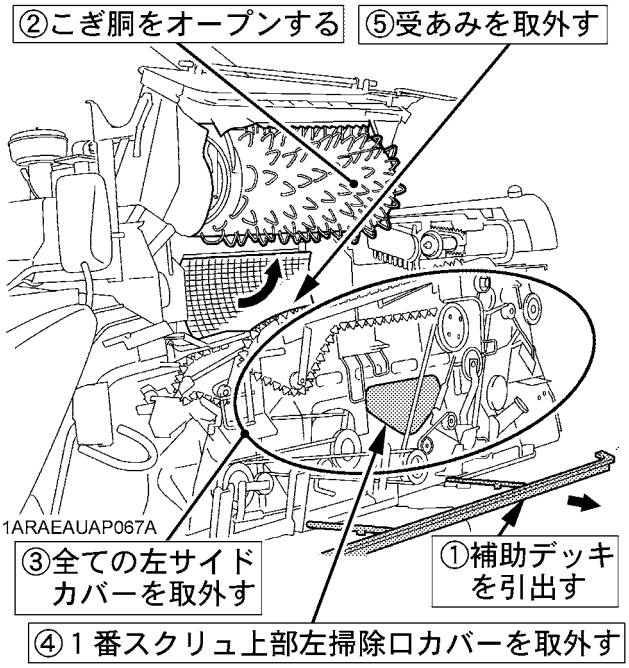
■シーブケースの脱着

注　意

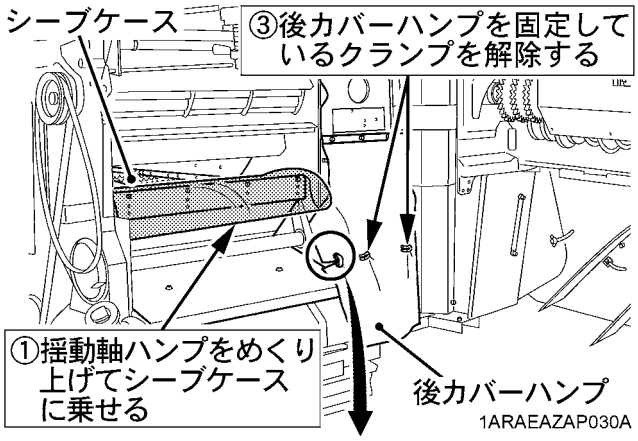
＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 脱着作業は，合図を掛け合って 3 人以上で行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

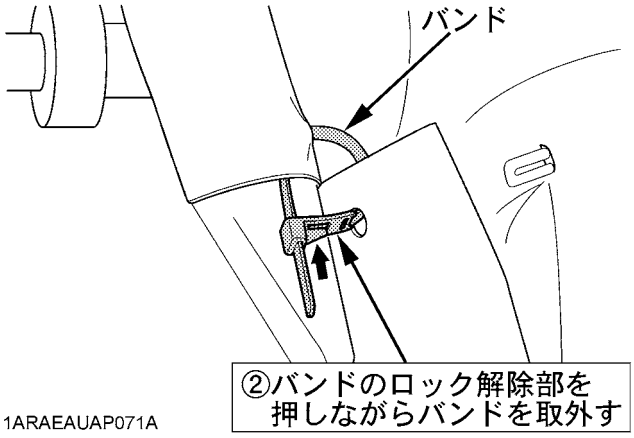
◆ 抜出しかた

1. アンローダを上位置にしたあと，エンジンを停止します。
2. 補助デッキを引出したあと，こぎ胴をオープンします。(70 ページ参照)
3. 左サイドカバー上１，２と下１，２及び左サイドカバー内を取外します。(83 ページ参照)
4. カッタ左サイドカバーを取外します。(85 ページ参照)
5. ボルトを取外して，１番スクリュ上部左掃除口カバーを外します。(89 ページ参照)
6. 受あみを取外します。(82 ページ参照)



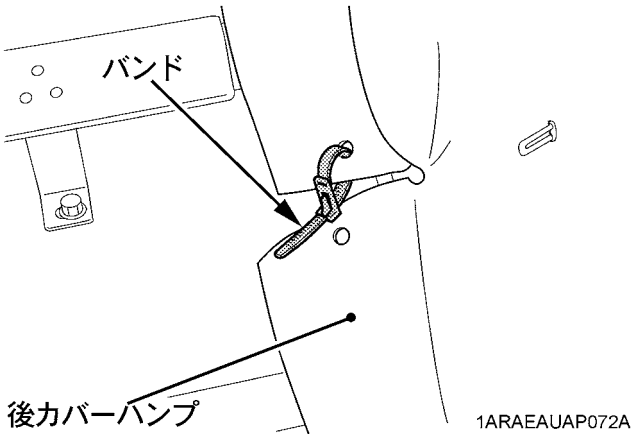
7. カッタをオープンします。
8. チャフ操作ワイヤ取付台を外します。

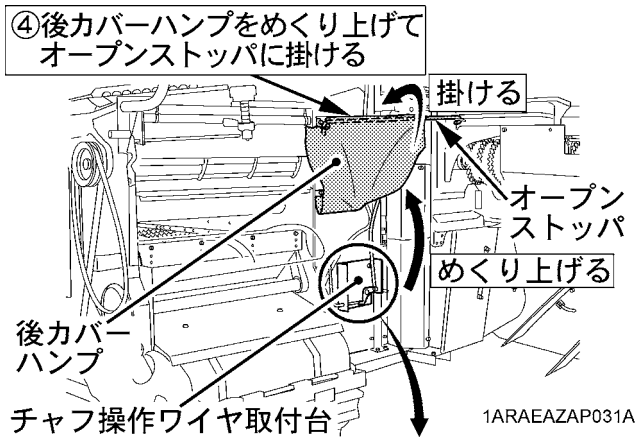


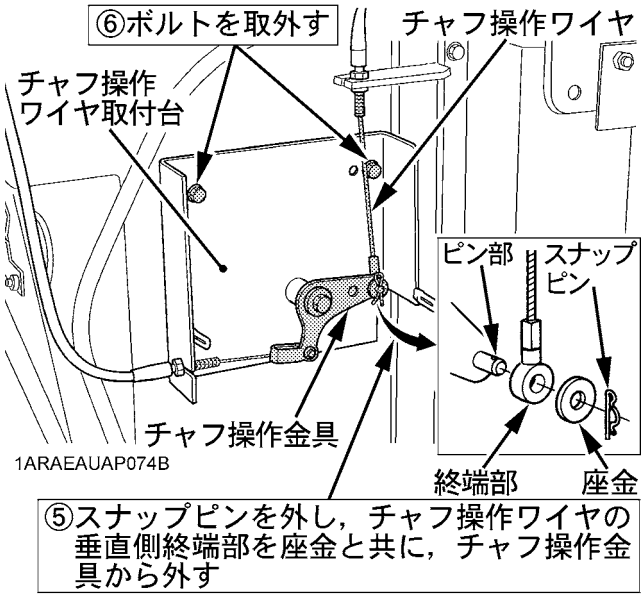


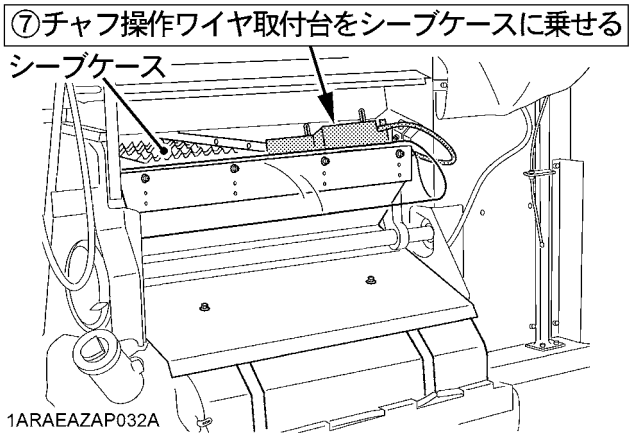
補　足

＊ 取外したバンドは，なくさないように後カバーハンプに下図のように取付けてください。





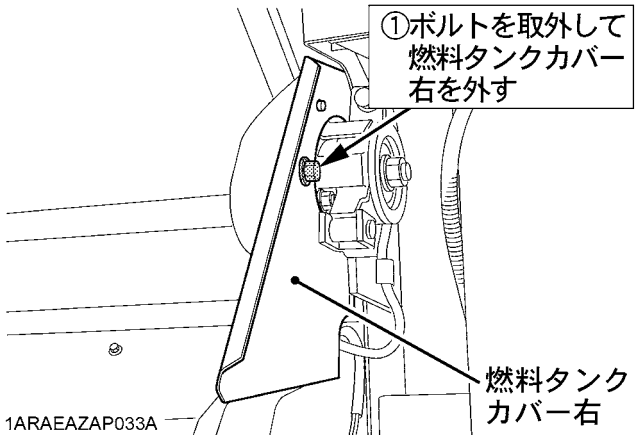


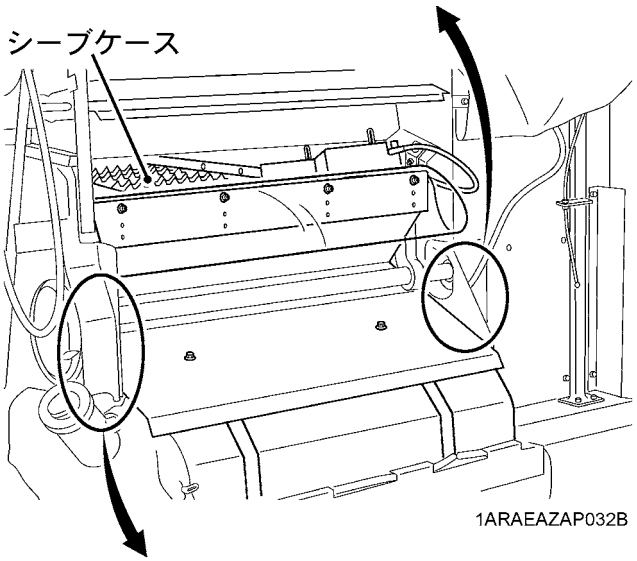


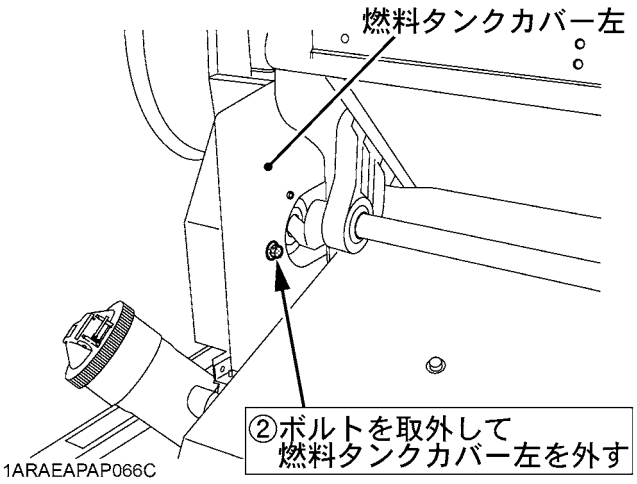
重　要

＊ チャフ操作ワイヤ取付台をシーブケースの上に乗せるとき，取付台を無理に引っ張らないでください。破損の原因となります。

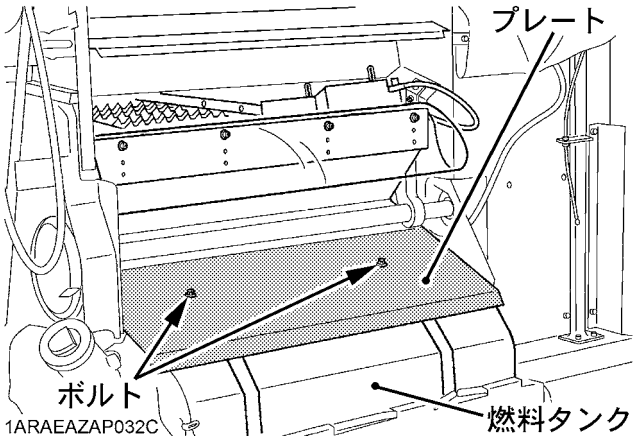
9. 燃料タンクカバー左，右を取外します。



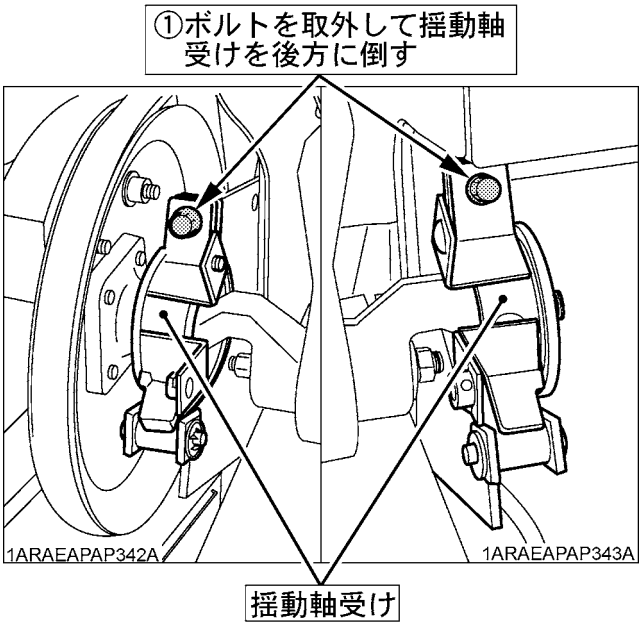


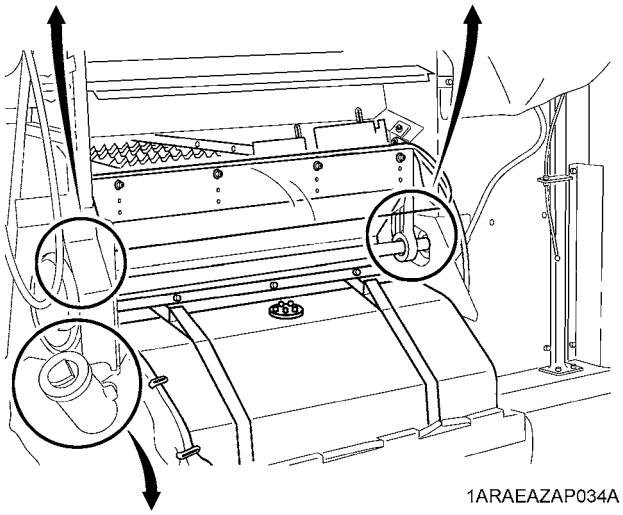


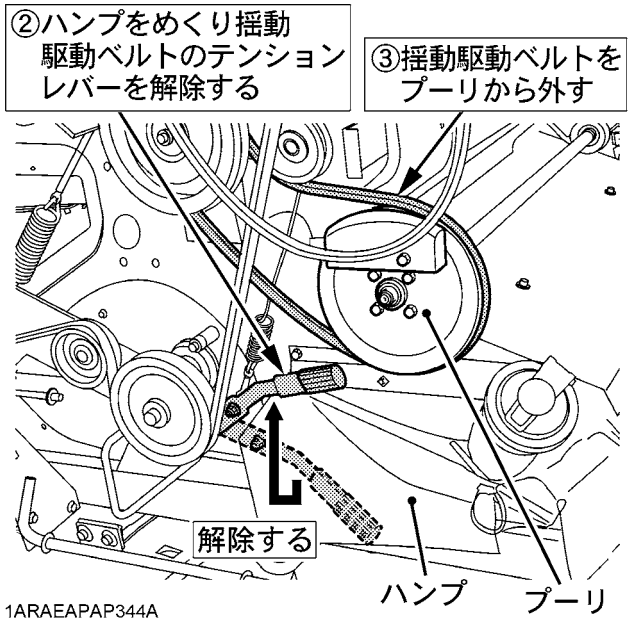
10. 燃料タンク上にあるプレートのボルトを取外し，プレートを外します。



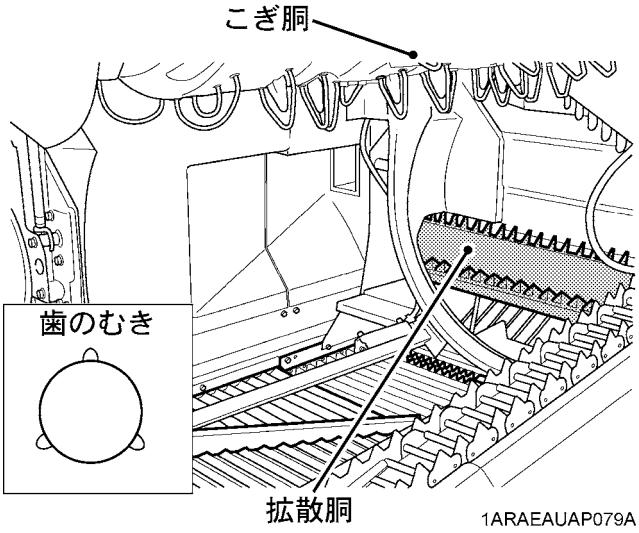
11. 揺動軸受けを取外したあと，揺動駆動ベルトのテンションを解除します。





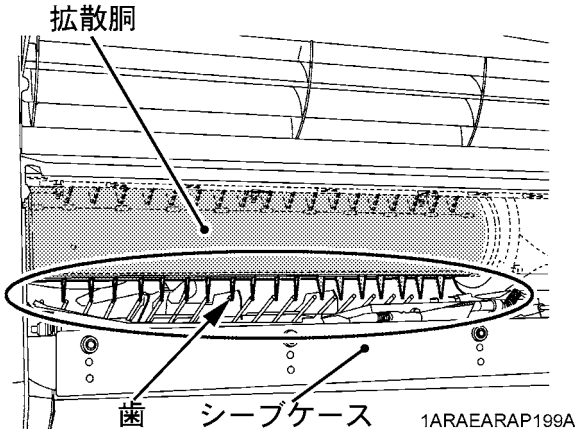


12. こぎ胴を手で回転させて拡散胴の歯の向きを図のようにします。

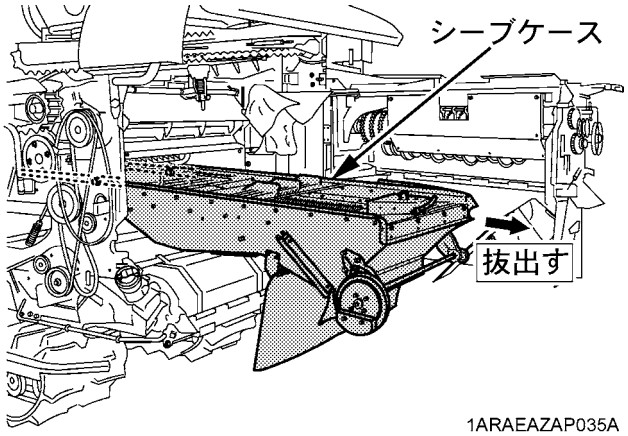


重　要

＊ 歯の向きが真下方向に向いていると，シーブケースを抜出すときにシーブケース上面に歯が引掛り，抜出しが困難になります。また，破損の原因となります。



13. トウミダンパを補助者が上げた状態で，補助者を含めて３人以上でシーブケースを抜出します。

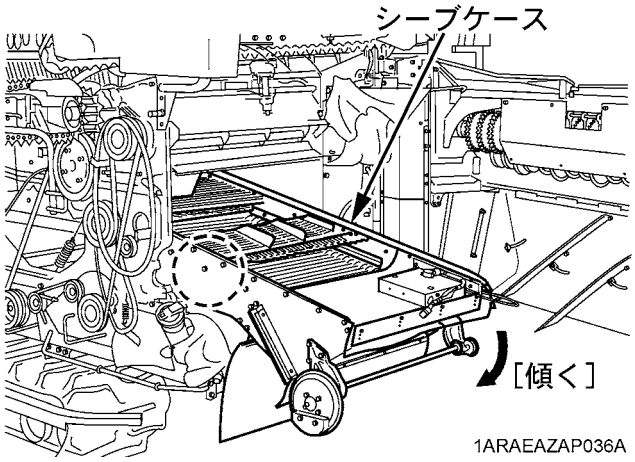


1ARAEAZAP035A

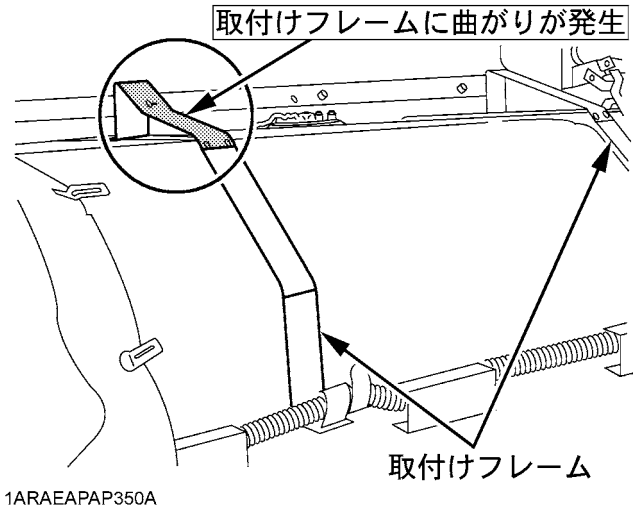
重　要

＊ トウミダンパが下がっている状態でシーブケースの脱着を行なうと，シーブケース破損の原因となります。

＊ シーブケースを抜出すとき，水平状態で抜出してください。抜出したとき，シーブケースが下図のように傾いてしまうと取外したプレートの取付フレームが曲がり，プレートの取付けが出来なくなるおそれがあります。



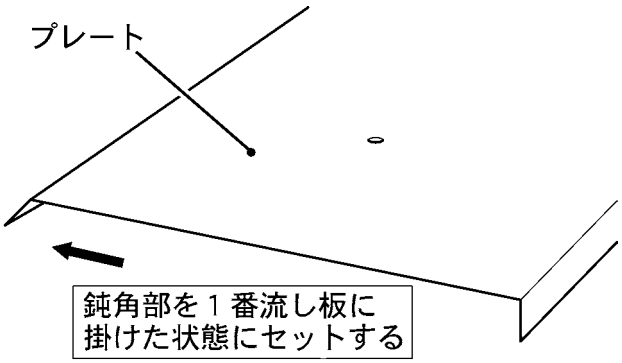
1ARAEAZAP036A



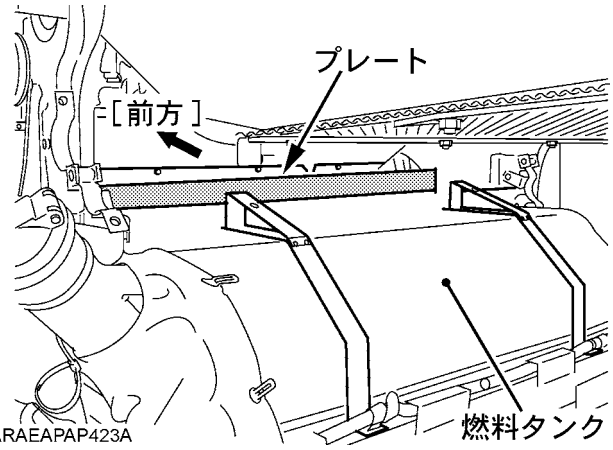
1ARAEAPAP350A

◆ 取付けかた

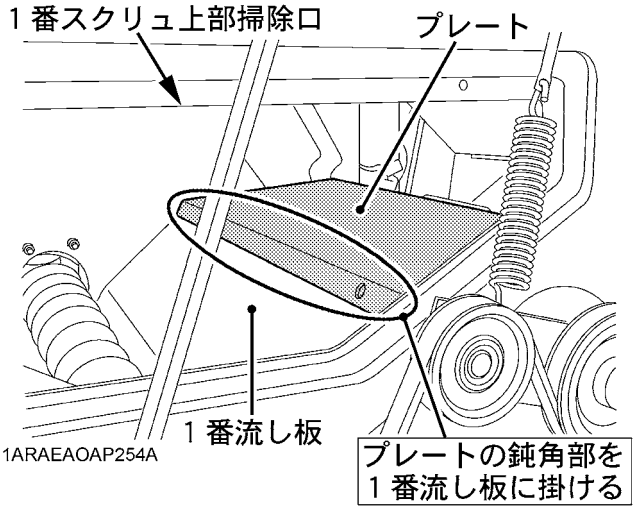
1. シーブケースの上に揺動軸ハンプをめくり上げて乗せた上に，チャフ操作ワイヤ取付台を乗せます。
2. 拡散胴の歯の向きが下方向を向いているときは，抜出したときと同じ向きにします。
3. 取外したプレートをセットします。



1ARAEAPAP351B

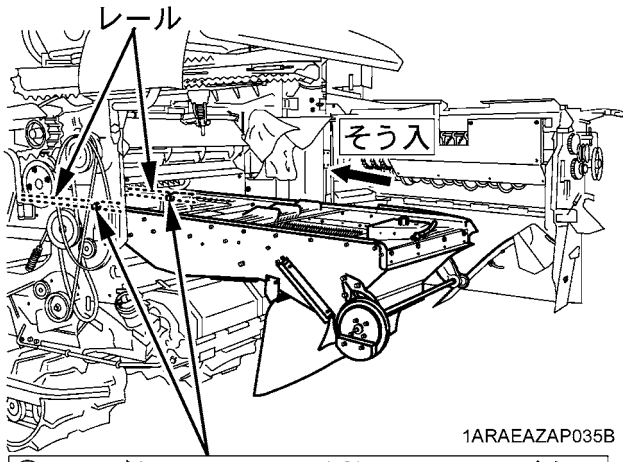


1ARAEAPAP423A

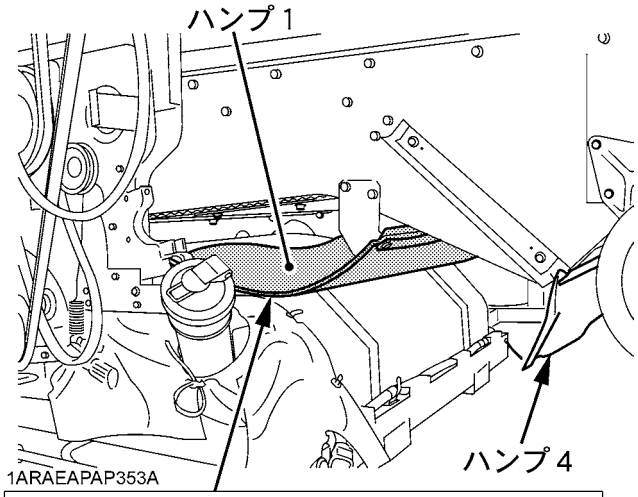


1ARAEAOAP254A

4. トウミダンパを補助者が上げた状態で，補助者を含めて３人以上でシーブケースをそう入します。

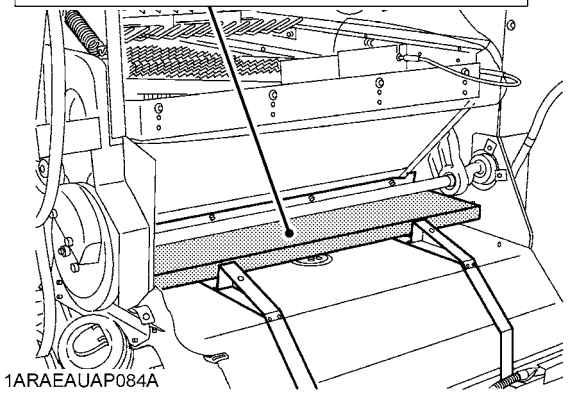


①シーブケースの両サイドのベアリングをレールに乗せ，シーブケースをそう入する



②そう入を途中でいったん止めて，ハンプ１をプレートの上に乗せ，ハンプを手で支えて前方に押出しながらシーブケースをそう入する

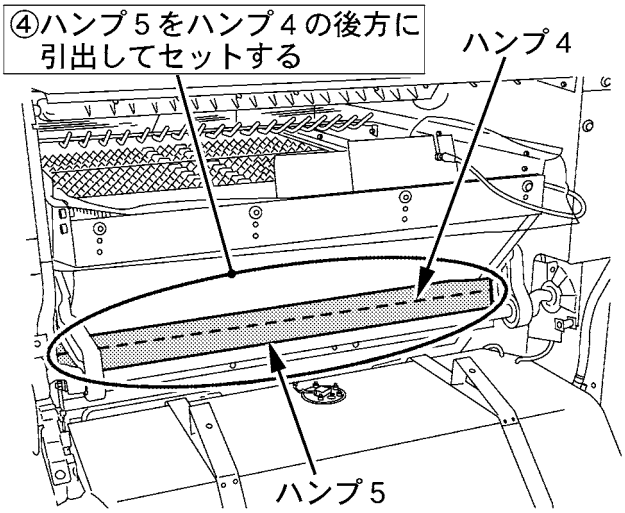
③シーブケースを前方いっぱいまでそう入したあと，プレートを取外す

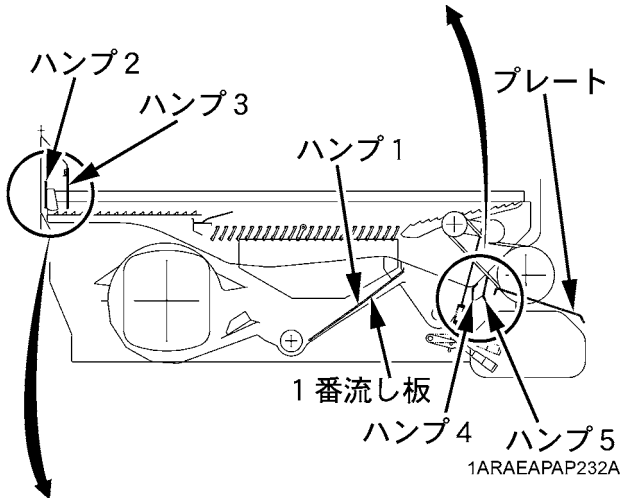


重　要

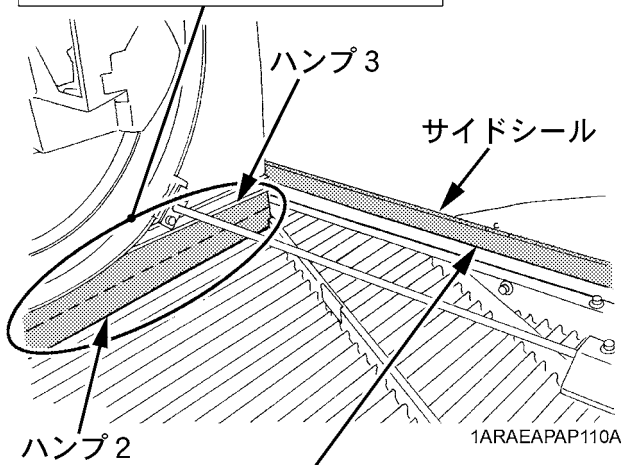
＊ プレートを取忘れたまま脱こく部を動かすと，シーブケース及びプレートが破損するおそれがあります。

④ハンプ５をハンプ４の後方に引出してセットする

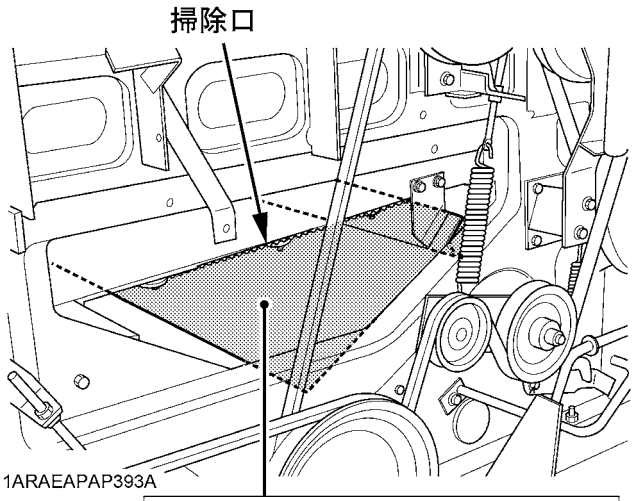




⑥ハンプ３をハンプ２の後方に引出してセットする



⑤両サイドのシールが下側に折れ曲がっているときは，折れ曲がった部分を上げて正しくセットする

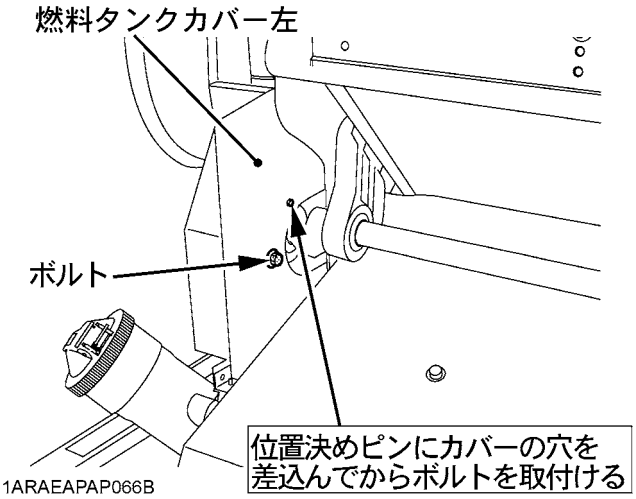


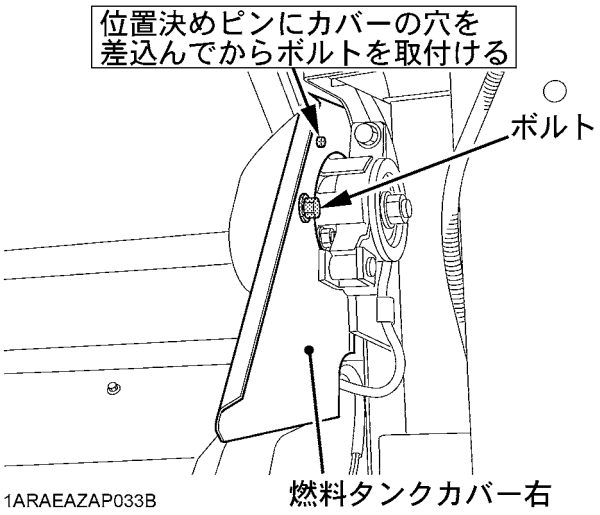
5. 燃料タンクの上の取付フレームにプレートを取付けます。

補　足

＊ プレートの直角面を前方に向けて取付けてください。

6. 左，右の揺動軸受けを上げて，揺動軸取付部に挟み込んだあと，ボルトを取付けます。
7. 揺動駆動ベルトをプーリに掛けたあと，テンションレバーを下側に押しながら掛け金具にレバーを掛けて，レバーの外側にハンプを垂らします。
8. 燃料タンクカバー左，右を取付けます。

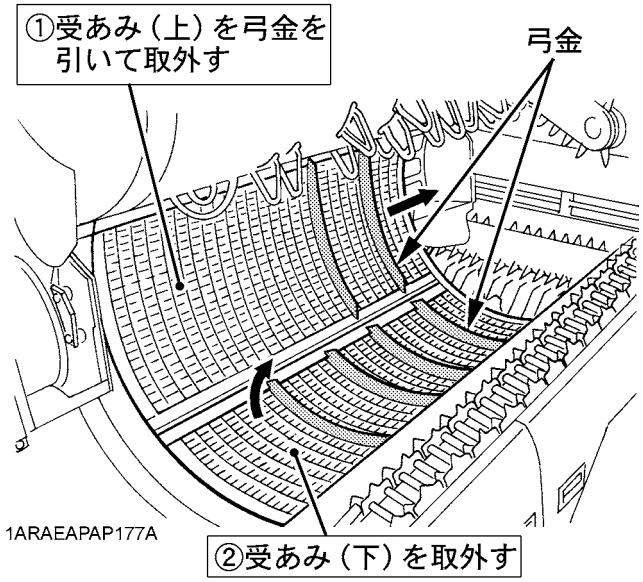




9. チャフ操作ワイヤを取付けます。
   (1) 後カバーハンプをめくった状態で，チャフ操作ワイヤ取付台をボルト２本で本機に取付けます。
   (2) チャフ操作ワイヤの垂直側終端部を，チャフ操作金具のピン部に座金と共に取付けたあと，スナップピンを取付けて連結します。
   (3) 後カバーハンプの２箇所のクランプを折曲げたあと，チャフ操作ワイヤを後カバーハンプの切込み部に挟み，クランプでハンプを固定します。
10. 揺動軸ハンプを燃料タンク後側に垂らします。
11. 受あみを取付けたあと，１番スクリュ上部左掃除口カバーを取付けます。
12. 左サイドカバー内１，２，３を取付けたあと，左サイドカバー上１，２と下１，２を取付けます。
13. カッタ左サイドカバーを取付けます。
14. こぎ胴を閉じて補助デッキを収納したあと，アンローダを収納します。

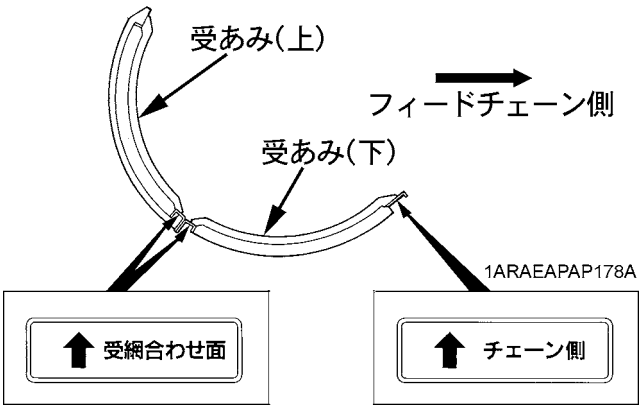
■受あみの脱着

1. 補助デッキを引出します。
2. こぎ胴をオープンします。(70 ページ参照)
3. 受あみ（上）の弓金を手前に引いて取外し，受あみ（下）も同じように，引上げて取外します。
4. 取付けるときは，逆の手順で受あみ（下）から取付けます。



重　要

＊ 取付けたときに受あみ（上），（下）の間にすき間があったり，受あみ（上），（下）を逆に組付けると，脱こく部の故障の原因となります。組付けるときは，下図のように受あみ（上），（下）の誤組付を防止するために取付方向ラベルを確認してください。

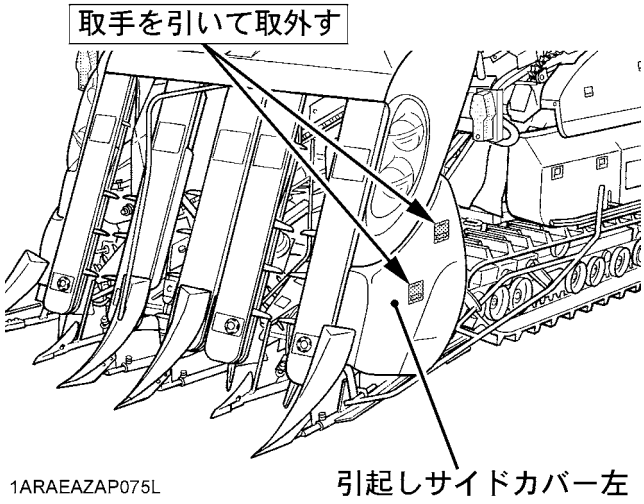


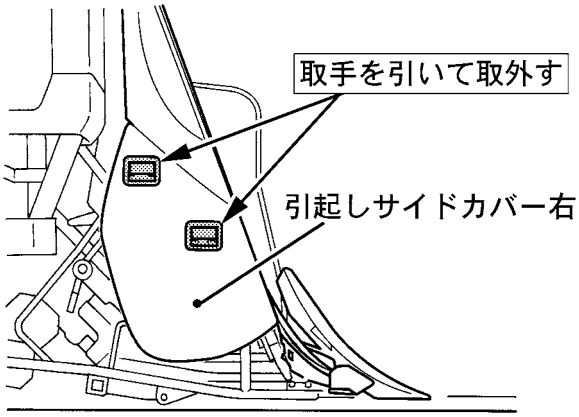
5. こぎ胴を閉じたあと，補助デッキを収納します。

■引起しサイドカバー右・左の脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた





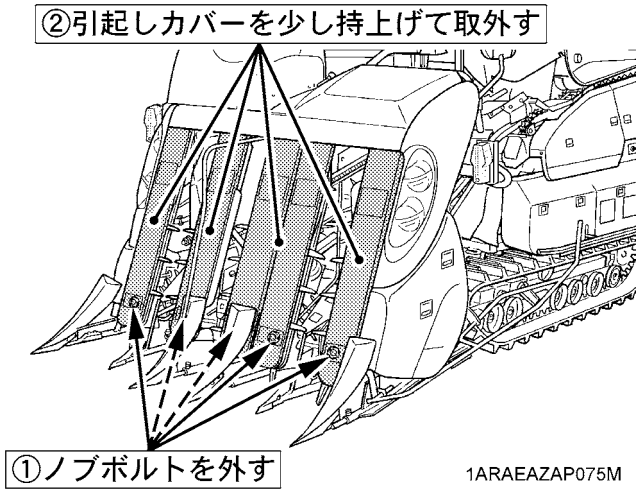
◆取付けかた

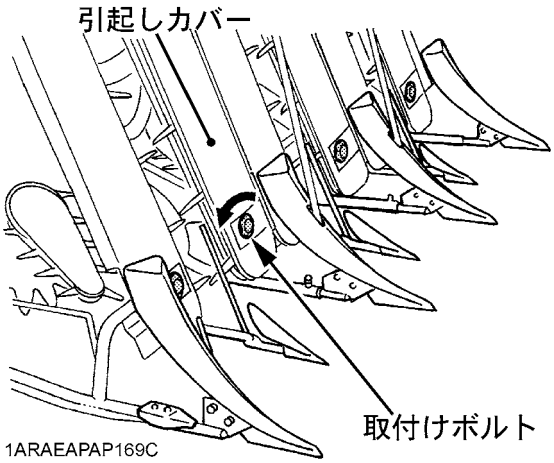
引起し爪を全て上側に倒したあと，引起しサイドカバーを取付けます。

■引起しカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた



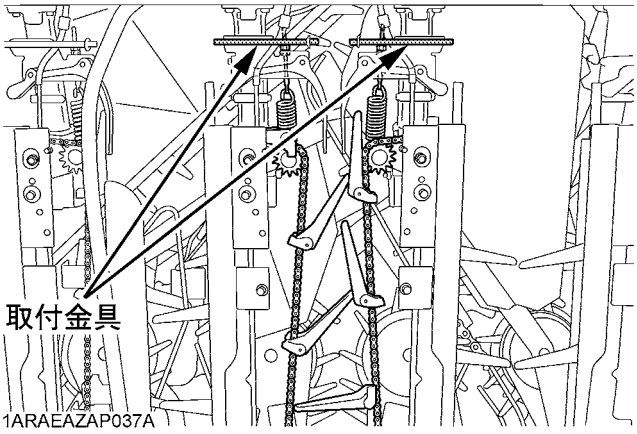


◆取付けかた

引起しカバーを取付けてノブボルトを締付けてロックします。

補　足

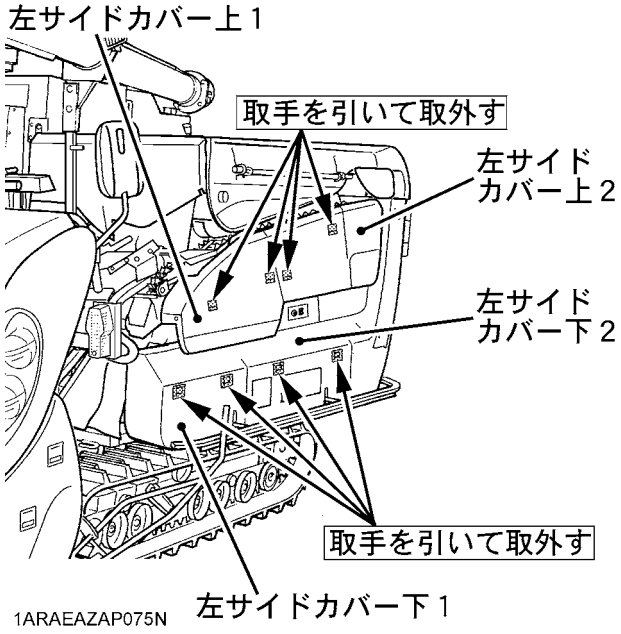
＊ 引起しカバーを取付けるとき，上部にある取付金具に引掛けてください。



■左サイドカバーの脱着

◆ 取外しかた

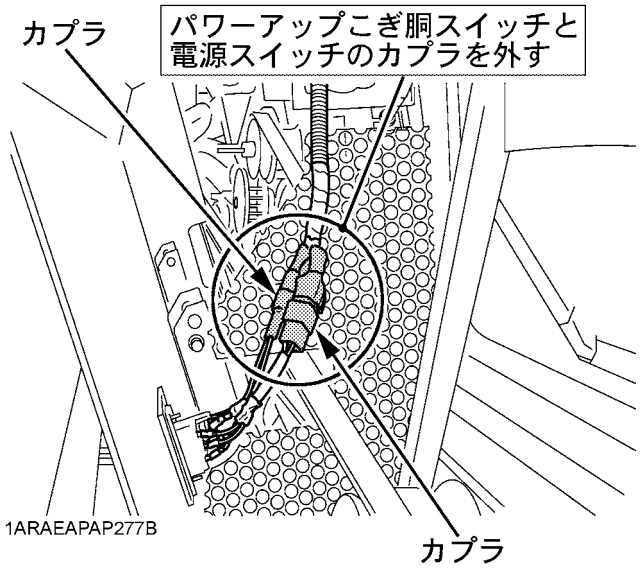
● 左サイドカバー上 1，上 2，下 1，下 2

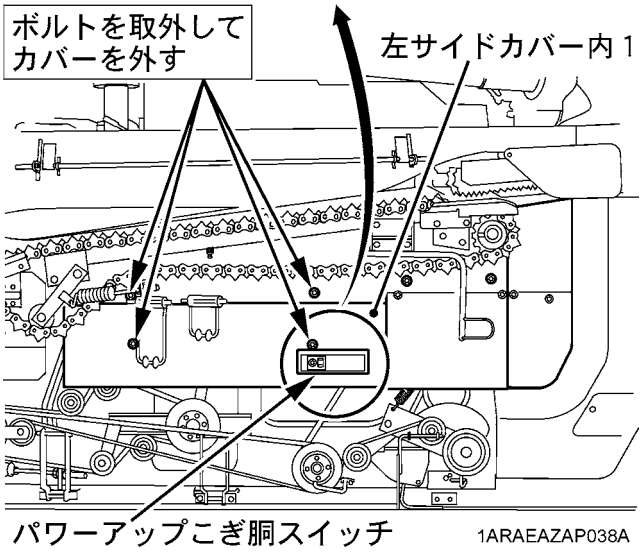


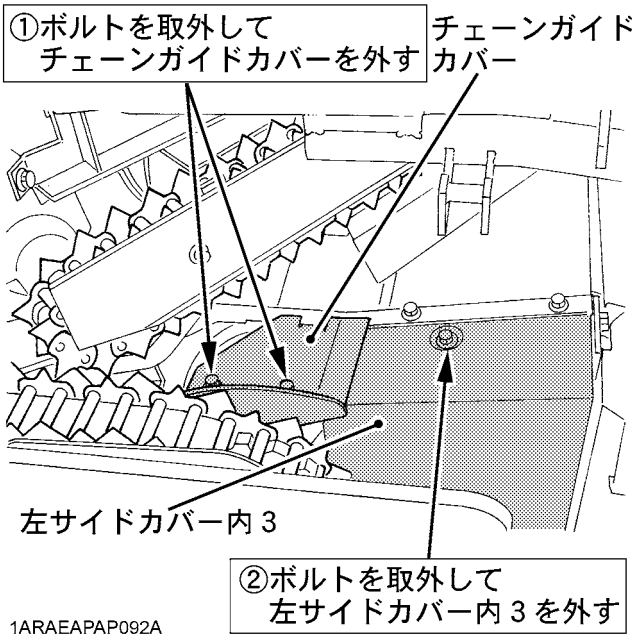
● **左サイドカバー内１，内２，内３**

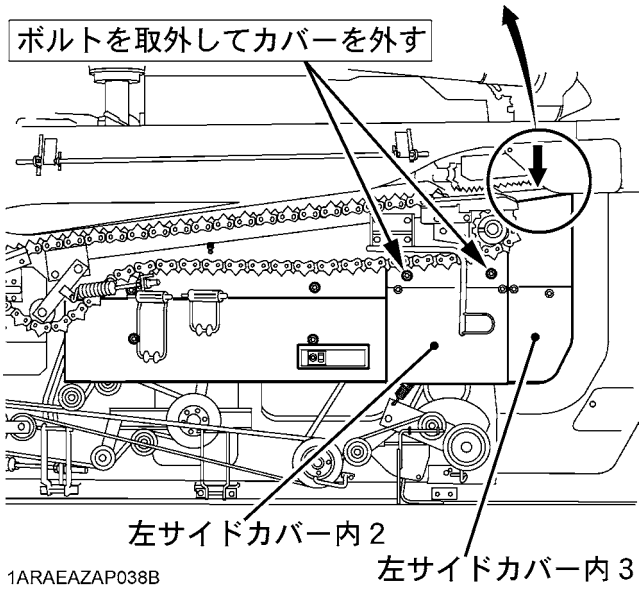
補　足

＊ 左サイドカバー内を取外すときは，カバー内１，カバー内２，カバー内３の順番で取外してください。







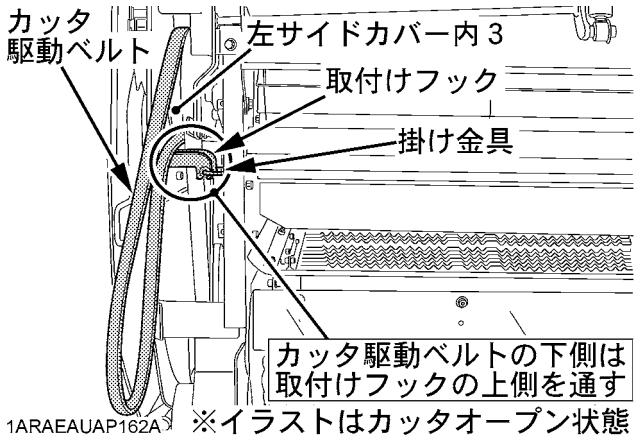


◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

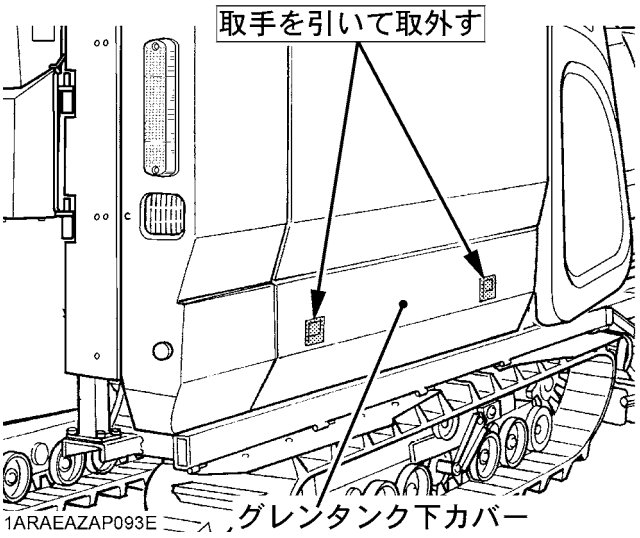
補　足

＊ 左サイドカバー内３を取付けるとき，内側の取付けフックを掛け金具に掛けてください。このとき，カッタ駆動ベルトの下側は，取付けフックの上側を通してください。



■グレンタンク下カバーの脱着

◆ 取外しかた



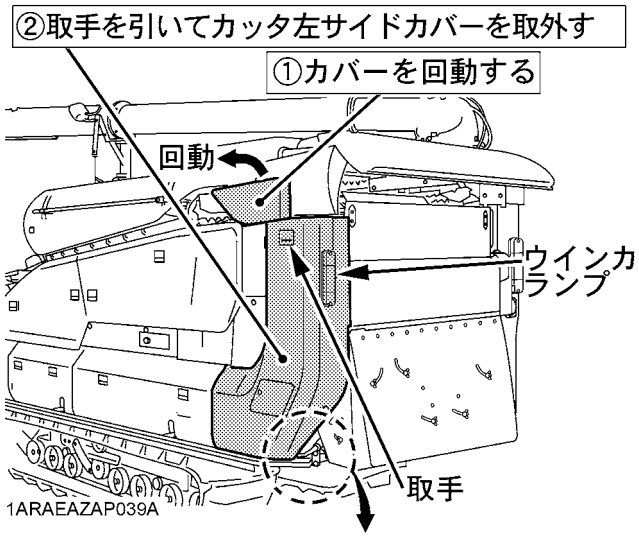
◆ 取付けかた

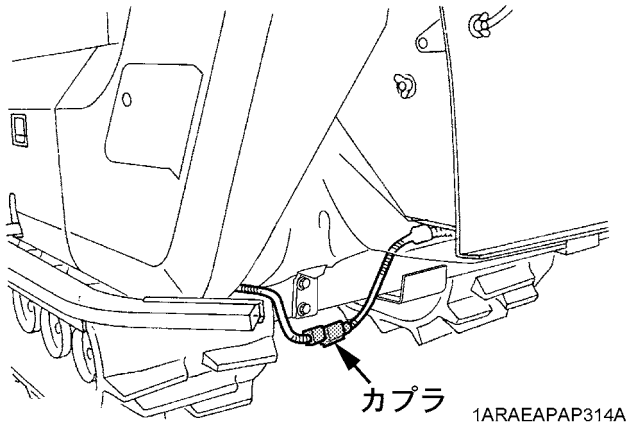
取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■カッタ左サイドカバーの脱着

◆ 取外しかた

1. 燃料タンク（給油口）左下にあるウインカランプ・車幅灯・制動灯・後退灯のワイヤハーネスのカプラを外します。
2. 取手を引き，カッタ左サイドカバーを取外します。



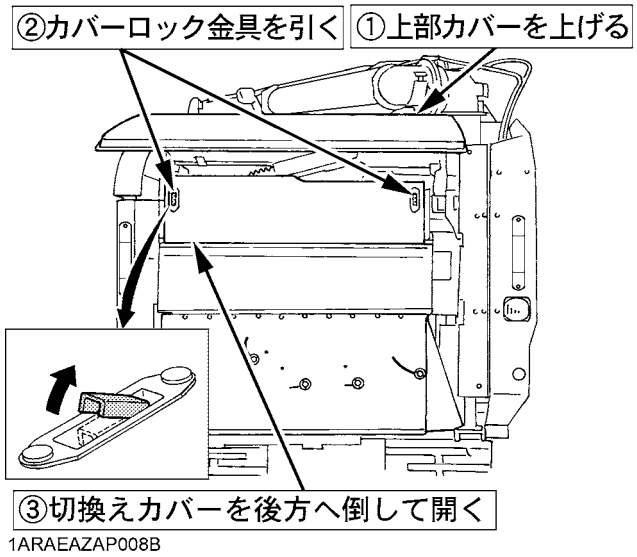


◆ 取付けかた

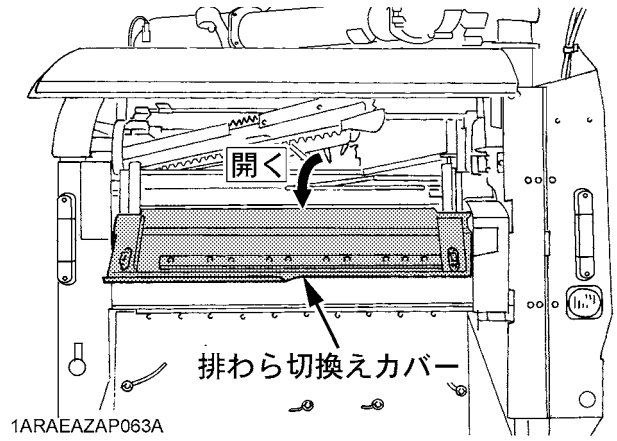
取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■排わら切換えカバーのオープン

◆ 開きかた



1ARAEAZAP008B



1ARAEAZAP063A

◆ 閉じかた

排わら切換えカバーを閉じたあと，カバーロック金具を確実にロックしてください。

補　足

＊ 排わら切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく［入］**位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずカバーロック金具を引きながら切換えカバーを閉め，カバーロック金具を確実にロックしてください。

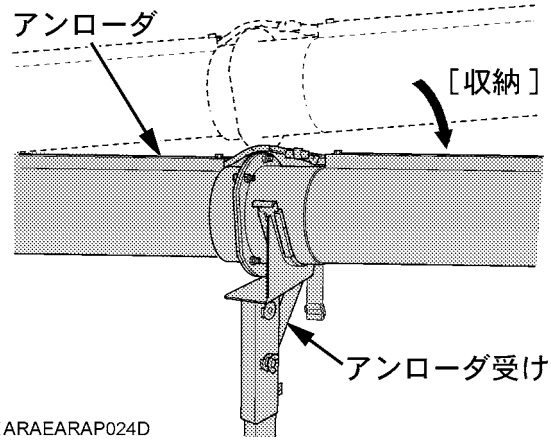
■グレンタンクオープン

注　意

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ グレンタンクを開いた状態で走行しないでください。
＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。
＊ グレンタンク部を開いたときは，グレンタンク部が閉じないように固定ピンを必ず取付けてください。グレンタンク部が閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

◆開きかた

1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(56 ページ参照)
2. 主変速レバーを**［停止］**位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。

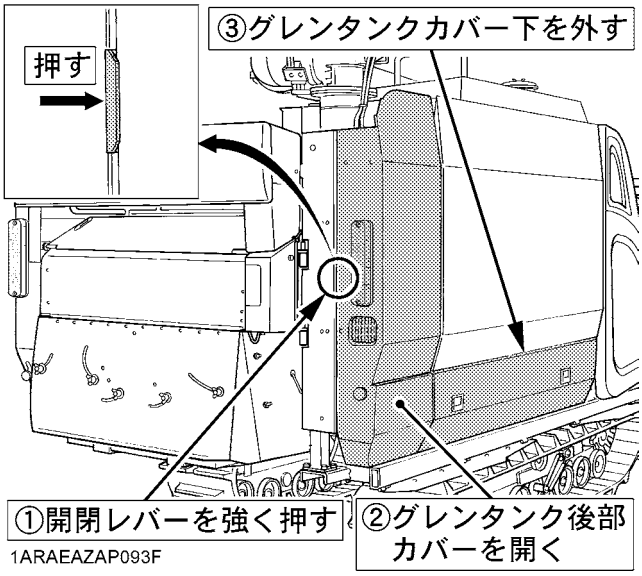


1ARAEARAP024D

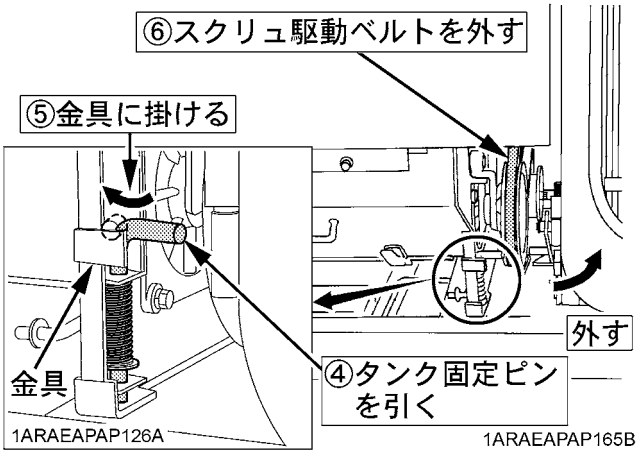
重　要

＊ グレンタンクの開閉を行なうときは，アンローダを必ず収納位置にしてください。

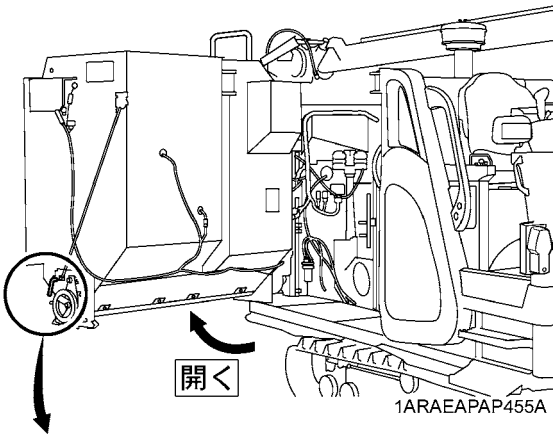
4. グレンタンクをオープンします。



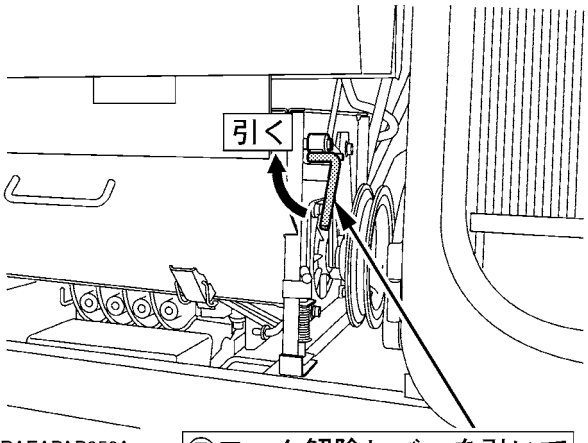
1ARAEAZAP093F



1ARAEAPAP126A
1ARAEAPAP165B

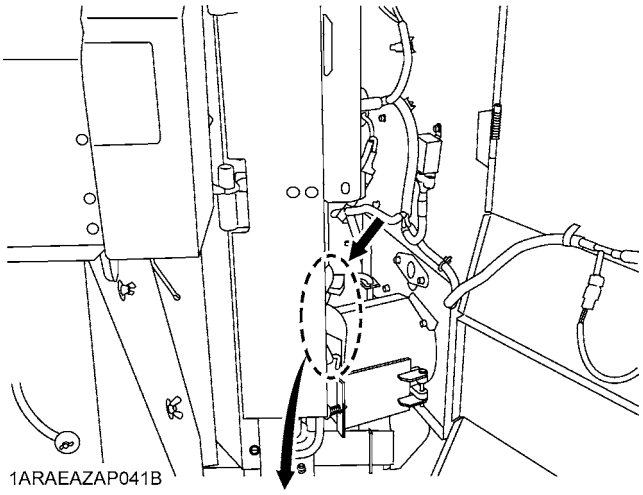


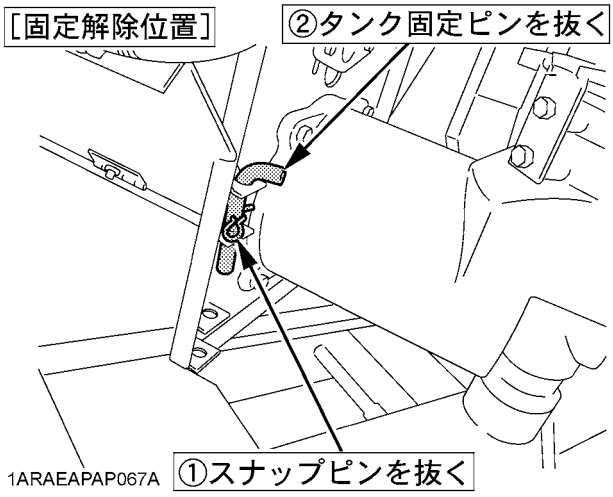
1ARAEAPAP455A

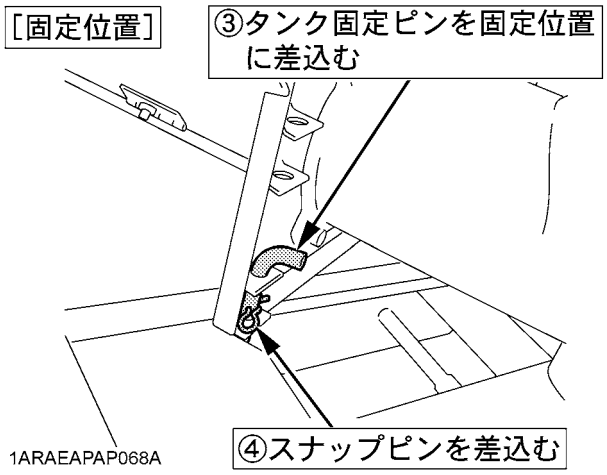


1ARAEAPAP056A
⑦ロック解除レバーを引いてグレンタンクを開く

5. グレンタンクを固定します。







◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

補　足

＊ スクリュ駆動ベルトは確実に掛けてください。ベルトが掛かっていないと，もみを排出しません。
＊ グレンタンクのロックや固定ピンの差込みは確実に行なってください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品が劣化します。)
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

* 水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
* 掃除口を閉じるときは，掃除口にもみの付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを取付け忘れるともみが飛散します。
* 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているともみが機内に付着して残留もみが多くなります。
* 湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
* 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

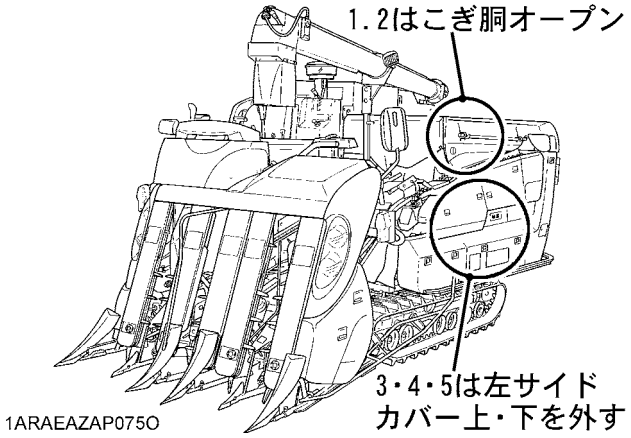
■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆ 掃除のしかた

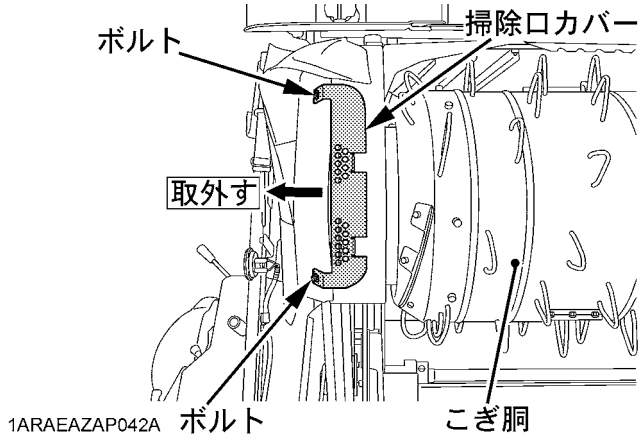
刈取作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，いったん機体各部を収納状態（36 ページ参照）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にしてエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部の開閉部を開き，掃除口を開いてください。

◆掃除箇所



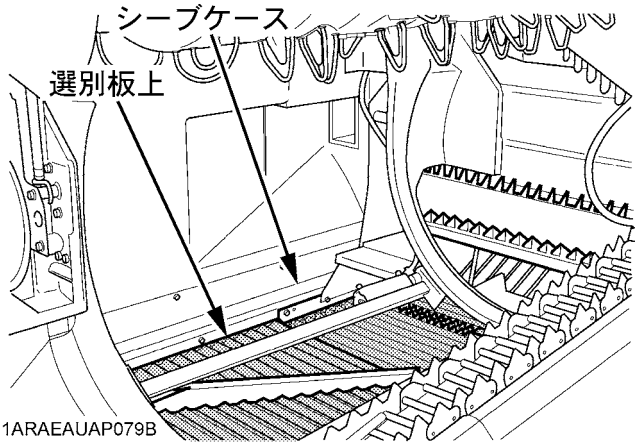
1. 脱こく入口部（前カバー内）

ボルトを外し，脱こく入口部の掃除口カバーを前方に引いて取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。



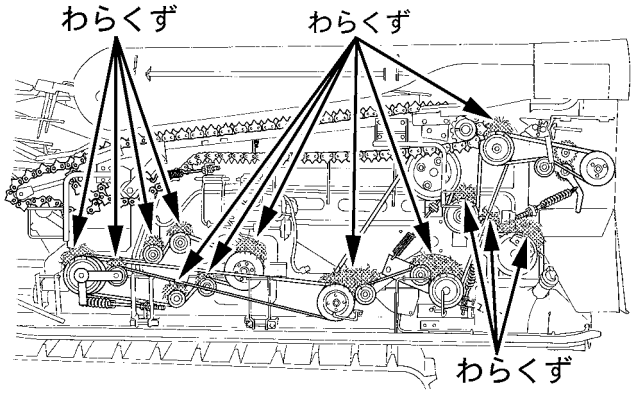
2. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）

受あみ（上，下）を取外して掃除してください。掃除後は，受あみ（上，下）を取付け，こぎ胴を閉じてください。（82 ページ参照）



3. ベルトカバー内

左サイドカバー上１，２及び下１，２とカッタ左サイドカバーを外したあと，左サイドカバーの内側カバー３箇所を取外して掃除してください。掃除後は，各カバーを取付けてください。（83 ページ参照）

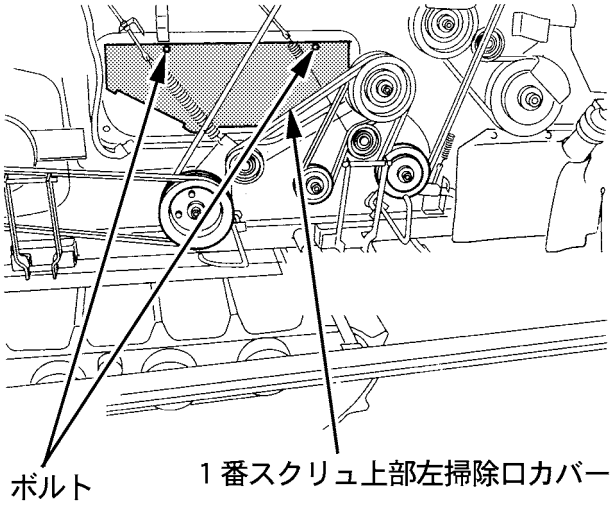


1ARAEAZAP043A

※イラストは572

4. １番スクリュ上部左掃除口

ボルトを外し，１番スクリュ上部左掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。

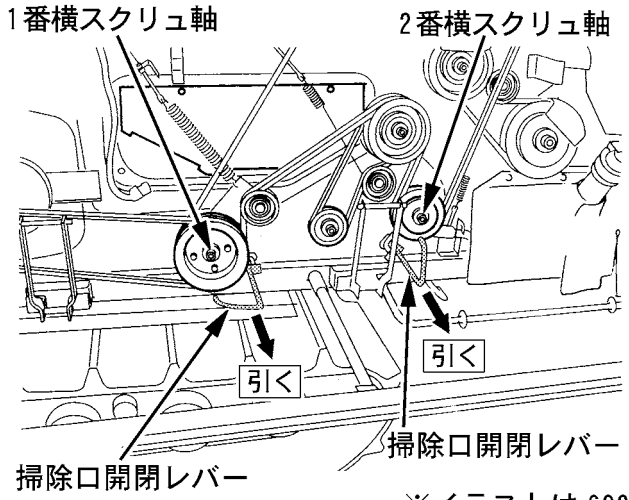


1ARAEAPAP055A

※イラストは 698

5. １・２番横スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを引いて，１・２ 番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口開閉レバーを押し込んで，各カバーを取付けてください。



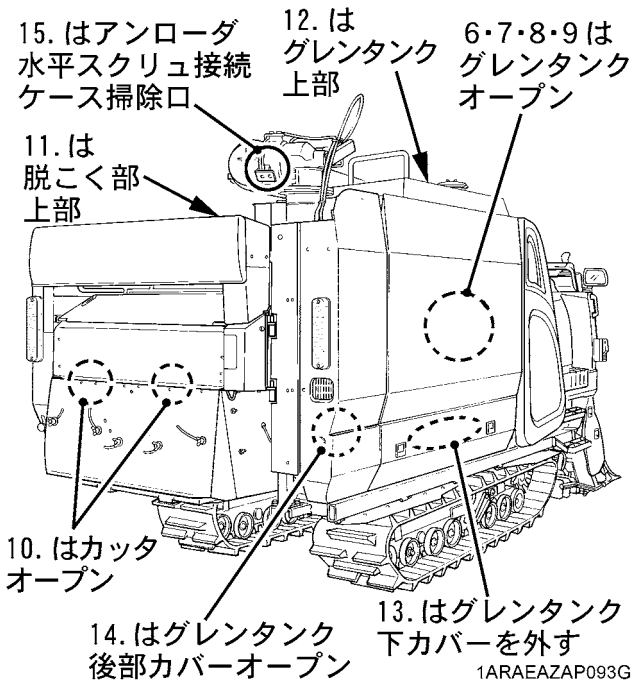
1ARAEAPAP055B

※イラストは 698

補　足

＊ 掃除口開閉レバーは 2 ～ 3 回繰返して押し引きしてください。

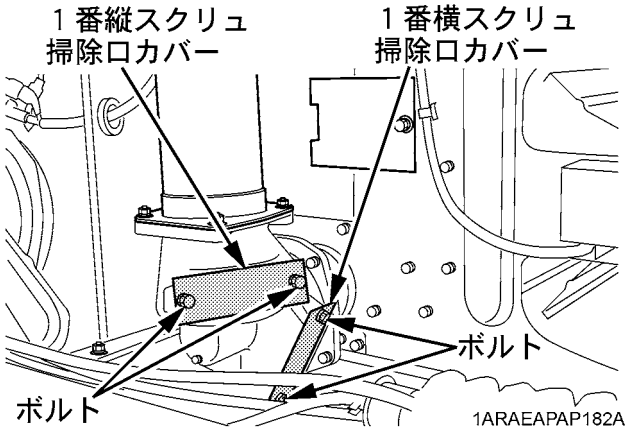
＊ 掃除口の開閉カバーは横スクリュ軸下側にあります。



1ARAEAZAP093G

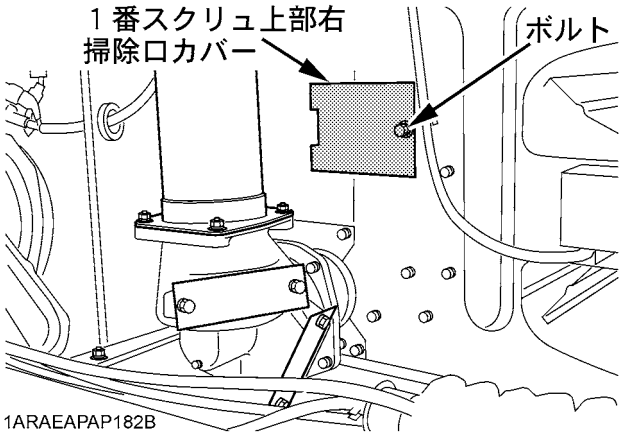
6. 1番縦・横スクリュ掃除口

1番縦・横スクリュ掃除口のボルトを外し，掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。



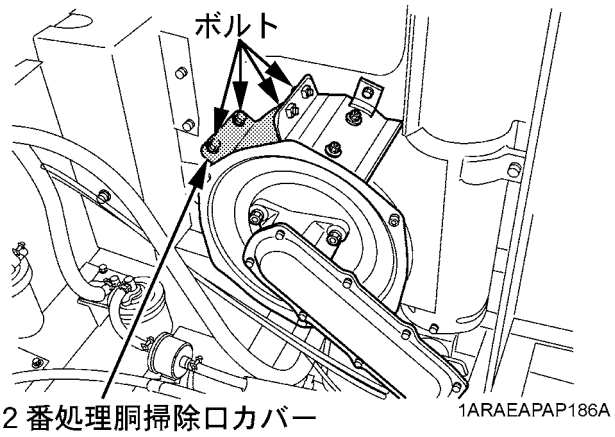
7. 1番スクリュ上部右掃除口

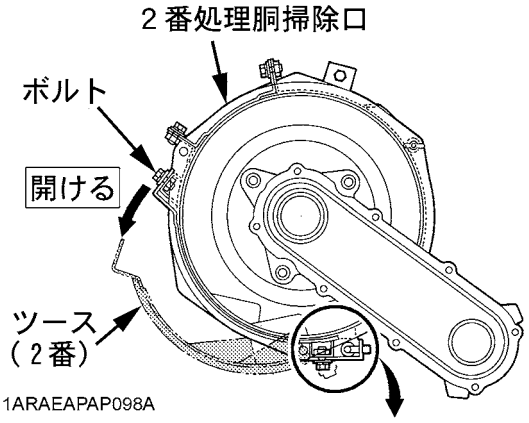
ボルトを外し，1 番スクリュ上部右の掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けて，グレンタンクを閉じてください。

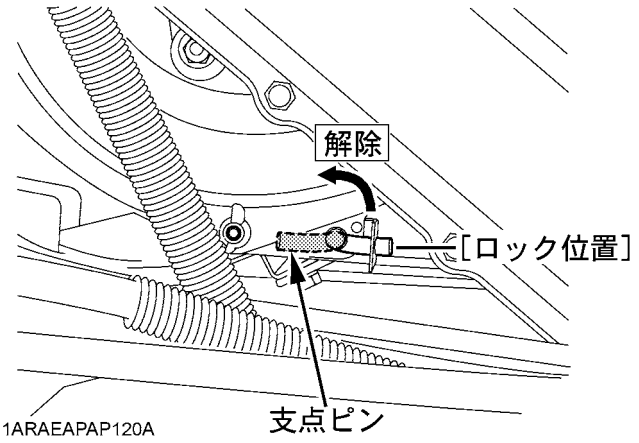


8. 2番処理胴(ツースバー)・ツース(2番)掃除口

ボルトを外して2番処理胴の掃除口カバーを取外したあと，ボルトを外してツース（2番）を開けて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，ツース（2番）を閉じ，グレンタンクを閉じてください。



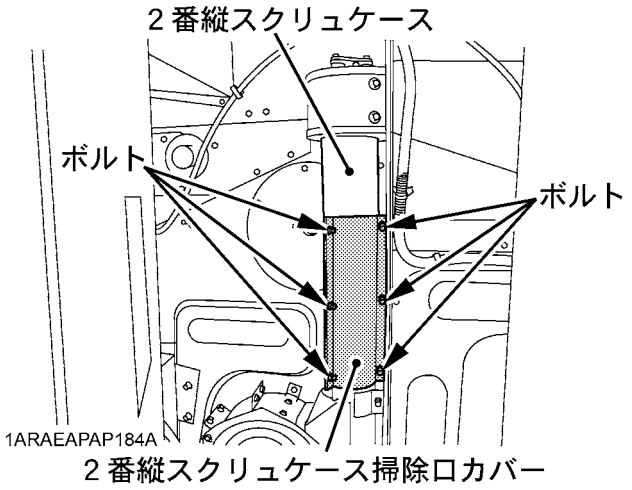




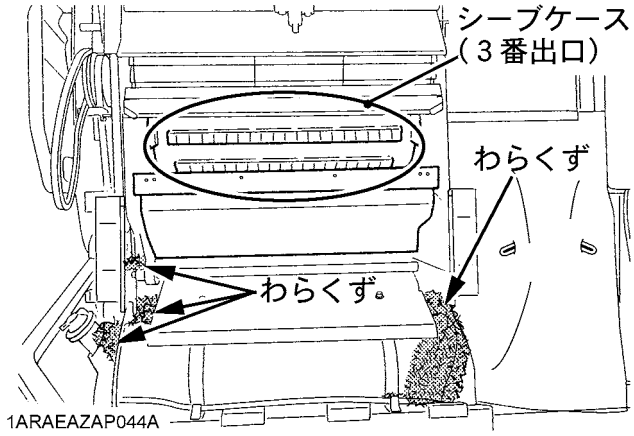
補　足

＊ ツース（2 番）は支点ピンを外すと取外すことができます。

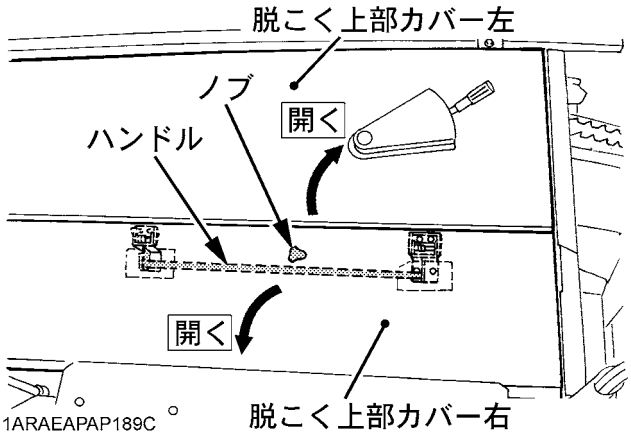
9. 2番縦スクリュケース掃除口
ボルトを外して2番縦スクリュケースの掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。



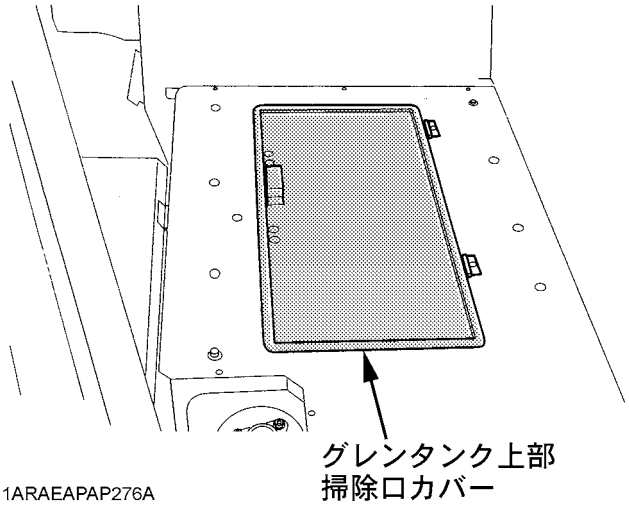
10. シーブケース後部（3番出口）
カッタをオープンして掃除してください。掃除後は，カッタを閉じてください。



11. こぎ室内
グレンタンクを開いたあと，脱こく上部カバー右のノブを持上げて開閉カバーを開き，脱こく上部カバー左のハンドルを持上げて開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，左，右の上部カバーを閉じたあと，グレンタンクを閉じてください。

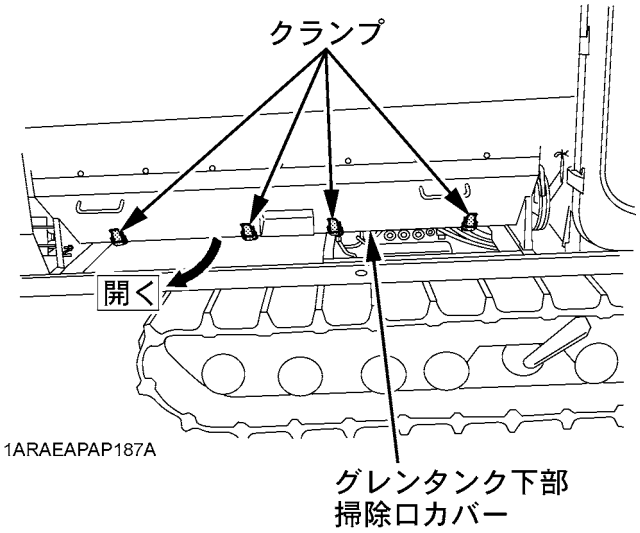


12. グレンタンク内
掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，開閉カバーを閉じてください。



13. グレンタンク下部掃除口

クランプを外し，掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーをクランプし，グレンタンク下カバーを取付けてください。

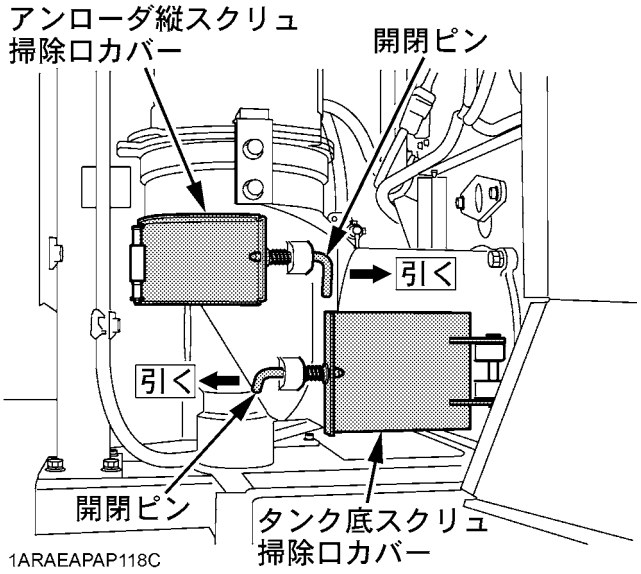


重　要

＊ タンク下部掃除口を開いた状態で，グレンタンクオープンをしないでください。掃除口カバーが変形するおそれがあります。

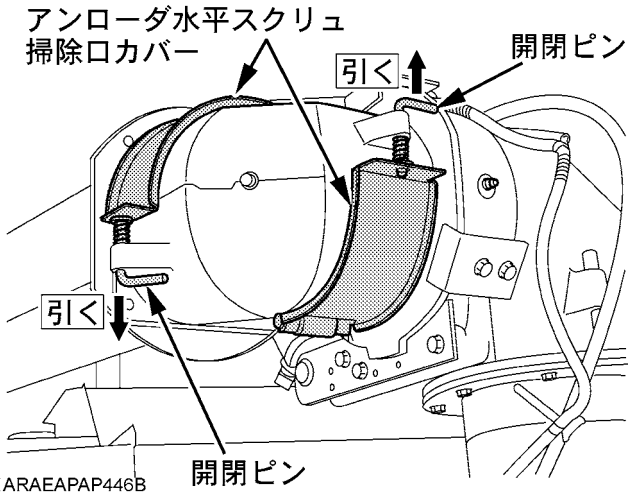
14. アンローダ縦スクリュ・タンク底スクリュ掃除口

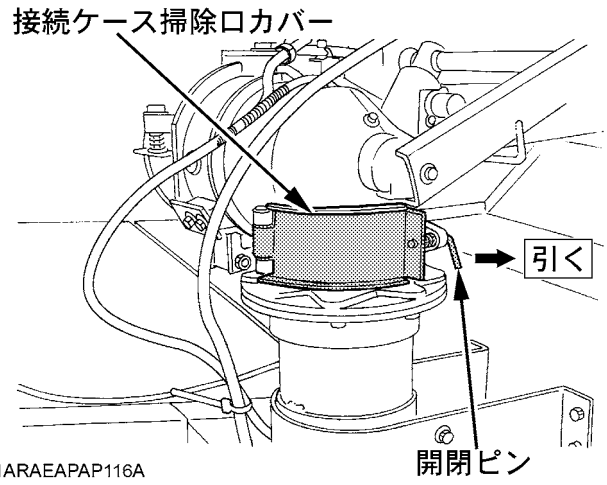
スクリュ掃除口の開閉ピンを引いて掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを閉じ，グレンタンク後部カバーを閉じてください。



15. アンローダ水平スクリュ・接続ケース掃除口

アンローダをいっぱいまで上昇させてから，アンローダ水平スクリュ及び接続ケース掃除口の開閉ピンを引いて掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを閉じてください。





◆掃除後の処置と確認

掃除終了後は，取外したり，開いた掃除口カバーや安全カバーは必ず閉じる又は，取付けてください。

■各部の注油

警　告

＊ 回転物や可動部に手や腕など体を近付けないでください。巻込まれてケガをするおそれがあります。特に機械が動いているとき，油差しを使っての注油作業を行なうときは，エンジン回転数を落としてじゅうぶん注意してください。
＊ そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。

注　意

＊ エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取り作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

◆自動集中注油装置による注油

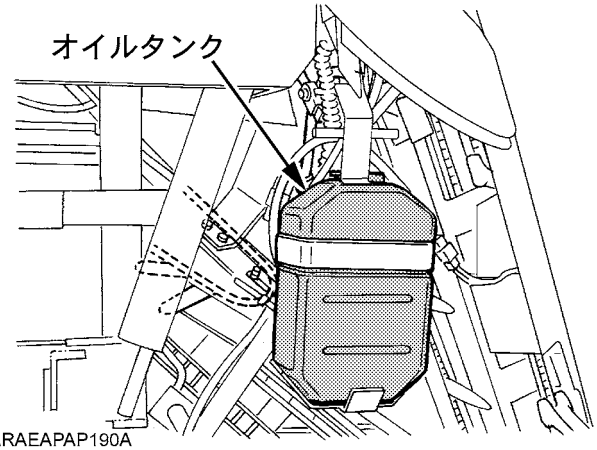
自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補　足

＊ 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。
＊ 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

● 注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー右を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



重　要

＊ 廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

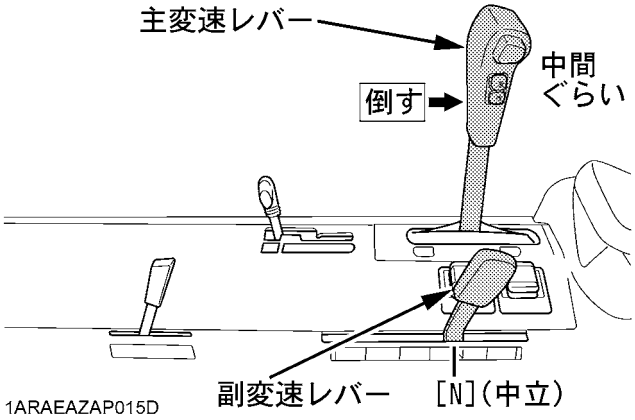
オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W-30 又は，UDT	約 1.5L

3. エンジンを再始動したあと，エンジン回転数を中速回転（約 2000rpm）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**刈取［入］**位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

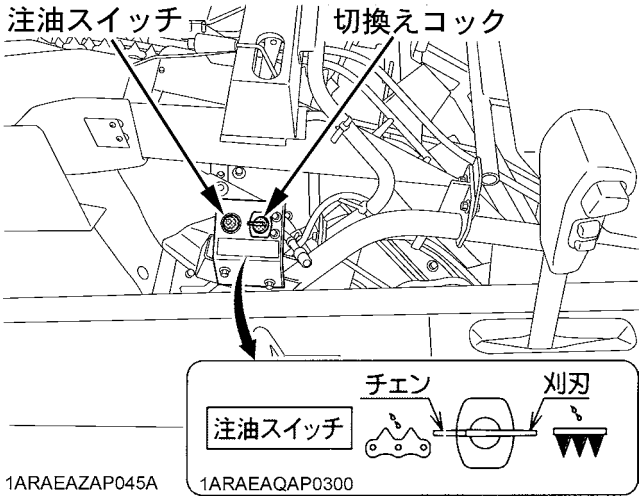
補　足

＊ チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。
＊ 注油したときチェーンが停止していると，オイルが1箇所に集中するため，ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

4. 副変速レバーを**［N］（中立）**位置にしたあと，駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで倒します。



5. 切換えコックの位置を確認（**チェーン**位置 / **刈刃**位置）して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。
- チェーン位置…７～10 秒間**連続**で押す。
- 刈刃位置……５～７秒間**断続**で押す。



重　要

＊ オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
＊ 万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，エア抜きキャップを押して，エア抜きしてから作動してください。
＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

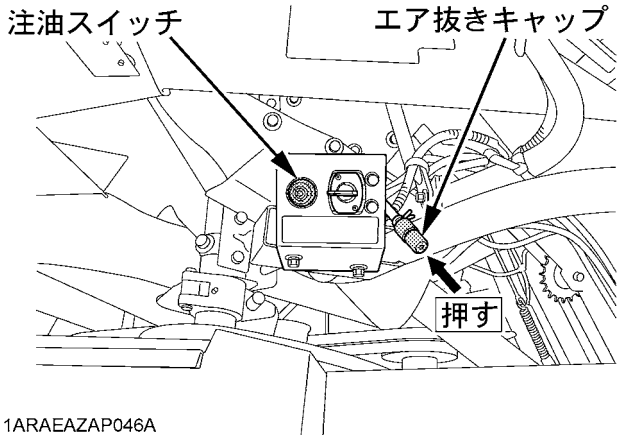
6. エンジンを停止したあと，各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

補　足

＊ 注油されていないときは，各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。
＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。
＊ 最初の１回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒かかります。

◆エア抜きの方法

図示のエア抜きキャップを押してから，注油スイッチを押して，油を送出してください。



1. 注油後２～３分間そのままの状態で運転します。
2. 主変速レバーを**［停止］**位置にし，エンジンを止めたあと，引起しサイドカバー右を取付けます。

◆ 注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布

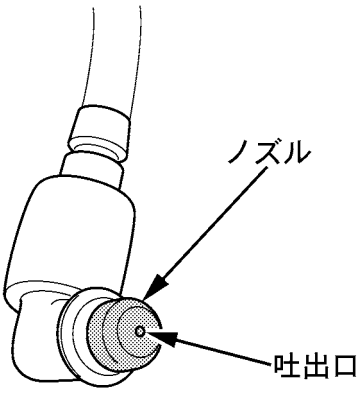
自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は，油差しで行なってください。

1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた

ノズルからオイルが出ていないときは，**エンジンを必ず止めて**，各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは，水洗い又は，圧縮空気などを使用してください。

補　足

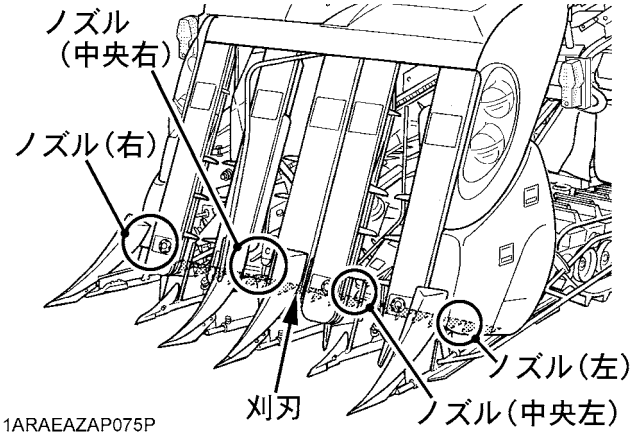
＊ ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは，必ず針などを使用してください。つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また，各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を取外すと掃除が容易に行なえます。



1ARADAFAP481A

● 刈刃

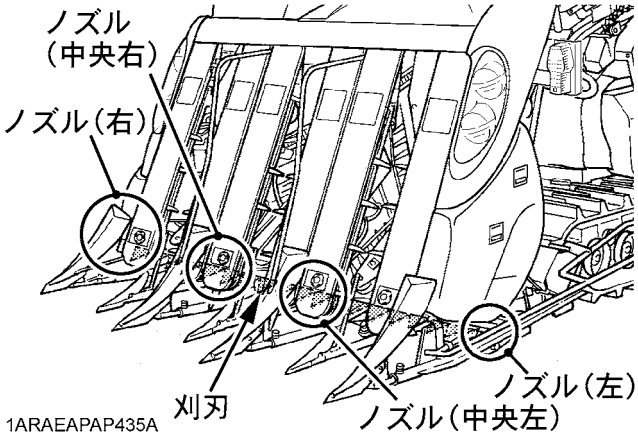
[572]



1ARAEAZAP075P

[572]

[698]

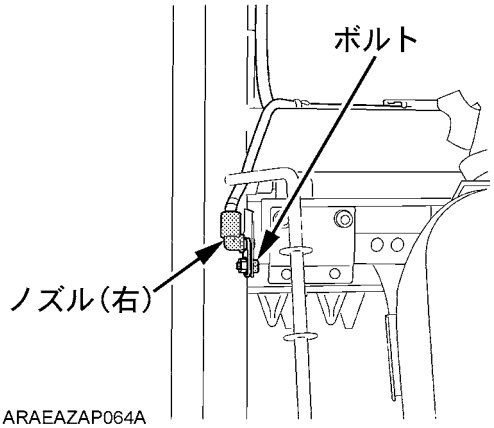


1ARAEAPAP435A

[698]

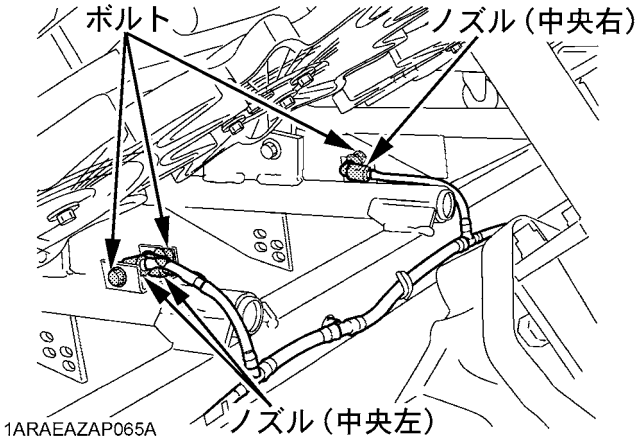
掃除箇所

刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし，泥などの異物を取除いてください。また，引起しサイドカバー左右を取外したあと，ノズルからボルトを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー左右を取付けてください。



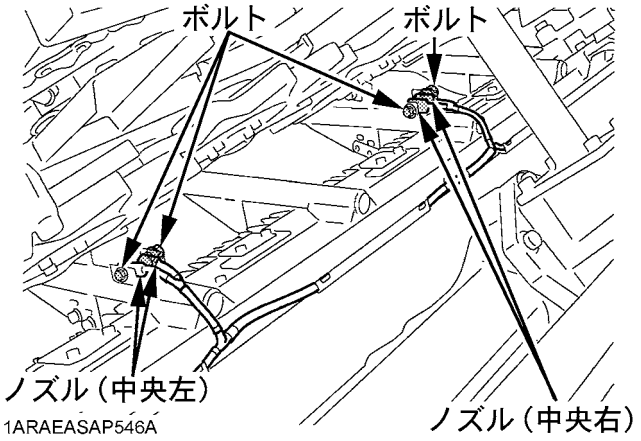
1ARAEAZAP064A

[572]

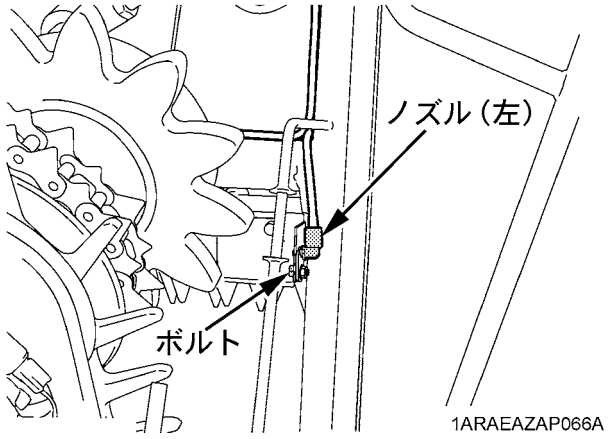


[572]

[698]

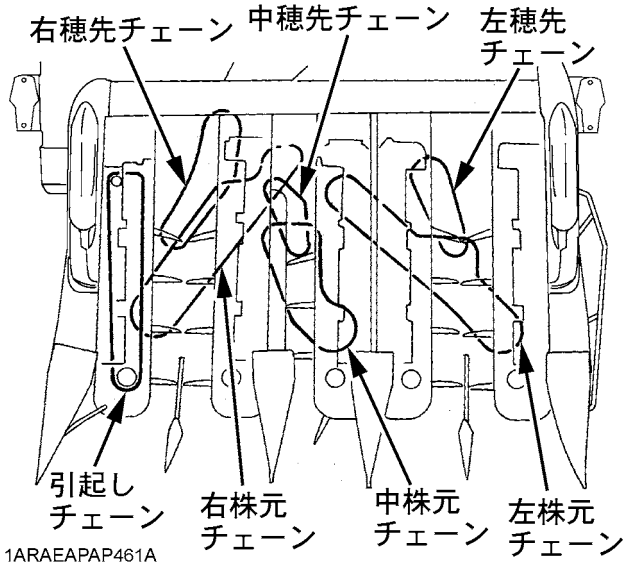


[698]



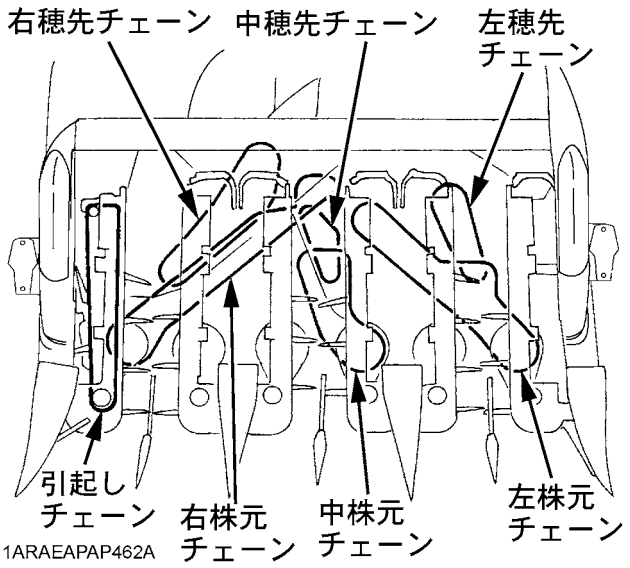
●引起しチェーン●右穂先チェーン
●右株元チェーン●中穂先チェーン
●中株元チェーン●左穂先チェーン
●左株元チェーン●株元供給チェーン
●供給サポートチェーン
●供給サポートチェーン駆動チェーン
●こぎ深さチェーン●フィードチェーン
●排わら穂先チェーン●排わら株元チェーン

[572]



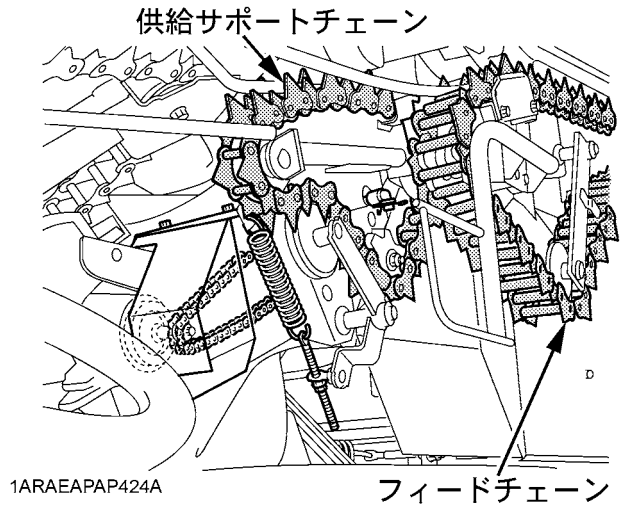
[572]

[698]

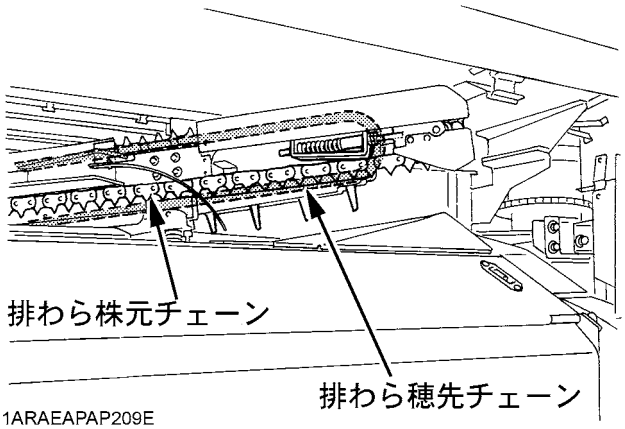


[698]

1ARAEAPAP465B



1ARAEAPAP424A

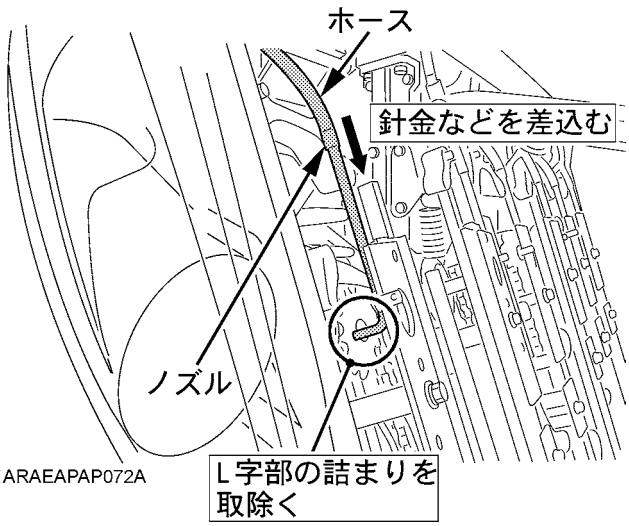


1ARAEAPAP209E

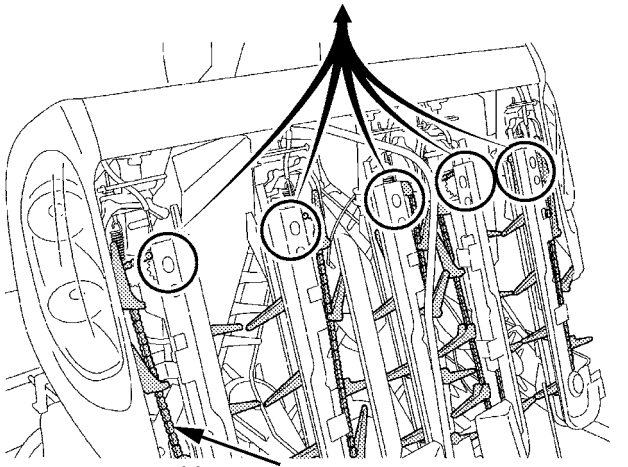
掃除箇所

●引起しチェーン

各引起しカバーを取外したあと，ホースをノズルから抜取り，針金などでＬ字部の詰まりを取除いてください。掃除後は，各引起しカバーを取付けてください。

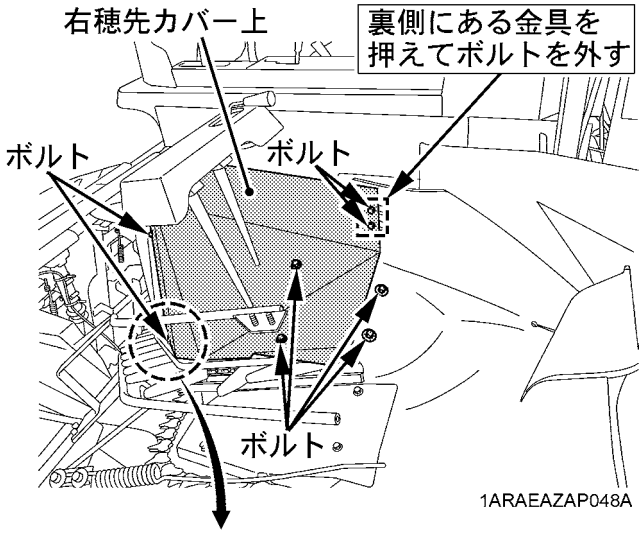


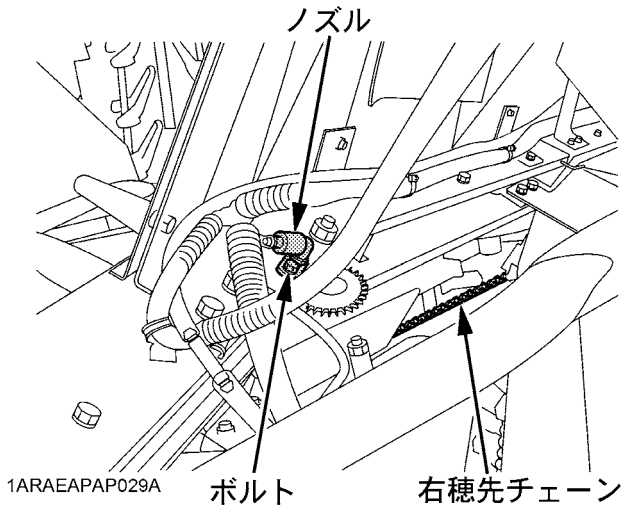
1ARAEAPAP072A


1ARAEAZAP047A 引起しチェーン　※イラストは572

●右穂先チェーン

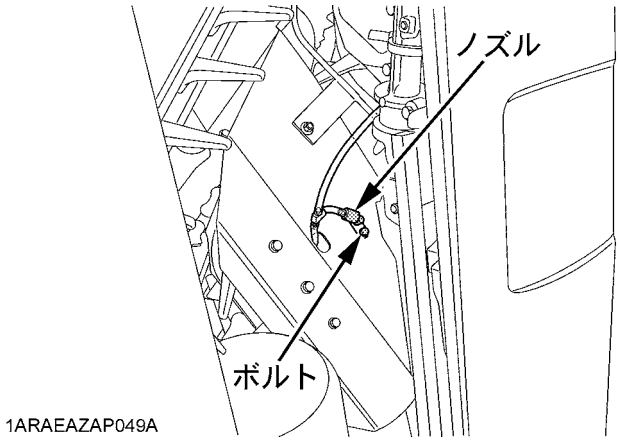
ボルトを外して右穂先カバー上を取外したあと，ボルトを外して掃除してください。掃除後は，右穂先カバー上を取付けてください。

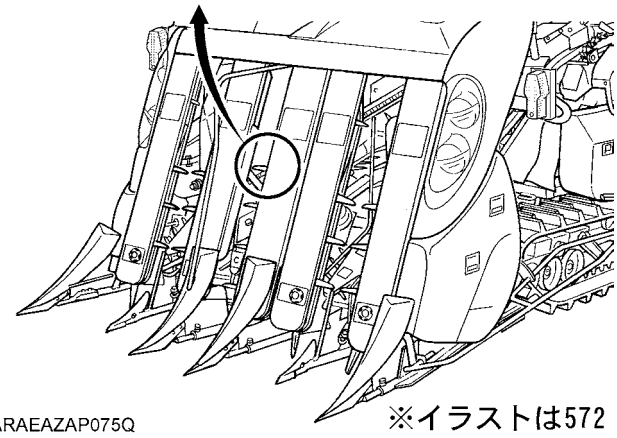




●中穂先チェーン

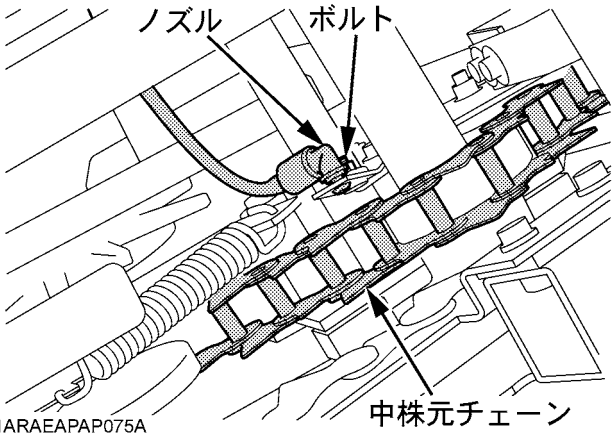
ボルトを外して掃除してください。掃除後は，ボルトを取付けてください。





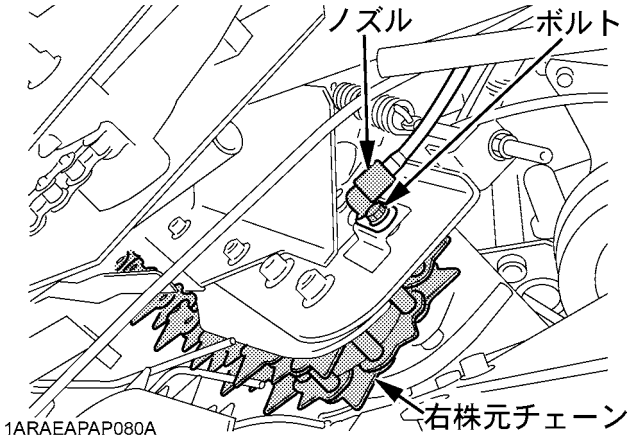
●中株元チェーン

ボルトを外して掃除してください。掃除後は，ボルトを取付けてください。



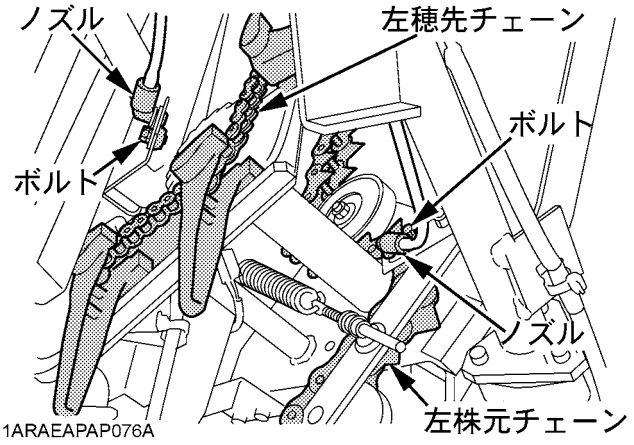
●右株元チェーン

ボルトを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けてください。



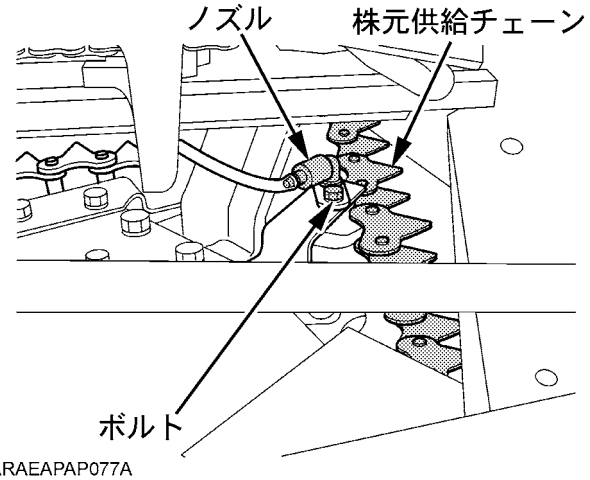
●左穂先チェーン●左株元チェーン

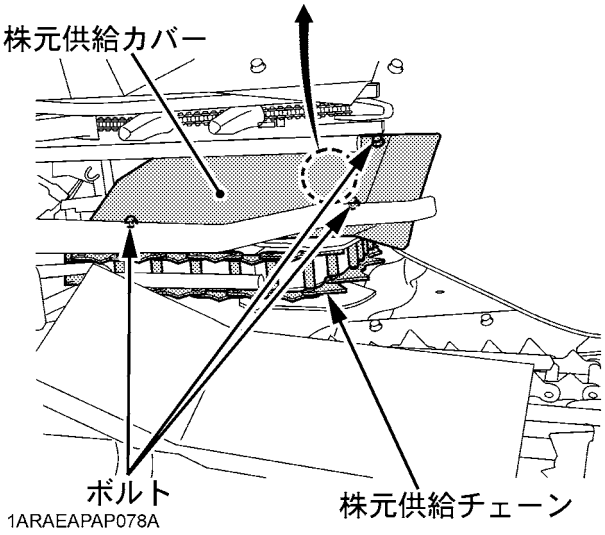
ボルトを外して掃除してください。掃除後は，ボルトを取付けてください。



●株元供給チェーン

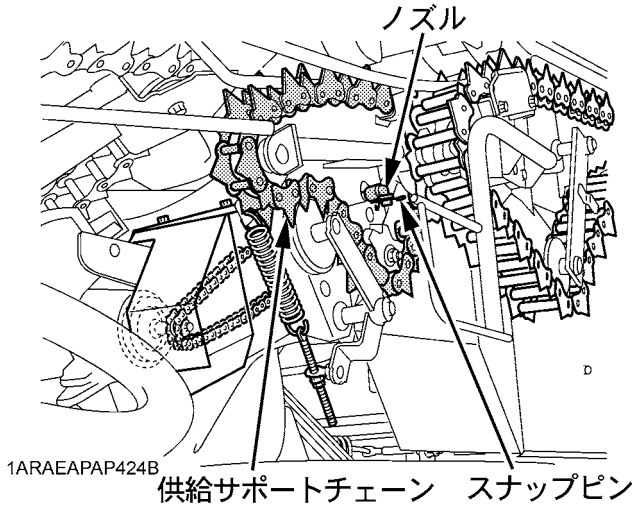
ボルトを外し，株元供給カバーを取外したあと，ボルトを固定して掃除してください。掃除後は，株元供給カバーを取付けてください。





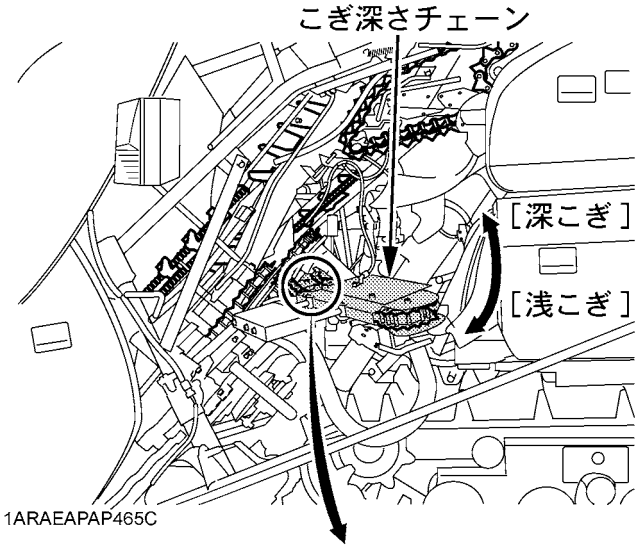
●供給サポートチェーン

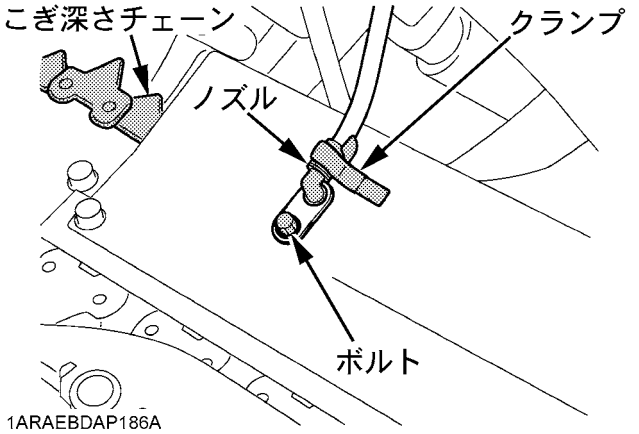
左サイドカバー上１を取外したあと，スナップピンを外して掃除してください。掃除後は，左サイドカバー上１を取付けてください。



●こぎ深さチェーン

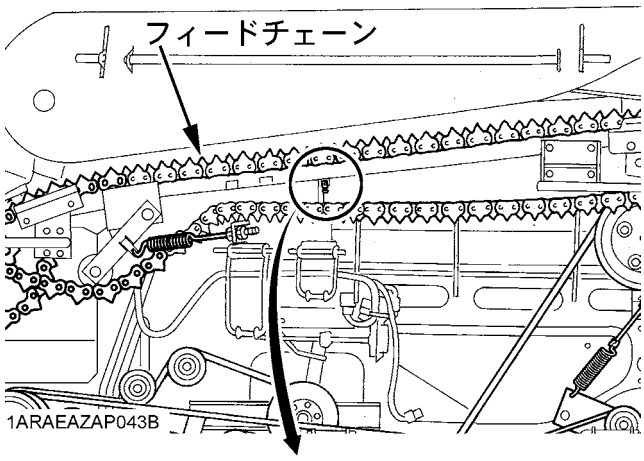
こぎ深さチェーンを**浅こぎ**位置にしたあと，クランプを外してボルトを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，ボルトを取付けてください。

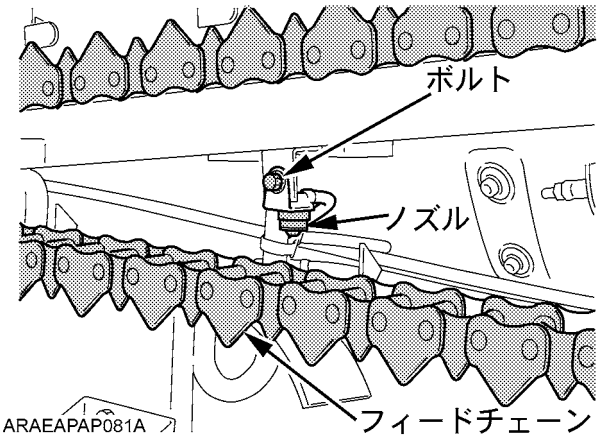




●フィードチェーン

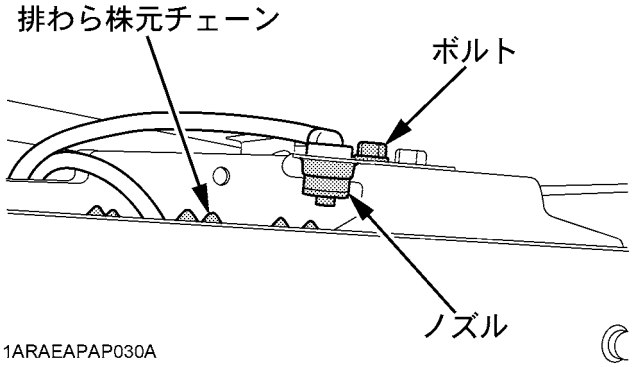
左サイドカバー上１，上２を取外したあと，ボルトを外して掃除してください。掃除後は，左サイドカバー上１，上２を取付けてください。



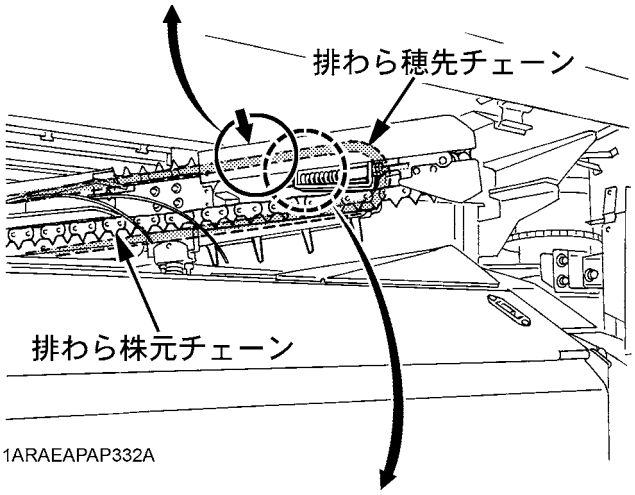


●排わら穂先チェーン●排わら株元チェーン

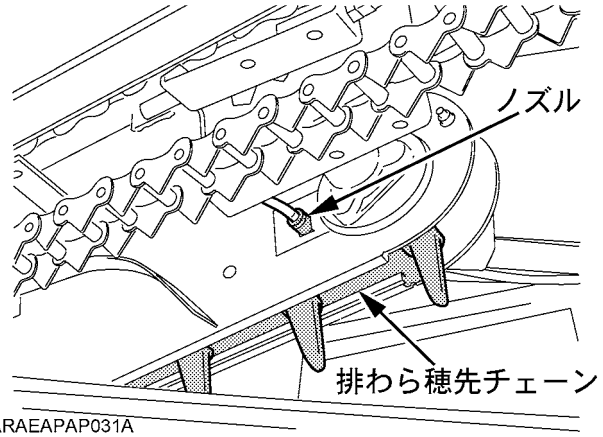
上部カバーを上げて，ボルトを外して掃除してください。掃除後は，ボルトを取付け，上部カバーを閉じてください。



1ARAEAPAP030A



1ARAEAPAP332A



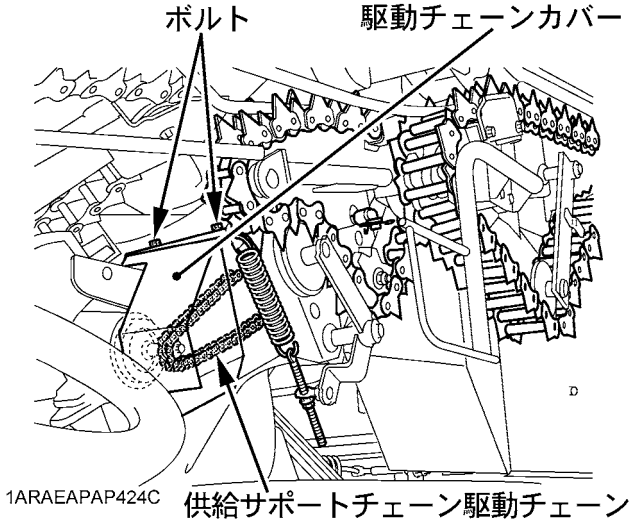
1ARAEAPAP031A

2. 手差し注油

下記箇所は油差しを使用して行なってください。

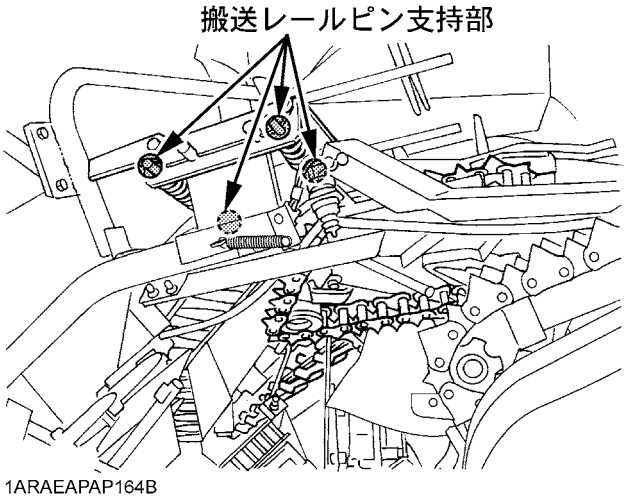
● 供給サポートチェーン駆動チェーン

1. 左サイドカバー上１を取外します。
2. ボルトを外して，供給サポートチェーン駆動チェーンカバーを取外して注油します。注油後は，供給サポートチェーン駆動チェーンカバー，左サイドカバー上１を取付けます。
3. 供給サポートチェーン駆動チェーンカバーを取付けたあと，左サイドカバー上１を取付けます。



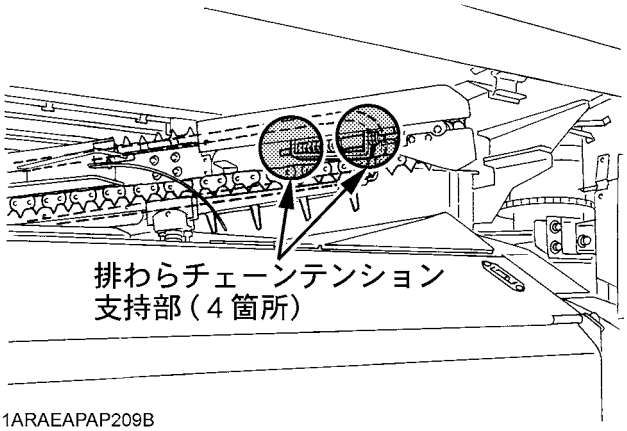
1ARAEAPAP424C

●搬送レールピン支持部



1ARAEAPAP164B

●排わらチェーンテンション支持部

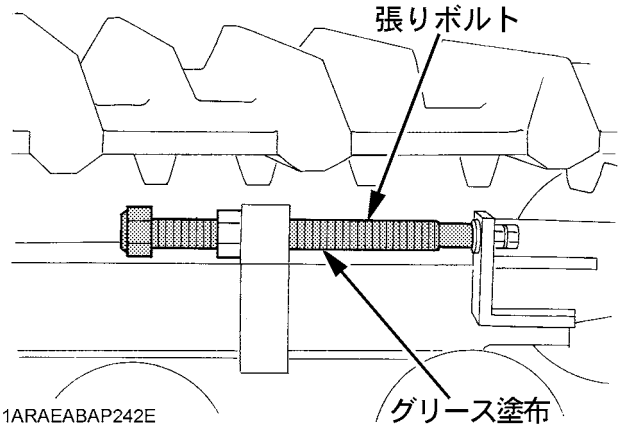


1ARAEAPAP209B

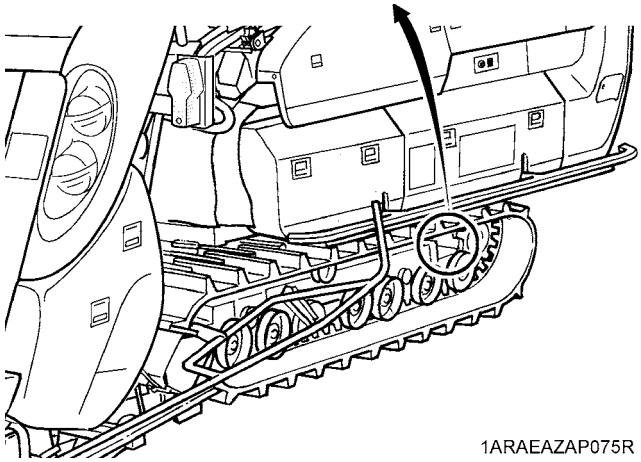
3. グリース塗布

グリースを塗布してください。

●クローラ張りボルト（左，右）



1ARAEABAP242E



1ARAEAZAP075R

◆注油・掃除後の処置と確認

注油・掃除終了後は，取外したり，オープンした掃除口カバーや安全カバーは必ず取付けてください。

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮されるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

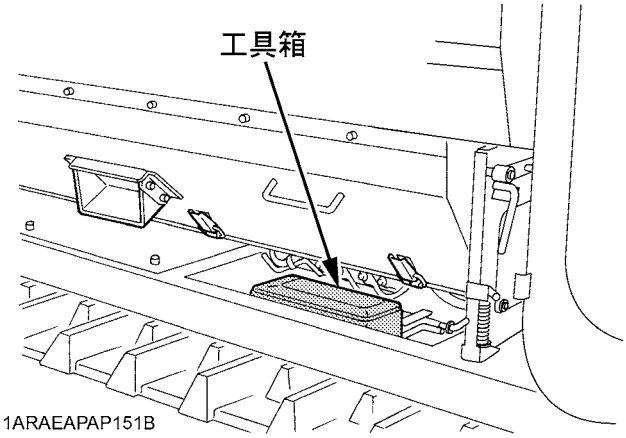
＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平たんで，周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。
＊ 工具箱は下図の位置にあります。



■オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 50 時間，クローラは初期 20，及び 50 時間で張り調整をしてください。
   (交換したときも同様です。)

■廃棄物の処理について

注　意

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

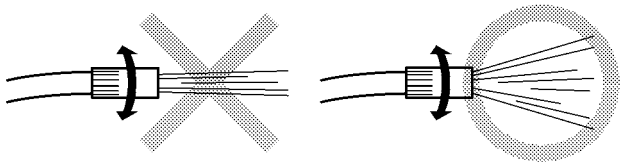
注　意

洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

重　要

＊ 洗車のしかたが不適切な場合，以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。
［例］
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

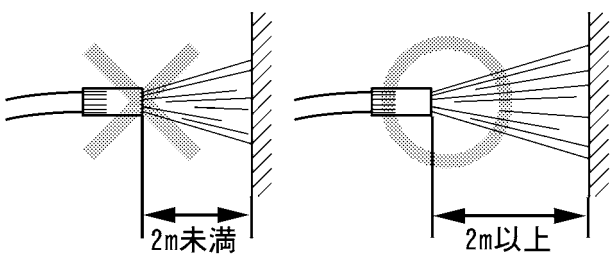
直射洗車厳禁



直射　　拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST 含む）
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

重　要

＊ 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト（1）	交換	500 時間ごと	全型式	143 ☆
ファン駆動ベルト（2）	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	
	交換	500 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
エアクリーナエレメント（内，外）	掃除	50 時間ごと（外側のみ）	全型式	127
	交換	300 時間ごと（内側は外側と同時に交換）		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	150 時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	128
	交換	300 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
フューエルフィルタカートリッジ	交換	400 時間ごと	全型式	131
油水分離器（セパレータ）	掃除	400 時間ごと	全型式	130
エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 200 時間ごと（エンジンオイルの交換と同時に交換）	全型式	133
フューエルパイプ	締付け	150 時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・設置	全型式	128 ☆
	交換	300 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	114
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	128 ☆
	交換	300 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	200 時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	128 ☆
	交換	400 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
排水ホース	締付け	200 時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	128 ☆
	交換	400 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	129
インジェクタ	点検	1500 時間ごと	698	☆
サプライポンプ	点検	3000 時間ごと	698	☆
ターボチャージャー	点検	3000 時間ごと	698	☆
◆走行・操作部				
ミッション駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	145 ☆
	交換	500 時間ごと		
駐車ブレーキワイヤ	調整	50 時間ごと	全型式	136 ☆
	交換	300 時間ごと		
パワーブレーキワイヤ	調整	50 時間ごと	全型式	☆
	交換	300 時間ごと		
ブレーキシュー	交換	500 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換	全型式	☆
HST オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 300 時間ごと（油圧オイルタンクオイルの交換と同時に交換）	全型式	134
HST 吸入フィルタ	洗浄	300 時間ごと	全型式	134
	交換	600 時間ごと		
主変速レバー連結ロッドのリンクボール	交換	500 時間ごと	全型式	☆
油圧オイルタンクフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 300 時間ごと（油圧オイルタンクオイルの交換と同時に交換）	全型式	134
クローラ	調整	初回又は，交換後：20，及び 50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	183 ☆
	交換	800 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
カムクラッチ（刈取り駆動プーリ）	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
クローラガイド（前・後）	交換	800 時間ごと	全型式	☆
トラッククローラ	交換	800 時間ごと	全型式	184
キャリアローラ，可動ローラ，ボールベアリング及びシール，モンローリンク部のブッシュ，フローティングシール	交換	800 時間ごと	全型式	☆
主フレームとスイングアーム取付けのブッシュ，ダストシール	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
車軸のオイルシール	交換	600 時間ごと	全型式	☆
ドライブローラ（スプロケット）	点検	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	185
	入換え	200 時間ごと		
	交換	400 時間ごと		
◆刈取部				
刈取駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	145 ☆
	交換	500 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	146 ☆
	交換	500 時間ごと		
刈取クラッチワイヤ	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	137 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	152 ☆
	交換	300 時間ごと		
引起し爪	交換	300 時間ごと	全型式	
引起し 65 ローラのベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しテンションスプロケット	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
引起しフレーム，引起しカバー	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
引起しスプロケット，スライドレール，クッションゴム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	157 ☆
	交換	300 時間ごと	全型式	
供給サポートチェーン駆動チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	157 ☆
供給サポートチェーンのローラテンション，ローラベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーンの駆動スプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
右穂先チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	153 ☆
	交換	300 時間ごと		
右穂先爪	交換	300 時間ごと	全型式	
右株元チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	155 ☆
	交換	800 時間ごと		
右株元チェーンのローラボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
右穂先チェーンのローラボールベアリング，アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
右穂先カバー，右穂先フレーム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
右株元当て板，左穂先フレーム（上，下）	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
左株元レール，中株元レール，供給フレームガイド，供給ガイド，株元押え	交換	800 時間ごと	全型式	☆
中穂先チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	153 ☆
	交換	300 時間ごと		
中穂先爪	交換	300 時間ごと	全型式	
中株元チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	155 ☆
	交換	800 時間ごと		
中株元チェーンのローラボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
中穂先チェーンのローラボールベアリング，アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
中穂先フレーム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
株元供給チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	154 ☆
	交換	800 時間ごと		
株元供給チェーンのローラボールベアリング，テンションローラボールベアリン	交換	500 時間ごと	全型式	☆
左穂先チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	153 ☆
	交換	300 時間ごと		
左穂先爪	交換	300 時間ごと	全型式	
左株元チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	155 ☆
	交換	800 時間ごと		
左株元チェーンのローラボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
左穂先チェーンのローラボールベアリング，アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さチェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	157 ☆
	交換	800 時間ごと		
こぎ深さテンションローラのボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さチェーン押え	交換	800 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さフレームガイド	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
刈刃	調整	100 時間ごと	全型式	159 ☆
	交換	200 時間ごと		
刈刃クランクピン，ローラ，ベアリング，ベアリングホルダ，オイルシール	交換	500 時間ごと	全型式	☆
株元センサ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
穂先センサ（株元側，穂先側）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	800 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆脱こく部				
脱こく駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	145 ☆
	交換	800 時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	146 ☆
	交換	500 時間ごと		
脱こくクラッチワイヤ	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	137 ☆
	交換	500 時間ごと		
フィードチェーンクラッチワイヤ	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	136 ☆
	交換	500 時間ごと		
トウミ駆動ベルト	交換	500 時間ごと	全型式	145
１番駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	147 ☆
	交換	500 時間ごと		
２番駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	147 ☆
	交換	500 時間ごと		
２番トウミ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	698	148
	交換	500 時間ごと		
揺動駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	148 ☆
	交換	500 時間ごと		
排わらチェーン駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	149 ☆
	交換	500 時間ごと		
フィードチェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	158 ☆
	交換	500 時間ごと		
排わら穂先チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	159 ☆
	交換	500 時間ごと		
排わら穂先搬送爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
排わら株元チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	158 ☆
	交換	500 時間ごと		
わら切刃（株元側）	交換	150 時間ごと	全型式	164
わら切刃（穂先側）	組換え	100 時間ごと	全型式	164
	交換	150 時間ごと		
こぎ歯	交換	300 時間ごと	全型式	163
受あみ	交換	400 時間ごと	全型式	82
フロントハンプ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
1 番縦スクリュ	交換	800 時間ごと	全型式	☆
1 番スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
2 番スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
2 番処理ケース	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
ツース（2 番固定歯）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ツース（2 番回転歯）	交換	500 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
排わらチェーン押え	調整	250 時間ごと	全型式	149 ☆
	交換	500 時間ごと		
打抜きあみ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
チャフ操作ワイヤ	調整	250 時間ごと	全型式	☆
	交換	500 時間ごと		
各ベアリング	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
揺動ベアリングホルダ	交換	800 時間ごと	全型式	☆
揺動アーム	交換	800 時間ごと	全型式	☆
チャフシーブ，支点ピン，チャフ押え，チャフプレート	交換	800 時間ごと	全型式	☆
レール 1，2，3	点検	200 時間ごと	全型式	☆
	交換	600 時間ごと	全型式	☆
トウミ変速プーリのブッシュ	交換	600 時間ごと	全型式	☆
フィードチェーンクラッチピン	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
上唇板 2	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
上唇板ハンプ 1，2	交換	250 時間ごと	全型式	☆
こぎ胴座金	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
各ブッシュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
◆グレンタンク部				
タンク駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	149 ☆
	交換	500 時間ごと		
タンククラッチ駆動ベルト（もみ排出クラッチベルト）	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	150 ☆
	交換	400 時間ごと		
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	全型式	174
各スクリュ軸	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
◆カッタ部				
カッタ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	149 ☆
	交換	400 時間ごと		
排わら切換えワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	138 ☆
	交換	500 時間ごと		
カッタ刃	調整	300 時間ごと	全型式	170 ☆
	交換	500 時間ごと		
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 200 時間ごと	全型式	166
各ベアリング	交換	1000 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆電装部				
バッテリ	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	175
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス，バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	175,179 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	179
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	182
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	182 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量 (L)	種　類	参照ページ
			点検	処置			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	—	・容量……約 86	ディーゼル軽油	114
オイル	エンジン	補給・交換		・初回…50 時間目 ・2 回目以降…200 時間ごと又は，1 年ごとの早いほうで交換	・容量……約 12.3 ＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間	クボタ純オイル **[572]**… D10W-30 スーパー CD **[698]**… D10W-30 スーパー CF	115
	集中注油オイルタンク	補給		—	・容量……約 1.5	クボタ純オイル D10W-30 又は，UDT	94
	トランスミッションケース	補給・交換	50 時間ごと	・初回…50 時間目 ・2 回目以降…300 時間ごと	＊規定量……約 10.0 検油口からオイルがにじむまで	クボタ純オイル スーパー UDT-2	117
	油圧オイルタンク				＊規定量……約 26 検油口からオイルがにじむまで		118
	HST 入力フランジ	交換	—	300 時間ごと	・容量……約 0.2		119
	刈刃駆動ケース	給油	—		・容量 **[572]** ……1.9 ～ 2.0 **[698]** ……2.3 ～ 2.4		118 ☆
	フィードチェーン駆動ケース	補給			・容量……約 0.6		120 ☆
	各トラックローラ部	注油	作業シーズン終了後	—	＊規定量…… 約 0.1	クボタ純オイル D10W-30 又は， M80B 又は，M90	121 ☆
	レール台ブッシュ部				適　量		120 ☆
	搬送レールピン支持部		作業前又は，作業後				94
	排わらチェーンテンション部（株元，穂先）						
	各チェーン部						
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水・交換	作業前又は，作業後	2 年ごと（冬期停止時は排出又は，不凍液を入れる）	＊規定量 タンク側面の **L**（下限）と **F**（上限）の間 **L**(LOW)……0.15 **F**(FULL) …1.1	清水	124

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	処置			
グリース	**◆エンジン部**						
	エンジン正逆転ファン部	補給	500 時間ごと	—	適　量	クボタ純グリース No.2	122
	◆走行部						
	スイングアーム部	補給	作業シーズン終了後	—	適　量	クボタ純グリース No.2	122
	ボス支点部						
	◆刈取部						
	刈取部各ケース	補給	分解時	—	適　量	クボタ純グリース No.2	122 ☆
	刈取軸受						
	◆脱こく部						
	排わらベベルケース	補給	分解時	—	適　量	クボタ純グリース No.2	☆
	１番・２番各ケース						
	トウミプーリ部		200 時間ごと				
	◆グレンタンク部						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	—	適　量	クボタ純グリース No.2	☆
	アンローダケース 1,2,3						
	縦スクリュケース アンローダブラケット部		200 時間ごと				122
	縦スクリュケース 旋回モータベース部						
	アンローダケース 2						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換

注　意

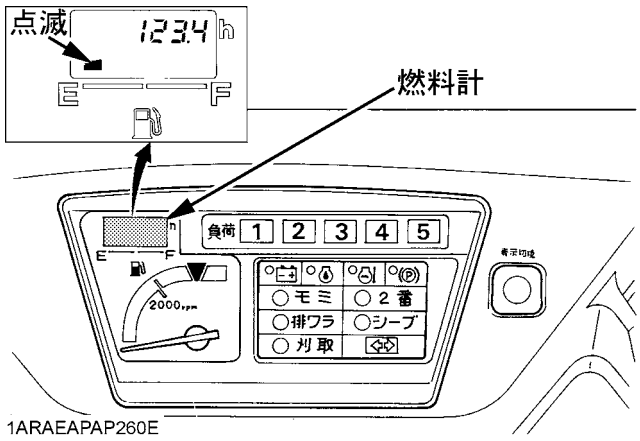
＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。
＊ 燃料やオイルを補給又は，交換したあと，こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また，燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。

重　要

＊ 点検するときは，水平で平坦な場所にコンバインを移動して行なってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。
＊ コンバインの故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- オイルを補給するときは，現在使用しているオイルと同じメーカ・同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また，異なるメーカ・異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは，オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
- 燃料やオイルを補給・交換するときは，ゴミや異物の混入を防ぐため，給油口付近を掃除してください。また，給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
- オイルを補給するとき，規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
- 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル･クボタ純グリース**を使用してください。

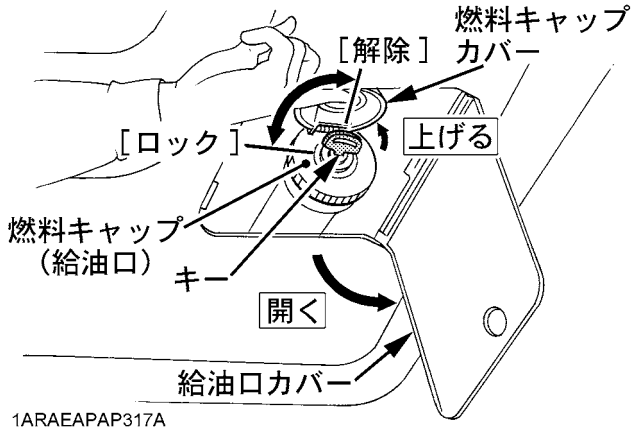
■燃料

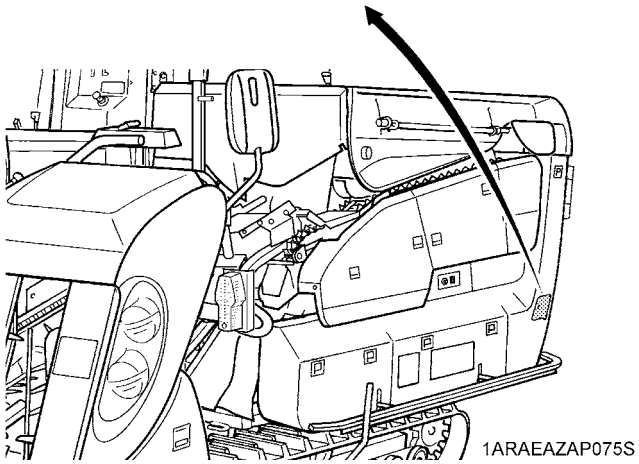
メータユニットの燃料計の最後の１目盛が点滅し，ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。



◆ 給油

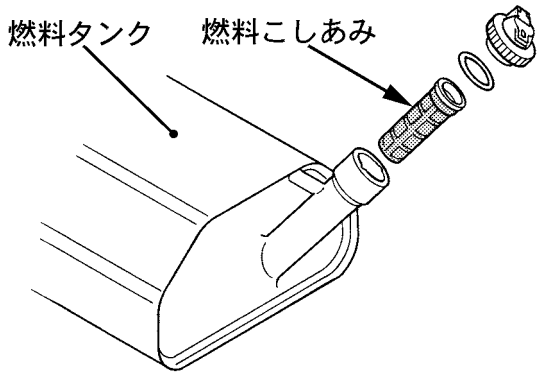
給油を行なうときは，給油口カバーを開き，燃料キャップのカバーを上げたあと，キーを左に 90 度回してロックを解除してから燃料キャップを外してください。





重　要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



1ARAEAPAP318A

◆ 給油

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき，ブザーが鳴ります。給油後は燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 86L

補　足

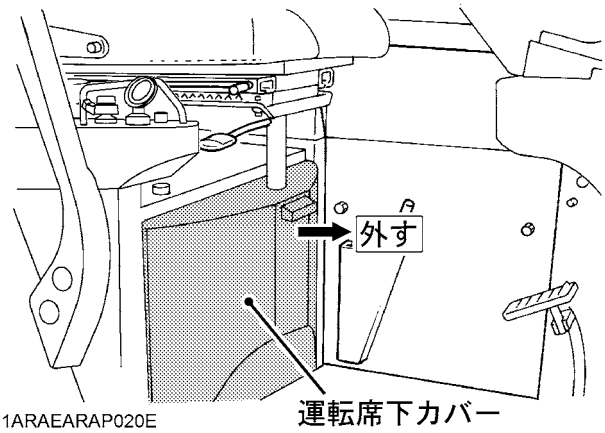
＊ 給油が終わったあとは，必ずキーをロックして抜取ってください。
＊ **満タンお知らせ機能**は，ブザーが 5 回鳴ると停止します。
＊ ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。
＊ **満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。
- エンジン停止後約 20 秒間
- 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき

■エンジンオイル

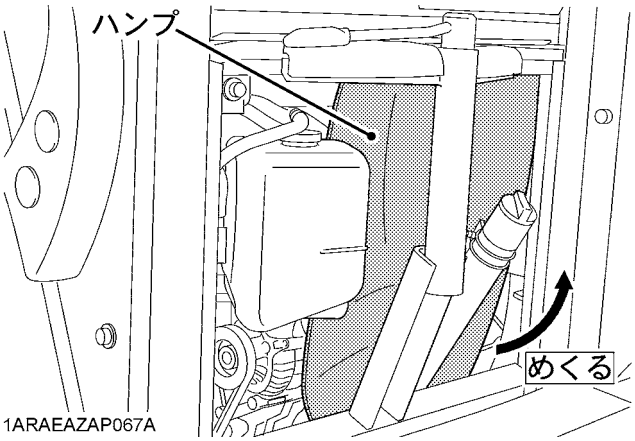
注　意

＊ 点検・補給・交換をするときは，エンジンを必ず止めて，エンジンがじゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。ヤケドするおそれがあります。

運転席下カバーを取外したあと，ハンプをめくり上げてください。点検・補給・交換後は，運転席下カバーを取付けてください。



1ARAEARAP020E



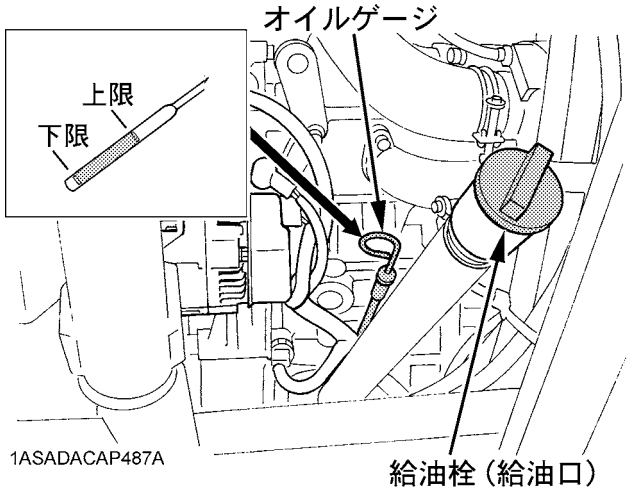
1ARAEAZAP067A

重　要

＊ エンジンオイルをオイルゲージの**上限**以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

◆ 点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



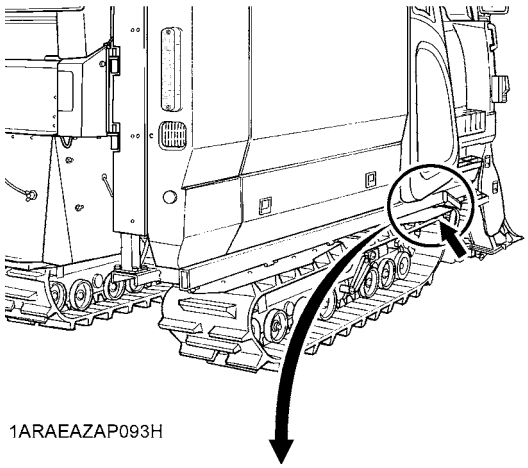
◆ 交換

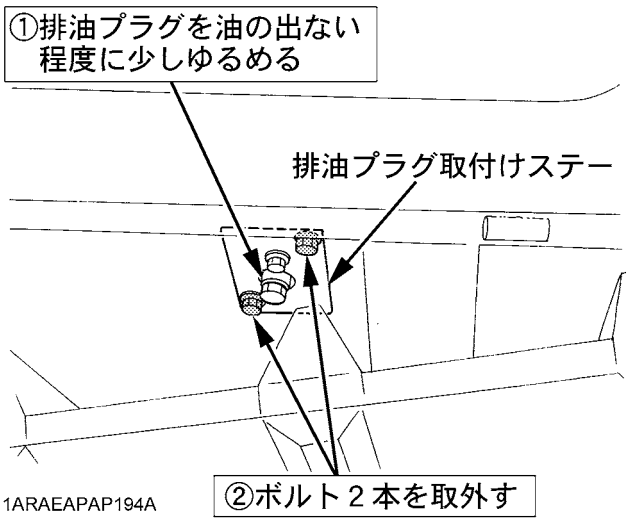
補　足

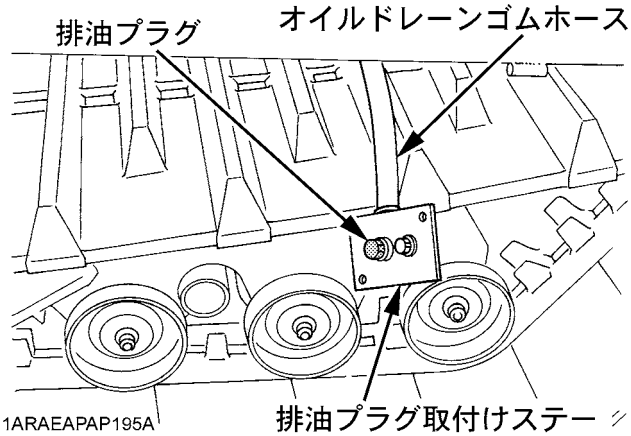
＊ オイルの交換と同時に，エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。(133ページ参照)

● 排油のしかた

1. ボルトを２本取外し，排油プラグ取付けステーを機体から取外したあと，排油プラグ取付けステーをオイルドレーンゴムホースといっしょに引出して，準備している容器の上で排油プラグを外し，オイルを排出します。







2. 排油プラグ取付けステーを取付けます。
3. 排油プラグを取付けます。

重　要

＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生したり，取付けステーを付け忘れると，ホースがクローラと接触して破損するおそれがあります。

● 給油のしかた

1. 給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

オイルの種類	規定オイル量
クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） **[572]**…… D10W-30 スーパー CD **[698]**…… D10W-30 スーパー CF	約 12.3L

※ D10W-30 スーパー CD **[572]**，D10W-30 スーパー CF **[698]** はオールシーズン用です。

2. エンジンを始動し，アイドリング状態で約１分間運転します。
3. エンジンを停止したあと，５分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。
4. オイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給します。

■トランスミッションケースオイル

注　意

＊ 刈取部を上げて点検・補給・交換を行なうときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

補　足

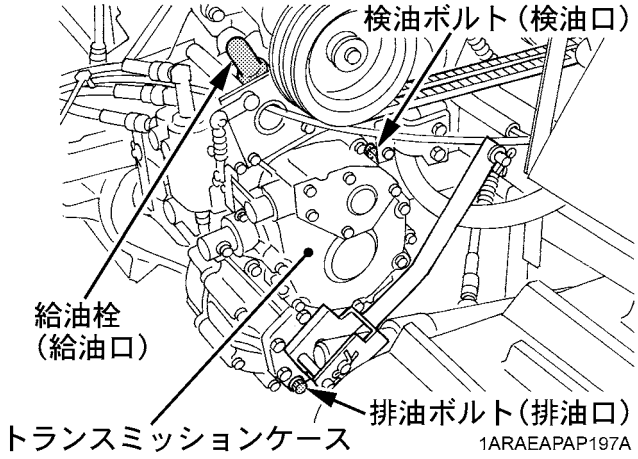
＊ オイルの交換と同時に，HST オイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジも交換してください。

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 10.0L

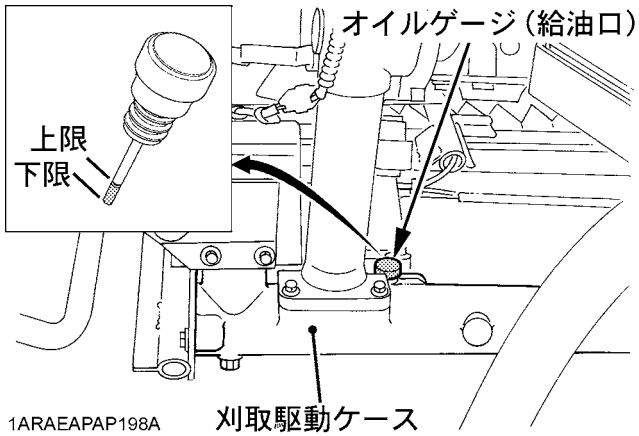
重　要

＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

■刈刃駆動ケース

◆ 給油

刈取部を接地させたあと，オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み，オイルゲージをいっぱいまで押し込んでから抜き，ゲージの**上限と下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

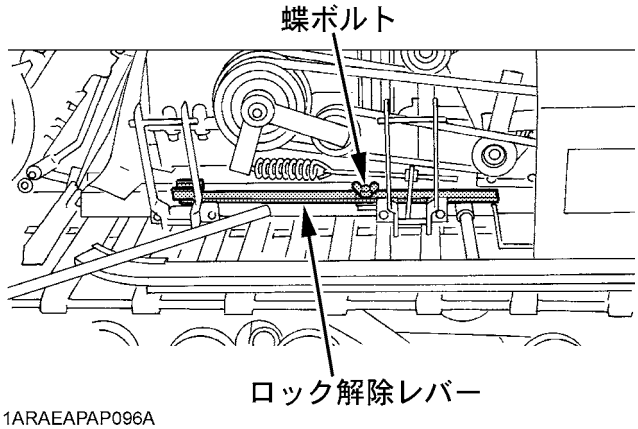


1ARAEAPAP198A

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	**[572]** …1.9 ～ 2.0L **[698]** …2.3 ～ 2.4L

■油圧オイルタンクオイル

左サイドカバー下１を取外したあと，蝶ボルトを外してこぎ胴ロック解除レバーを外してください。点検・補給・交換後は，左サイドカバー下１を取付けてください。



1ARAEAPAP096A

◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

補　足

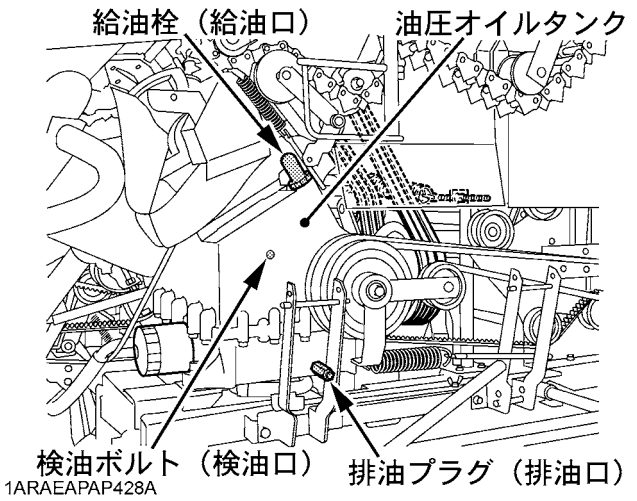
＊ オイルの交換と同時に，HST オイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジも交換してください。

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 26L

重　要

＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから再度点検を行ないオイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給してください。

補　足

＊ 規定オイル量は工場出荷時の給油量です。オイル交換後の実際に補給するオイル量は，ホース内などに残っているオイルにより，少なくなりますので，検油口からオイルがにじみ出たときに補給を停止してください。

■ HST 入力フランジのオイル

注　意

＊ 刈取部を上げて交換を行なうときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

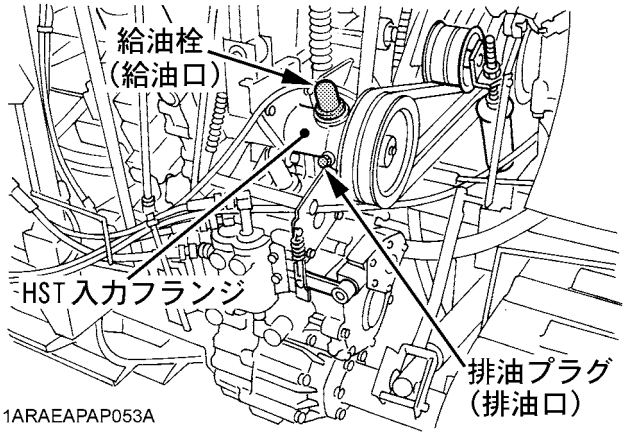
◆ 交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 0.2L

■フィードチェーン駆動ケースオイル

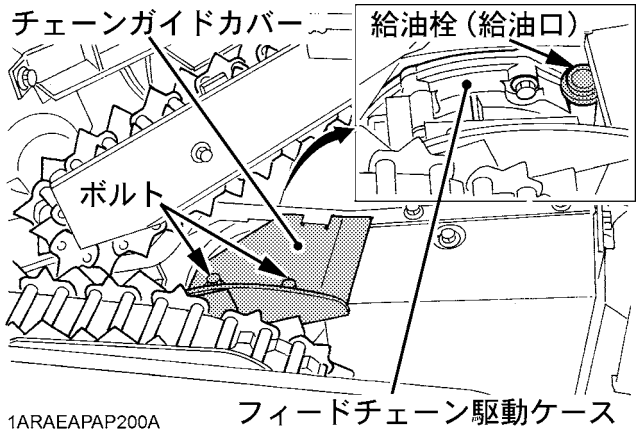
警 告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

こぎ胴をオープンしたあと，ボルトを取外してチェーンガイドカバーと左サイドカバー後を外します。

◆ 補給

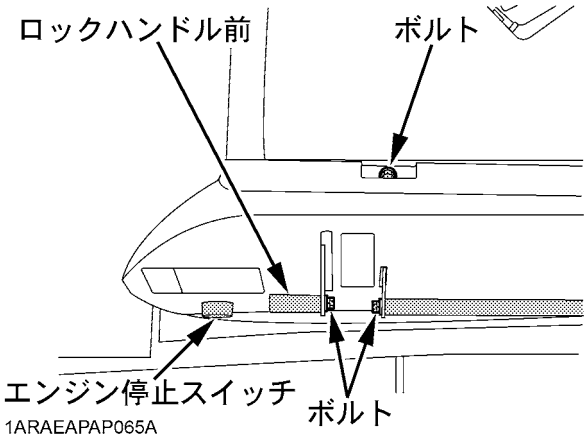
給油栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後は，チェーンガイドカバーと左サイドカバー後を取付けたあと，こぎ胴を閉じてください。

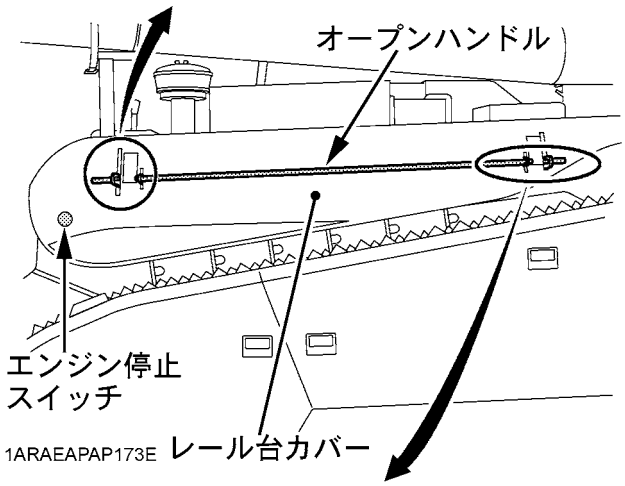


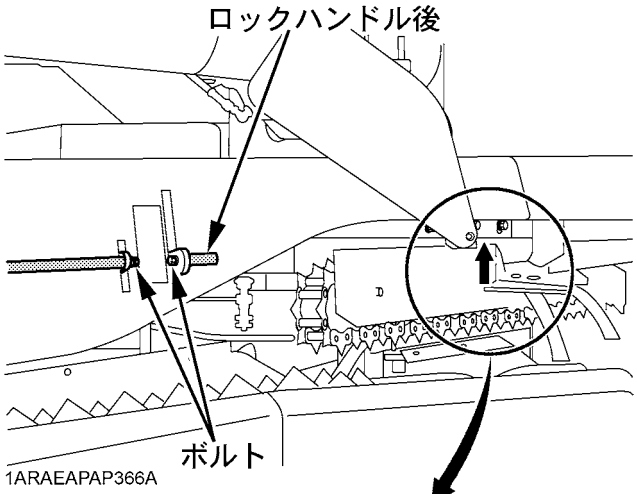
オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 0.6L

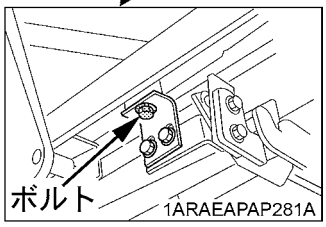
■レール台ブッシュへの注油

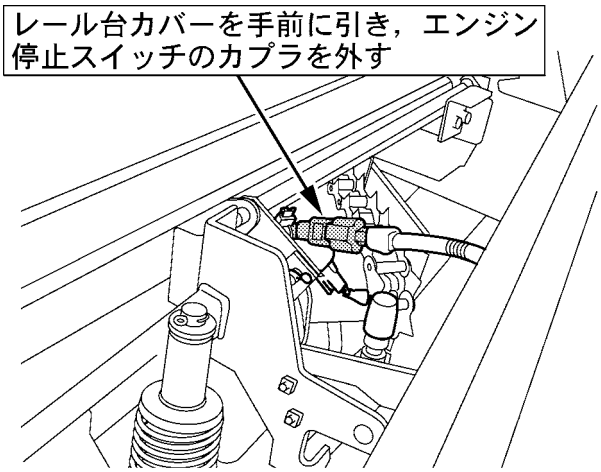
1. 補助デッキを引出します。
2. ロックハンドル前，後とオープンハンドルの取付ボルトを取外し，各ハンドルを外します。
3. ボルト２本を取外してレール台カバーを外します。



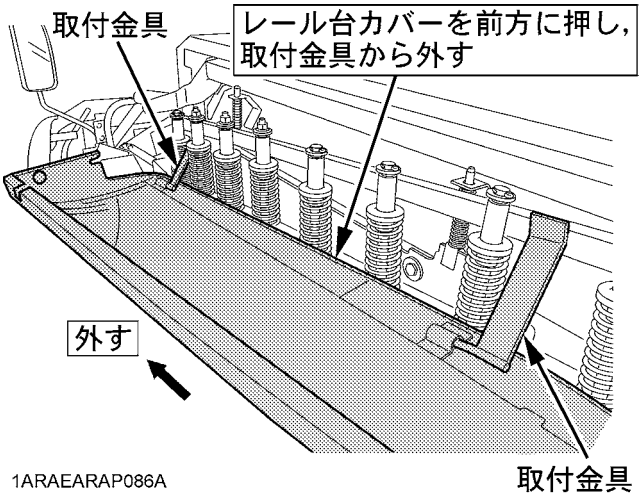






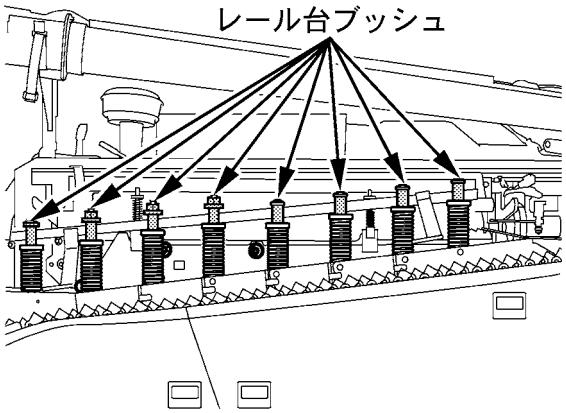


1ARAEAPAP297A



1ARAEARAP086A

4. レール台ブッシュに注油します。

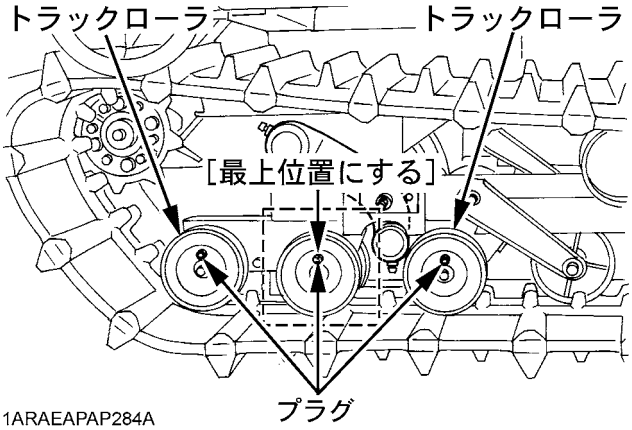


1ARAEARAP087A

5. 取外しと逆の手順でレール台カバー及び各ハンドルを取付けます。
6. 補助デッキを収納します。

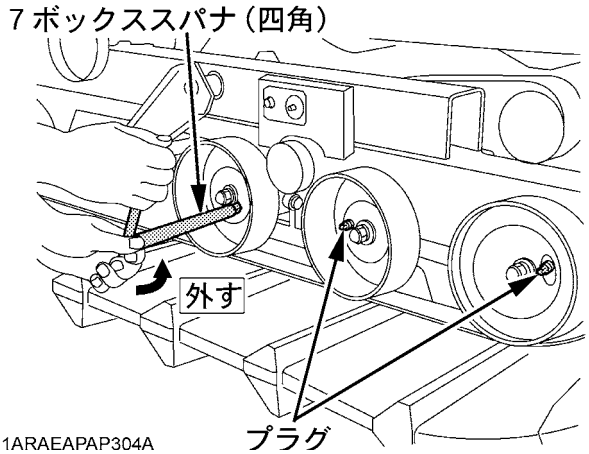
■トラックローラ部への注油

1. トラックローラのプラグを最上位置にして機体を止めます。



1ARAEAPAP284A

2. 付属部品の７ボックススパナ（四角）を使用してプラグを取外します。



1ARAEAPAP304A

3. 油差しでオイルが少しあふれるまで注油します。

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル D10W-30 又は，M80B 又は，M90	約 0.1L

4. プラグのネジ部に油漏れ防止のシールテープを巻付けます。

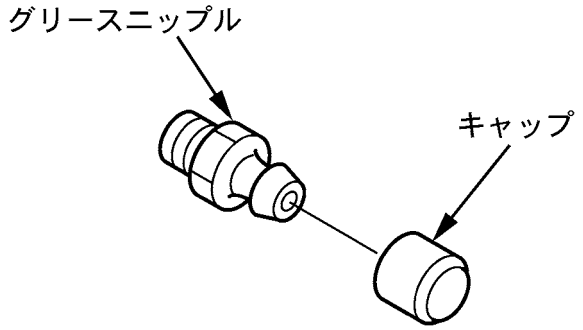
補　足

＊ シールテープは購入先に連絡して入手してください。

5. プラグを締付けます。
6. 同じ要領で他のトラックローラにも給油します。

■各部のグリース

クボタ純グリース No.2 をグリースニップルから補給してください。また，走行部にグリースの補給を行なうときは，各グリースニップルのキャップを取外してください。また，補給が終わったあと，各グリースニップルにキャップを取付けてください。

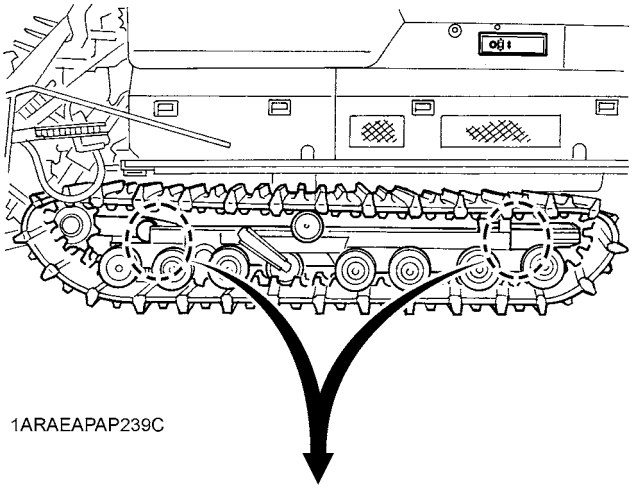


1ARADBNAP350A

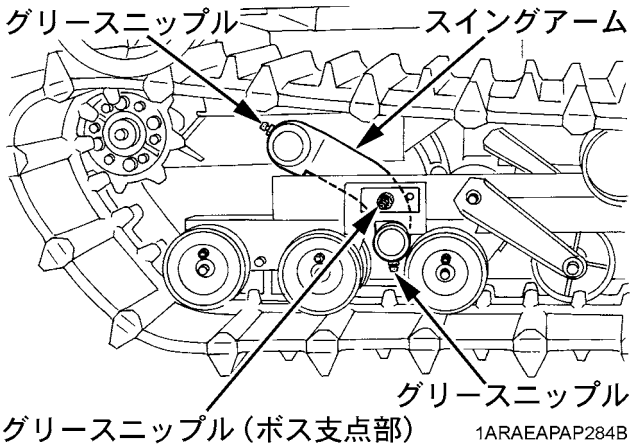
補　足

＊ グリースニップルはストレートタイプとＬ字タイプがあります。
＊ グリース注入後は，グリースニップルのキャップを必ず取付けてください。洗車時に水が浸入するおそれがあります。

◆ スイングアーム部（左，右８箇所）
◆ ボス支点部（左，右２箇所）



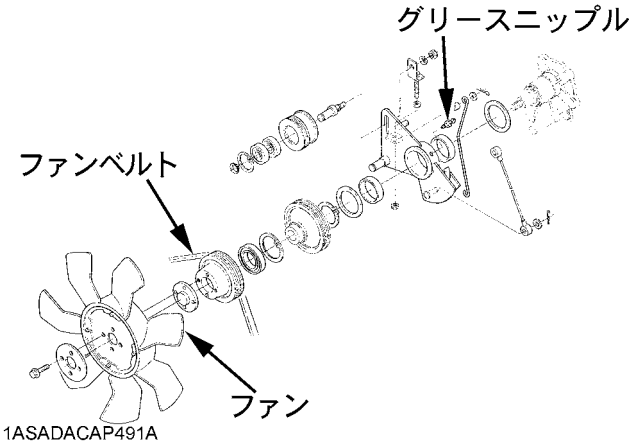
1ARAEAPAP239C



1ARAEAPAP284B

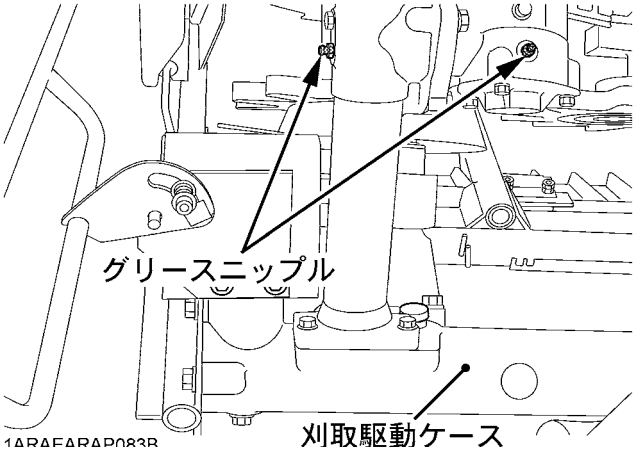
◆ エンジン正逆転ファン部

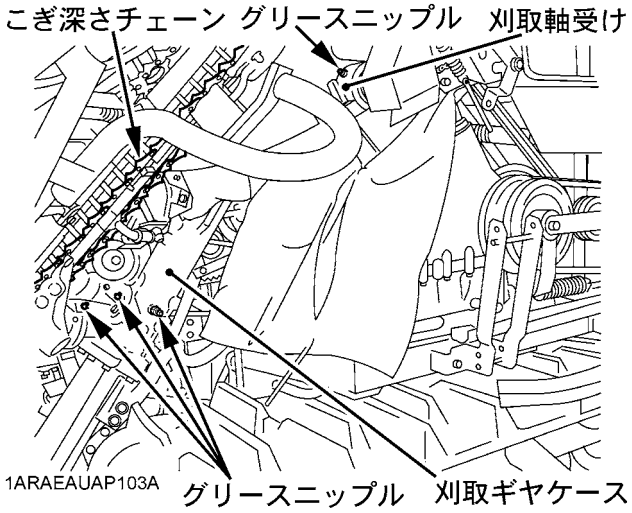
グレンタンクをオープンし，運転席後カバーを取外したあと，風向板を取外してください。
（143 ページ参照）

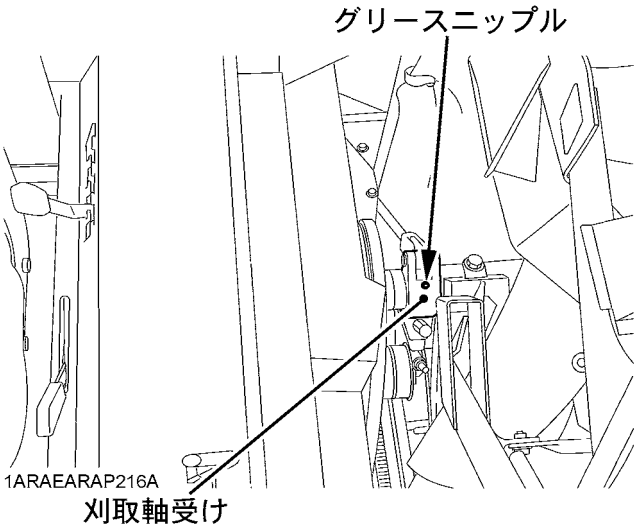


1ASADACAP491A

◆ 刈取部

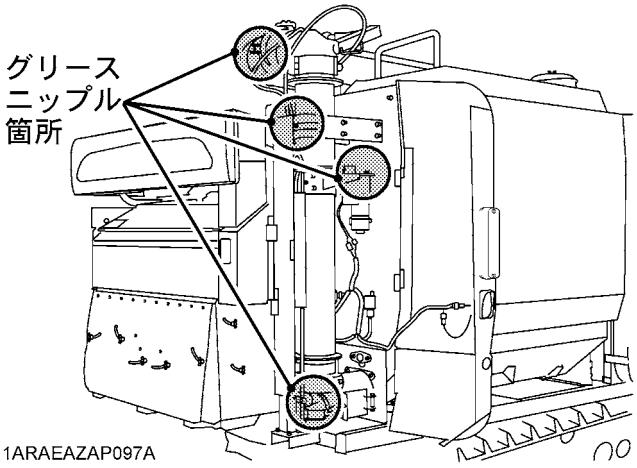


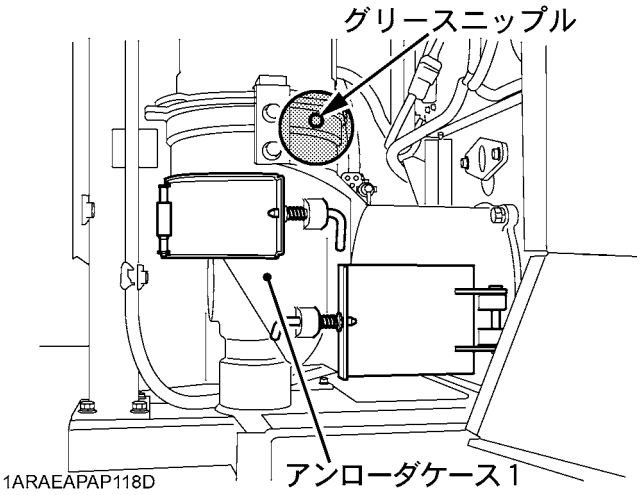


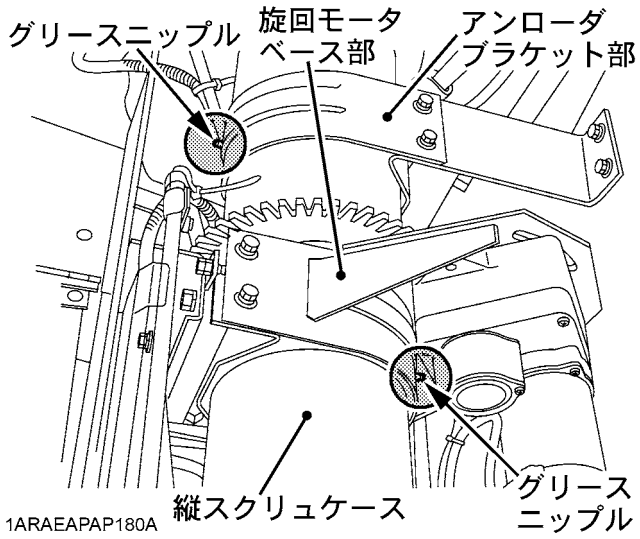


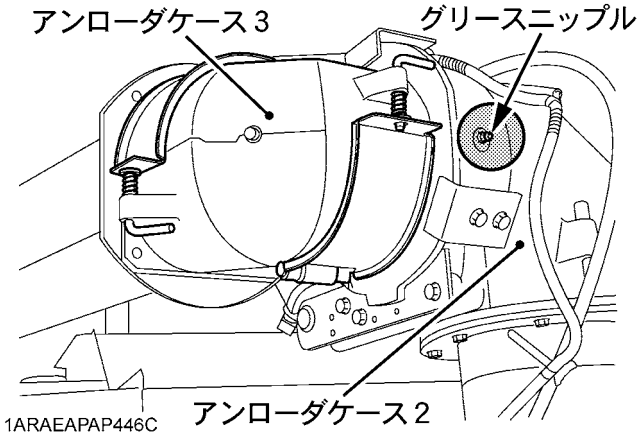
◆ アンローダ部

グレンタンク後部カバーを開いてください。また，旋回モータベース部のグリースの補給は，グレンタンクをオープンして行なってください。









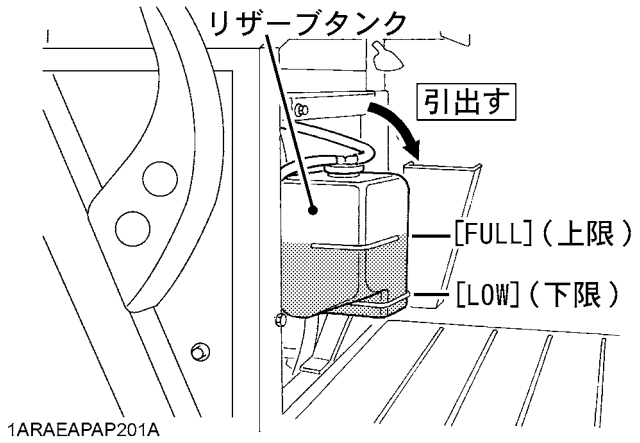
■ラジエータ冷却水の点検・交換

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。

◆ 点検

運転席下カバーを外したあと，水量が**[LOW]**（下限）と**[FULL]**（上限）の間にあるか確かめます。**[LOW]**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクを引出し，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。補給後は，リザーブタンクのキャップを取付けたあと，運転席下カバーを取付けてください。



重　要

＊ オーバーヒート時は，ラジエータ内の冷却水の水量を確認し，水量が不足しているときは，清水を補給してください。

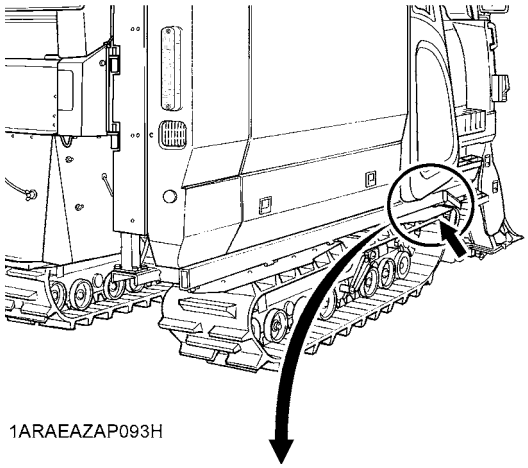
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補　足

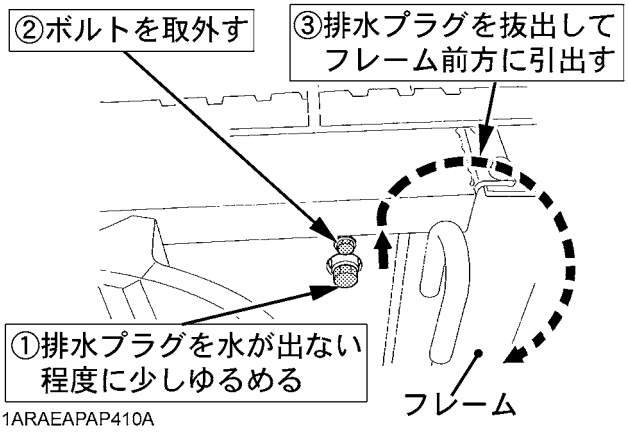
＊ **[FULL]**（上限）の線以上は補給しないでください。

◆ **交換**

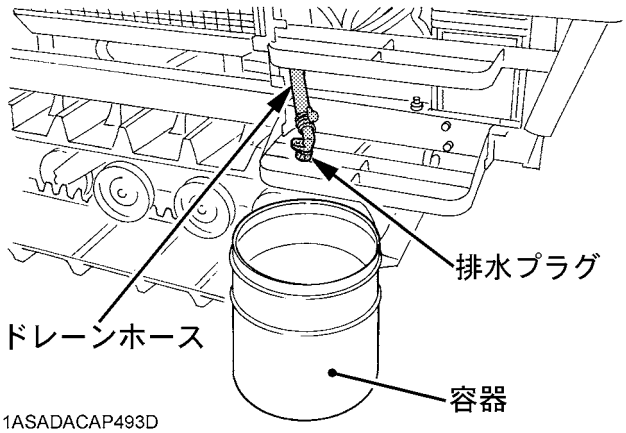
1. ボルトを取外し，排水プラグを排水ホースといっしょに引出して，準備している容器の上で排水プラグを外し，排水します。



1ARAEAZAP093H

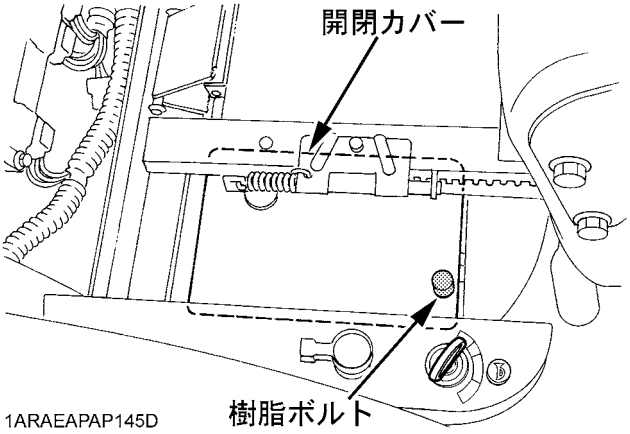


1ARAEAPAP410A

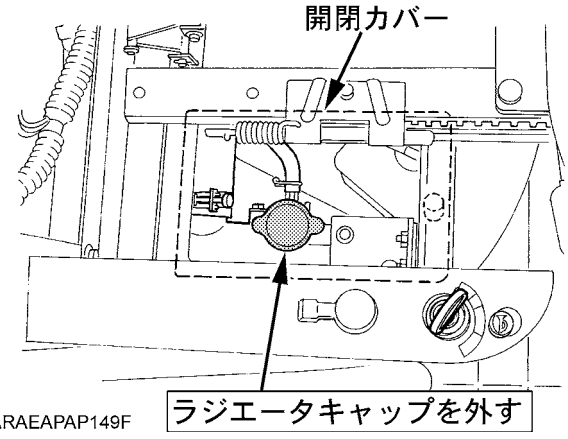


1ASADACAP493D

2. 運転席下にあるラジエータ冷却水の点検カバーの樹脂ボルトを外して，カバーを取外し，ラジエータキャップを外します。

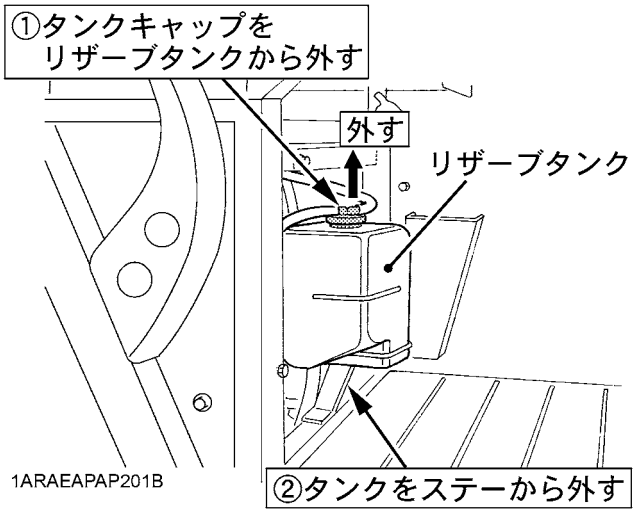


1ARAEAPAP145D



1ARAEAPAP149F

3. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，ステーからリザーブタンクを外して排水します。



1ARAEAPAP201B

4. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。
5. リザーブタンクを取付けます。
6. 排水口をボルトで取付けて，排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。
＊ 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。エンジンの故障の原因となります。
＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● **不凍液混合比率表**

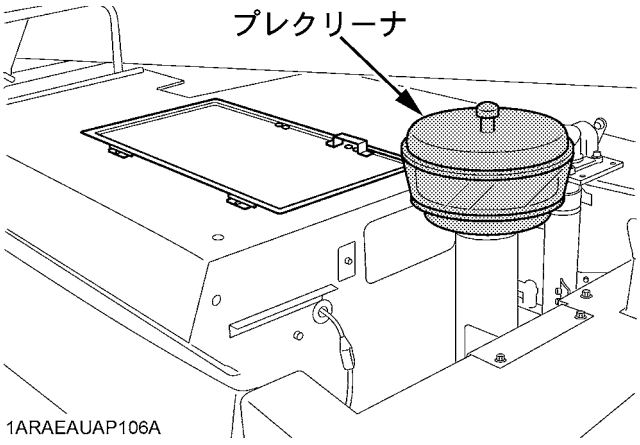
外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

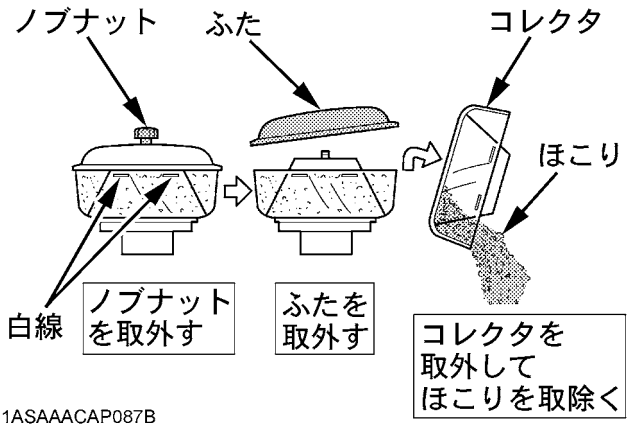
※出荷標準：不凍液 50％
※ラジエータ容量：7.9L
（リザーブタンク容量は含まない）
※新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，冷却水が冷えてからラジエータキャップを取外して冷却水の補充とリザーブタンクの水量をたしかめておいてください。

7. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。
8. 運転席下カバーを取付けます。

■プレクリーナの点検・掃除

ほこりの量がプレクリーナのコレクタ側面の白ラインを越えているときは，ノブナットをゆるめて次の要領でほこりを取除いてください。





重　要

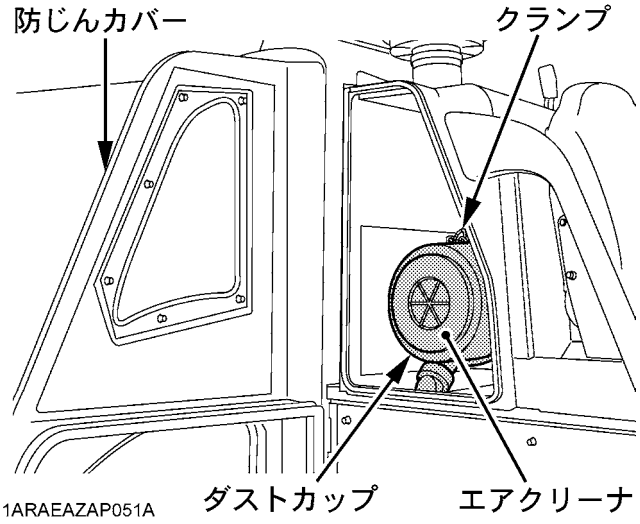
＊ 乾式のフィルタなのでオイルは入れないでください。

補　足

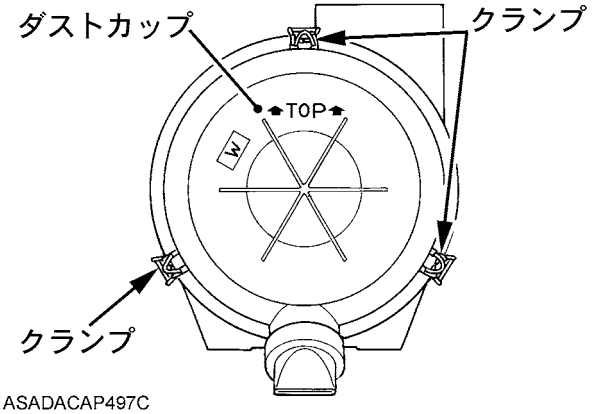
＊ ほこりが溜まるとエアクリーナの詰まりの原因となります。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

防じんカバーを開き，クランプ３箇所を外してダストカップを取外してください。



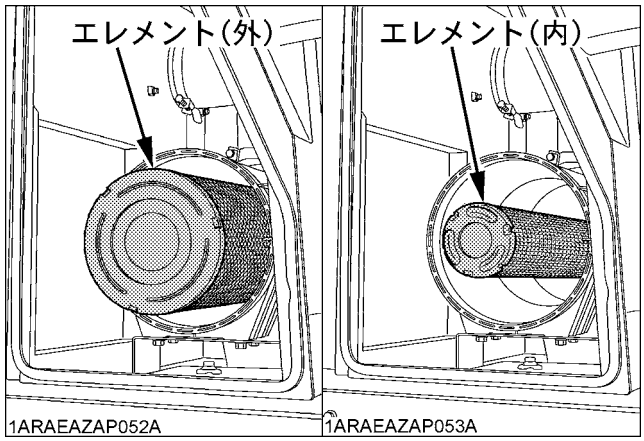
1ARAEAZAP051A



1ASADACAP497C

◆ 点検・掃除・交換

エアクリーナエレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントを掃除するときは，エレメント（外）のみを引抜いて取外したあとエレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や 300 時間経過しているときは，交換してください。エレメント（内）は，エレメント（外）を交換するとき，同時に交換してください。



1ARAEAZAP052A　1ARAEAZAP053A

重　要

＊ 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

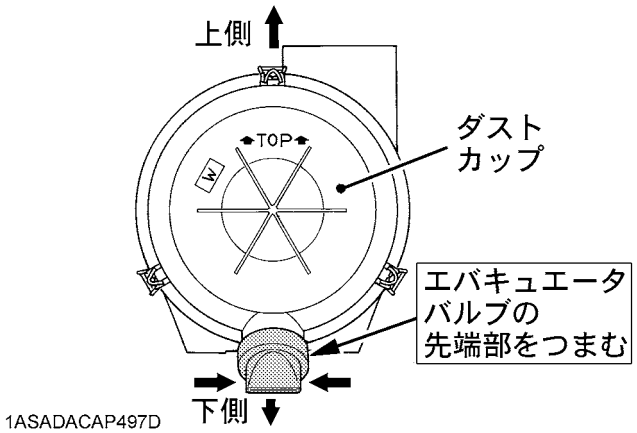
＊ エレメント（内）は，交換するとき以外は触らないでください。掃除時に取外すとごみの混入により，エンジンの故障の原因となります。

＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。

＊ エレメントを掃除する場合，エアの圧力は 205kpa（2.1kgf/cm²）をこえないよう注意し，エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

補　足

＊ エアクリーナの点検を行なったときは，ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。
＊ ダストカップを取付けるときは**【TOP】**の文字を上側にしてください。



■パイプ･ホース類の点検

注　意

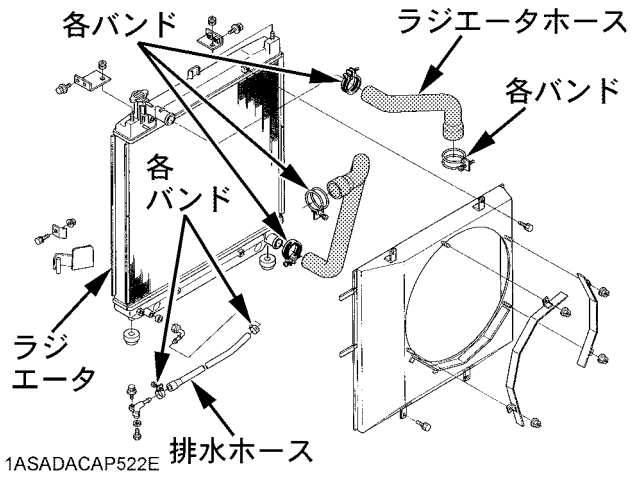
＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。
＊ 使用者は交換作業を行なわないでください。

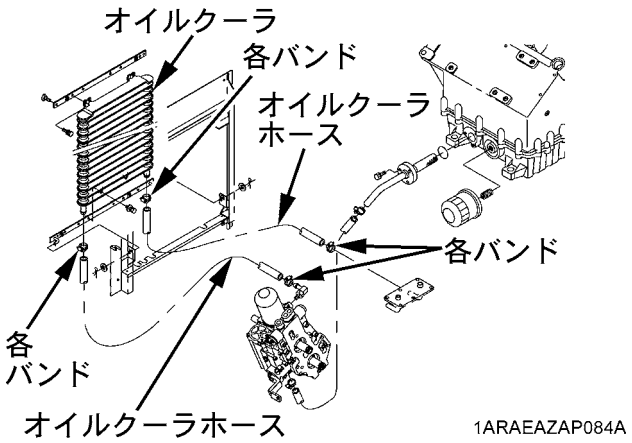
◆ 点検

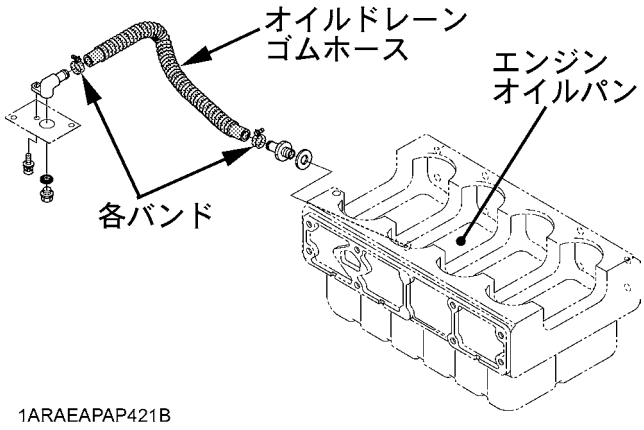
エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

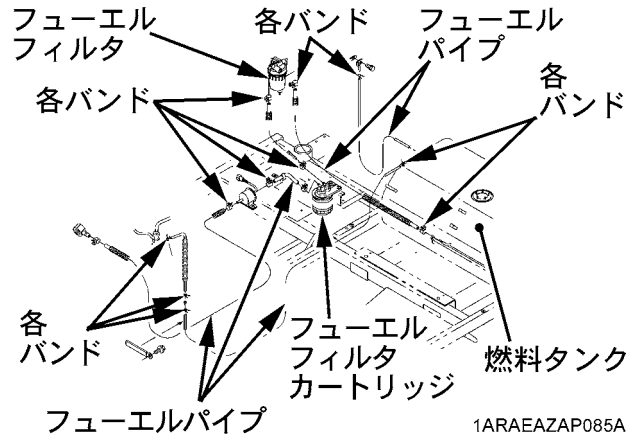
＊ オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付きを起します。
＊ 油もれや水もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は購入先に連絡して交換してください。





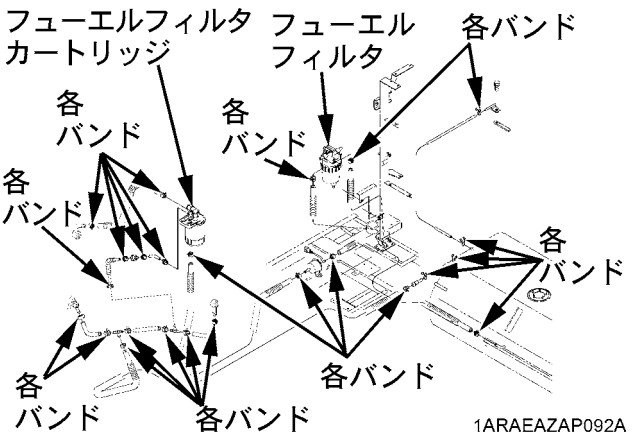


[572]

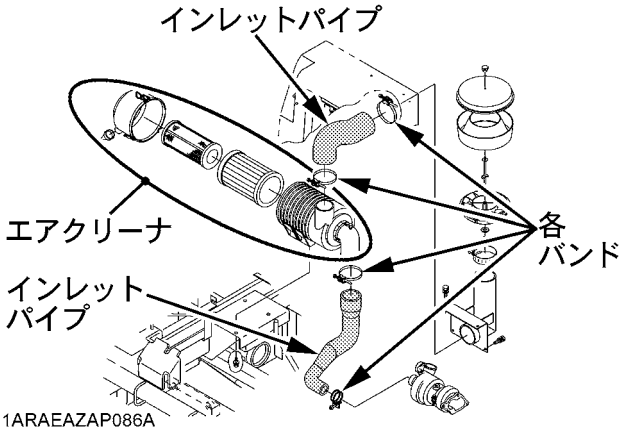


[572]

[698]



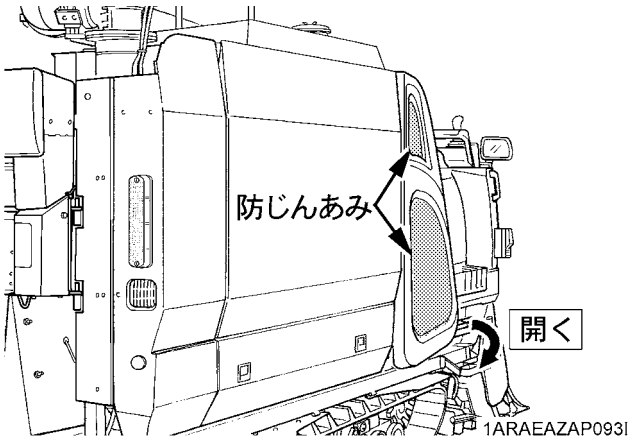
[698]

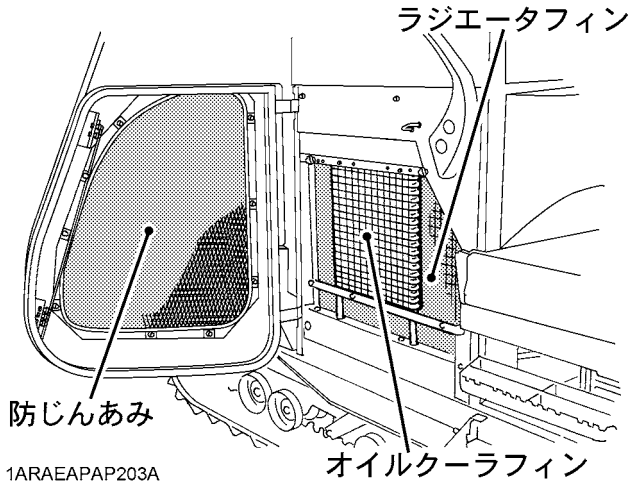


■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除・オイルクーラフィンの掃除

◆ 掃除

防じんカバーをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。





重　要

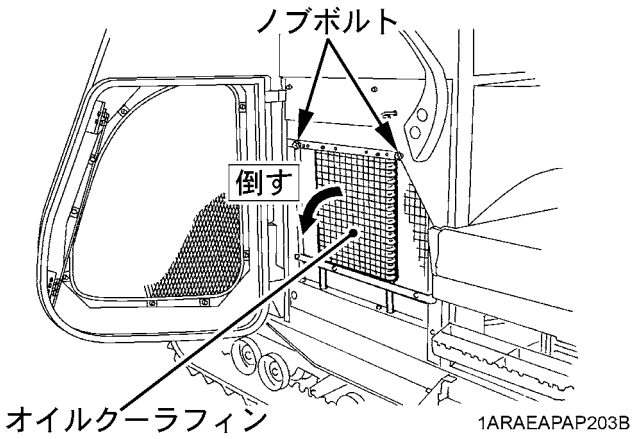
＊ ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，各フィンの掃除をしないでください。ラジエータフィンを傷めると，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

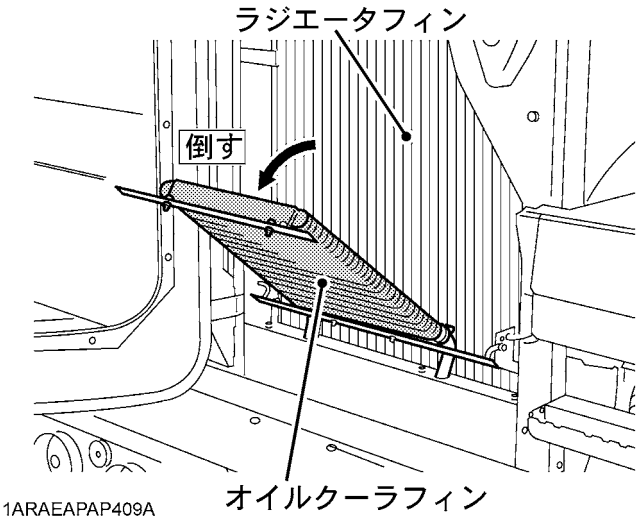
補　足

＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，ノブボルトを取外して，オイルクーラフィンを手前に倒してから掃除してください。

● **倒しかた**

1. ノブボルトを取外したあと，オイルクーラフィンを手前に倒します。





2. 逆の手順で取付けたあと，防じんカバーを閉じます。

■油水分離器（セパレータ）の点検・排水・掃除

注 意

＊ グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

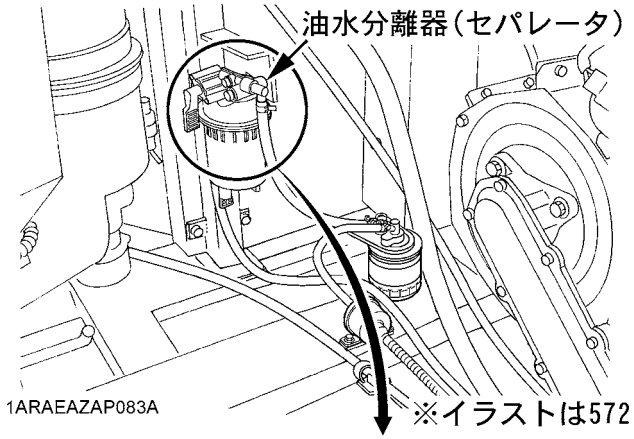
グレンタンクを開いてください。

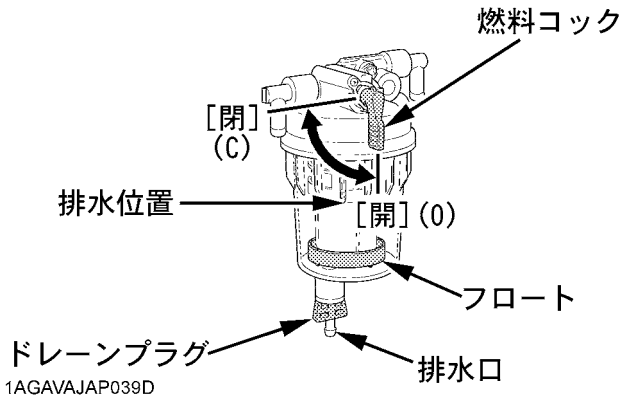
◆ 点検

セパレータのカップに水が貯まり，赤いフロート（浮輪）が排水位置（エレメントカップの上限）まで上昇したときは排水してください。

◆ 排水

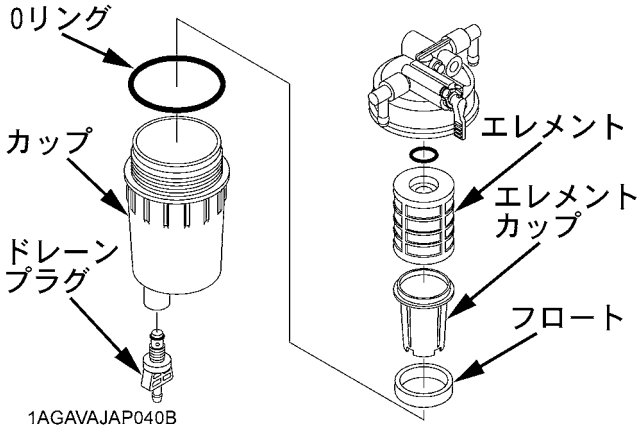
1. セパレータの燃料コックを**［閉］(C)**位置にします。
2. セパレータ下部にあるドレーンプラグをゆるめて水を排出します。
3. ドレーンプラグを締付けたあと，燃料コックを**［開］(O)**位置にします。





◆ 掃除

1. **◆排水**の手順でカップ内の水を排水します。
2. カップをゆるめて取外します。
3. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。



4. 取外した逆の手順でセパレータを取付けます。
5. ドレーンプラグを締付けたあと，燃料コックを**［開］(0)**位置にします。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意してください。
＊ 0リングは傷付けないようにしてください。また，カップに正しく入れて組付けてください。

補　足

＊ 赤いフロートを捨てないでください。
＊ 排水後は，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

6. グレンタンクを閉じます。

■フューエルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

グレンタンクをオープンしてください。また，交換は燃料を給油する前に行なってください。

重　要

＊ 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 交換後は，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆ 交換

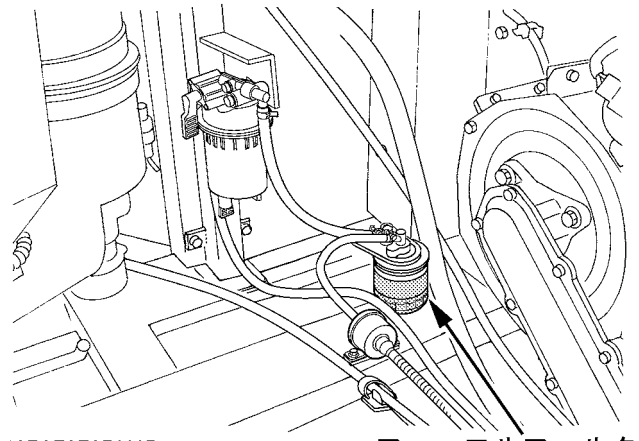
1. グレンタンクをオープンします。
2. セパレータの燃料コックを**［閉］**位置にします。
3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

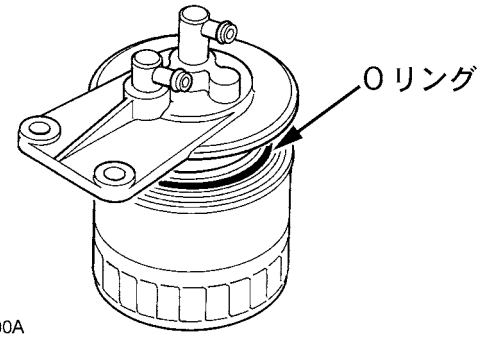
＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

[572]

4. 新しいカートリッジは 0 リングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



1ARAEAZAP083B



1ASADACAP500A

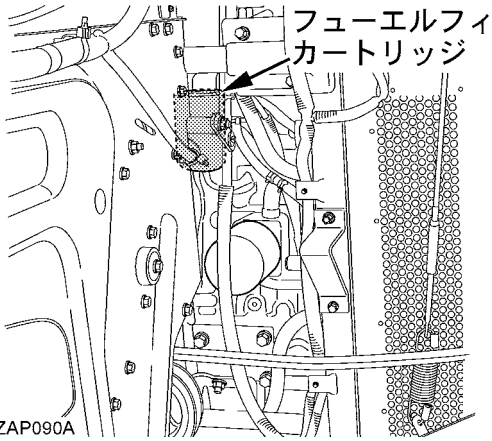
重　要

＊ 0リングは傷つけないようにしてください。また，溝にきちんと入れて組付けてください。

[572]

[698]

4. 新しいカートリッジはフィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



1ARAEAZAP090A

[698]

5. セパレータの燃料コックを**【開】**位置にします。
6. グレンタンクを閉じます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

エンジンオイルの交換（115 ページ参照）と同時に交換してください。交換するときは，グレンタンクをオープンしてください。

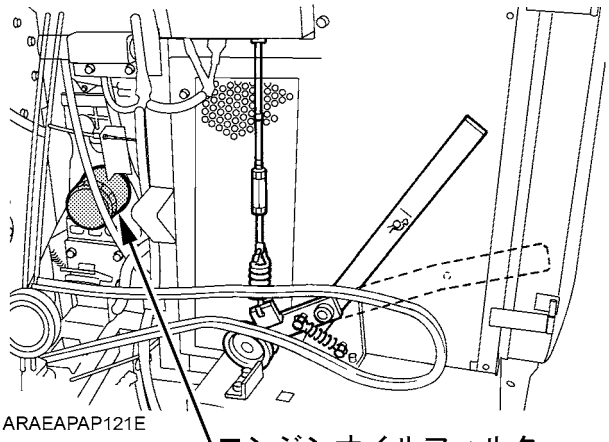
◆ 交換

1. グレンタンクをオープンします。
2. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

3. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
4. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



重　要

＊ 新しいカートリッジは 0 リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

5. グレンタンクを閉じます。

■ HST オイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジの交換・HST 吸入フィルタの洗浄・交換

注　意

＊ 刈取部を上げて洗浄・交換を行なうときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

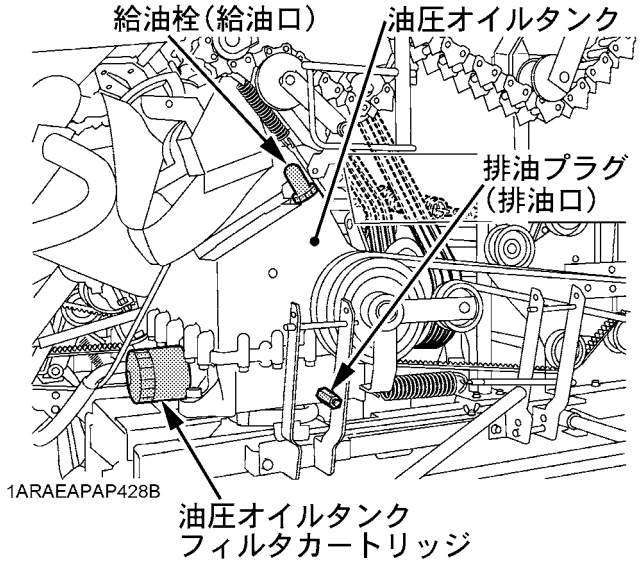
HST オイルフィルタカートリッジと油圧オイルタンクフィルタカートリッジは同時に交換を行なってください。また，HST 吸入フィルタの洗浄又は，交換も同時に行なってください。

◆ 交換

1. 左サイドカバー上１，下１を取外します。
2. 油圧オイルタンクの給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出します。
3. 専用工具を使って油圧オイルタンクフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

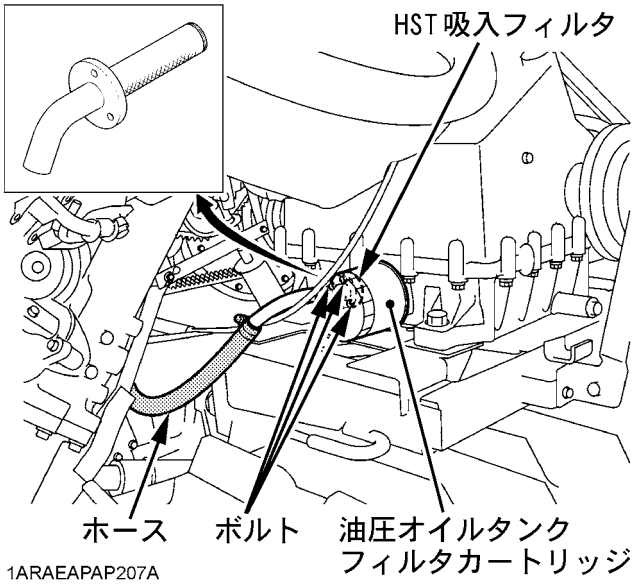


4. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。

重　要

＊ 新しいカートリッジは 0 リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

5. 排油プラグを締付けます。
6. HST 吸入フィルタのホースを取外したあと，ボルト３本を取外して吸入フィルタを抜きます。
7. HST 吸入フィルタが汚れているときは，軽油などで洗浄し，破損しているときは交換します。

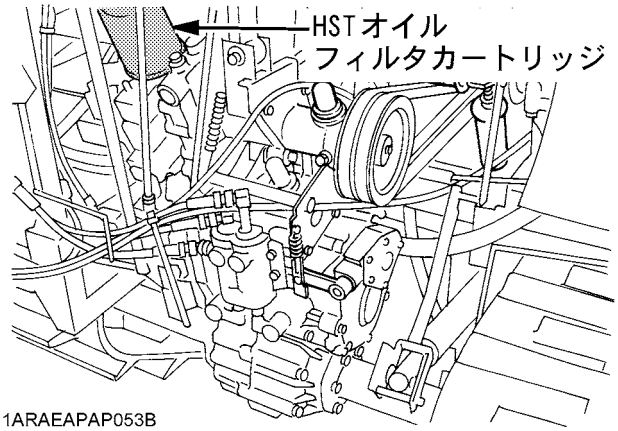


8. 取外した逆の手順で HST 吸入フィルタを取付けます。

9. 専用工具を使って HST オイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。



1ARAEAPAP053B

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約１分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。
＊ 新しいカートリッジは 0 リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ HST オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ごみなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，HST の故障の原因となります。

10. 118 ページの項を参照し，オイルを規定量給油します。

補　足

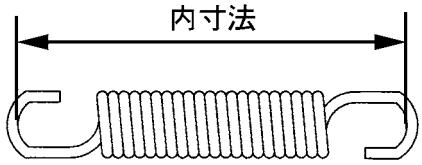
＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

11. 左サイドカバー上１，下１を取付けます。

■各部ワイヤの点検・調整

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

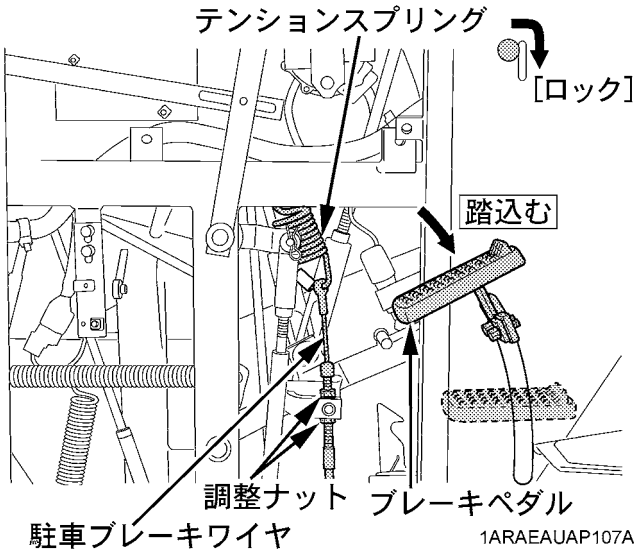


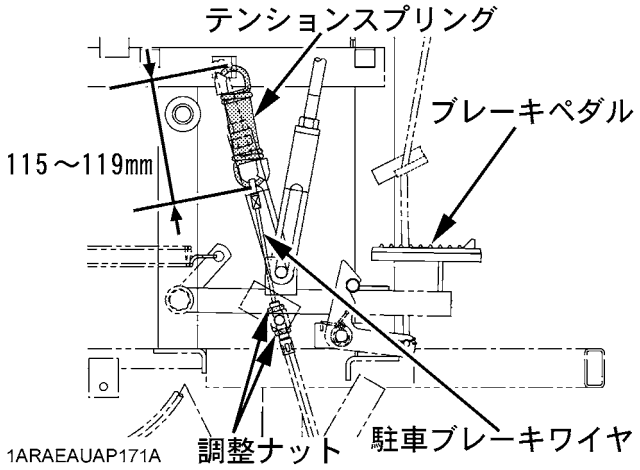
1ASADACAP390A

■駐車ブレーキワイヤ

テンションスプリングの長さを115～119㎜に調整します。

1. 駐車ブレーキを掛けます。
2. 樹脂ボルト２本を外し，運転席下の左側板を取外します。
3. 調整ナット２個をゆるめて，調整します。



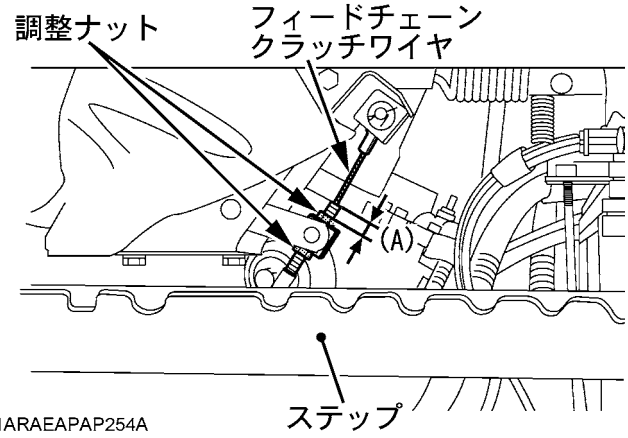


4. 調整ナットを締付け，左側板を取付けます。
5. 駐車ブレーキを解除します。

■フィードチェーンオートクラッチワイヤ

刈取部を上げたとき，刈取部がフィードチェーンと同時か少し早く停止する又は，刈取部を下げたとき，フィードチェーンが刈取部と同時か少し早く作動するようにワイヤを調整します。

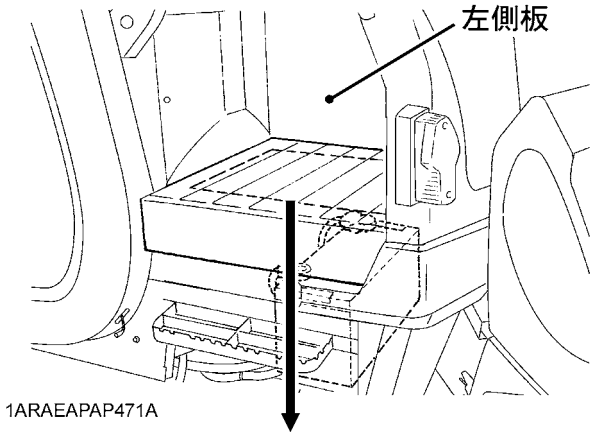
1. 平たんな場所で副変速レバーを**【N】**（中立）位置にし，メインスイッチのキーを**【入】**にしたあと刈取オートクラッチを**【入】**にします。
2. 刈取クラッチワイヤの調整を行ないます。(137 ページ参照)
3. エンジンを始動します。
4. 脱こく･刈取クラッチレバーを**刈取【入】**位置にし，主変速レバーを前進側に倒して刈取部を作動したあと，刈取部を上げ下げし，作動状態を確認します。
5. 脱こく部及び刈取部を止め，エンジンを停止します。
6. ステップ下にあるクラッチワイヤの調整ナット２個をゆるめて下図(A)寸法を調整します。
   - 早くフィードチェーンが切れる場合…伸ばします。
   - 遅くフィードチェーンが切れる場合…縮めます。

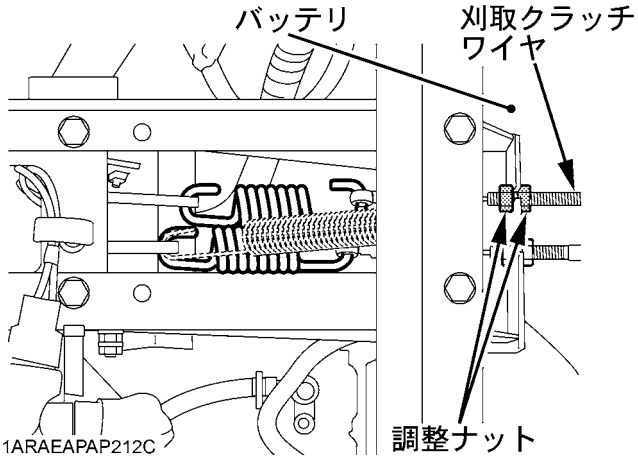


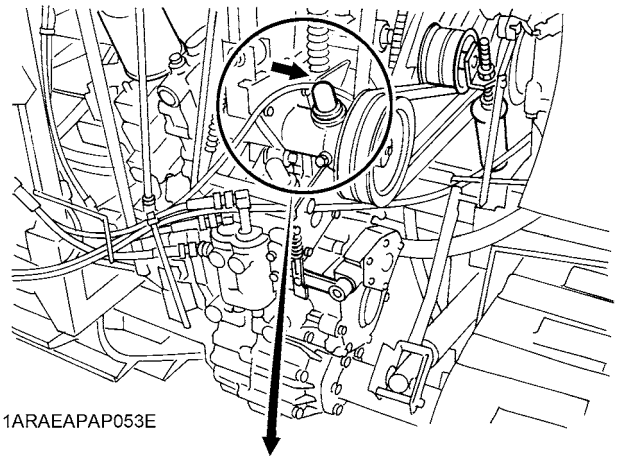
7. 調整ナットを締付けたあと，再度確認を行ないます。

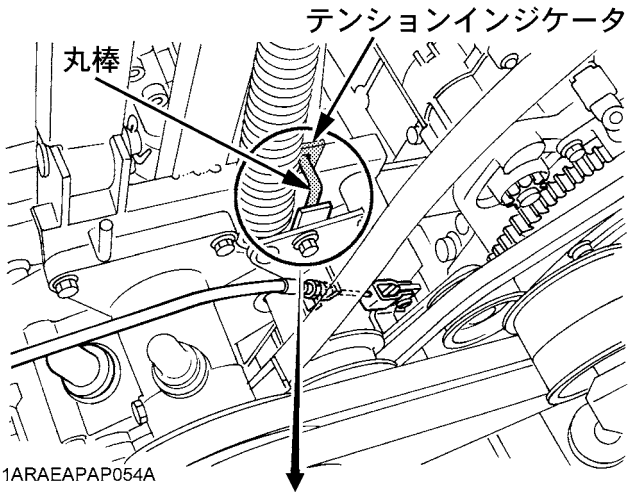
■脱こくクラッチワイヤ・刈取クラッチワイヤ

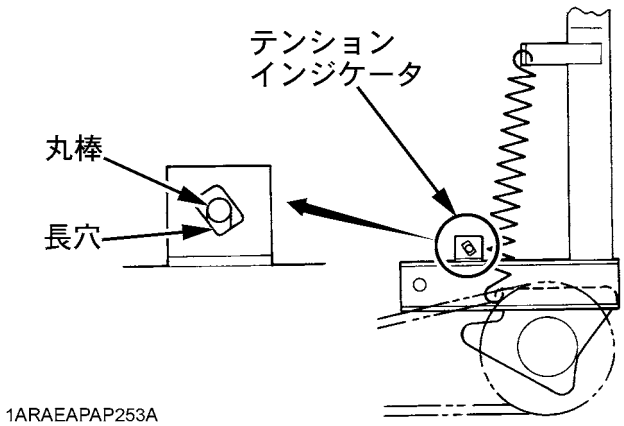
1. メインスイッチのキーを**【入】**位置にしたあと，脱こく･刈取クラッチレバーを**刈取【入】**位置にします。
2. メインスイッチのキーを**【切】**位置にしたあと，ステップのゴムカバーをめくり，バッテリ点検用の開閉カバーを開きます。(175 ページ参照)
3. 運転席下の左側板を取外します。
4. ワイヤの調整を行ないます。
   (1) 刈取クラッチワイヤの調整は刈取クラッチワイヤの調整ナット２個をゆるめ，運転席左下の奥にあるテンションインジケータ部の丸棒を長穴の中央に合わせます。



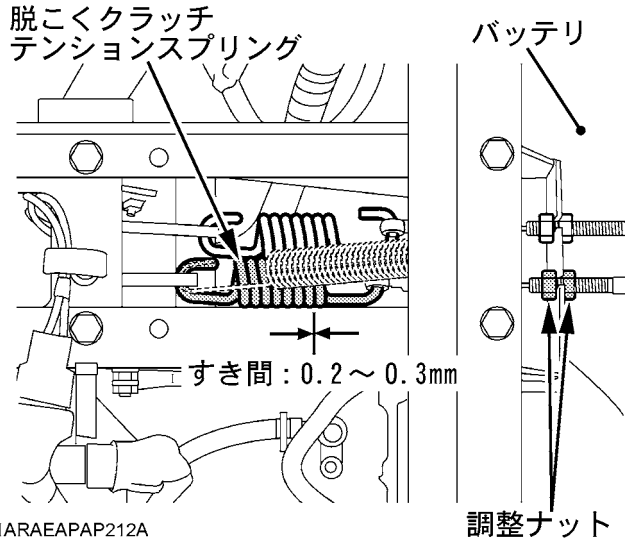








(2) 脱こくクラッチワイヤの調整は，脱こくクラッチのテンションスプリングのすき間を0.2～0.3mmの範囲の内に,調整ナット２個をゆるめて調整します。

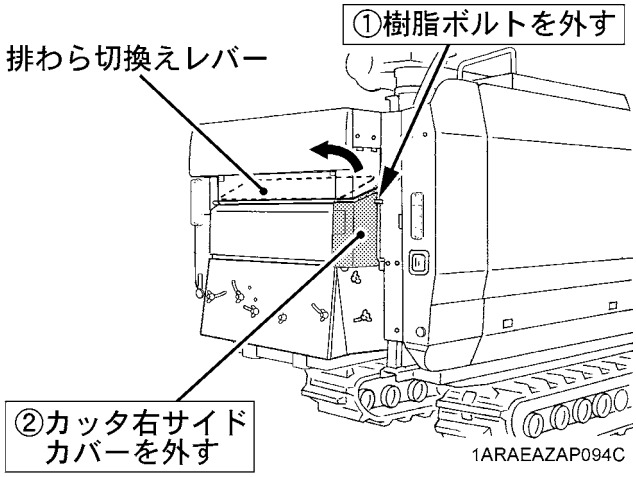


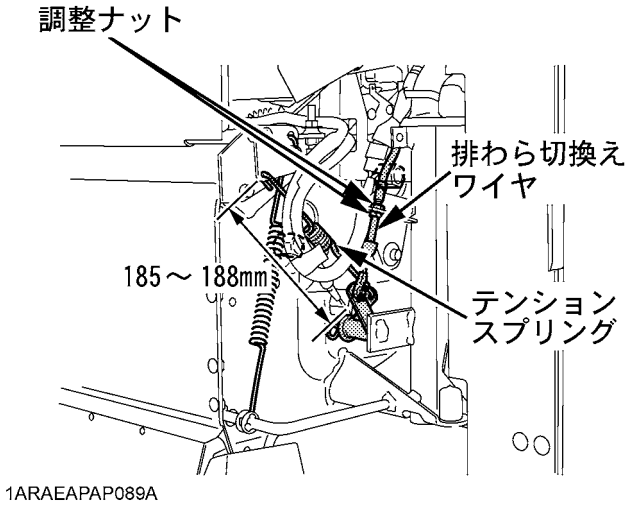
5. 調整ナットを締付けたあと，開閉カバーを閉じてステップのゴムカバーを閉じ，運転席下の側板を取付けます。

■排わら切換えワイヤ

テンションスプリングの長さを185～188mmに調整します。

1. 排わら切換えレバーを**［カッタ］作業位置**にして排わら切換えカバーを開きます。
2. 樹脂ボルトを外し，カッタ右サイドカバーを外します。
3. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。
5. カッタ右サイドカバーを取付けます。





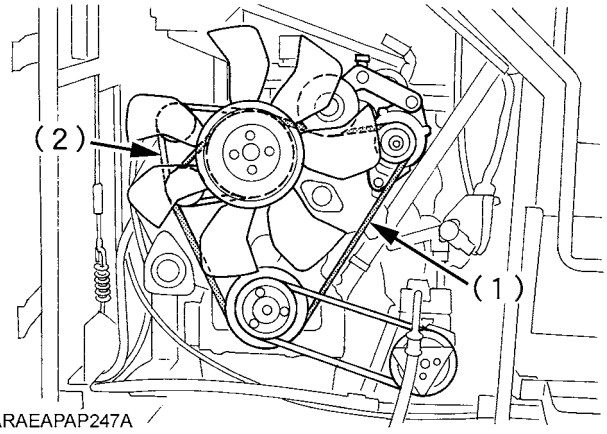
■各部ベルトの点検･調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

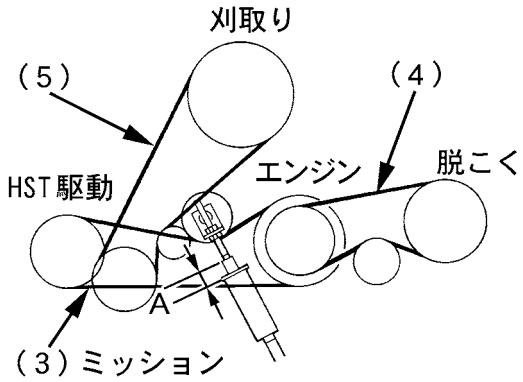
点検個所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整		
						テンションスプリング取付け長さ（mm）		たわみ量（mm）
エンジン・刈取部周辺	(1)	ファン駆動ベルト（1）	［全機種］	ブイリブドベルト（1315mm）	1	—		—
	(2)	ファン駆動ベルト（2）		ブイリブドベルト（670mm）				3 ～ 4
	(3)	ミッション駆動ベルト	［全機種］	特 C59（コグ）	2	A	27 ～ 33（テンションロッドの出代）	—
	(4)	脱こく駆動ベルト	［全機種］	特 B44 コグ	3	B	0.2 ～ 0.3（すき間）（137 ページ参照）	—
	(5)	刈取駆動ベルト	［全機種］	特 C57	1	テンションインジケータの丸棒の位置を調整（137 ページ参照）		—
	(6)	補助搬送（突起付）ベルト	［572］	—	5	—		5 ～ 10
			［698］		6			
脱こく部・カッタ部周辺	(7)	こぎ胴駆動ベルト	［全機種］	特 B153	3	C	324 ～ 339	—
	(8)	トウミ駆動ベルト	［全機種］	特殊 B86	1	—		—
	(9)	１番駆動ベルト	［全機種］	特 C117	1	D	170 ～ 180	—
	(10)	２番駆動ベルト	［572］	特 C149	1	E	166 ～ 171	—
			［698］	特 C164			261 ～ 266	
	(11)	揺動駆動ベルト	［全機種］	特 B43	1	F	293 ～ 298	—
	(12)	２番トウミ駆動ベルト	［698］	特 B38	1	G	293 ～ 298	—
	(13)	排わらチェーン駆動ベルト	［全機種］	特 B39	1	H	145 ～ 150	—
	(14)	カッタ駆動ベルト	［全機種］	特 B55	1	I	163 ～ 167	—
グレンタンク部	(15)	タンク駆動ベルト	［全機種］	特 C65（コグ）	1	J	33 ～ 37	—
	(16)	タンククラッチ駆動ベルト	［全機種］	特 C68	1	K	154 ～ 158	—

重　要

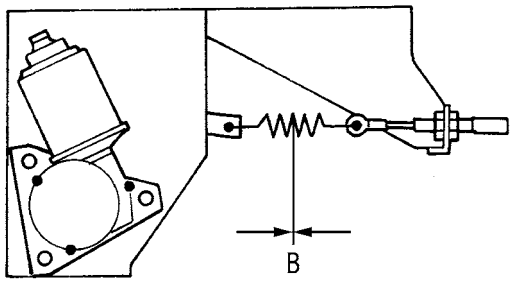
＊ ミッション駆動ベルト，脱こく駆動ベルト，こぎ胴駆動ベルトの交換を行なうときは，2 本又は，3 本同時に交換してください。単品で交換すると，新しく交換したベルトの寿命が短かくなるおそれがあります。



1ARAEAPAP247A

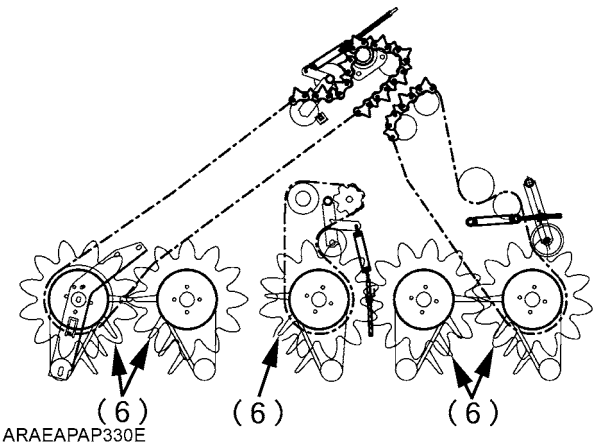


1ARAEAPAP069C



1ARAEAPAP202F

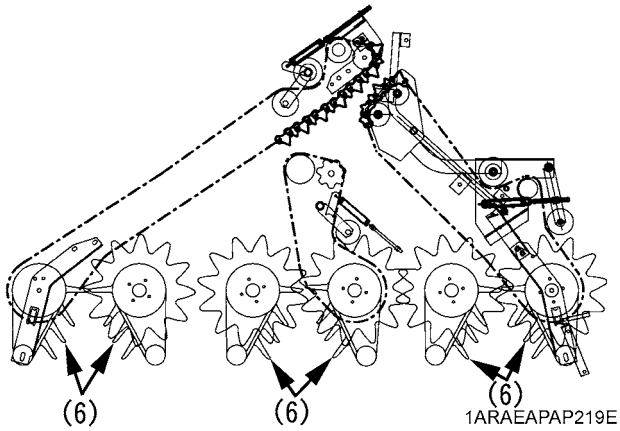
[572]



1ARAEAPAP330E

[572]

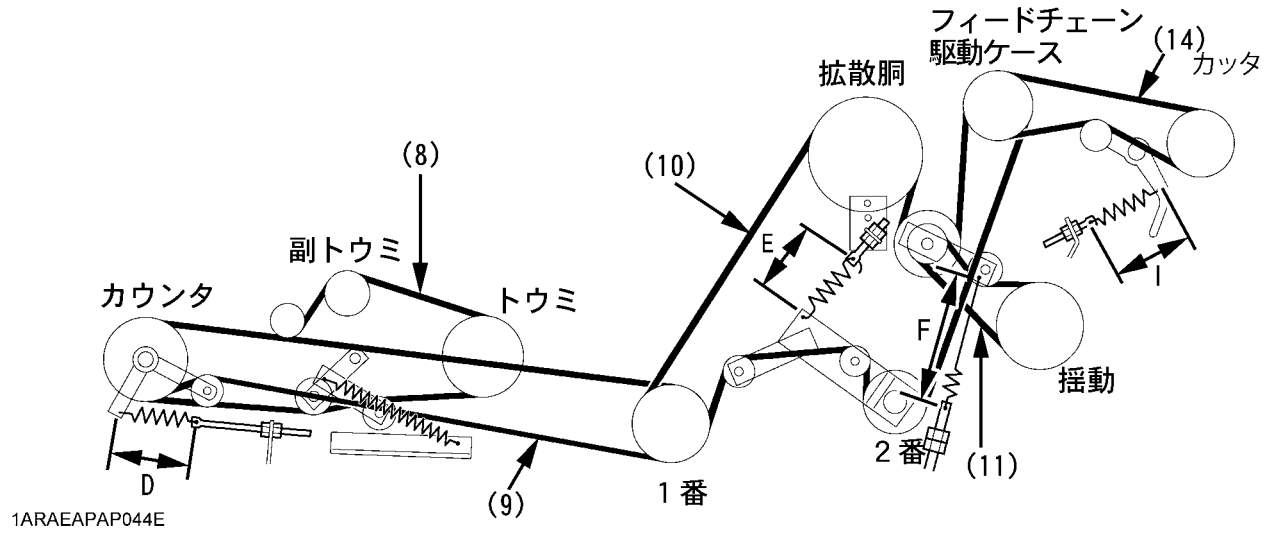
[698]



1ARAEAPAP219E

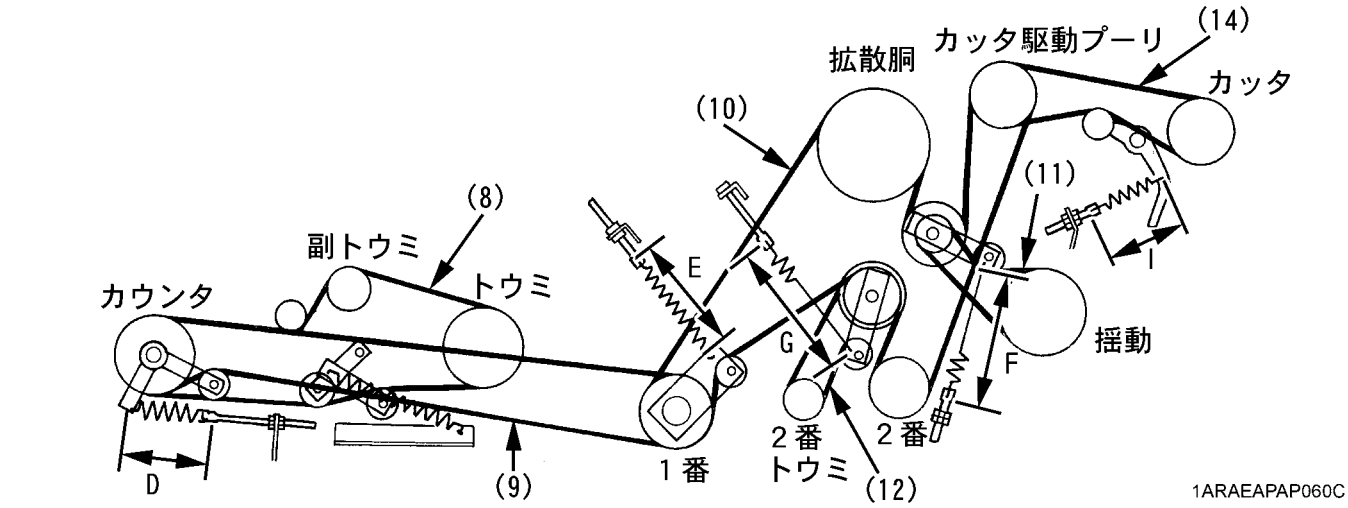
[698]

[572]

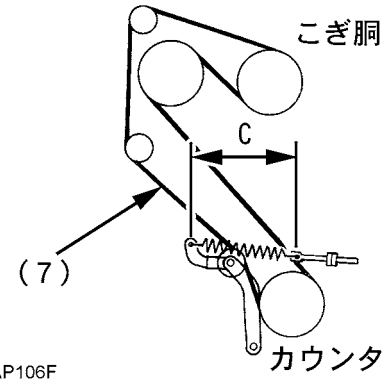


[572]

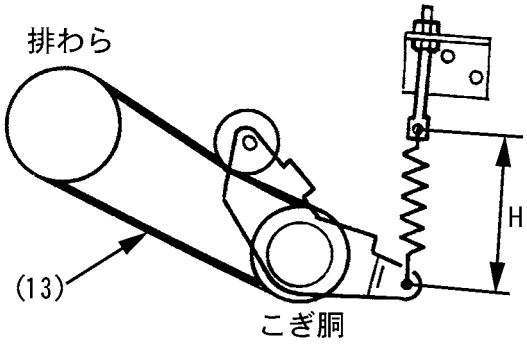
[698]



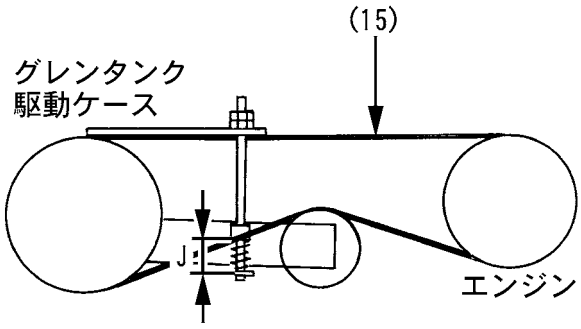
[698]



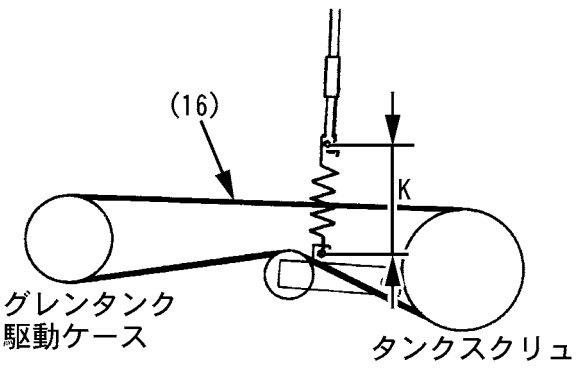
1ARAEAPAP106F



1ARAEAPAP022L



1ARAEAPAP024M

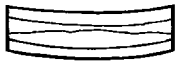
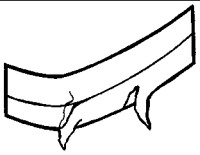
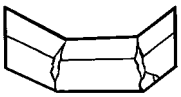


1ARAEAPAP047O

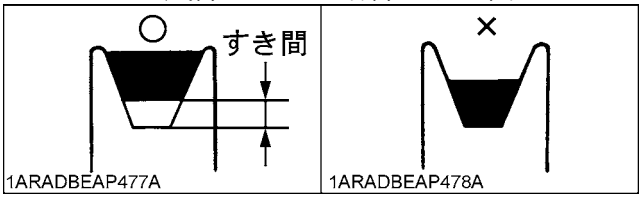
◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

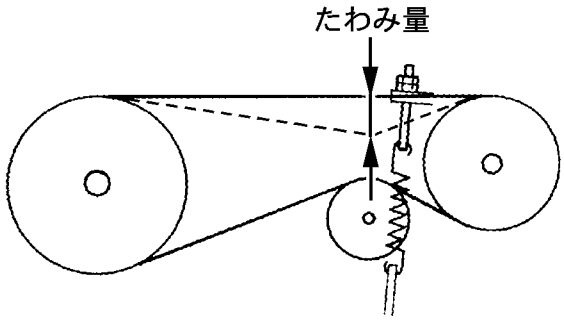
1．ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
1ARADBEAP474A	1ARADBEAP475A	1ARADBEAP476A

2．ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3．ベルトの伸び（たわみ量）



1ASADACAP384A

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重　要

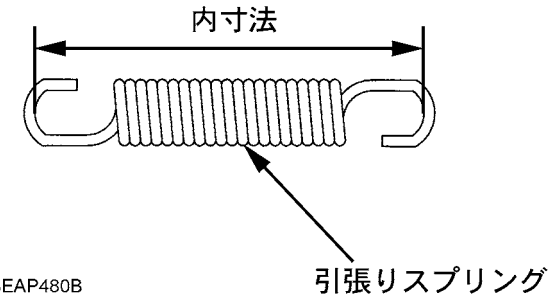
＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

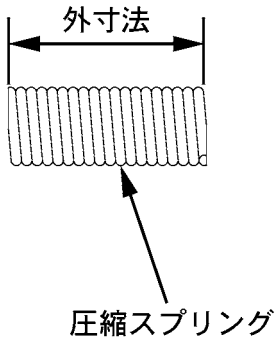
◆ 調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，引張りスプリングの場合はフックの内寸法，圧縮スプリングの場合は外寸法を測定してください。





■ファン駆動ベルト

注　意

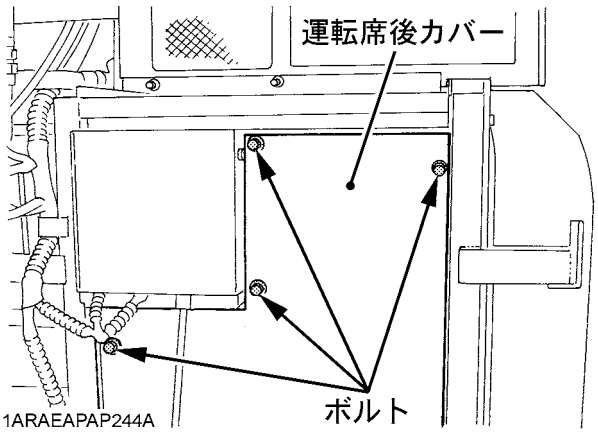
＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

指先でファン駆動ベルト(2)の中央部を押したとき（約 98N {10kgf} の荷重）のたわみ量を３～４ ㎜ に調整します。

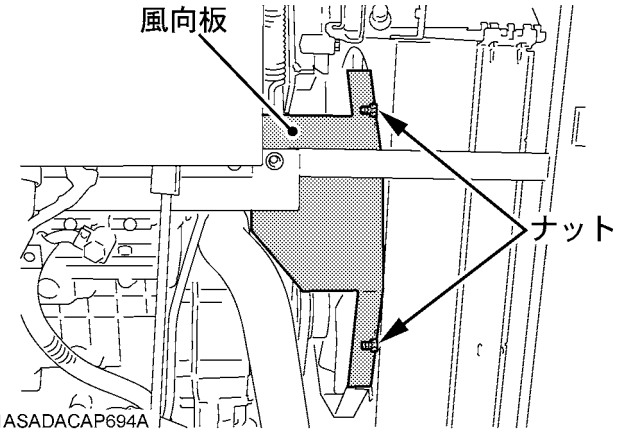
補　足

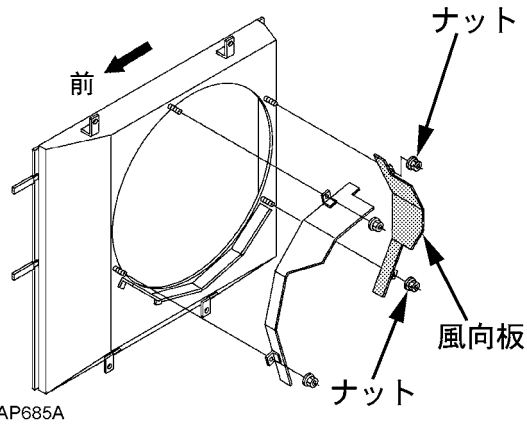
＊ ファン駆動ベルト（1）は自動テンションのため，調整は不要です。

1. グレンタンクをオープンしたあと，ボルト４本を取外して運転席後カバーを外します。

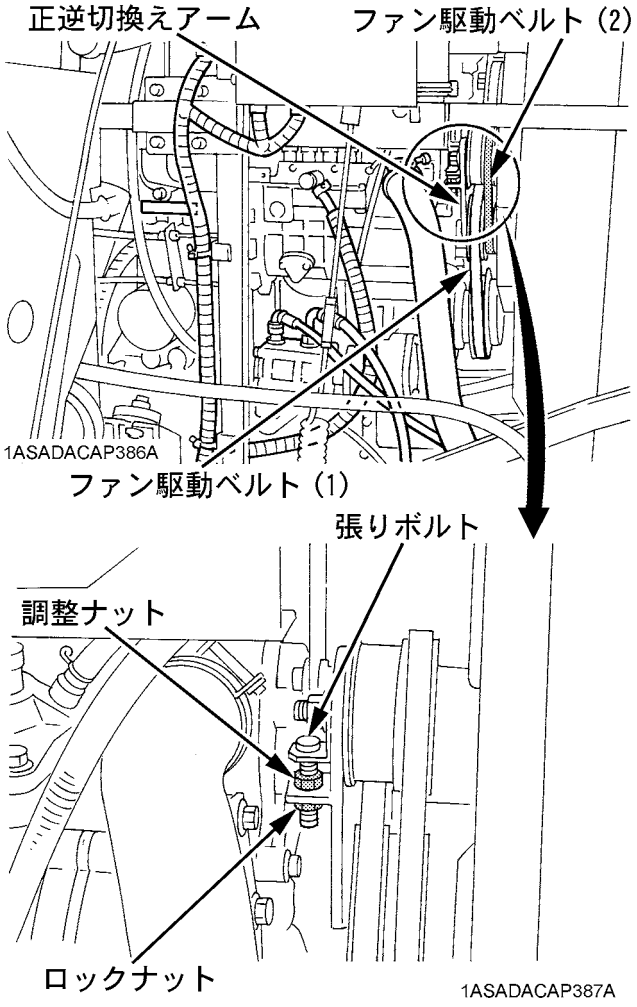


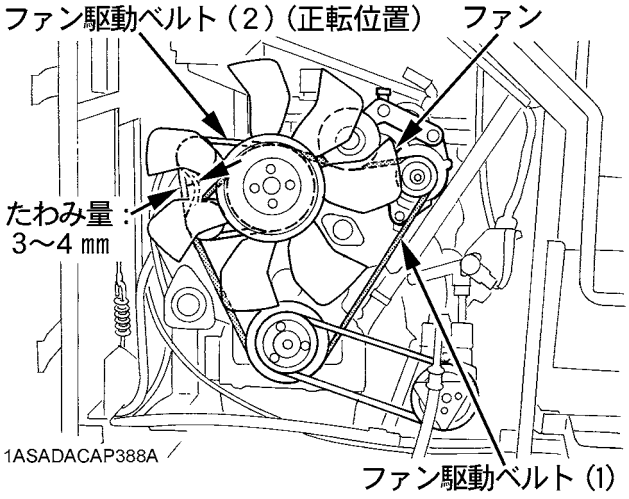
2. ナット２個を外して風向板を外します。





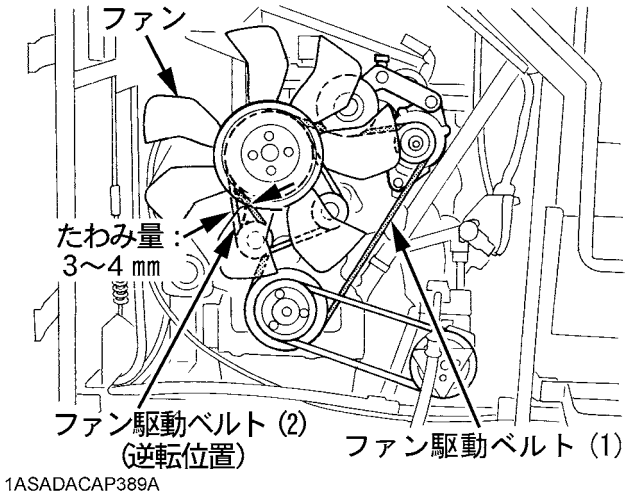
3. 張りボルトのロックナットをゆるめ，調整ナットで調整します。
4. ロックナットを締付けます。





補　足

＊ ファン駆動ベルト (2) は，エンジン冷却ファンの正転・逆転を切換えるベルトですが，エンジンを停止したとき逆転位置のときは下図のようになります。



＊ エンジン正逆転ファンは，一定時間エンジンを冷却したあと，防じんカバーに付着した塵やごみを吹き飛ばすため，ファンが一定時間逆転します。

5. 風向板を取付けたあと，運転席後カバー下側をきちんとはめ込んでから運転席後カバーを取付けます。
6. グレンタンクを閉じます。

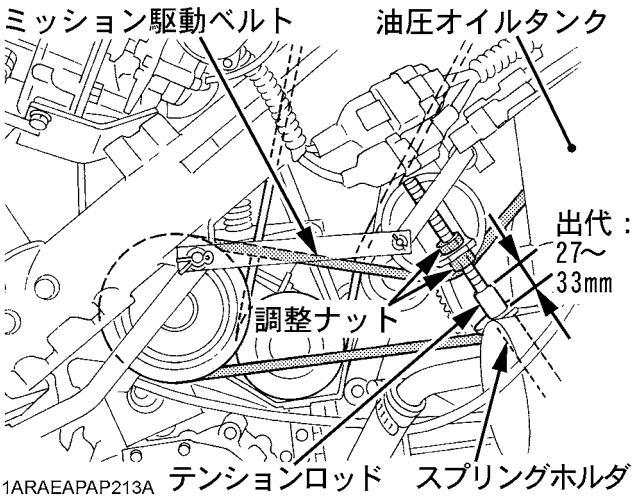
■ミッション駆動ベルト

注 意

＊ 刈取部を上げて点検・調整を行なうときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

テンションロッドの出代を 27 ～ 33㎜ に調整します

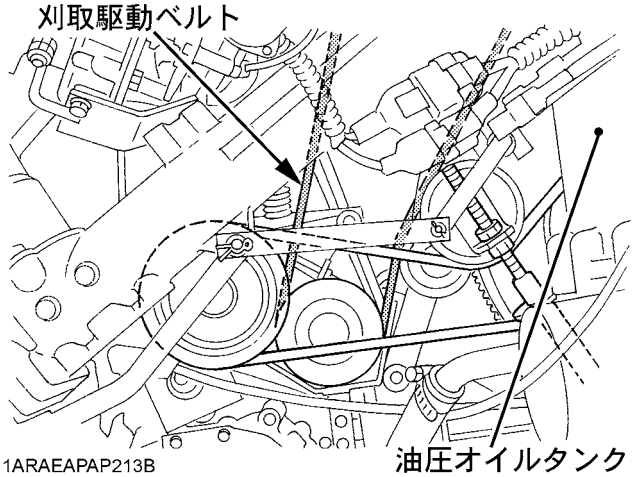
1. 調整ナット 2 箇所をゆるめて，調整を行ないます。
2. 調整ナットを締付けます。



1ARAEAPAP213A

■刈取駆動ベルト

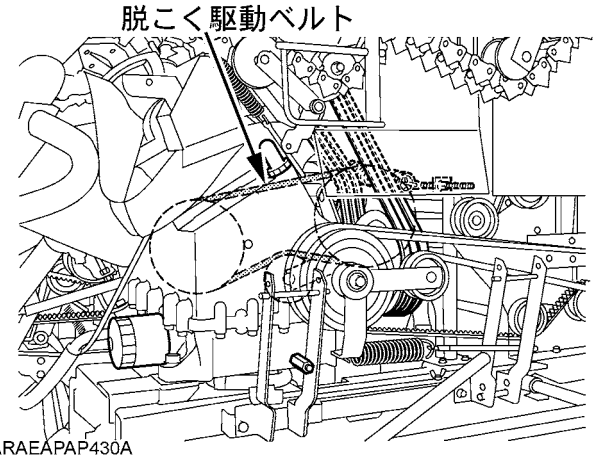
調整については，137 ページを参照してください。
（ワイヤとベルトの張り調整は同じです。）



1ARAEAPAP213B

■脱こく駆動ベルト

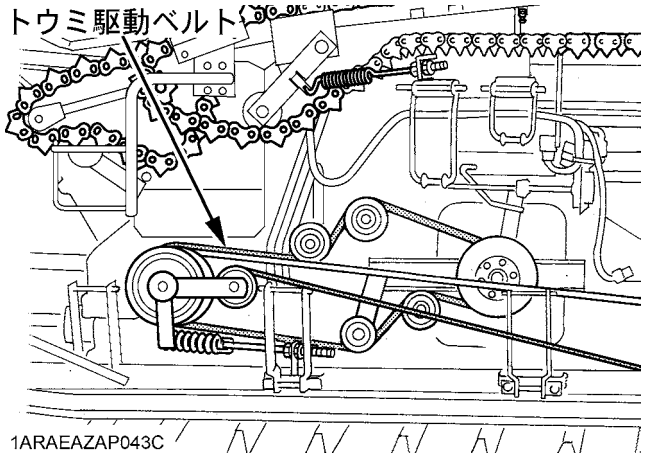
調整については，137 ページを参照してください。
（ワイヤとベルトの張り調整は同じです。）



1ARAEAPAP430A

■トウミ駆動ベルト

トウミ駆動ベルトの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。

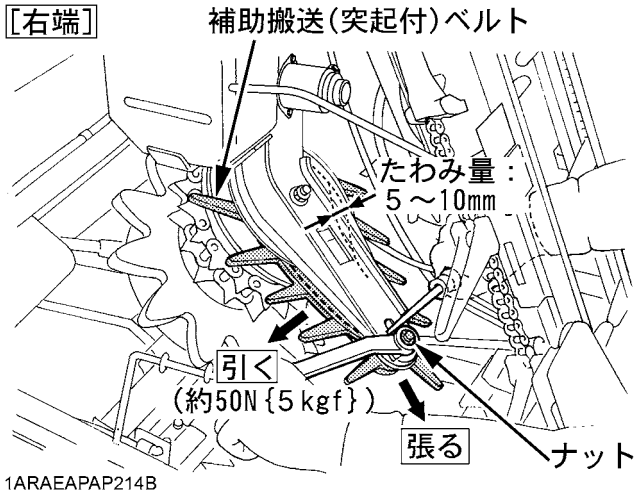


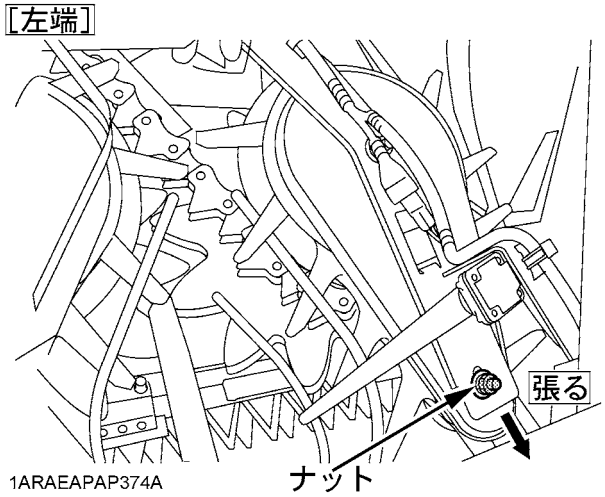
1ARAEAZAP043C

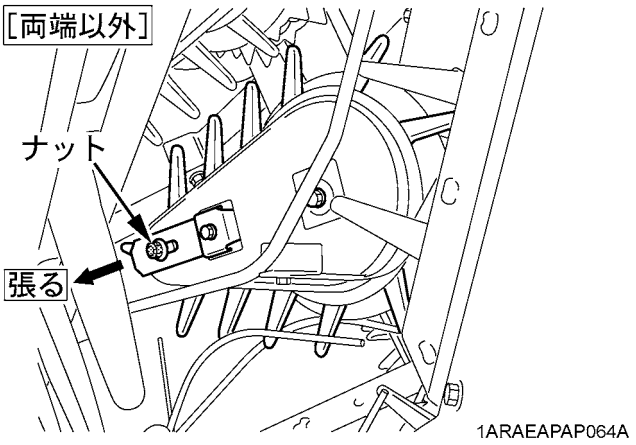
■補助搬送（突起付）ベルト

指先でベルトの中央部を引いたとき（約50N{5kgf}の荷重）のたわみ量を5～10mmに調整します。

1. 引起こしサイドカバー左，右を取外します。
2. ナットをゆるめます。
3. 両端部は下図のように固い棒（鉄の棒など）を切欠き部に差込み，張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。
4. 同じ要領で全てのベルトの調整を行ないます。
5. 引起こしサイドカバー左，右を取付けます。



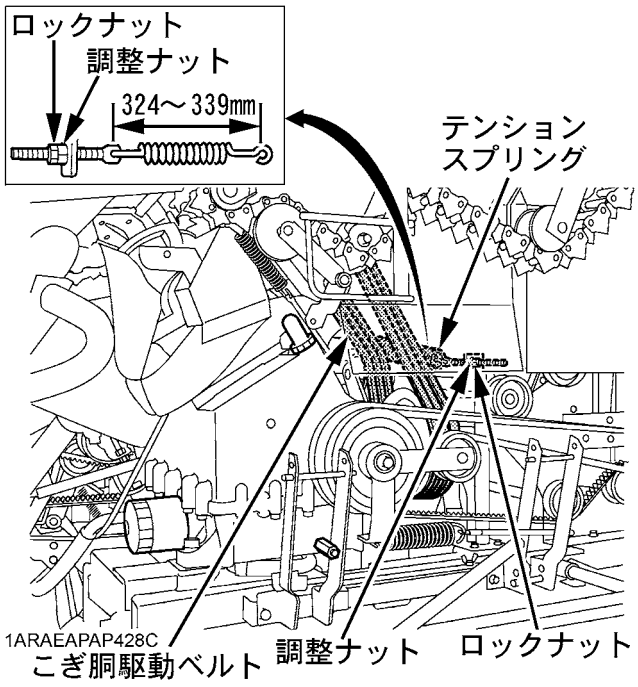




■こぎ胴駆動ベルト

テンションスプリングの長さを324～339mmに調整します。

1. 左サイドカバー上1，下1を取外します。(83ページ参照)
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。



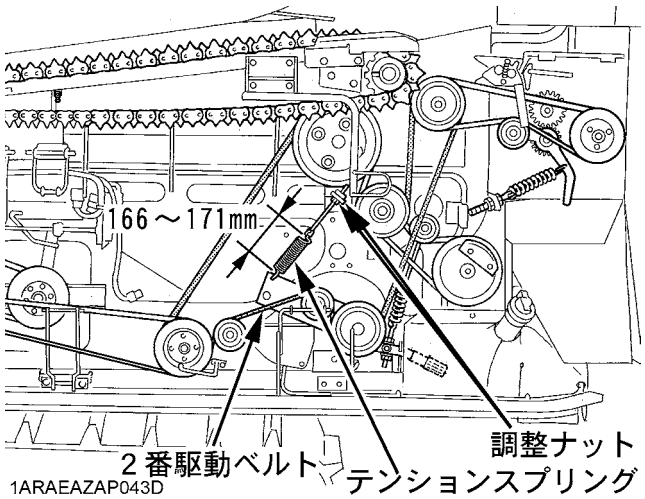
3. ロックナットと調整ナットを締付けます。
4. 左サイドカバー上1，下1を取付けます。

■ 2 番駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 166 ～ 171mm **[572]**，261 ～ 266mm **[698]** に調整します。

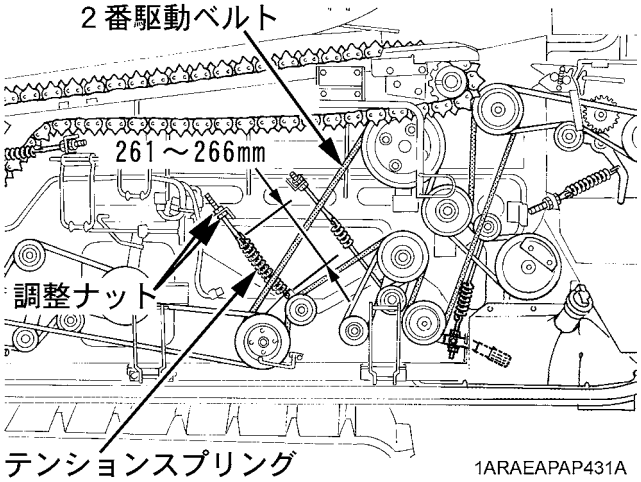
1. 左サイドカバー上 1，上 2，下 2 と左サイドカバー内 1，2，3 を取外します。
2. 調整ナット 2個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー内 1，2，3 と左サイドカバー上 1，上 2，下 2 を取付けます。

[572]



[572]

[698]

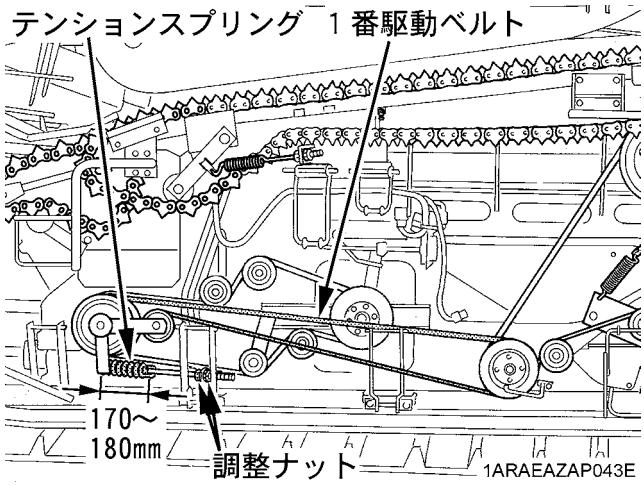


[698]

■ 1 番駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 170～180mm に調整します。

1. 左サイドカバー上 1，下 1，下 2 を取外します。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上 1・下 1，下 2 を取付けます。

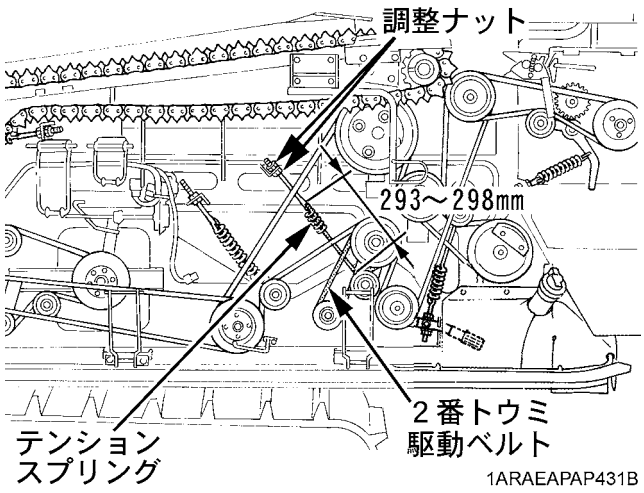


■ 2 番トウミ駆動ベルト

[698]

テンションスプリングの長さを 293 ～ 298mm に調整します。

1. 左サイドカバー上１，上２，下２と左サイドカバー内 1，2，3 を取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー内 1，2，3 と左サイドカバー上１，上２，下２を取付けます。



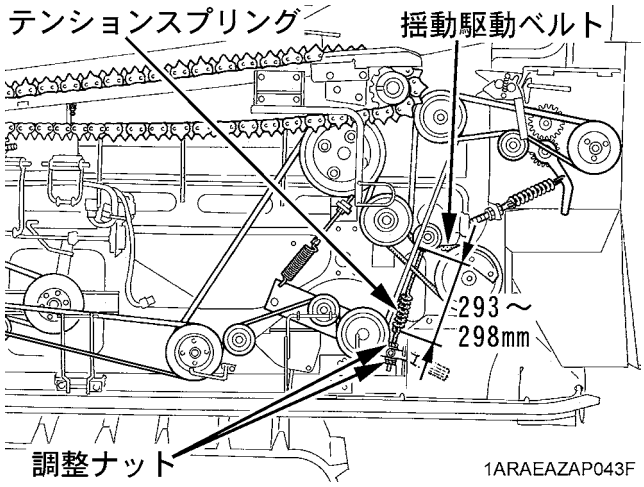
[698]

■揺動駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 293 ～ 298mm に調整します。

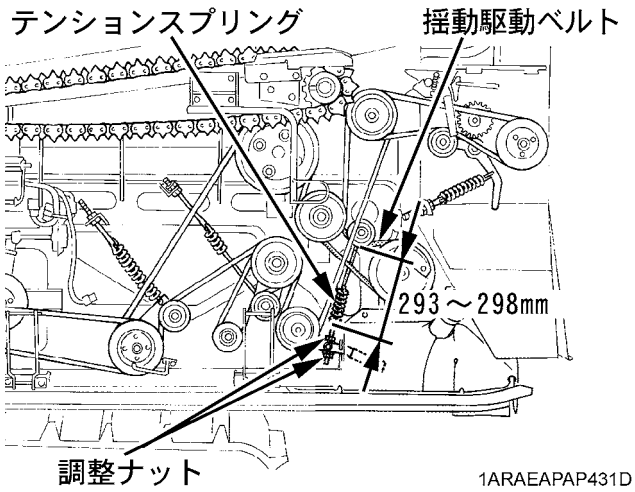
1. 左サイドカバー上・下 2 とカッタ左サイドカバー及び左サイドカバー内 1，2，3 を取外します。
2. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー内 1，2，3 と左サイドカバー上・下 2 及びカッタ左サイドカバーを取付けます。

[572]



[572]

[698]

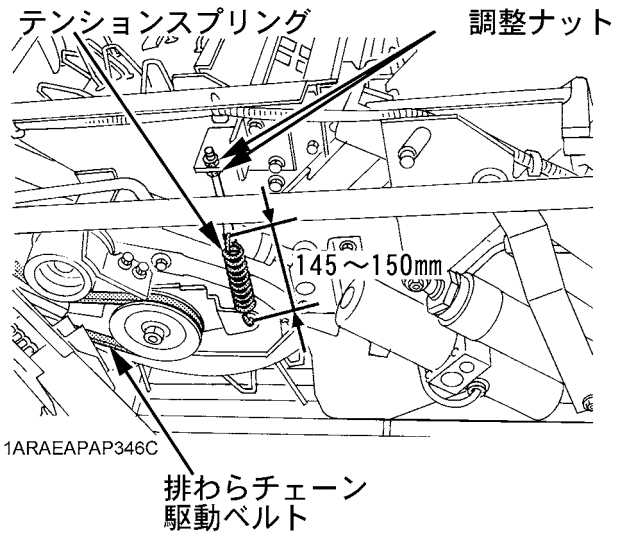


[698]

■排わらチェーン駆動ベルト

テンションスプリングの長さを145～150mmに調整します。

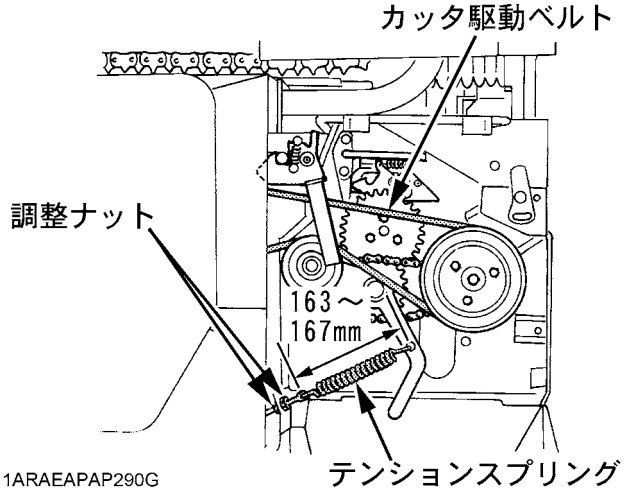
1. 脱こく上部カバーの左，右を開きます。
2. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，脱こく上部カバー左，右を閉じます。



■カッタ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを163～167mmに調整します。

1. カッタ左サイドカバーを取外します。
2. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，カッタ左サイドカバーを取付けます。



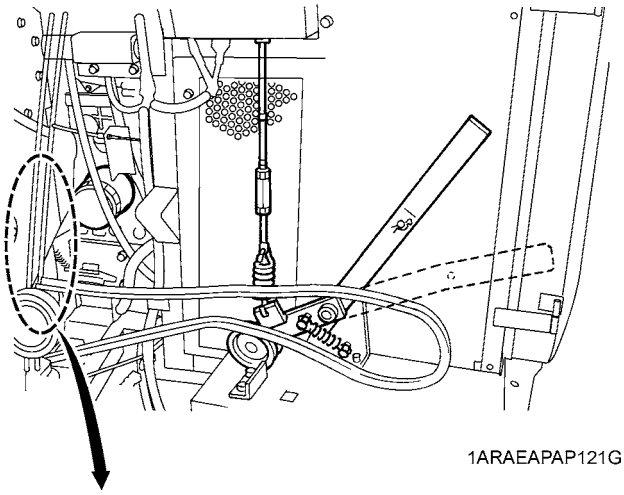
■タンク駆動ベルト

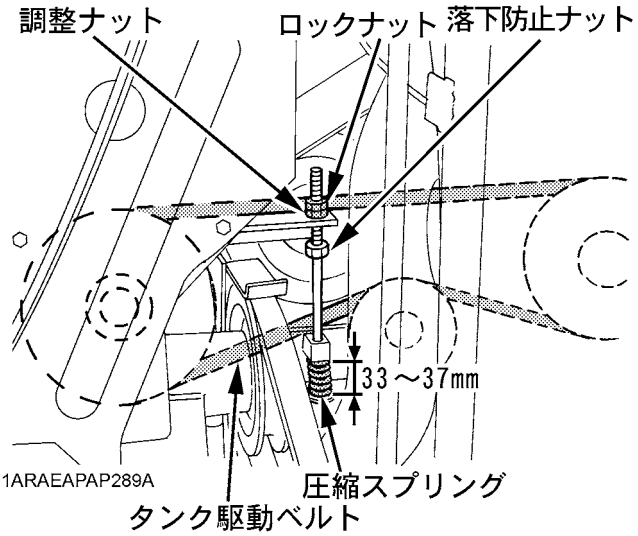
注 意

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

圧縮スプリングの長さを33～37mmに調整します。

1. グレンタンクをオープンします。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。





補 足

＊ 落下防止ナットはテンションロッドの落下を防止します。

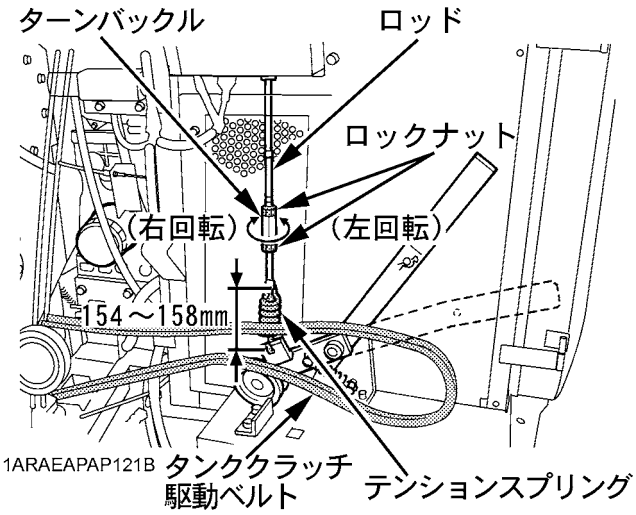
■タンククラッチ駆動ベルト

注 意

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

グレンタンクを閉じた状態（テンションが掛かっている状態）のときのテンションスプリングの長さを 154 ～ 158mm に調整します。

1. スイッチキーを **[入]** 位置にし，もみ排出スイッチを **[入]**（ランプ点灯）にしたあとスイッチキーを **[切]** 位置にします。
2. ターンバックルのロックナット 2 個をゆるめて，ロッドの長さの調整を行ないます。ターンバックルは右方向に回すとロッドが縮み，左方向に回すとロッドは伸びます。
3. ターンバックルのロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。



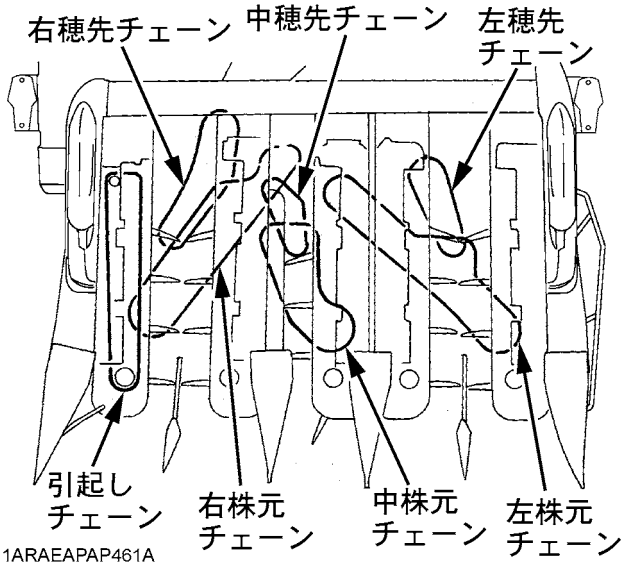
■各部チェーンの点検･調整

◆ 点検

各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

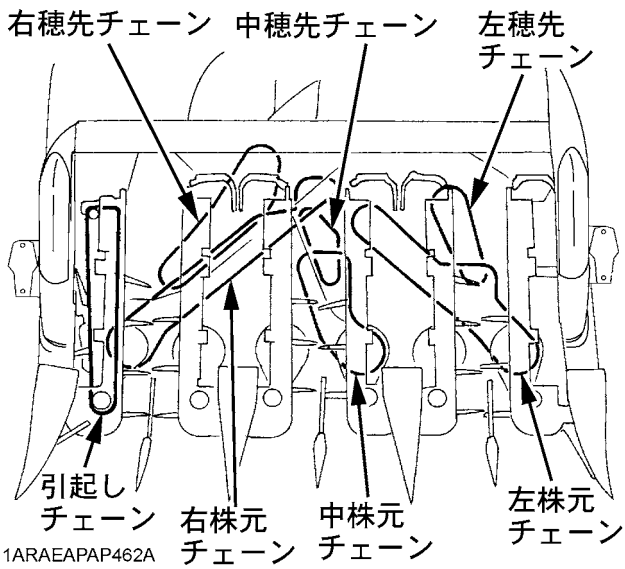
● 点検箇所

[572]

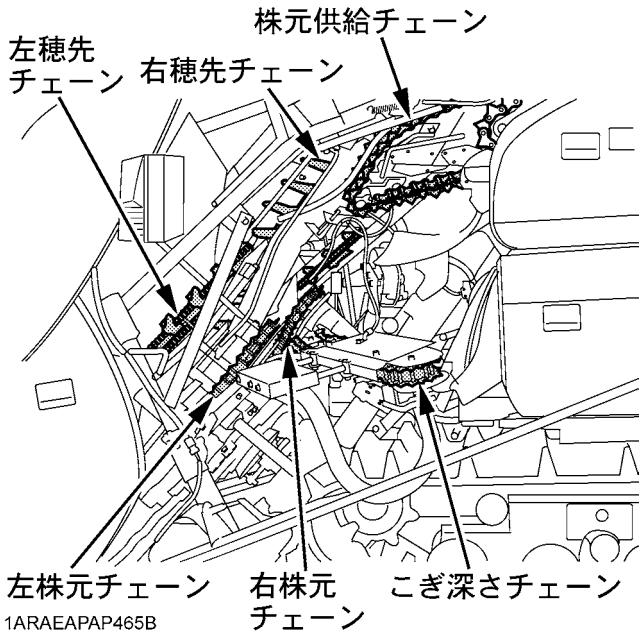


[572]

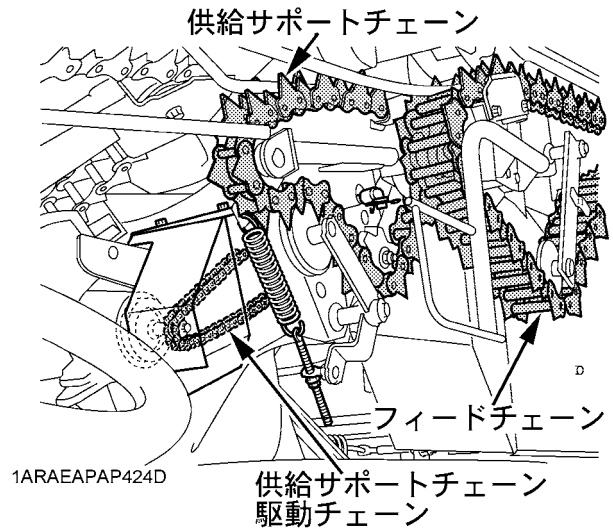
[698]



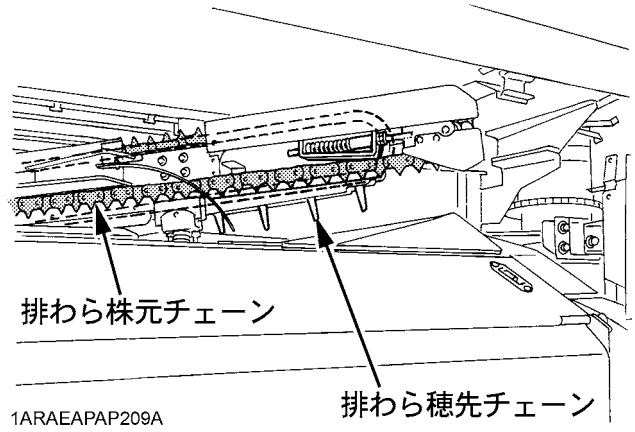
[698]



1ARAEAPAP465B



1ARAEAPAP424D



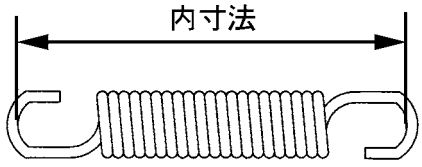
1ARAEAPAP209A

◆ 調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



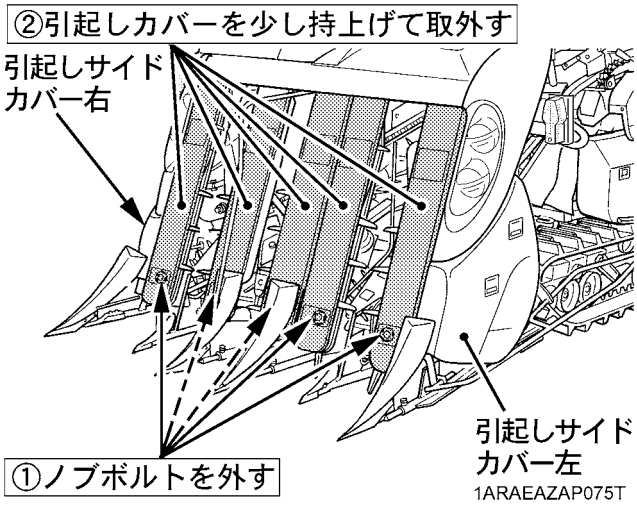
1ASADACAP390A

■引起しチェーン

引起しテンションフックと引っ掛け部のすき間を 0.5 ～ 2.5mm に調整します。引起しチェーンの調整を行なうときは，引起しカバー及び引起しサイドカバー左・右を取外してください。
調整後はカバーを取付けてください。

1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整します。
2. ロックナットを締付けます。

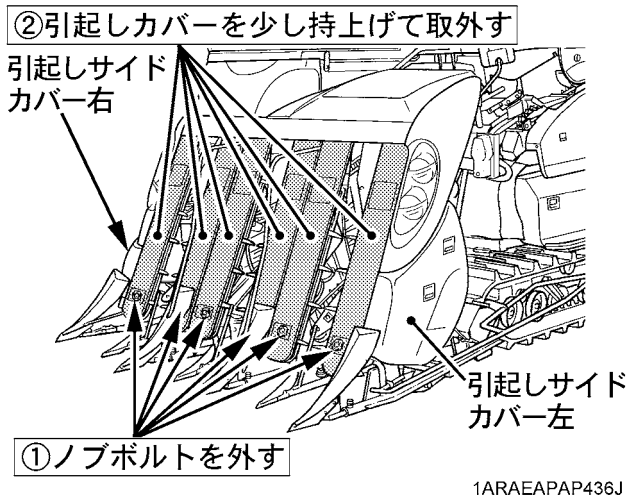
[572]



1ARAEAZAP075T

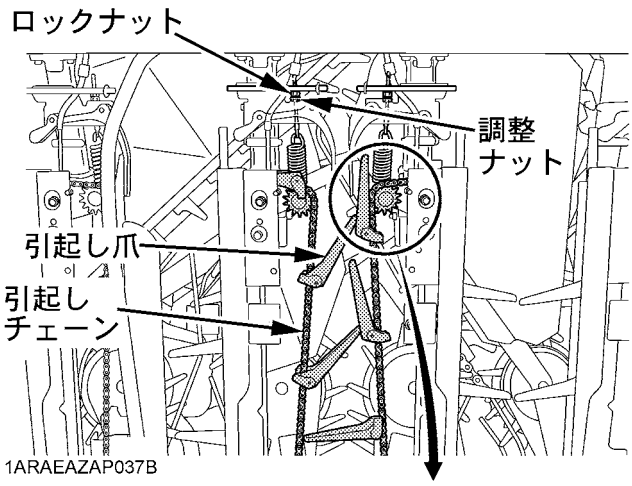
[572]

[698]

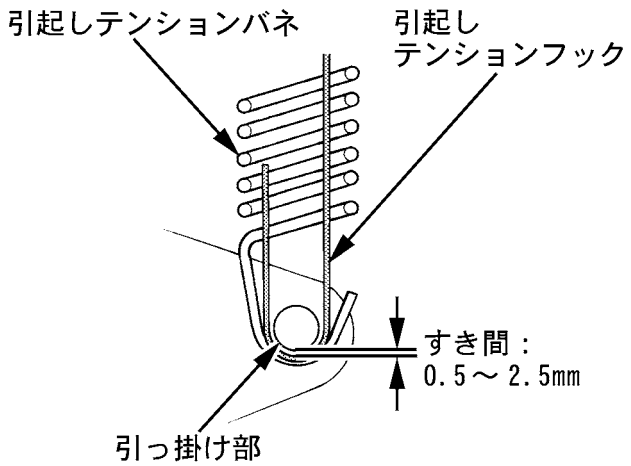


1ARAEAPAP436J

[698]



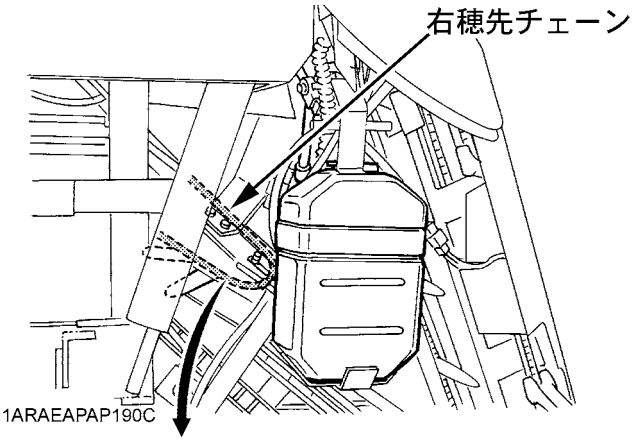
1ARAEAZAP037B

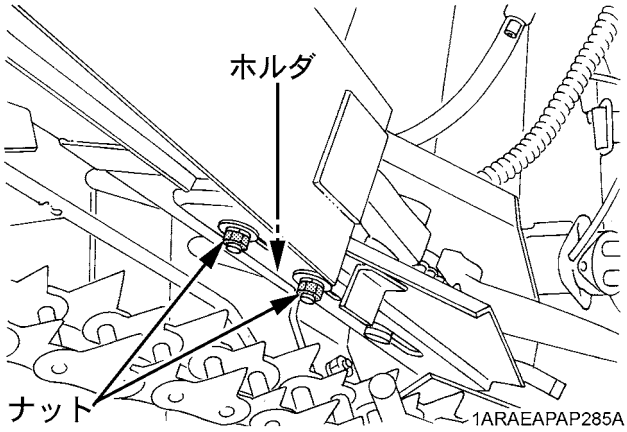


1ARAEAPAP115A

■右穂先チェーン

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，2箇所のナットをゆるめてホルダを前方に張ってください。また，ホルダの調整ができなくなったときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

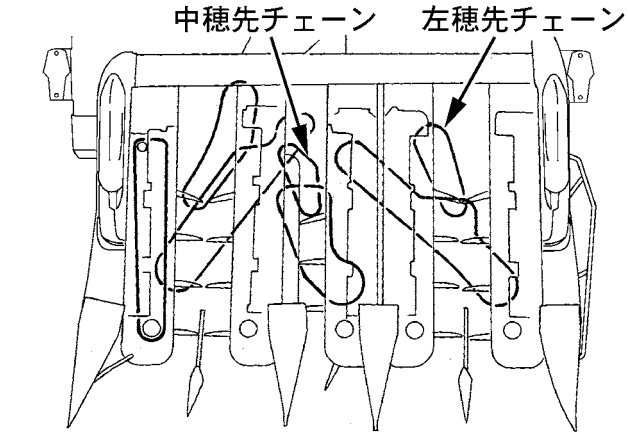




■中穂先チェーン・左穂先チェーン

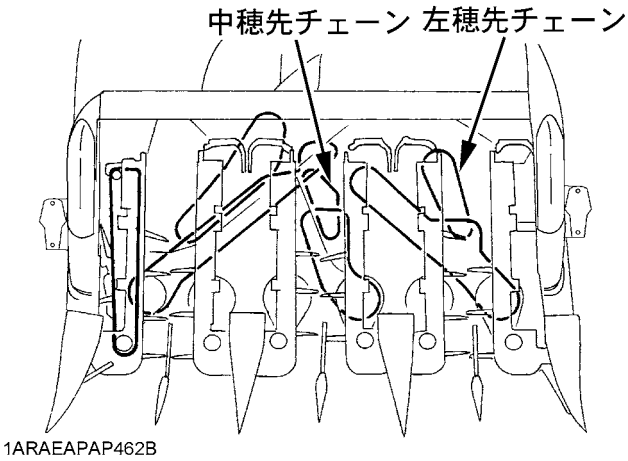
自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

[572]



[572]

[698]



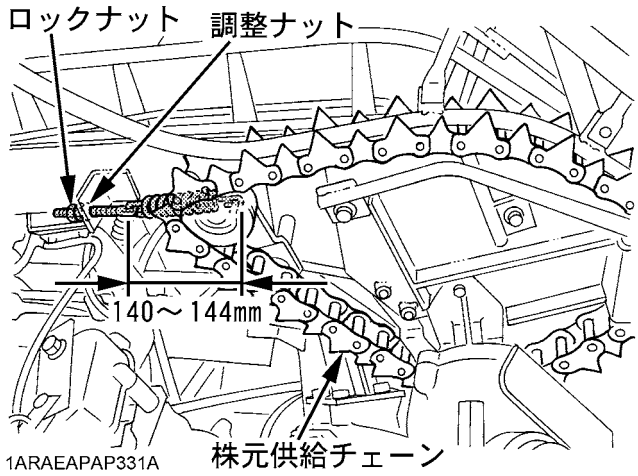
[698]

■株元供給チェーン

テンションスプリングの長さを140～144㎜に調整します。

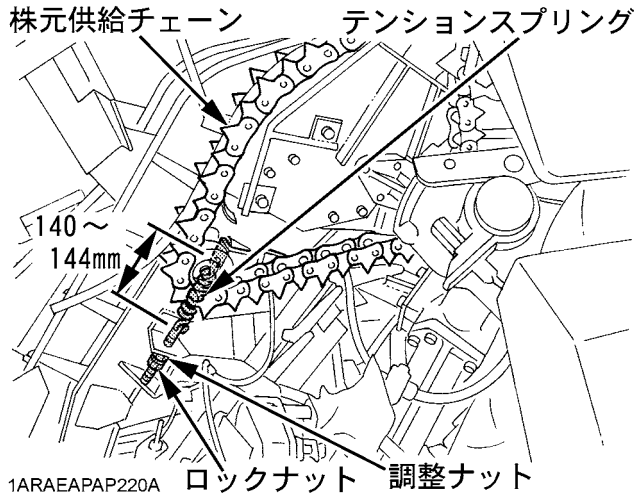
1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。

[572]



[572]

[698]



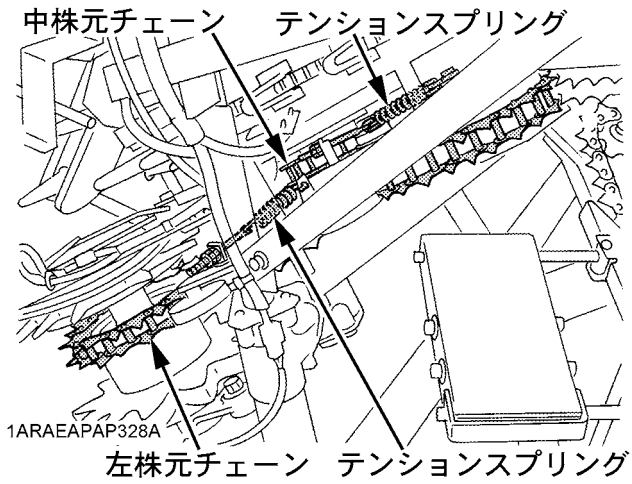
[698]

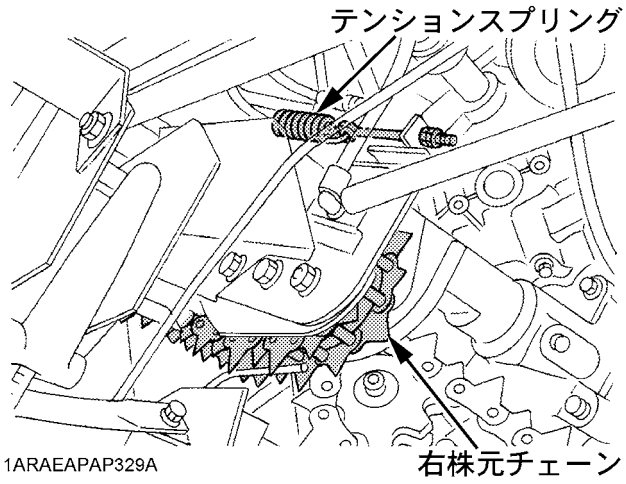
■右株元チェーン・中株元チェーン・左株元チェーン

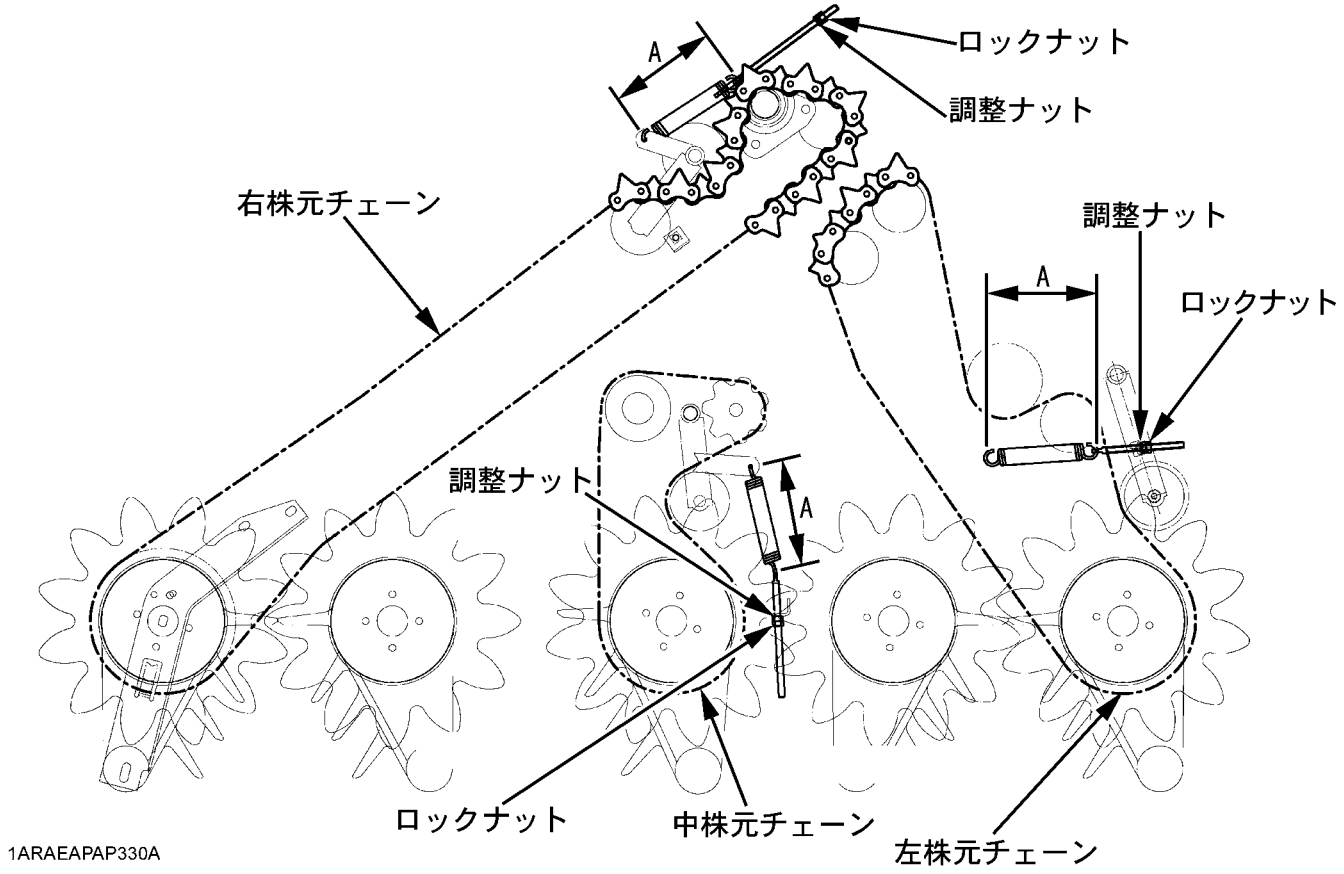
テンションスプリングの長さ A 寸法を 140 ～ 144mm に調整します。

1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。

[572]

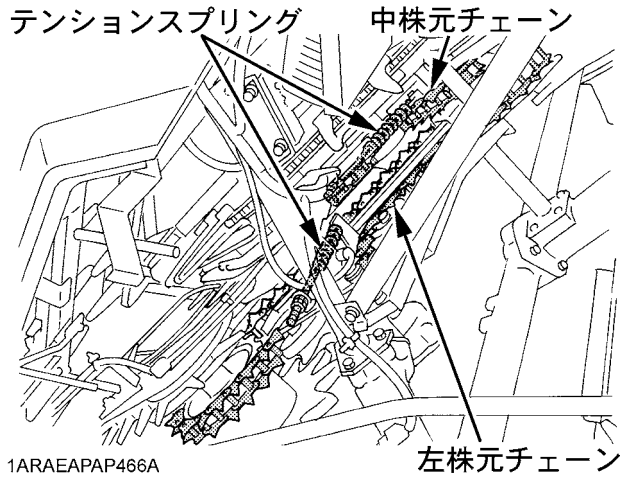


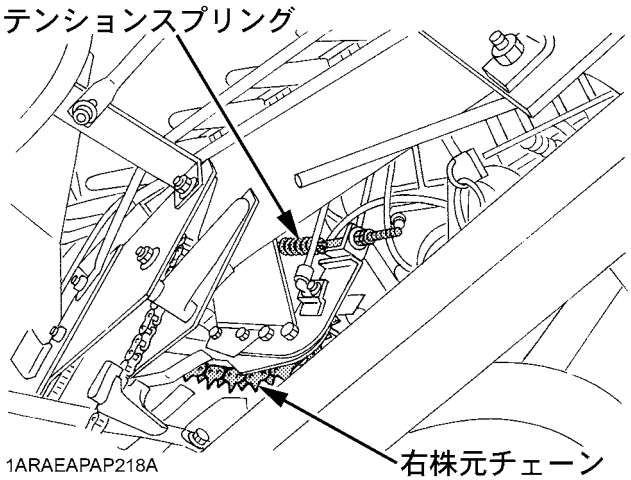


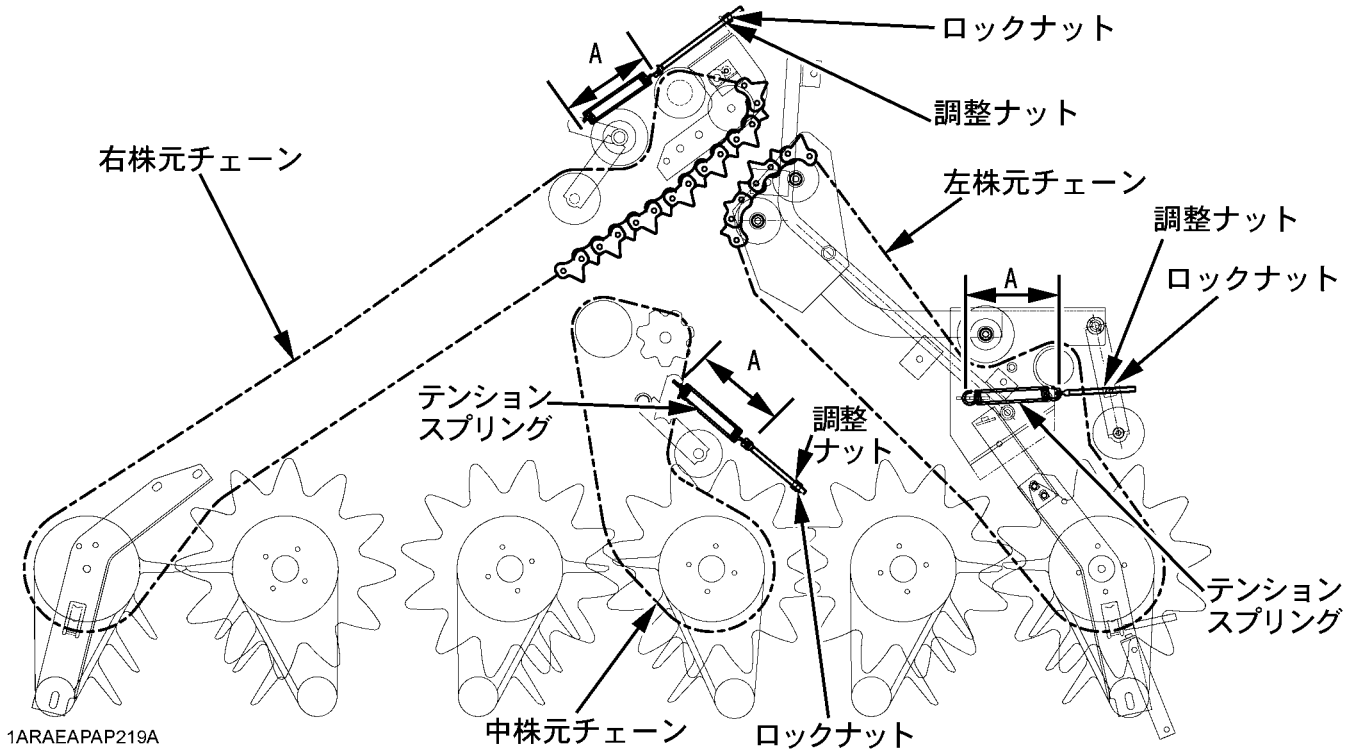


[572]

[698]


テンションスプリング
中株元チェーン
左株元チェーン
1ARAEAPAP466A


テンションスプリング
右株元チェーン
1ARAEAPAP218A

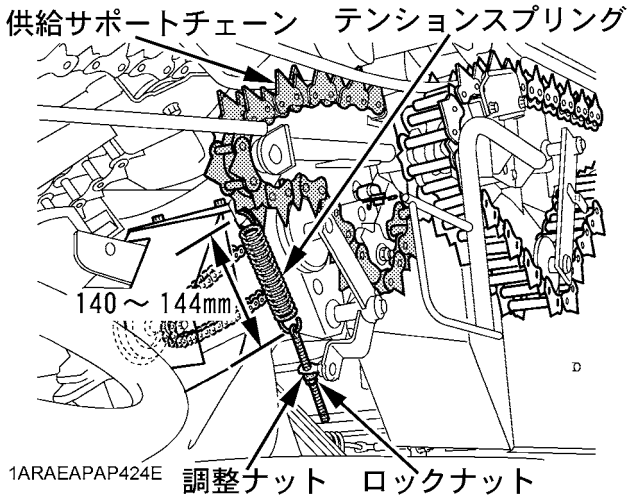

ロックナット
A
調整ナット
右株元チェーン
左株元チェーン
調整ナット
ロックナット
A
A
テンション
スプリング
調整
ナット
テンション
スプリング
中株元チェーン
ロックナット
1ARAEAPAP219A

[698]

■供給サポートチェーン

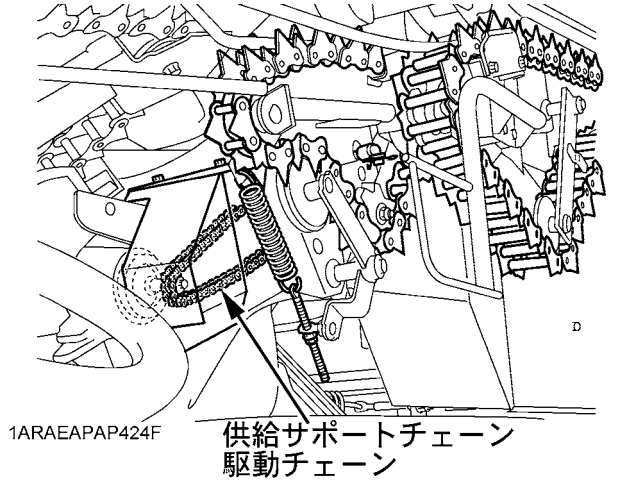
テンションスプリングの長さを140～144mmに調整します。

1. 左サイドカバー上1を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上1を取付けます。



■供給サポートチェーン駆動チェーン

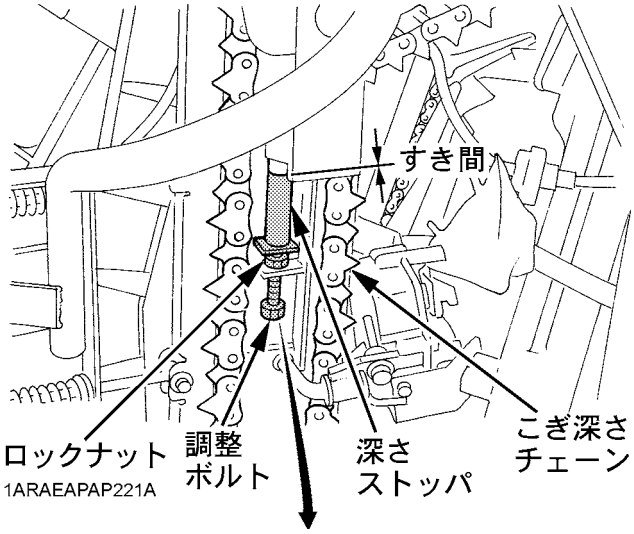
チェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

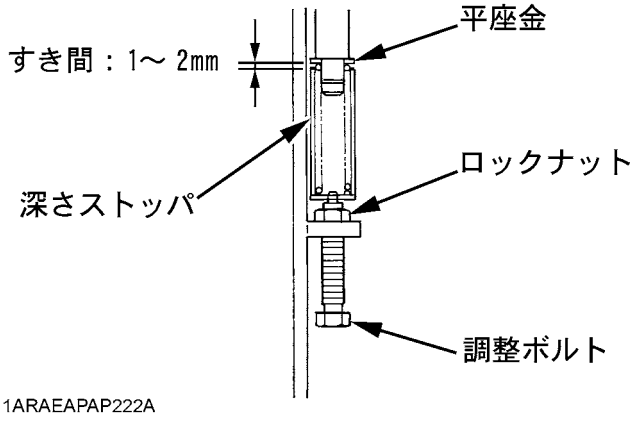


■こぎ深さチェーン

深さストッパとテンションアームの平座金のすき間を1～2mmに調整します。

1. ロックナットをゆるめて，調整ボルトで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。

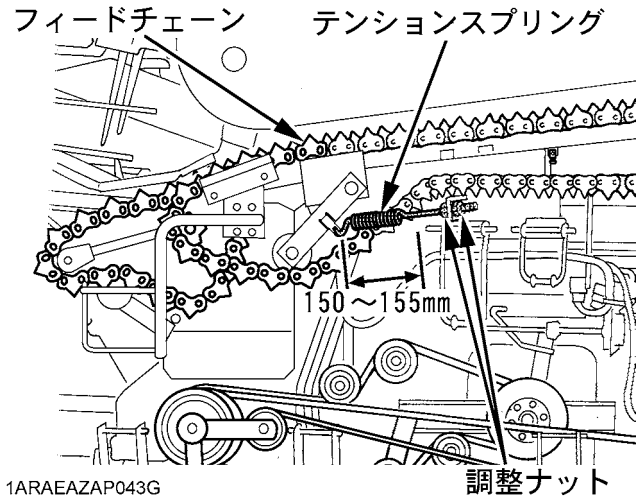




■フィードチェーン

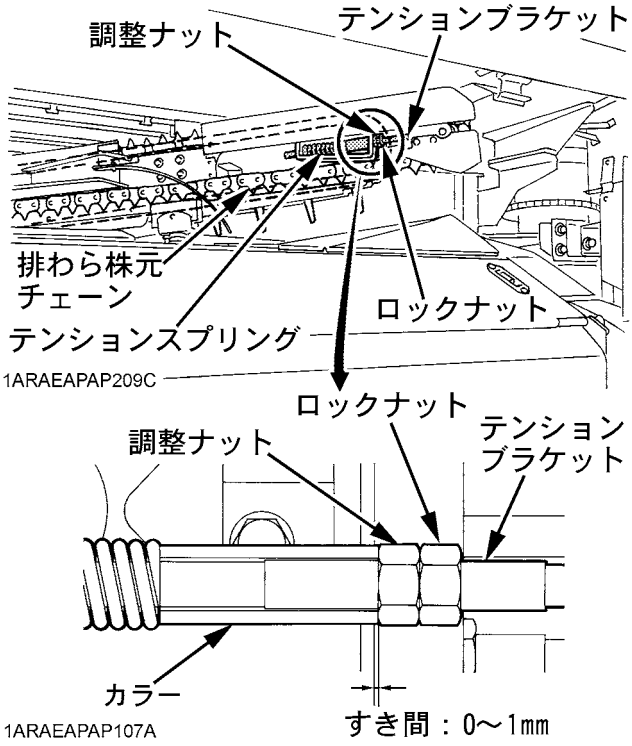
テンションスプリングの長さを150～155㎜に調整します。

1. 左サイドカバー上1を取外します。
2. 調整ナットをゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上1を取付けます。



■排わら株元チェーン

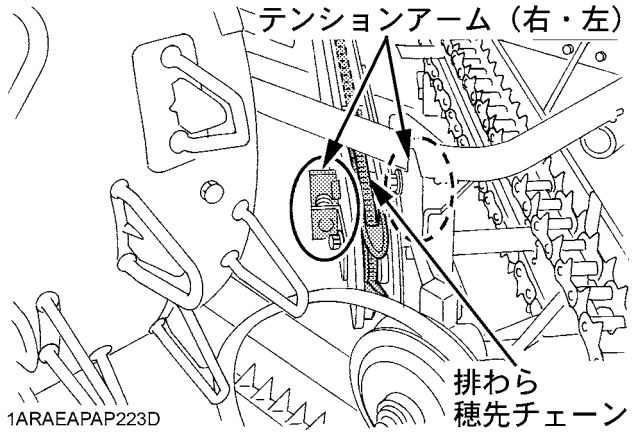
1. カッタ上部カバーを上げます。
2. テンションブラケットを取付けているブラケットガイドの端面と調整ナットのすき間（カラーの出代）を０～１ ㎜ に調整します。調整は株元側と穂先側が連結しているため同時に行ないます。
   (1) ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
   (2) ロックナットを締付けます。

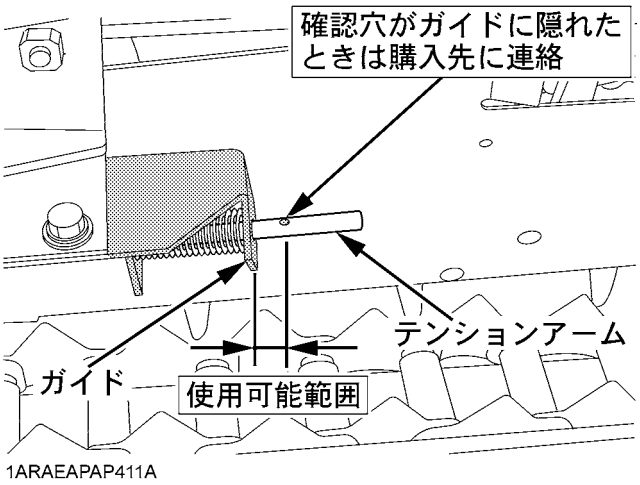


3. カッタ上部カバーを閉じます。

■排わら穂先チェーン

排わら穂先チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，チェーンが伸びて穂先テンションアームのテンション位置の確認穴がガイドに隠れて見えなくなったとき（**使用可能範囲**から外れたとき）は，購入先に連絡して修理を依頼してください。





■刈刃の点検・調整

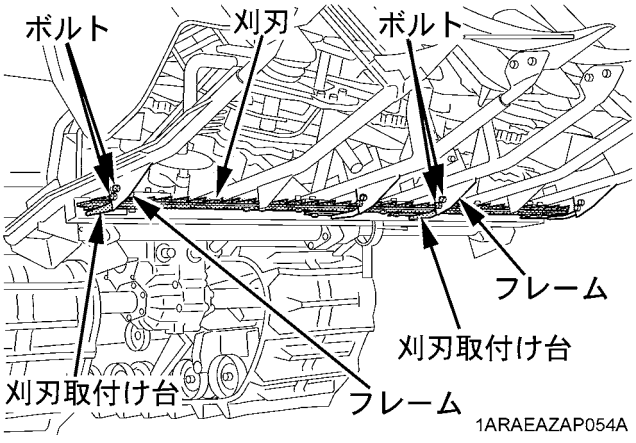
注 意

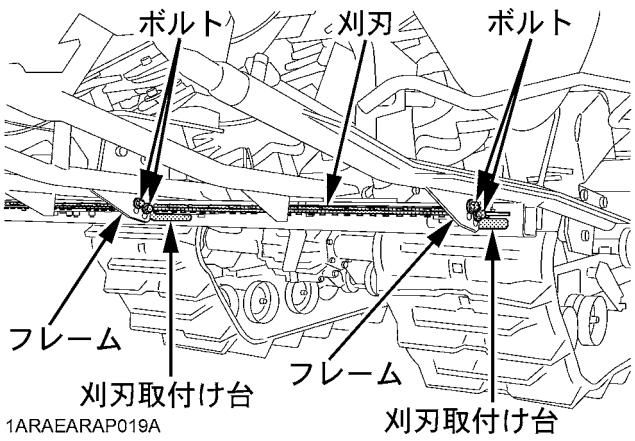
- **＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。**
- **＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。**
- **＊ 脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。**

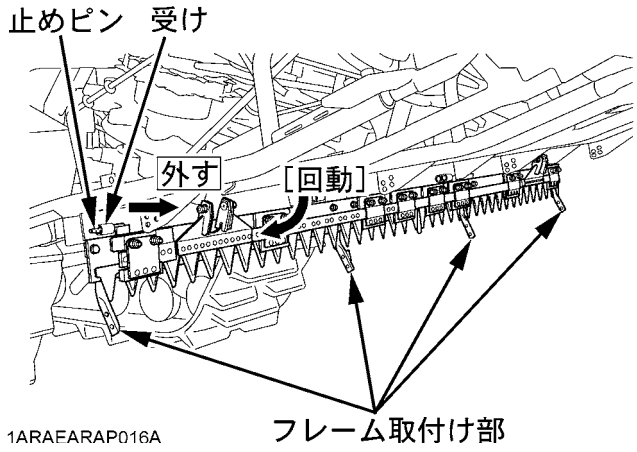
刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆ 点検・取外し

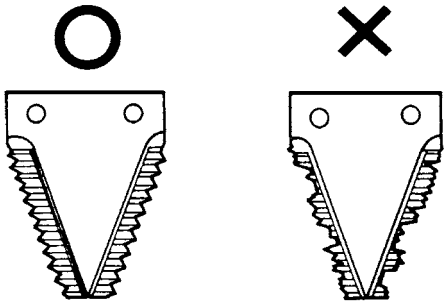
1. 自動水平制御の水平操作レバーを操作して，機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を最上昇させたあと，刈取下降ロックスイッチを**［ロック］**位置にし，スイッチロック金具をセットして，解除防止を行なったあと，エンジンを停止します。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
3. 刈刃取付け台をフレームに取付けているボルトを外すと，刈刃が垂直に回動します。
4. ２人作業で刈刃取付け台を左側に移動して，止めピンを受けから外し刈刃を取外します。







5. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼してください。



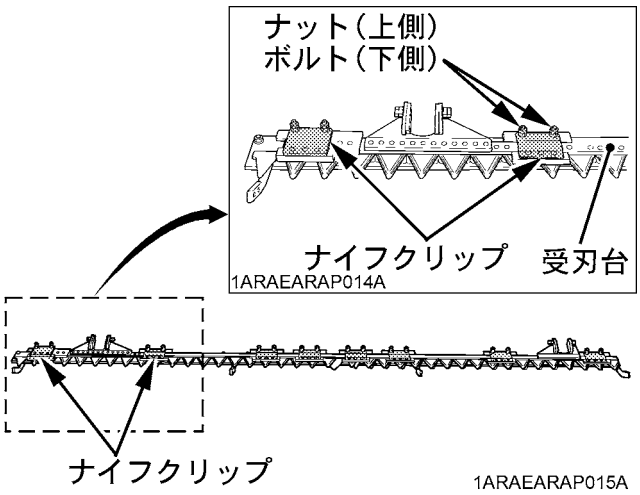
◆ すき間調整

すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

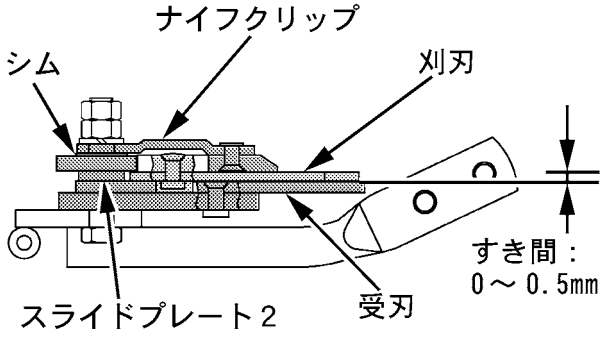
補　足

＊ 専用工具については，購入先にご相談ください。

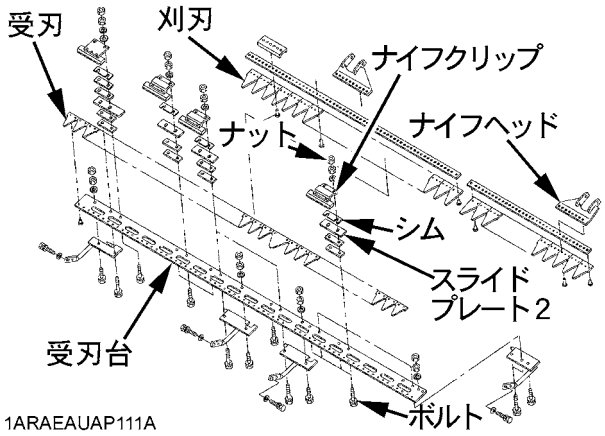
1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップを受刃台から外します。



2. 刈刃を取外したあと，ワイヤブラシなどで泥やさびを取除きます。
3. 刈刃と受刃のすき間を 0 ～ 0.5mm に調整します。
   (1) ナイフクリップとスライドプレート 2 の間にあるシムを増減して調整したあと，ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を 0 ～ 0.5mm に調整します。

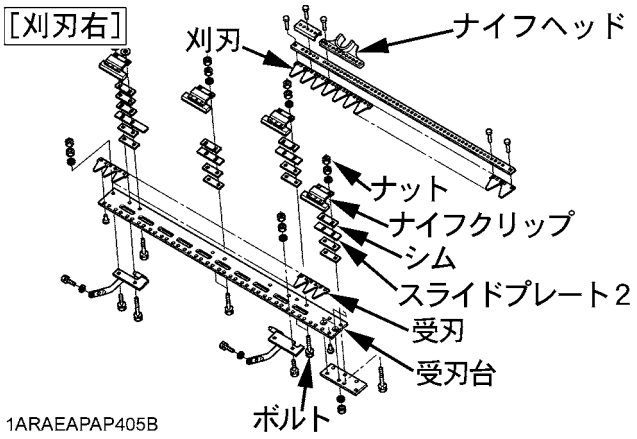


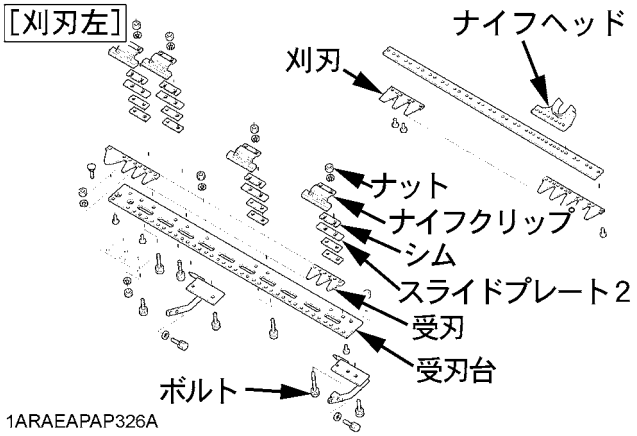
[572]



[572]

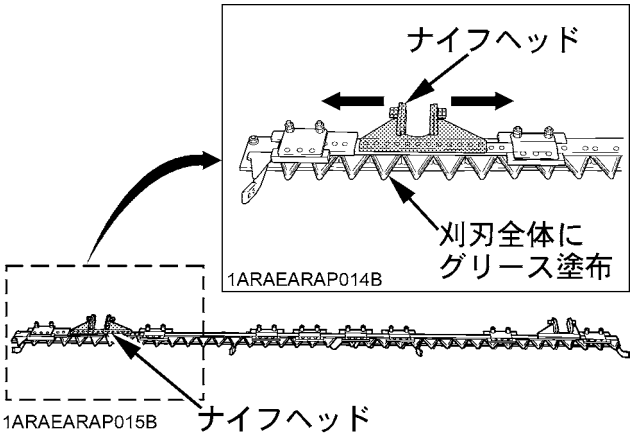
[698]





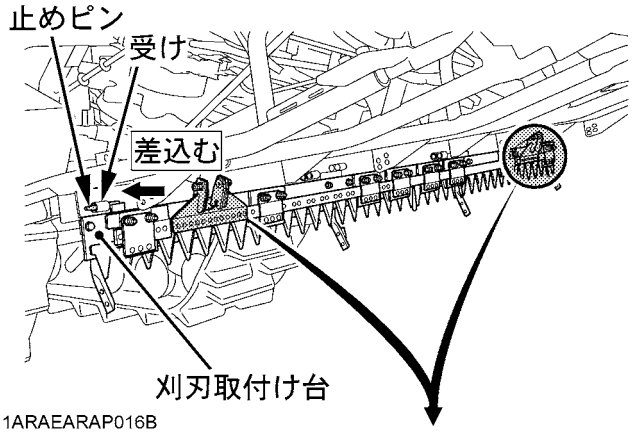
[698]

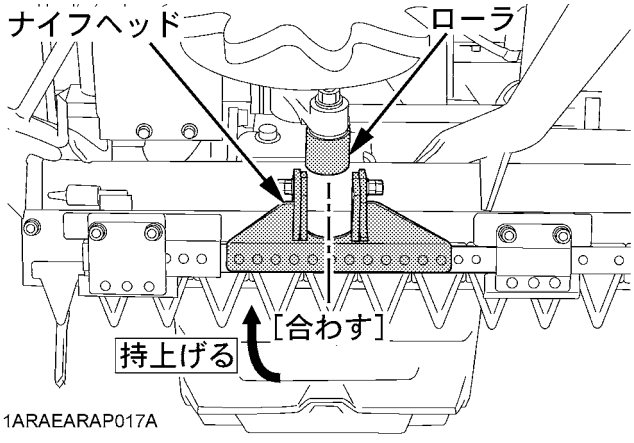
(2) ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない，異常がなければ刈刃全体にグリースを塗布します。



◆ 取付け

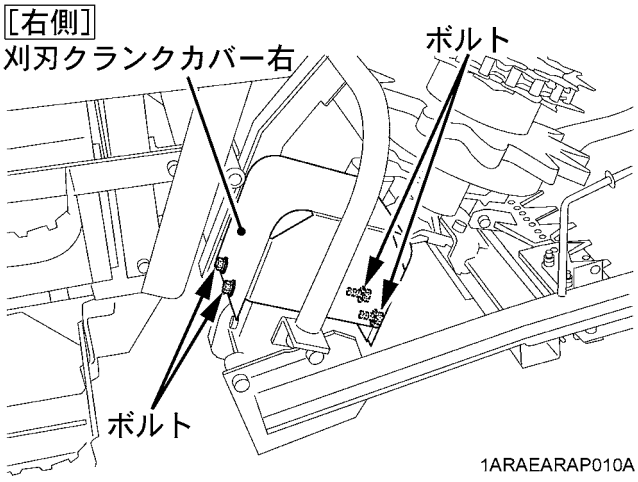
1. ２人作業で刈刃を垂直の状態にして，右側の止めピンから受けに差込み，中央・左側の順に穴を合わせてから，刈刃全体を右側に移動させます。
2. 刈刃取付け台の前を持上げ，左右のナイフヘッドとローラの位置を合わせてから，ボルト穴まで持上げて，ボルトで取付けます。

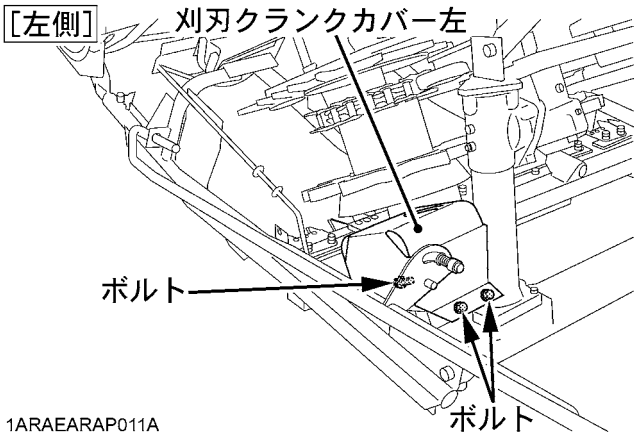




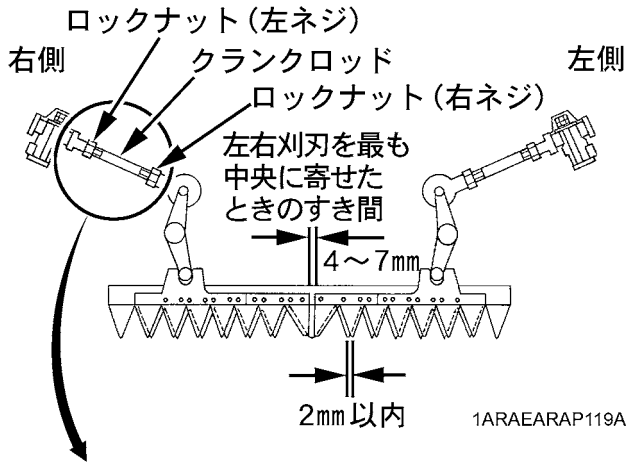
◆ 刈刃クランクロッドの調整

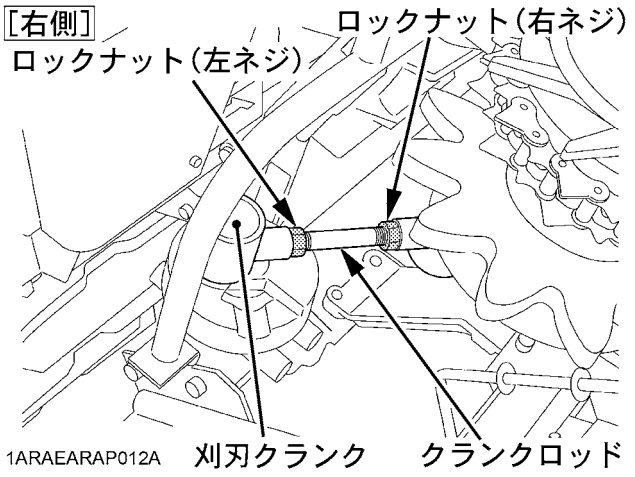
1. 刈刃左を右端，刈刃右を左端に移動させたあと，刈取部の回転を停止します。
2. 刈刃クランクカバー右のボルトを外し，カバーを取外します。

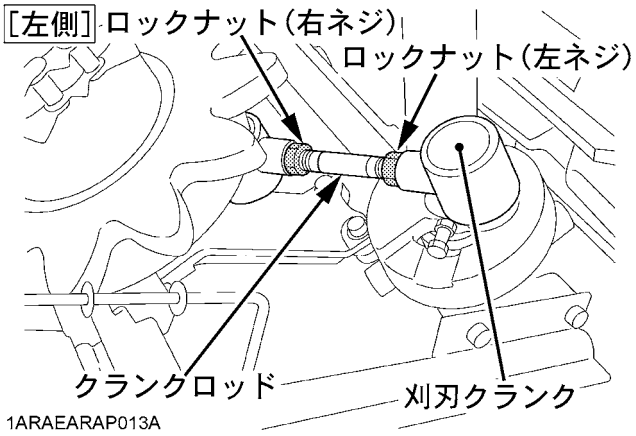




3. クランクロッドのロックナット２個をゆるめます。(左・右ネジがあるので注意してください)
4. 右側と同じ要領で左側にある刈刃クランクカバー左を取外し，クランクロッドの左，右のロックナット２個をゆるめます。
5. クランクロッドを回して，刈刃と受刃のセンタずれが２ ㎜ 以内になるよう，調整します。
6. 刈刃中央部で，左右の刈刃のすき間が４～７ ㎜ になっていることを確認します。
   すき間が少なければ，再度 3. の調整をして，４～７ ㎜ になるように調整します。
7. クランクロッドのネジ部にネジロックを塗布したあと，ロックナットを締付けます。







補　足

＊ ネジロックは，購入先に連絡して入手してください。

8. 刈刃クランクカバー左，右を取付けます。

■こぎ歯の点検･交換

警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

注　意

＊ 平たんな場所でこぎ歯の点検・交換を行なってください。

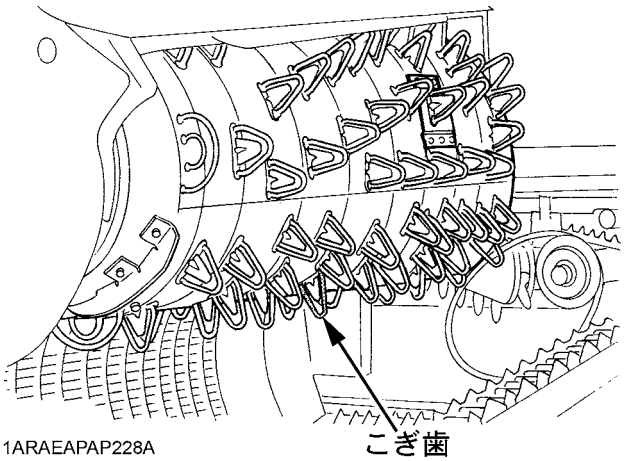
こぎ歯の歯先が摩耗してくると,受あみとのすき間が大きくなり,こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が 2.5mm 以下になったときは，こぎ歯の交換を行なってください。

重　要

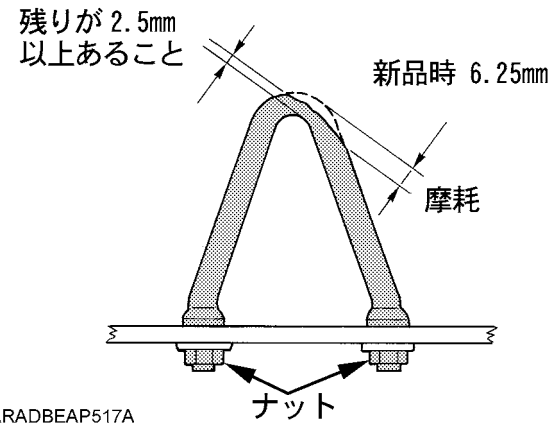
＊ 歯先の線径が 2.5mm 以下になると，こぎ歯が変形したり，歯先が割れて故障の原因となります。

◆ 点検

1. 補助デッキを引出したあと，こぎ胴を開きます。
2. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し,線径が 2.5mm 以下のときは交換します。



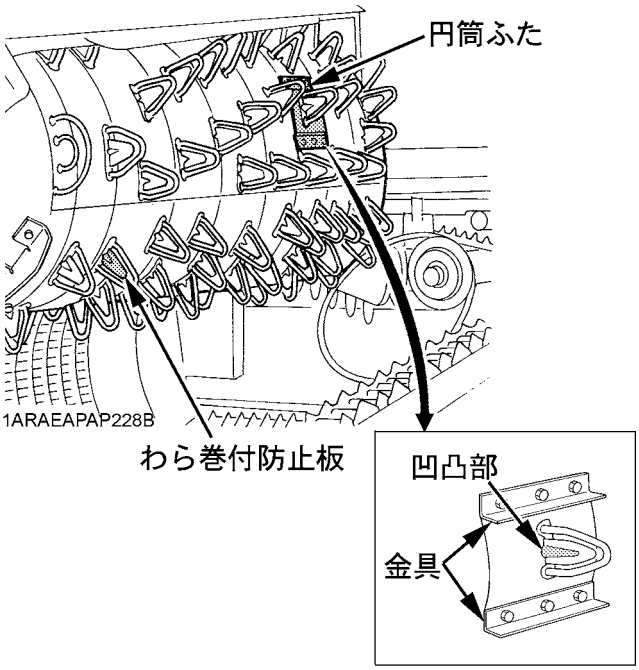
1ARAEAPAP228A



1ARADBEAP517A

◆ 交換

1. ボルト６本を取外し，ボルト摩耗防止の金具（上,下各１個）と共に円筒ふたを取外します。
2. 円筒ふたから手を入れて，こぎ胴の内側からナット 2 個を取外し，こぎ歯を取外します。
3. 新しいこぎ歯をナット 2 個で取付けます。
4. 円筒ふたを金具と共にボルト６本で取付けます。このとき，金具は２個ともＬ字部を下側に向けて取付けます。



重　要

＊ 円筒ふたの金具のＬ字部を下側にして取付けてください。

補　足

＊ 円筒ふたは４箇所あります。
＊ わら巻付防止板を取付けるときは，凹凸部の凸部を左側に向けた状態で取付けてください。

5. 補助デッキを収納したあと，こぎ胴を閉じます。

■わら切刃の点検・組換え・交換

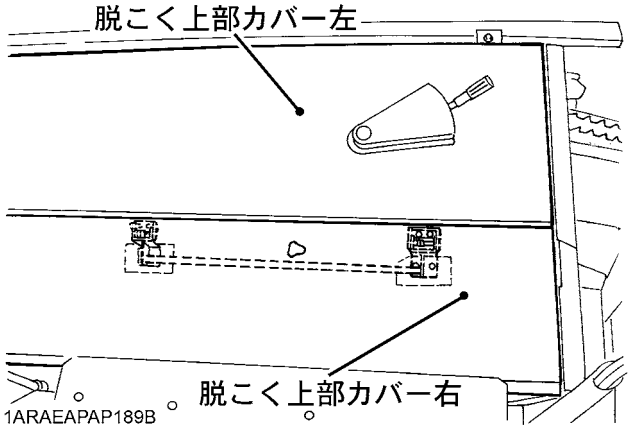
注　意

＊ 刃部に手を掛けないでください。
＊ 危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが 2 番スクリュに巻きついたり，2 番処理胴に詰まったりします。

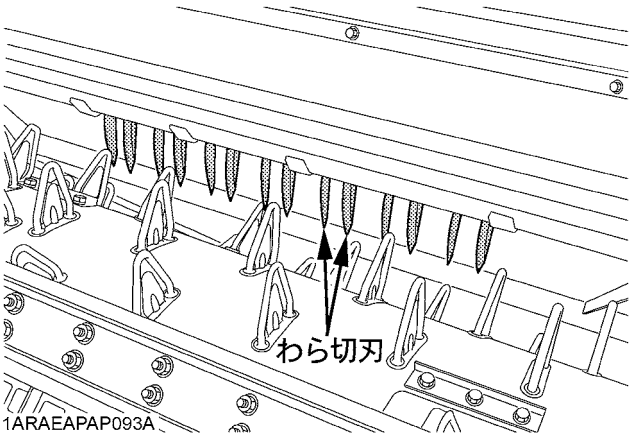
◆ 点検・組換え・交換

点検するときは，アンローダを上昇し，脱こく上部カバー右，左を開いてください。

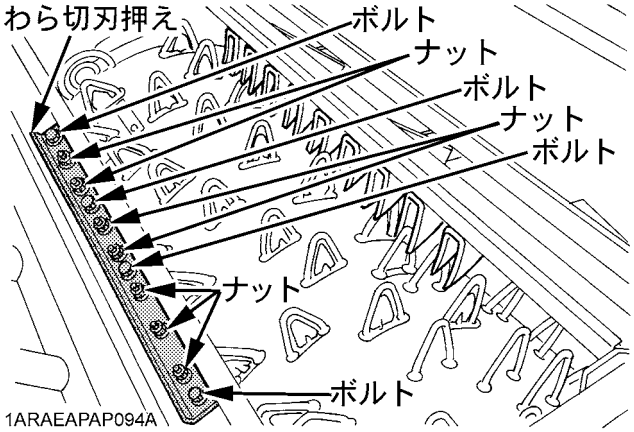


● 株元側

1. わら切刃のナットを少しゆるめておきます。
2. わら切刃押えのボルト４本を外します。
3. わら切刃押えを取外します。
4. わら切刃押えを取出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときはナットを取外して交換してください。

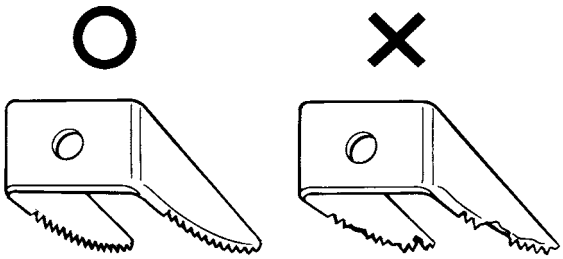


1ARAEAPAP093A



1ARAEAPAP094A

5. 交換したあと，ナット取付け部にネジロックを塗布してナットを締付けたあと，ボルト 4 本でわら切刃押えを締付けます。


1ARADAFAP455A

重　要

＊ わら切刃を取付けるときは，刃面を上向きにし，傾きの出ないように注意して取付けてください。

補　足

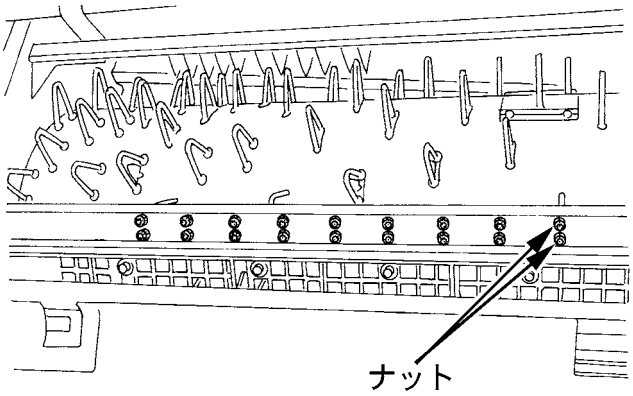
＊ ネジロックは購入先に連絡してください

● **穂先側**

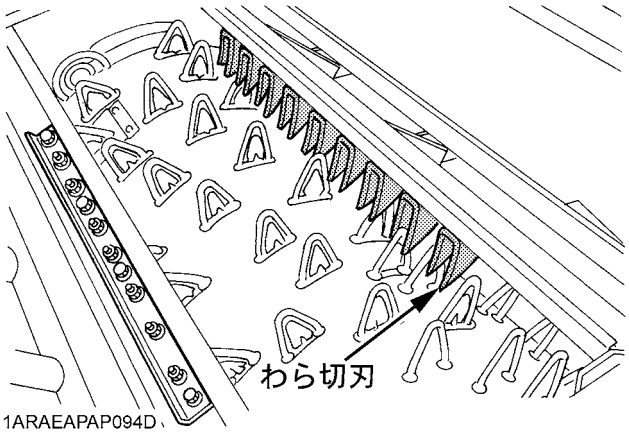
(1) わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗しているときは，取外して 180 度回して組換えます。両刃とも摩耗や欠けが大きいときは交換してください。

(2) ナット 2 個を取外し，わら切刃を抜きます。

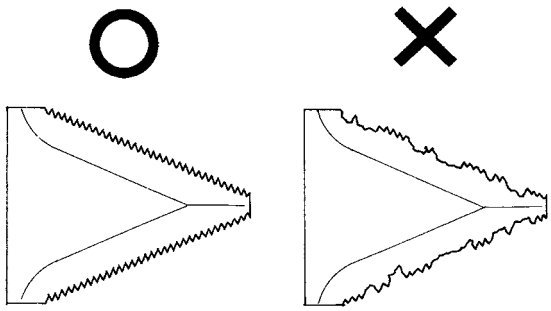
(3) 組換え又は，交換を行ないます。



1ARAEAPAP231A



1ARAEAPAP094D


1ARAEAPAP114A

重　要

＊ わら切刃を取付けるときは，傾きの出ないように注意して取付けてください。

6. 脱こく上部カバー左，右を閉じて，アンローダをアンローダ受けに収納します。

■カッタ部の点検･調整･増締め

警 告

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。
＊ カッタ部を開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

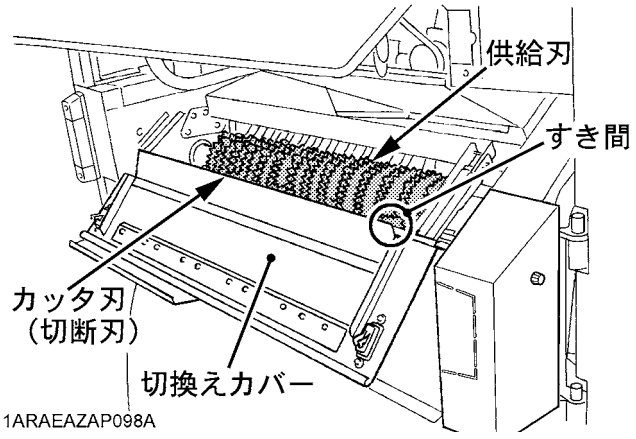
注 意

＊ 傾斜地では，カッタの開閉をしないでください。
＊ カッタをオープンして掃除をするときは，オープンストッパで必ず固定してください。

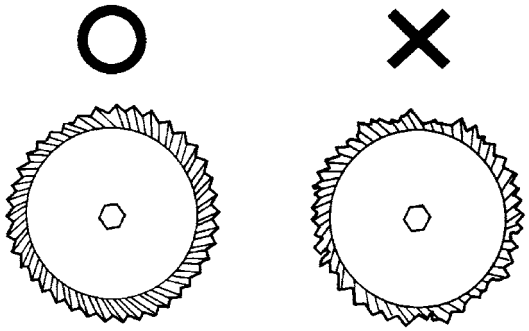
補 足

＊ わらくずなどは取除いてください。

カバーロック金具を引き，排わら切換えカバーを開いてカッタ刃（切断刃）の刃先の摩耗状態を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは，交換してください。（170 ページ参照）また，カッタ刃（切断刃）と供給刃のラップ代とすき間を確認し，規定範囲から外れているときは，調整してください。それから，定期的（初回又は，交換後 50 時間後，その後 200 時間ごと）に切断軸と供給軸の増締めを行なってください。



1ARAEAZAP098A

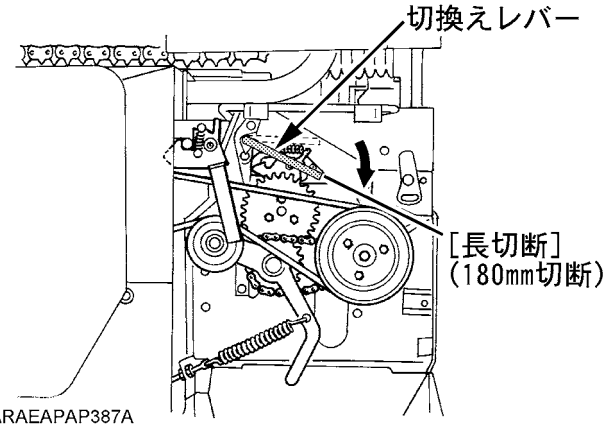

1ARADAFAP225A

◆ カッタ刃と供給刃のラップ代の点検・調整

供給刃とカッタ刃（切断刃）のラップ代を確認し，ラップ代が 9 ㎜ 以下になったときは，軸受けプレートの取付位置の変更を行ないます。

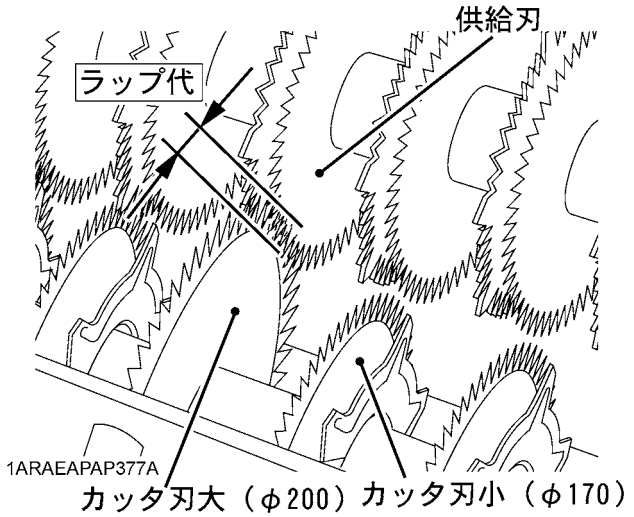
● 点検

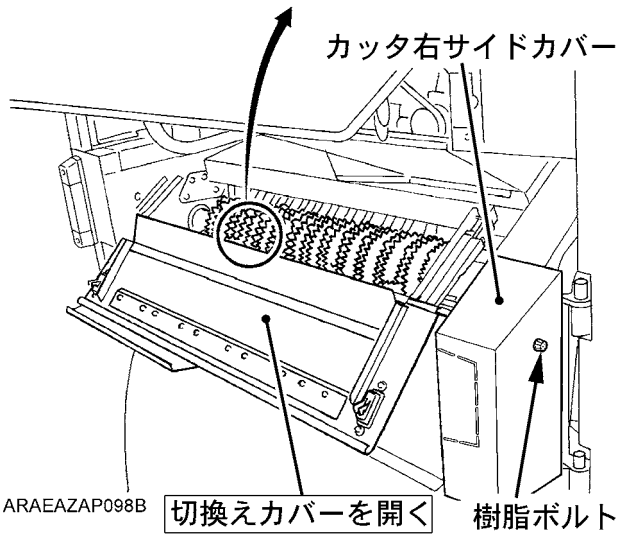
1. カッタ左サイドカバーを取外します。
2. 排わら切断長さの切換えレバーを **[長切断]**（180㎜ 切断）位置にします。



1ARAEAPAP387A

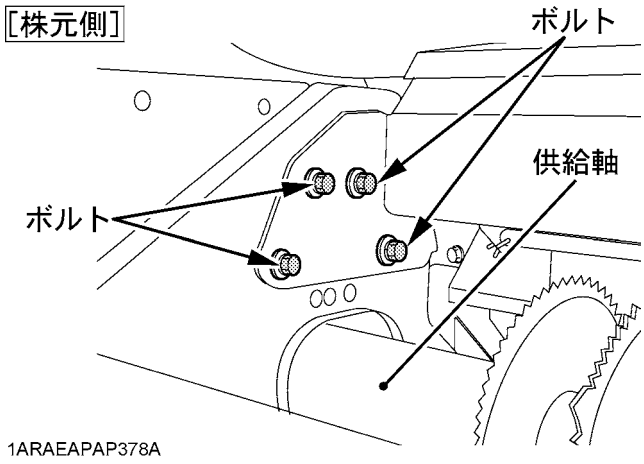
3. 排わら切換えカバーを開きます。
4. 大きいほうのカッタ刃(φ200)と供給刃のラップ代を測定し，９ ㎜ 以下のときは軸受けプレートの取付位置を変更します。

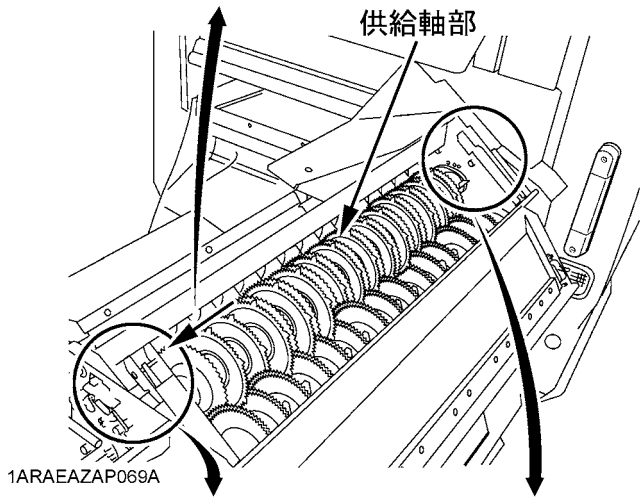


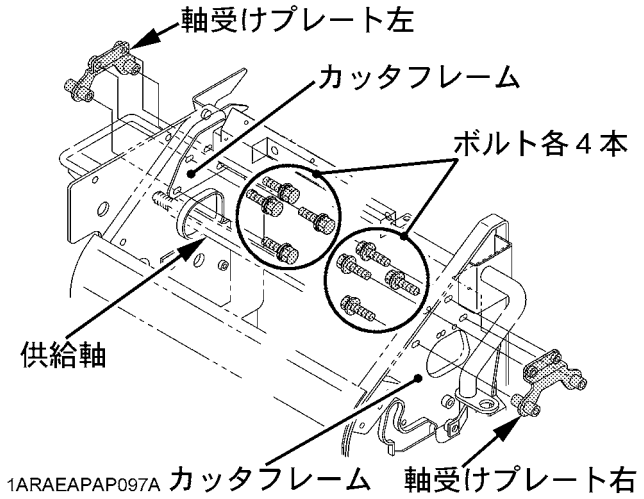


● **調整**

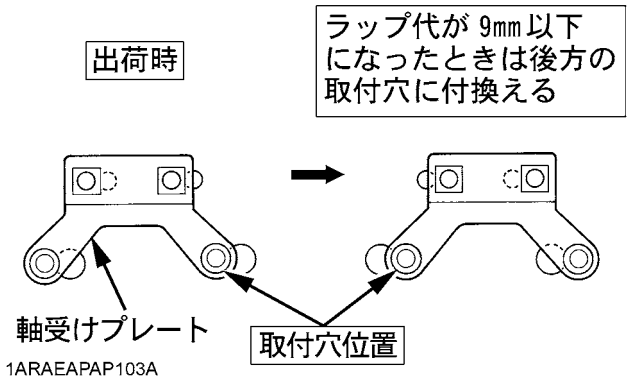
1. 樹脂ボルトを取外してカッタ右サイドカバーを取外したあと，カッタをオープンします。
2. 株元側（左側）と穂先側（右側）の供給軸を取付けているカッタフレーム上部にある軸受けプレート左，右ボルト各４本を取外します。

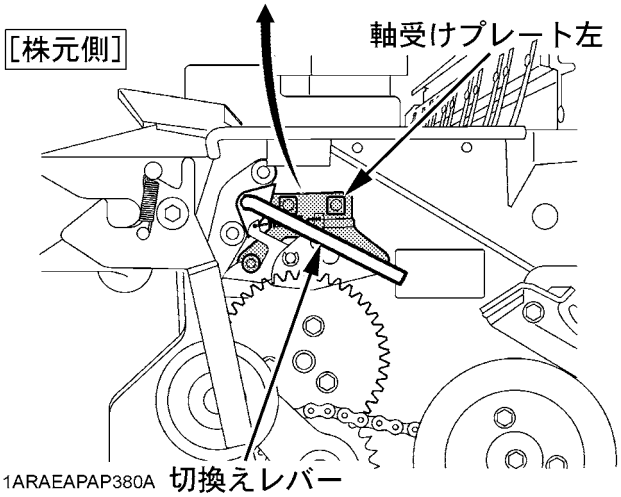






3. 軸受けプレートの取付位置を後方の取付穴の位置に付換えます。付換えは株元側（左側）と穂先側（右側）両側共行ないます。





4. ボルトの締付けを終わったあと，カッタを閉じて排わら切換えカバーを閉じます。

補　足

＊ カッタ刃（切断刃）を交換したときは，出荷時の位置に戻してください。

5. カッタ右サイドカバー及び，カッタ左サイドカバーを取付けます。

◆ カッタ刃と供給刃のすき間の点検・調整

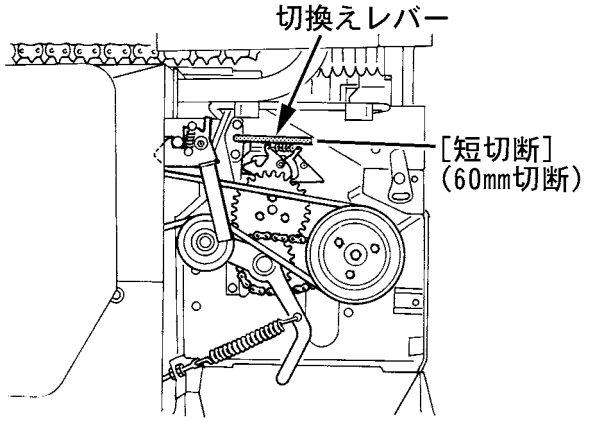
供給刃とカッタ刃（切断刃）のすき間を確認し，すき間が4.5～8.0mmの範囲から外れているときは，すき間調整を行ないます。

重　要

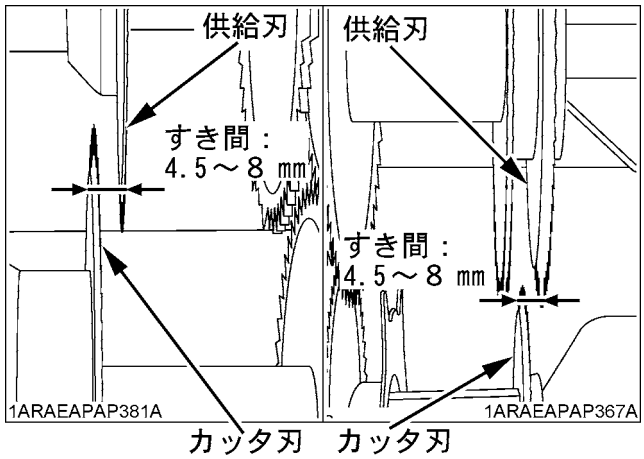
＊ すき間が適正範囲（4.5 ～ 8.0mm）外になると，刃物の接触が発生し破損するおそれがあります。また，わらの切断精度が悪くなります。

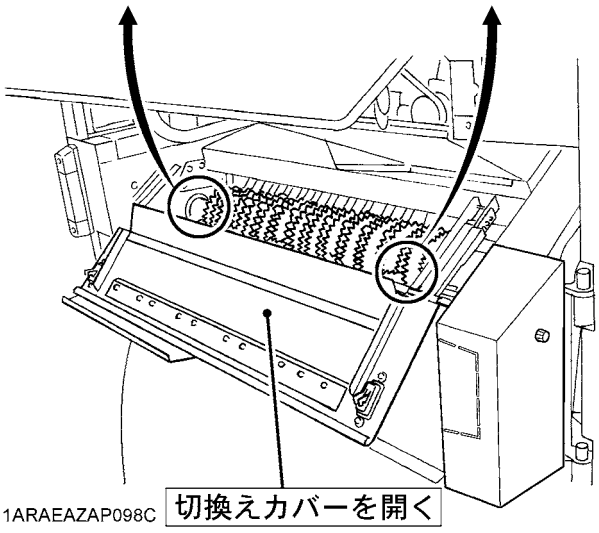
● **点検**

1. カッタ左サイドカバーを取外します。
2. 排わら切断長さの切換えレバーを**[短切断]**（60mm 切断）の位置にします。



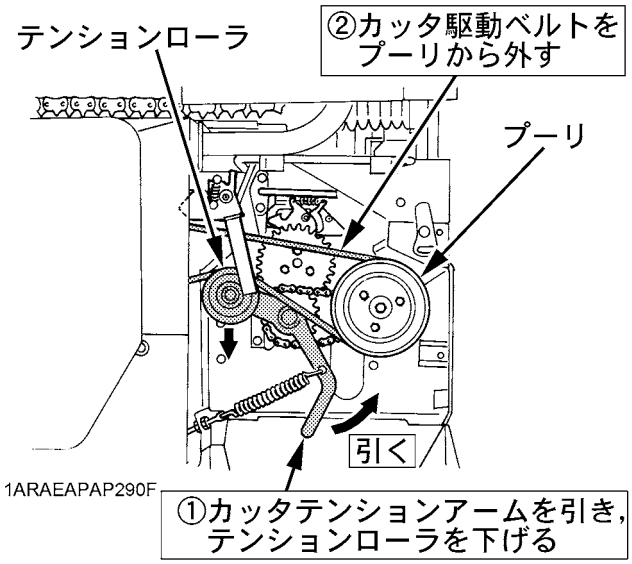
3. 排わら切換えカバーを開きます。
4. 両端部のカッタ刃と供給刃のすき間を確認し，4.5 ～ 8.0mm の範囲から外れているときは調整を行ないます。



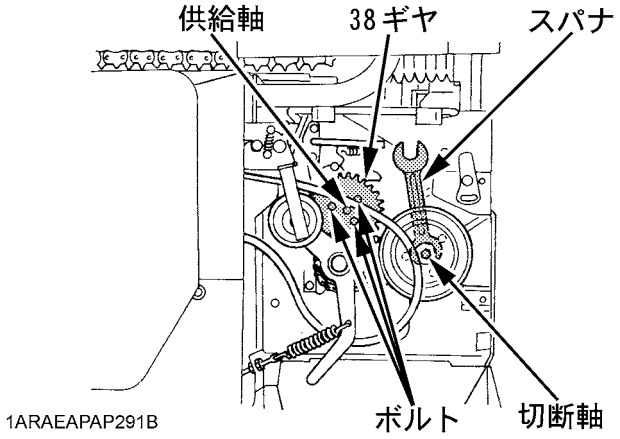


● **調整**

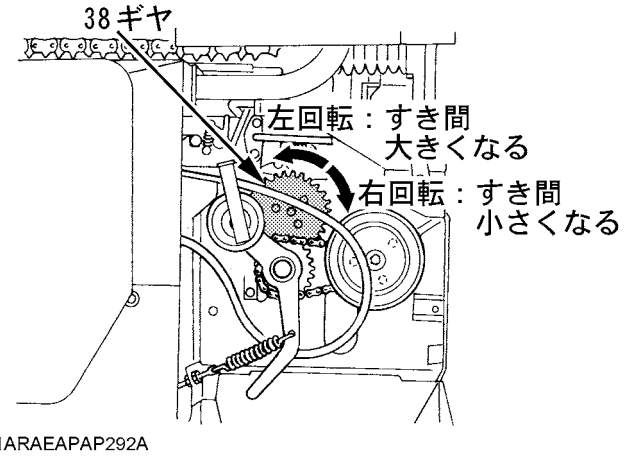
1. カッタ左サイドカバーを取外したあと，カッタ駆動ベルトを外します。



2. 切断軸側のプーリ内側にスパナを掛け，切断軸を固定した状態で供給軸側の38ギヤ固定ボルト 3 本を取外します。



3. スパナを取外し，供給軸側の 38 ギヤを左又は，右に回してカッタ刃（切断刃）と供給刃のすき間を調整します。すき間は，左に回すと大きくなり，右に回すと小さくなります。



重　要

＊ 38 ギヤを左に回した場合（すき間を大きくした場合）は，38 ギヤとボス部にすき間ができるため，38 ギヤを軸方向に必ず押込んだ状態ですき間を調整してください。

＊ すき間は，株元側と穂先側の両端部で測定してください。

4. 38 ギヤのボルトを取付けたあと，カッタ駆動ベルトを取付けます。
5. カッタ切換えカバーを閉じたあと，カッタ左サイドカバーを取付けます。

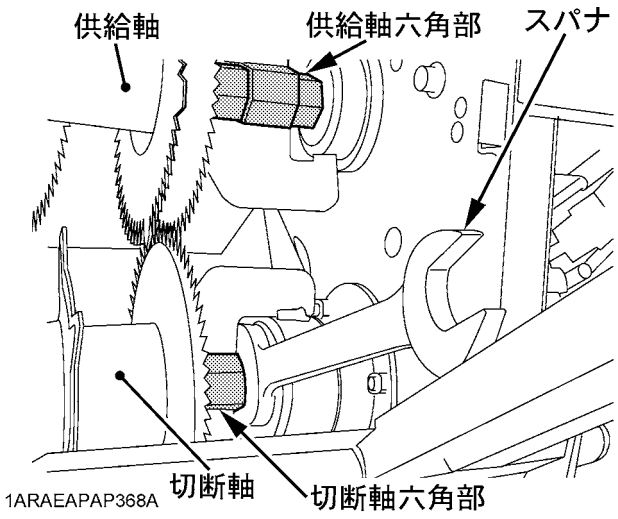
◆ **切断軸と供給軸の増締め**

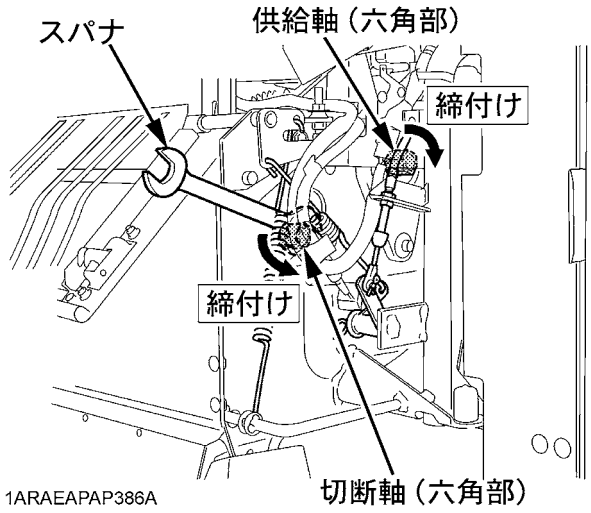
1. カッタ右サイドカバーを取外したあと，排わら切換えカバーを開きます。
2. ２人作業で株元側から切断軸と供給軸をそれぞれ増締めをします。

重　要

＊ 軸の締付けトルクは 98.0 ～ 117.6N・m(1000 ～ 1200kgf・cm) です。確実に締付けてください。組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

(1) カッタフレーム内側から切断軸又は，供給軸の終端部の六角部にそれぞれスパナを掛けて固定します。
(2) カッタフレーム外側から切断軸又は，供給軸の六角部にそれぞれスパナを掛けて増締めします。このとき，供給軸は時計方向，切断軸は反時計方向に締付けます。





3. カッタ右サイドカバーを取付けたあと，排わら切換えカバーを閉じます。

補　足

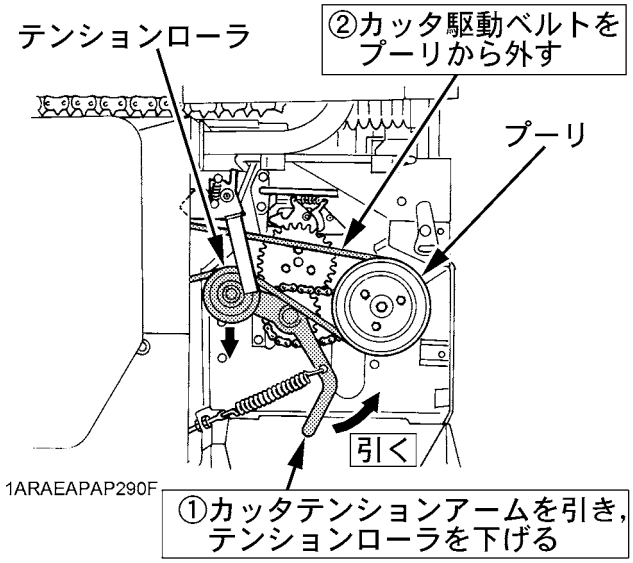
＊ カッタ切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

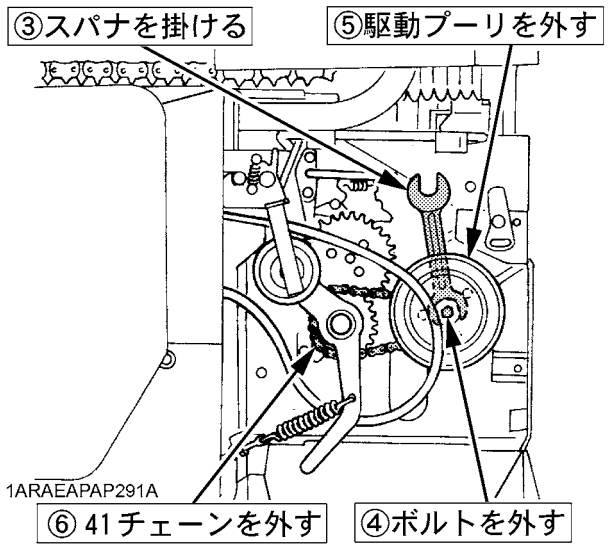
■カッタ刃の交換

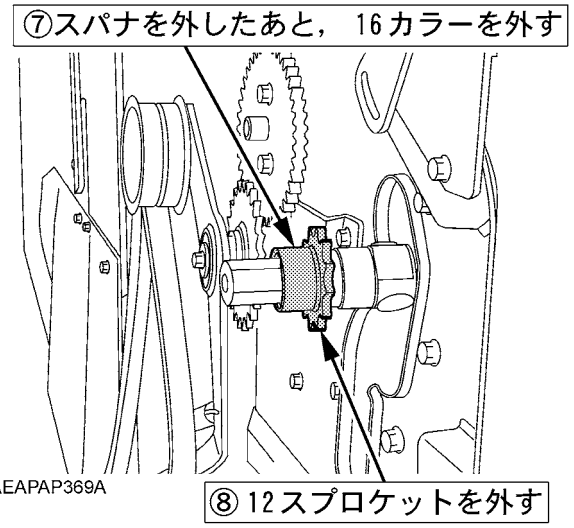
警　告

＊ カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。
＊ 切断軸完備を外すときは，2 人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。
＊ 切断軸アッシの分解・組立て作業は 2 人作業で行なってください。

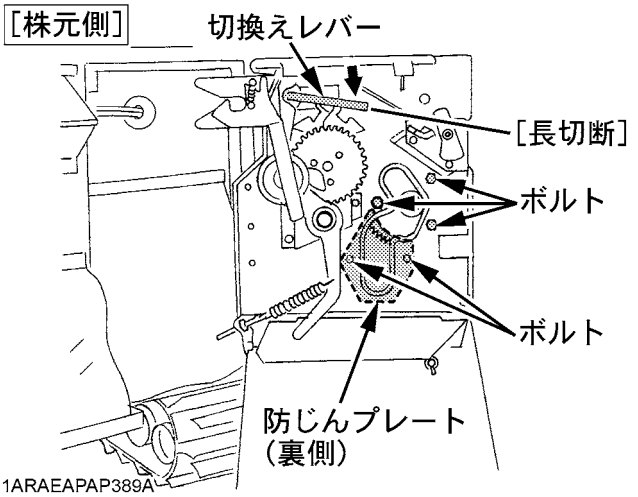
1. 上部カバーを上げたあと，カッタ左サイドカバーとカッタ右サイドカバーを取外します。
2. カッタ駆動ベルトをカッタ駆動プーリから外したあと，カッタ駆動プーリ及び 41 チェーン, 12 スプロケット, 16 カラーを取外します。

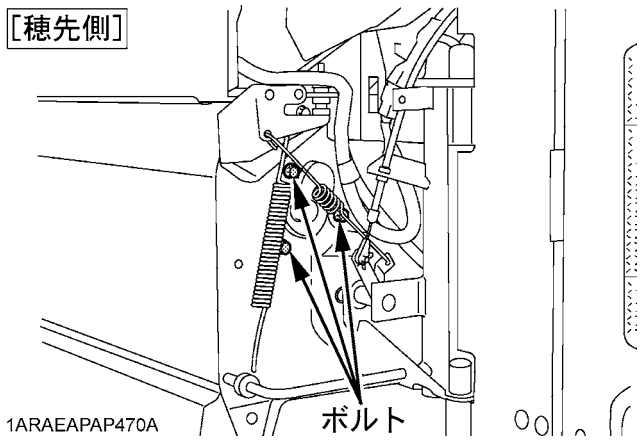




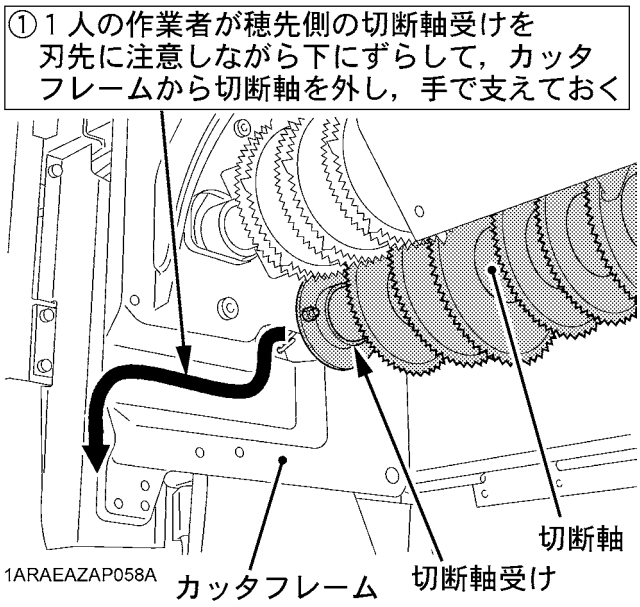


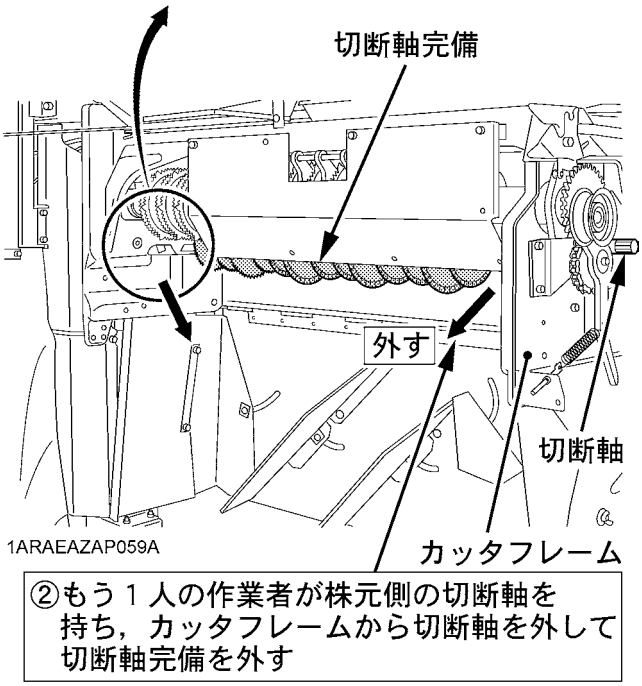
3. 排わら切断長さの切換えレバーを**［長切断］**（180mm 切断）位置にしたあと，カッタをオープンします。
4. 株元側の防じんプレートを取外したあと，株元側，穂先側の切断軸の軸受けを固定しているボルトをそれぞれ取外します。



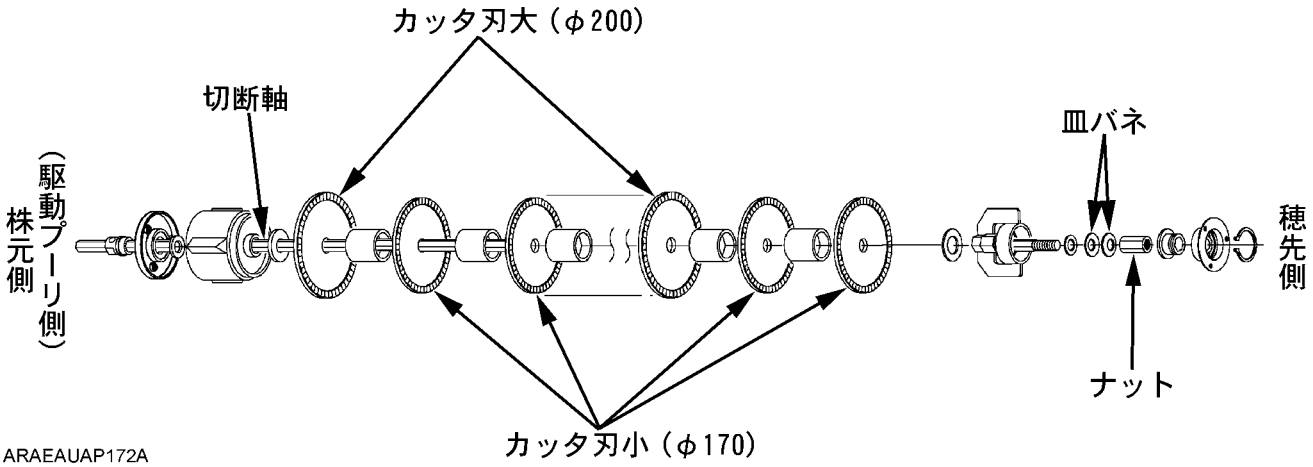


5. 切断軸完備を取外します。





6. カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは，必ず補助者と共に２人作業で行なってください。
   (1) 切断軸アッシを安定した場所に置き，穂先側のロックナット，調整ナットと順番に取外して分解します。
   (2) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付方向（刃先の向き）や大きさ（大，小）に注意しながら交換を行ないます。



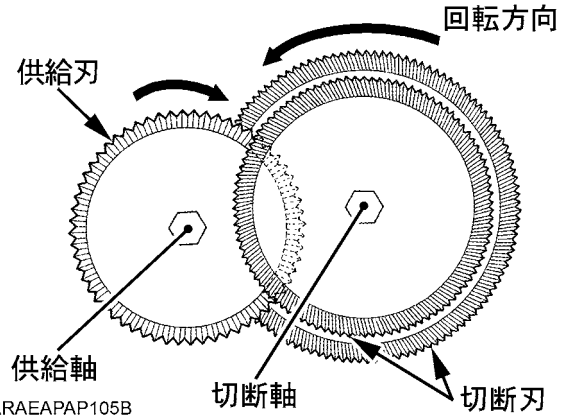
1ARAEAUAP172A

重　要

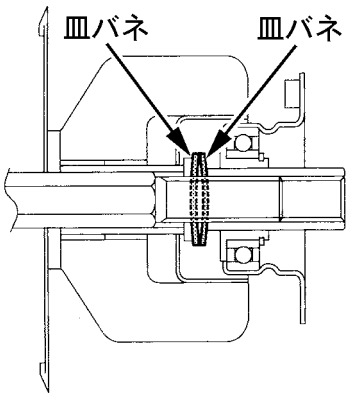
＊ 組付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると，切断軸が軸振れを起して異音が発生したり破損する原因となります。
＊ 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると，カッタ刃と供給刃のすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ，上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

補　足

＊ 取付方向（刃先の向き）や大きさを間違うとわらの切断性能が悪くなります。
＊ 皿バネ 2 枚は下図のように組付けてください。
＊ 刃の向きと回転方向は下図のようになります。



1ARAEAPAP105B



1ARAEAPAP295A

(3) カッタ刃の交換が終わると，分解と逆の手順で切断軸アッシを組立てます。
(4) 切断軸アッシを垂直に立てた状態でナットをスパナで軽く締付けます。

7. 排わら切断長さの切換えレバーを**［短切断］**（60mm 切断）位置に切換えたあと，切断軸アッシをカッタフレームに取付けます。（手順 4 ～ 6 の逆に取付けます。）

補　足

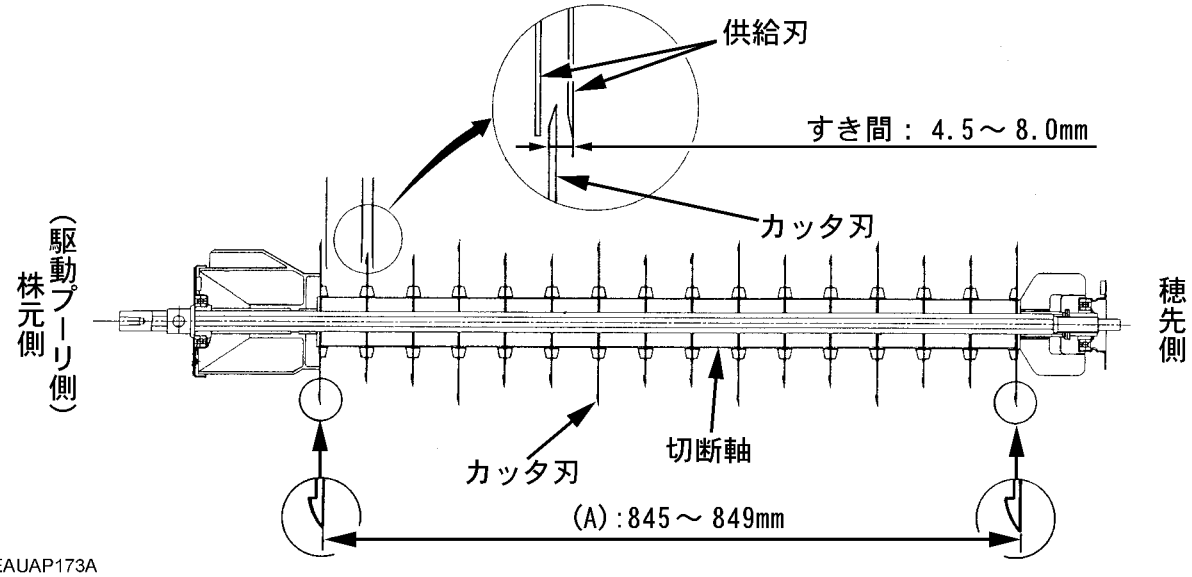
＊ 排わら切断長さの切換えレバーが**［長切断］**（180mm 切断）位置では，切断軸完備の取付けが困難となります。

8. 切断軸のナットを増締めの要領（166 ページ参照）で締付けます。

重　要

＊ 軸の締付けトルクは 98.0 ～ 117.6N・m（1000 ～ 1200kgf・cm）です。確実に締付けてください。
カッタ刃と供給刃が接触していないか，手で切断軸を軽く回して確かめてください。

9. 下図のようにカッタ刃の両端の寸法（A）が 845 ～ 849mm の範囲から外れているときや，カッタ刃と供給刃のすき間が4.5～8.0mmの範囲から外れているときは,再度分解と正しい組立てを行ないます。



1ARAEAUAP173A

重　要

＊ 再組立てを行なっても範囲から外れるときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

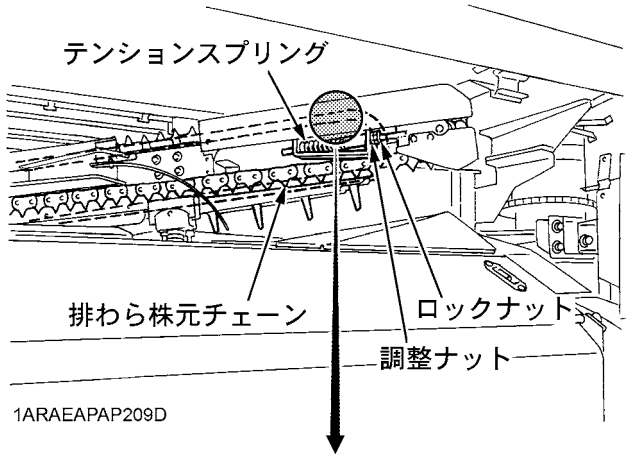
10. カッタを閉じます。
11. 取外した逆の手順で各部品の取付けを行ないます。

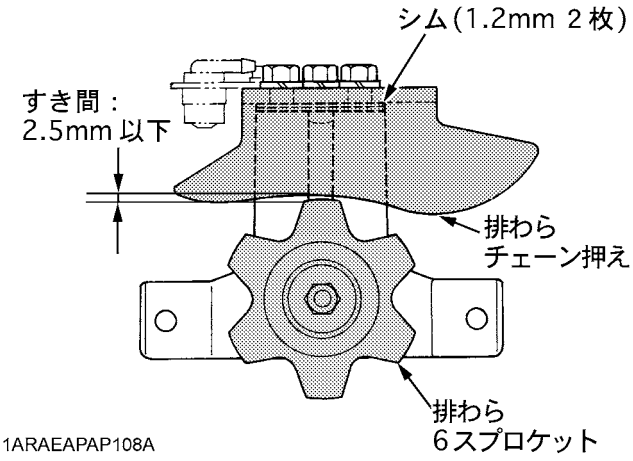
■排わらチェーン押えの点検・調整・交換

排わら6スプロケットと排わらチェーン押えのすき間が2.5㎜以上になったら調整用のシムを抜いて調整してください。

◆ 点検・調整

1. 排わら株元チェーンのテンションスプリングのロックナットと調整ナットをゆるめて排わら株元チェーンを取外します。
2. 排わら 6 スプロケットと排わらチェーン押えのすき間を調整します。
3. すき間が 2.5㎜ 以上あるときは，ボルト 3 本を取外し，排わらチェーン押えを外してシムを 1 枚抜取ります。





補　足

＊ シムは厚さが 1.2㎜ のものが 2 枚あります。また，シムは抜取ったあとも保管しておいてください。排わらチェーン押えを交換したときに再使用します。

＊ シムを 2 枚抜取った状態で，すき間が 2.5㎜ 以上になったときは，排わらチェーン押えを交換してください。

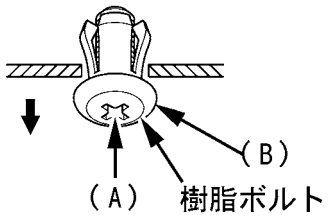
4. ボルト 3 本で排わらチェーン押えを取付けます。
5. テンションスプリングの張り調整を行ないます。(158 ページ参照)

■吐出口ブーツの点検･交換

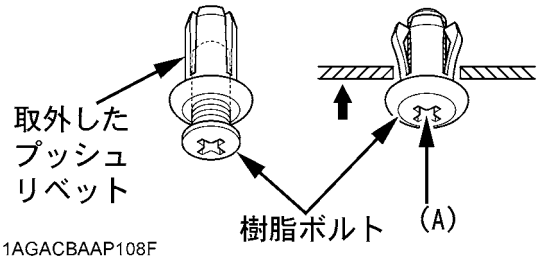
アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

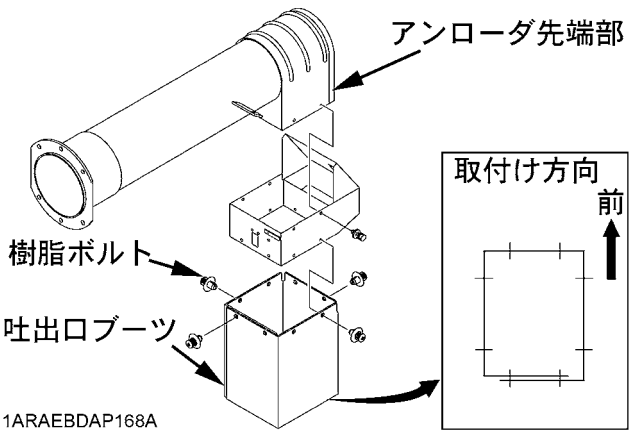
◆ 交換

1. 吐出口ブーツを取付けている樹脂ボルトを外します。樹脂ボルトを取外すときは，プッシュリベットの周辺 (B) 部を手で押さえて樹脂ボルトの (A) 部を (+) ドライバで左に回して取外します。



2. 破損した吐出口ブーツを取外し，新しい吐出口ブーツを取付けます。新しいブーツを取付けるときは，プッシュリベットをブーツの上からアンローダ先端部の取付穴に差込み，樹脂ボルトの (A) 部を押しプッシュリベットを固定します。



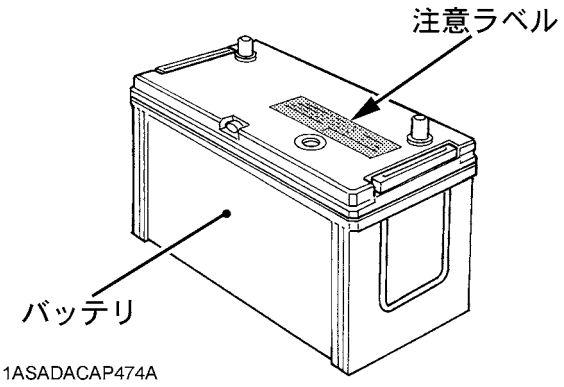


重　要

＊ ブーツは必ずクボタ純正品を使用してください。

■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（+）端子と（−）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この 12V バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

警　告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

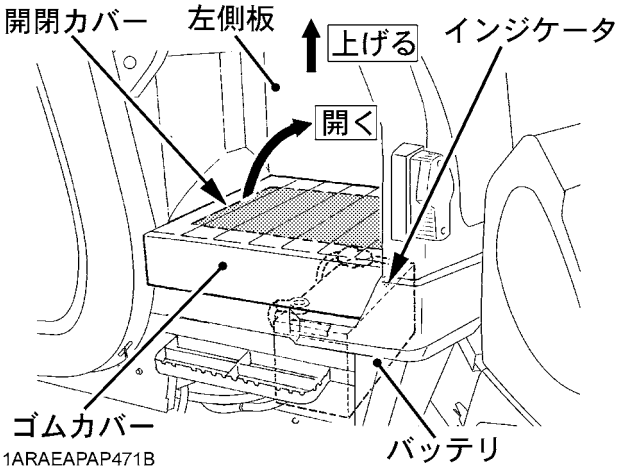
＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆ 点検

警　告

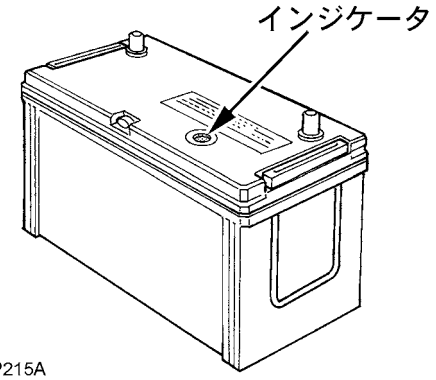
バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

1. ステップの左側板を少し引上げたあと，ステップのゴムカバーをめくり，点検用の開閉カバーを開きます。



2. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



1ARAEAPAP215A

補　足

＊ インジケータは真上から確認してください。

   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

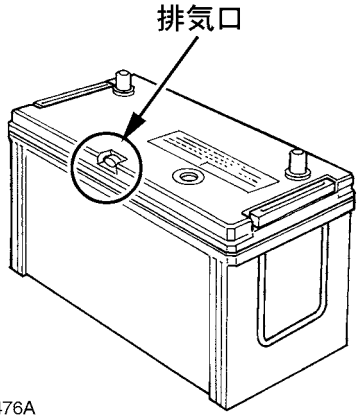
重　要

＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

   (3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

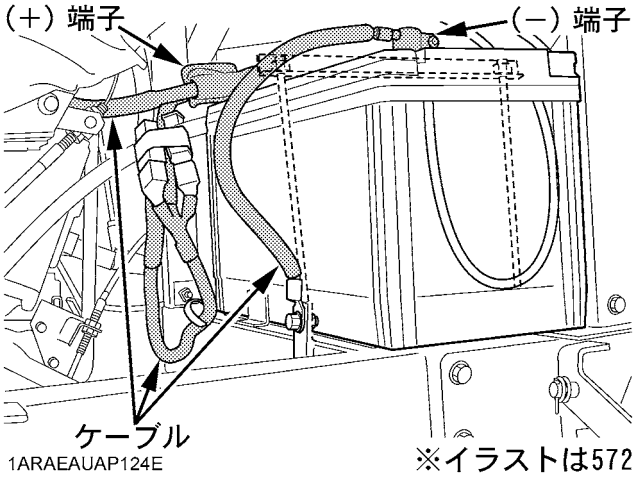
重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ASADACAP476A

   (4) バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



1ARAEAUAP124E
※イラストは572

3. 開閉カバーを閉じたあと，ゴムカバーを取付けます。

◆ 補充電・交換

危険

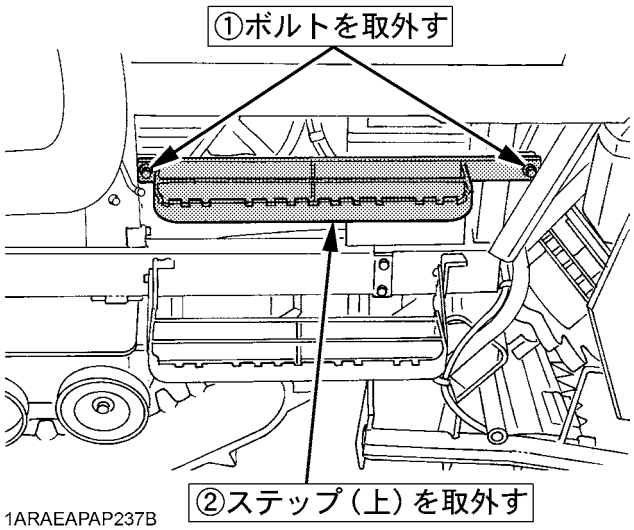
＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- **取外し…（－）端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…（－）端子側（アース側）を最後に接続する。**

警告

＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

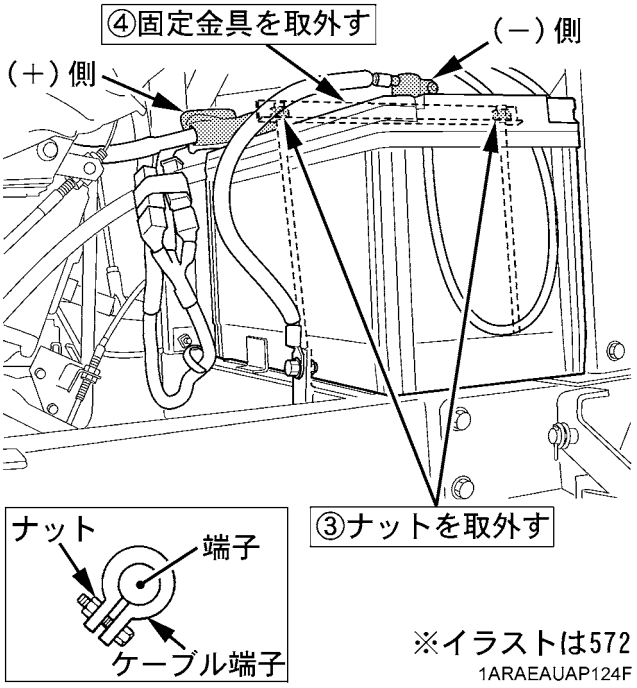
次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。



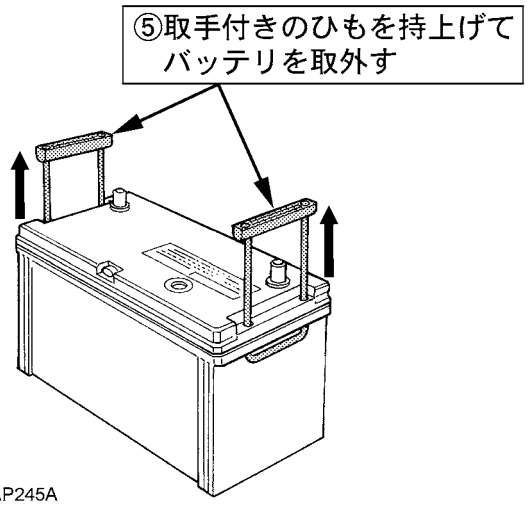
1ARAEAPAP237B

(1) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



※イラストは572
1ARAEAUAP124F

(2) バッテリの両端にある取手付きのひもを持上げてバッテリを取外します。



1ARAEAPAP245A

重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**105E41R**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。
＊ 機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。

補　足

＊ 端子にグリースを塗布してからケーブル端子を取付けてください。

補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

◆ 点検・補水

警　告

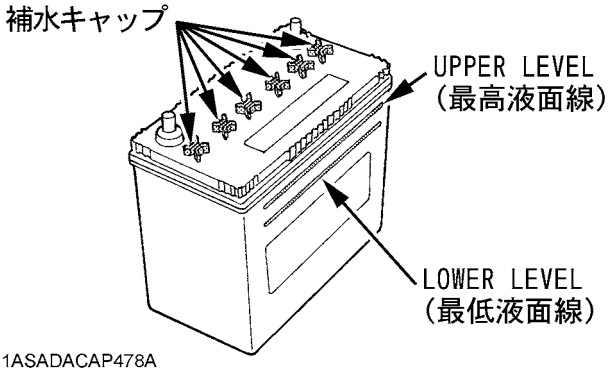
バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



1ASADACAP478A

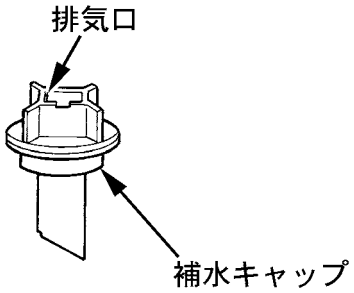
重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ASADACAP479A

◆ 補充電・交換

危　険

＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード･各ヒューズの点検･交換

警　告

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

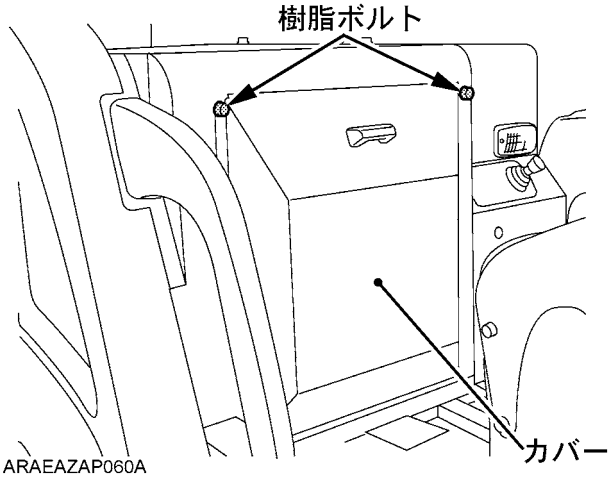
◆ 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，購入先に連絡して修理を依頼してください。

1. 刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。
2. 運転席（シート）を前方へ倒します。
3. 樹脂ボルト２本を取外して運転席後面のカバーを外します。

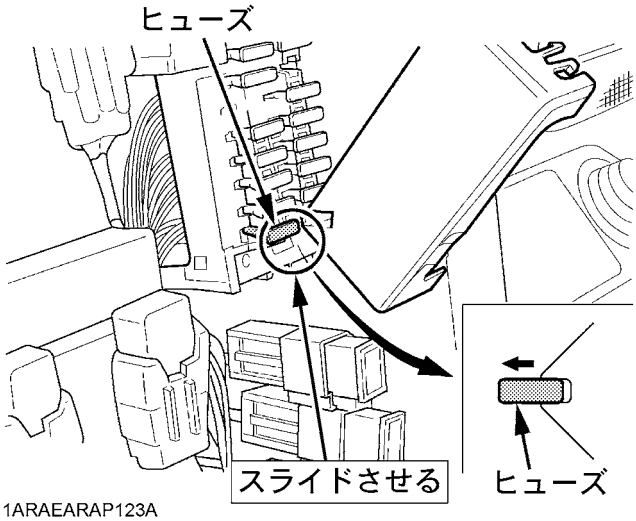


1ARAEAZAP060A

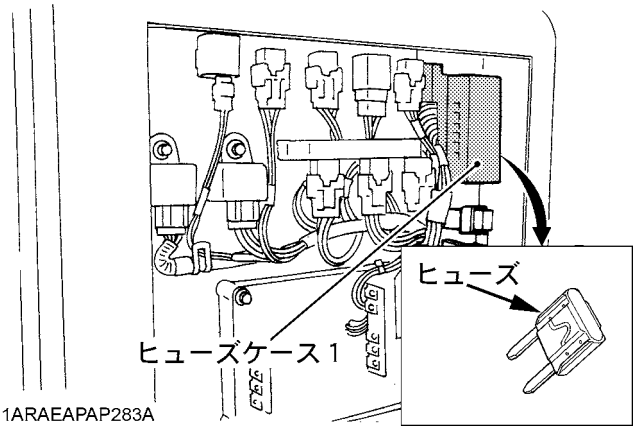
4. ヒューズケースのカバーを取外します。
5. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。

補　足

＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズケースカバー左下端部の切欠部をヒューズにスライドして差込み，抜いてください。



1ARAEARAP123A



1ARAEAPAP283A

● **ヒューズケース１（上から）**

[572]

回路	容量(A)	回路	容量(A)
こぎ深さモータ 注油モータ	20	マイコン（直 B）	5
アンローダモータ	25	前照灯，後退灯，制動灯 ウインカ（直 B）	20
モミ排出クラッチモータ	20	作業灯（直 B）	25
扱胴オープン（直 B）	20		
逆転ファンモータ	20	エンジン停止（吸引側）	15
刈脱モータ	20	マイコン，リレーコイル チェッカ	5
		メータ スイッチユニット	5
予備ヒューズ	15	油圧バルブ （作業機，操向）	15
予備ヒューズ	20	エンジン停止（保持側） 燃料ポンプ， オルタネータ	7.5
予備ヒューズ	25	ブザー， アンローダブレーキ	5

[572]

[698]

回路	容量(A)	回路	容量(A)
こぎ深さモータ 注油モータ	20	マイコン（直 B）	5
アンローダモータ	25	前照灯，後退灯 ウインカ（直 B）	20
モミ排出クラッチモータ	20	作業灯（直 B）	25
扱胴オープン（直 B）	20	制動灯	5
逆転ファンモータ	20		
刈脱モータ	20	マイコン，リレーコイル チェッカ	5
		メータ スイッチユニット	5
予備ヒューズ	15	油圧バルブ （作業機，操向）	15
予備ヒューズ	20	エンジン停止（保持側） 燃料ポンプ， オルタネータ	7.5
予備ヒューズ	25	ブザー， アンローダブレーキ	5

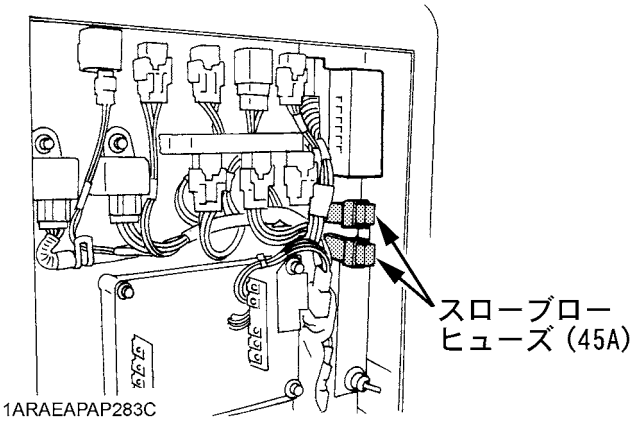
[698]

補　足

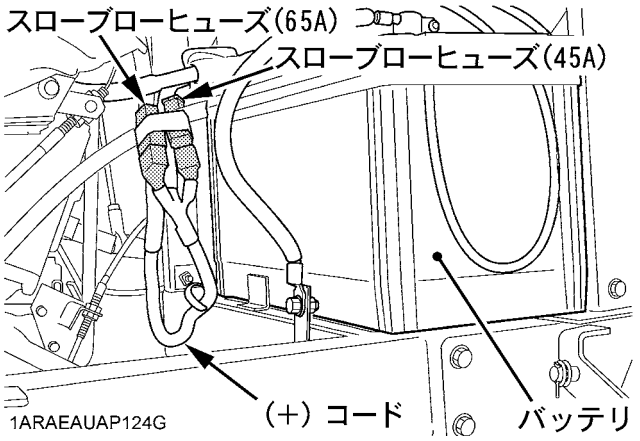
＊ 予備ヒューズは，ヒューズケース１のカバー裏側に５ A １本,7.5A １本が入っております。

● スローブローヒューズ・バッテリ（+）コードヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。

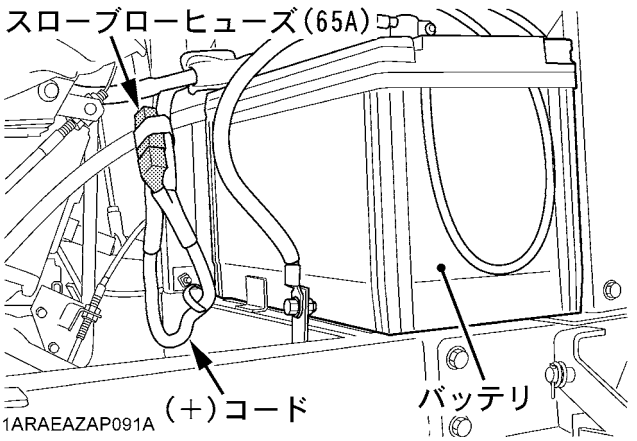


[572]



[572]

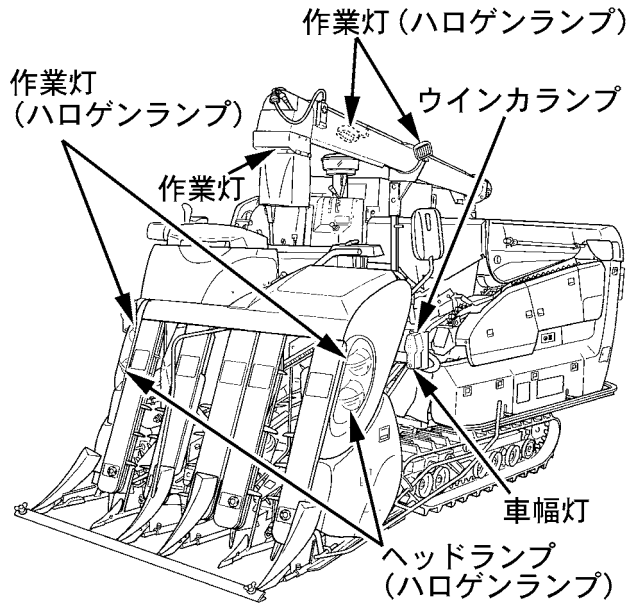
[698]



[698]

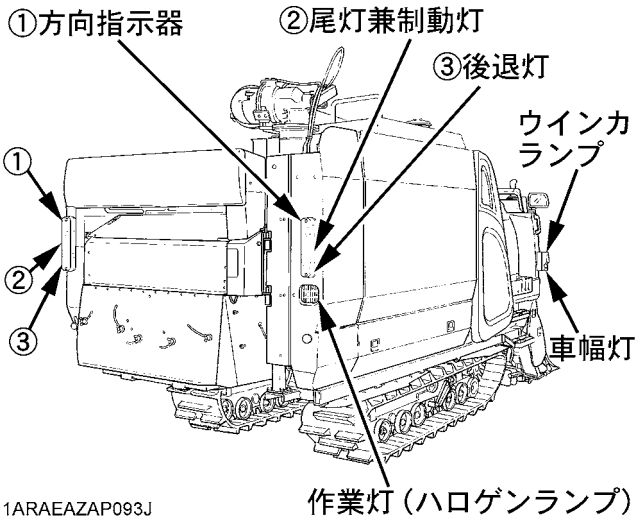
■ランプ（電球）の点検･交換･ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。



1ARAEAZAP076I

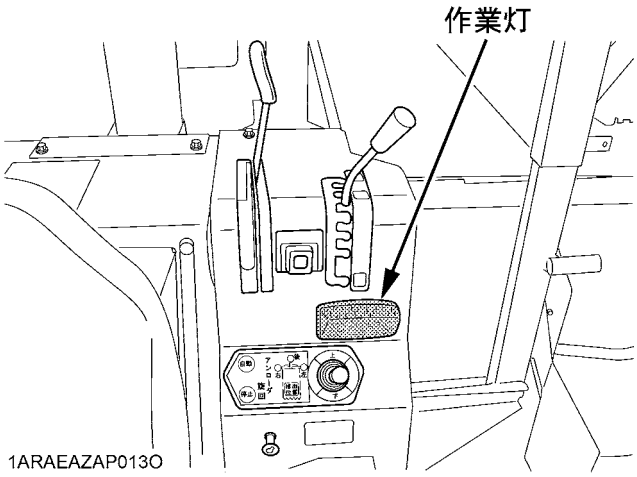
※イラストは572



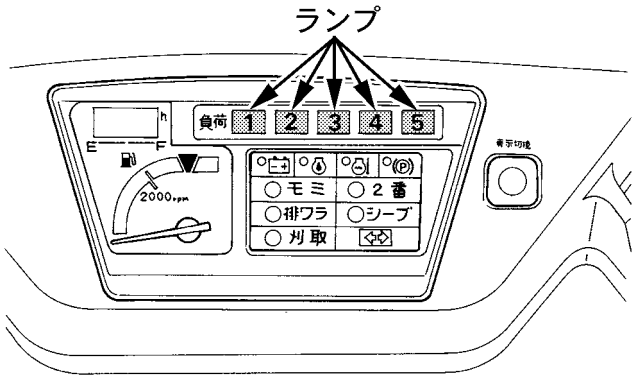
1ARAEAZAP093J

重　要

＊ ハロゲンランプ（作業灯，ヘッドランプ）の交換をしたとき，ランプの表面に指紋などの油分が付着したときは，きれいにふきとってください。破損する原因になります。

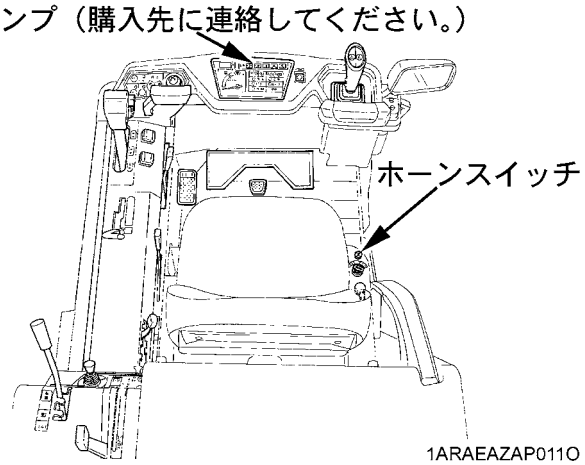


1ARAEAZAP013O



1ARAEAPAP260H　（※購入先に連絡してください。）

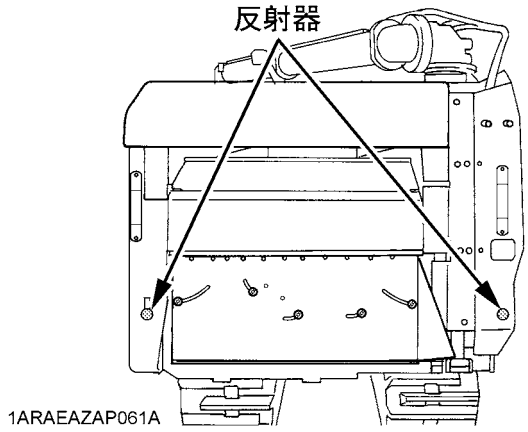
ランプ（購入先に連絡してください。）



1ARAEAZAP011O

■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



1ARAEAZAP061A

■クローラの点検･調整

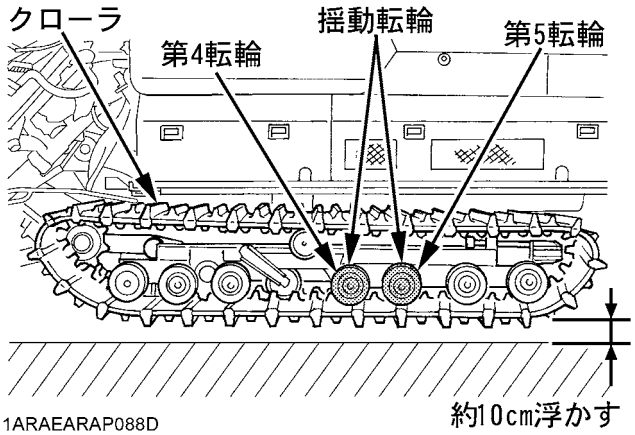
警　告

＊ 点検・調整を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

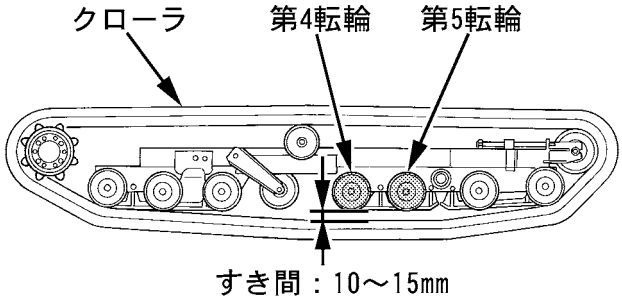
注　意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
＊ ジャッキアップを行なうときは，コンクリートなど地面の固い場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
＊ ジャッキは持上荷重が 2 トン以上の物を使用してください。
＊ 機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。

地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で，機体を**最下降**位置にし，クローラ下側上面と第 4・第 5 の揺動転輪下端のすき間を 10 ～ 15mm に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。



1ARAEARAP088D



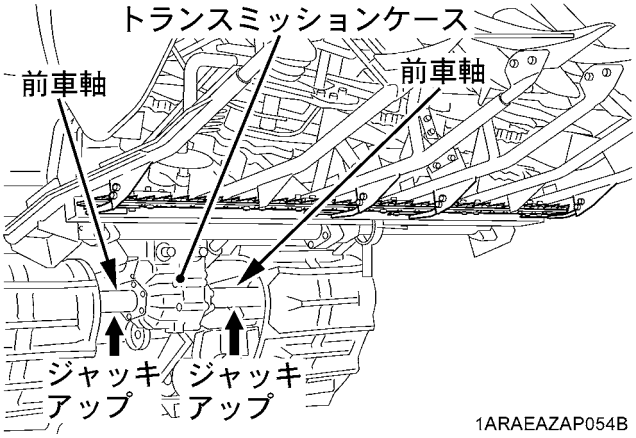
1ARAEAPAP241B

1. クローラを地面から 10cm 程度浮かせます。

重　要

＊ ミッションケースを絶対にジャッキアップしないでください。破損するおそれがあります。

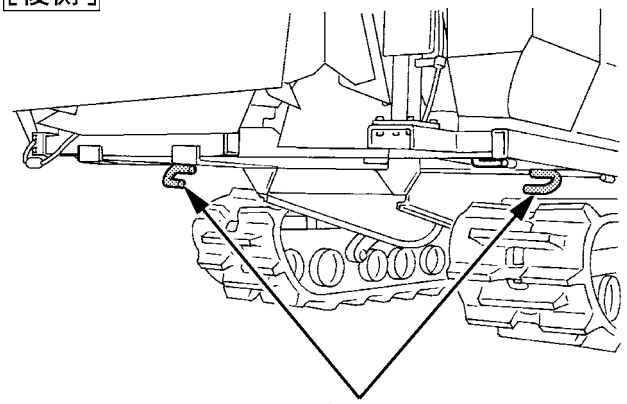
(1) エンジンを始動したあと，刈取部を**最上昇位置**にします。
(2) 刈取下降ロックスイッチを**［ロック］**位置にして刈取部の下降防止を行ないます。
(3) 水平操作手動スイッチを操作し，機体を上昇させたあと，エンジンを停止します。
(4) 前部はトランスミッションケース部の前車軸後方にあるフレームに木材やブロックをセットします。



1ARAEAZAP054B

(5) 後部は機体フレームの下図位置に調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。

［後側］



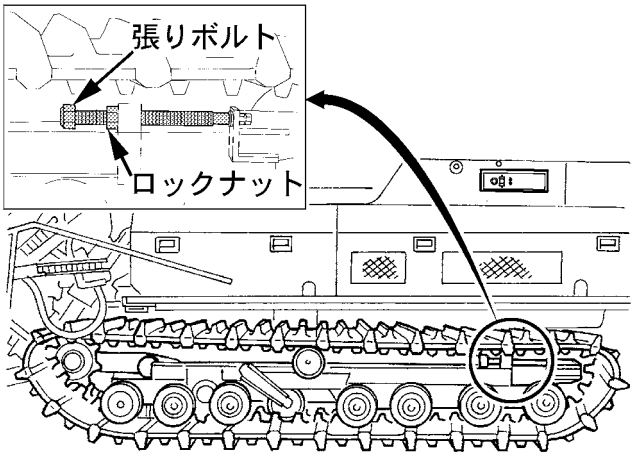
1ARAEAPAP155A

(6) エンジンを始動したあと，水平操作レバーを操作し，機体を**最下降位置**にします。
(7) エンジンを停止します。

重　要

＊ 燃料タンクにジャッキを当てないでください。破損し燃料漏れを起こすおそれがあります。
＊ ジャッキアップを行なうときは，前車軸にジャッキをセットしないでください。前車軸が変形するおそれがあります。

2. クローラ後部にある張りボルトのロックナットをゆるめます。
3. 張りボルトでクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。



1ARAEAPAP239B

4. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止めのロックナットを締付けます。
5. ジャッキ及びブロックや木材を機体から取外します。
   (1) エンジンを始動したあと，水平操作レバーを操作して機体を上げます。
   (2) エンジンを停止します。
   (3) 木材やブロック及びジャッキを機体から取外します。

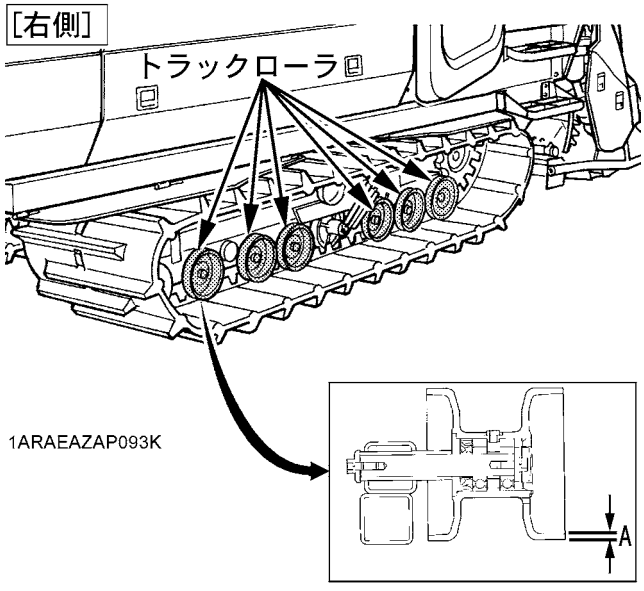
重　要

＊ クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
＊ クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20，及び 50 時間目に点検してください。
＊ クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため，下記事項を守ってください。
   ● 日光や雨による劣化防止のため，屋外に長期保管しないでください。
   ● オイルや燃料，農薬，肥料など油脂類の付着による劣化防止のため，クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■トラッククローラ（転輪）の点検

トラッククローラの下図A寸法が，2 ㎜以下になったとき又は，使用時間が 800 時間経過したときの早いほうで交換してください。

［右側］



1ARAEAZAP093K

補　足

＊ 交換を行なうときは，購入先に連絡してください。

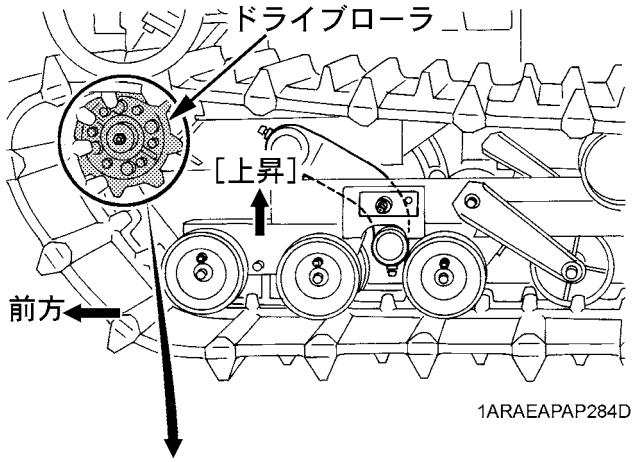
■ドライブローラの点検・左右入換え・交換

警　告

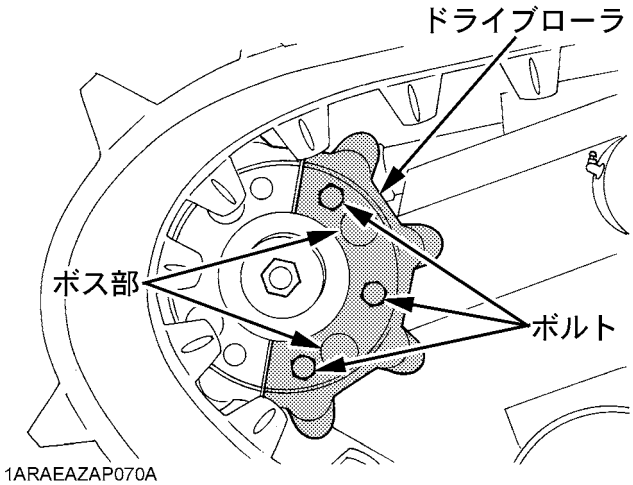
＊ 点検・交換を行なうときは，平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

◆ 点検

1. エンジンを始動し，水平操作レバーを操作して機体を**最上昇**位置にします。
2. 刈取部を上げ，２分割式ドライブローラの位置が下図の位置になるように機体を前進させます。



1ARAEAPAP284D



1ARAEAZAP070A

3. 刈取部を降してエンジンを停止します。
4. ドライブローラを取付けているボルトを確認し，ゆるみや脱落が発生しているときは，購入先に連絡してください。

◆ 左右入換え

1. **◆点検**の手順 **1. ～ 3.** を行ないます。
2. クローラに接触していない側のドライブローラのボルト３本を外して，ドライブローラを外します。
3. 同じ要領で反対側（右側又は，左側）のドライブローラを取外します。
4. ボス部側面に泥など異物が付着しているときは，異物を取除きます。
5. 左右のドライブローラを入換えたあと，ボルト３本でドライブローラをそれぞれ取付けます。

重　要

＊ ボルトにはネジロック（スリーボンド #1324B 又は，1305）を塗布し，締付トルクは 157N・m（1600kgf・cm）のトルクレンチで締付けてください。また，トルクレンチがないときの交換は，購入先又は，整備工場で行なってください。

＊ ドライブローラの左側と右側を同時に交換してください。締付けトルクが不足（締付不足）すると，ボルトやドライブローラの脱落の原因となります。

6. エンジンを再始動し，２分割式ドライブローラのもう一方の入換えを行なうため**◆点検**の手順 **1. ～ 3.** を行ないます。
7. 上記手順の **2. ～ 5.** の要領で左右のドライブローラの入換えを行ないます。

◆ 交換

左右入換えと同じ要領で新しいドライブローラと交換してください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。(94 ページ参照)
3. アンローダを収納します。
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. 本機カバーを掛けます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの**［給・注油（水）一覧表］**を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミに配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。(124 ページ参照)
2. ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(124 ページ参照)

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。(ラジエータ容量……7.9L)
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

◆ バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（－）側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

重　要

＊ サイドシュートやリヤシュートをロープで押えないでください。変形するおそれがあります。
＊ 刈取部を地面に降ろしたとき，刈取部の下に物が置かれているとトラブルの原因となります。

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アンローダ受けを下げて収納します。
- アクセルレバーをいっぱい戻して（**【🚗】**位置）止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは**【切】**位置にします。
- 車体水平制御は，機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

コンバインの不調と処置

わらが詰まる

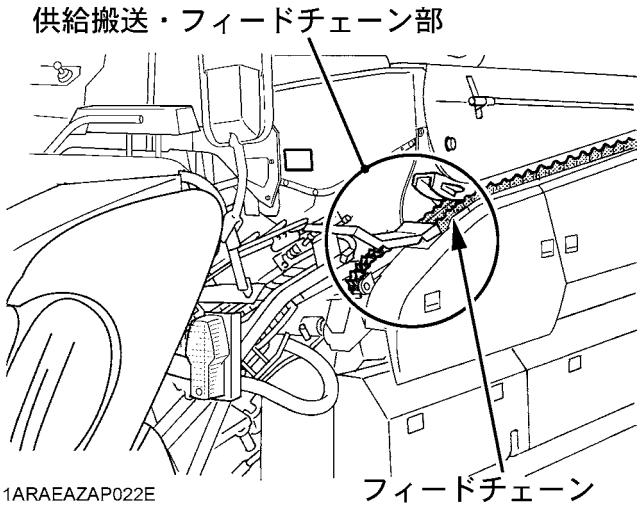
警 告

＊ エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

■自動エンジン停止装置がはたらいたとき

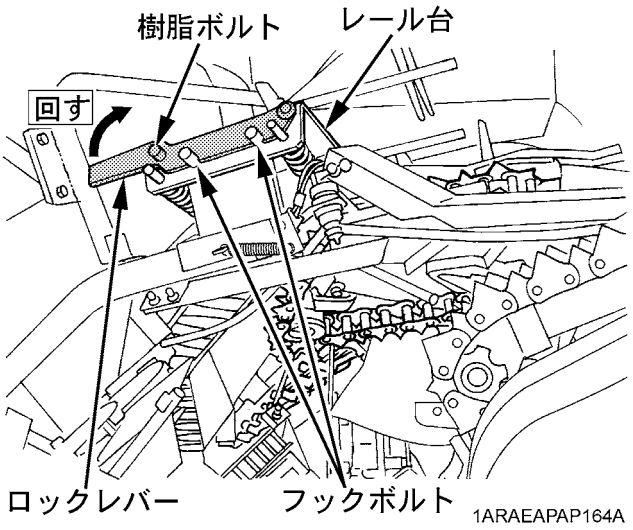
◆ 供給搬送・フィードチェーン部

自動エンジン停止装置がはたらき，メータユニットの刈取ランプが点灯したときには，掃除してください。



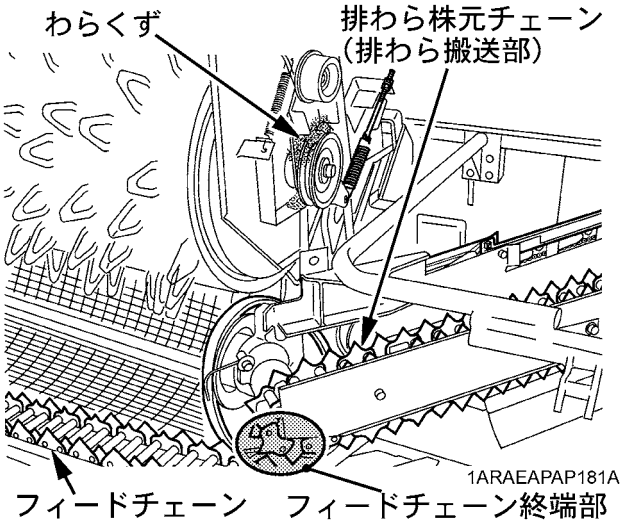
供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは，レール台のロックレバーを解除して，わらを取除いてください。

1. こぎ胴のロックハンドル前・後を上げて，こぎ胴を少し開きます。
2. 樹脂ボルトを取外します。
3. ロックレバーを上側に回したあと，レール台を手前に引きながら上側に上げて取外します。
4. わらを取除きます。
5. レール台をレール台受けに取付けたあと，ロックレバーを回してフックボルトの溝に引掛けてロック状態にし，樹脂ボルトを締付けます。
6. こぎ胴を閉じてロックします。



◆ フィードチェーン終端部・排わら搬送部

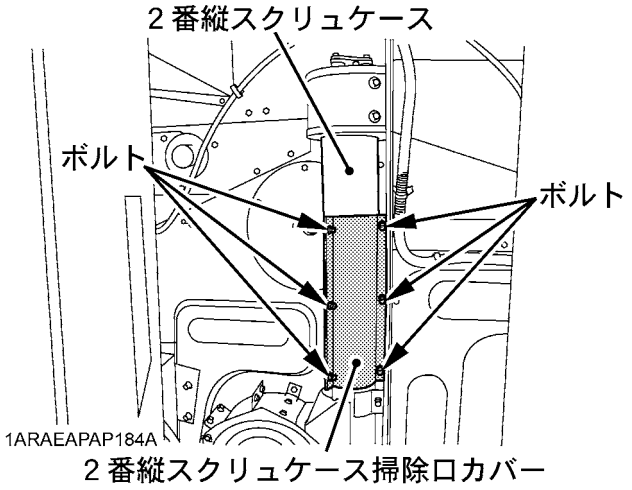
自動エンジン停止装置がはたらき，メータユニットの排ワラランプが点灯したときには，掃除してください。



◆ 2番縦スクリュ掃除口

メータユニットの２番ランプが点灯したときには，次の手順で掃除してください。

1. グレンタンクをオープンします。
2. 縦スクリュ掃除口のボルト６本を取外して脱着カバーを外します。

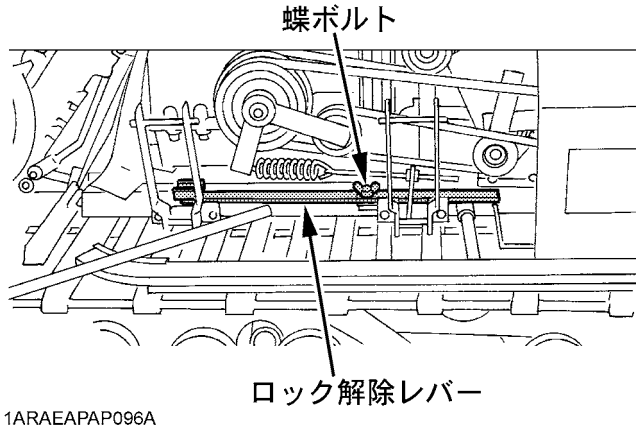


3. 縦スクリュ掃除口の脱着カバーを取付たあと，グレンタンクを閉じます。

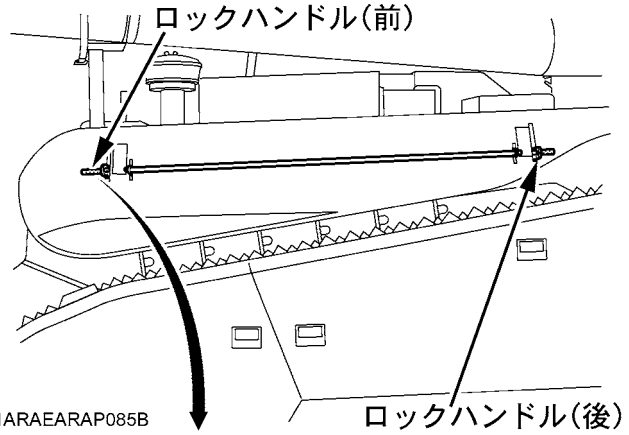
◆ こぎ胴ロック解除レバーの取扱いについて

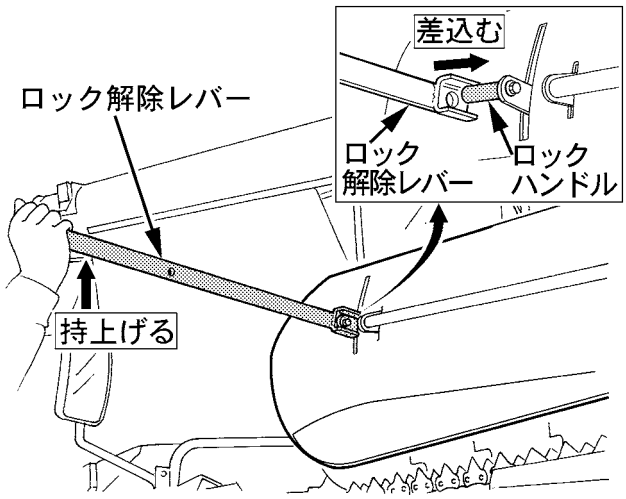
作物がこぎ胴で詰まり，ロックハンドル前・後を解除するのが困難（固い）な場合は，機体に装備しているロック解除レバーを使用して解除してください。

1. 左サイドカバー下１を外したあと，蝶ボルトを取外してロック解除レバーを外します。



2. ロックハンドル前又は，後にロック解除レバーの取付方向に注意しながらレバーを差込みます。
3. ロック解除レバーを持上げてロックハンドルのロックを解除します。（前・後共解除します。）



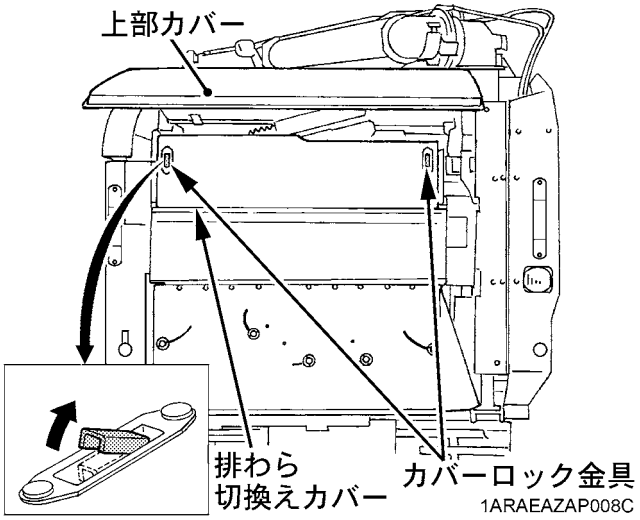


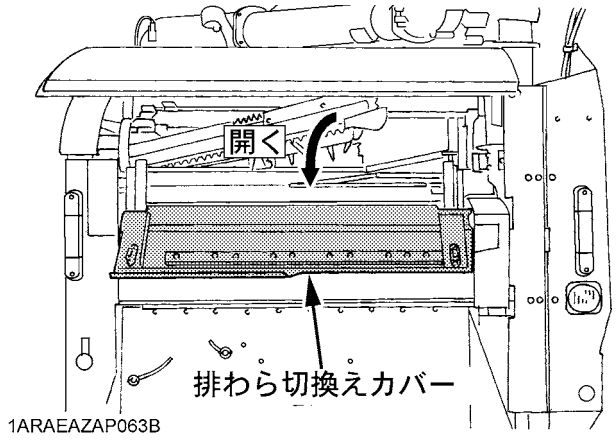
4. こぎ胴をオープンして詰まったわらを取除いたあと，こぎ胴を閉じます。
5. ロック解除レバーを元の位置に蝶ボルトで固定したあと，左サイドカバー下１を取付けます。

◆ カッタ部・排わらチェーン部

自動エンジン停止装置がはたらき，メータユニットの排ワラランプが点灯したときには，次の手順で掃除してください。

1. 排わら切換えカバーを開きます。
2. 上部カバーを上げます。
3. カバーロック金具を引き，排わら切換えカバーを後方へ倒します。





補　足

＊ 必要に応じて，このあとカッタオープンして掃除を行なってください。

＊ 排わら切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく［入］**位置にするとエンジンが止まります。

4. カバーをロックレバーを引きながら排わら切換えカバーを閉め，カバーロックレバーを確実にロックします。

もみが詰まる

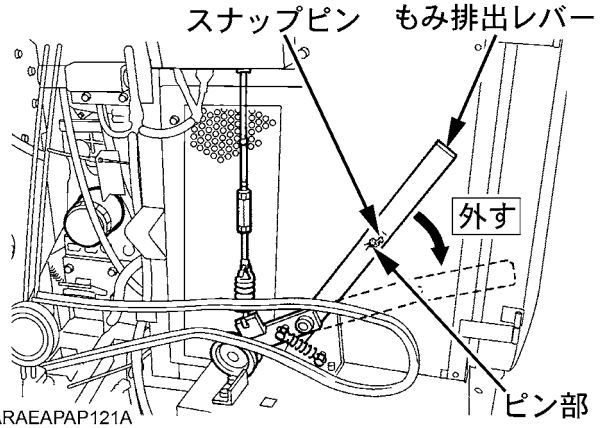
■アンローダからもみが排出されないとき

注　意

＊ もみ排出レバーを操作してもみを排出するときは，近くの回転物にじゅうぶん注意してください。

下記事項を点検し，もみ排出スイッチを**［切］**位置にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（89 ページ参照）し，異物を取除いてください。
2. もみ排出スイッチを押しても，もみを排出しないときは，もみ排出レバーを押して排出してください。
   (1) エンジンを停止します。
   (2) グレンタンク（下カバー）を取外します。
   (3) グレンタンクと防じんカバーのすき間から手を入れて，もみ排出レバーを固定しているピン部のスナップピンを取外したあと，もみ排出レバーをピン部から外します。

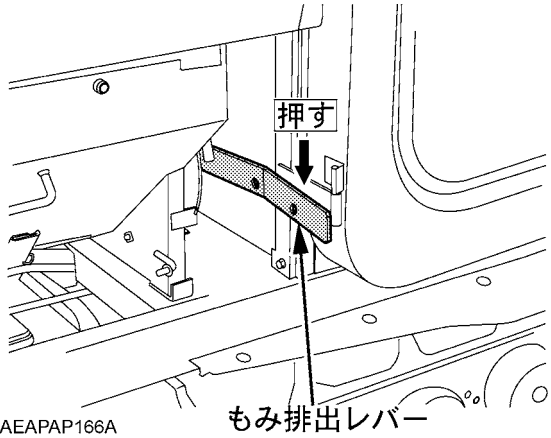


※イラストはグレンタンクオープン状態

補　足

＊ 取外したスナップピンは，失くさないようにピン部に差込んでおいてください。

   (4) エンジンを始動したあと，エンジン回転を調整します。
   (5) もみ排出レバーを押してもみを排出します。



1ARAEAPAP166A

(6) もみの排出が終わったあと，もみ排出レバーをスナップピンで固定し，グレンタンク下カバーを取付けます。
(7) ヒューズや配線を点検し，もみ排出スイッチがはたらかない原因を処置します。

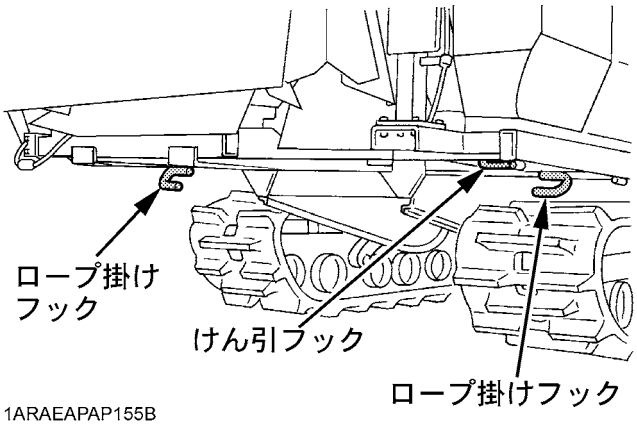
補　足

＊ 処置しても直らないときは，購入先に連絡してください。

その他

■けん引フックについて

コンバインが自力で動けずけん引作業を必要とする場合は，機体の右側後方のけん引フックを使用してください。このときにロープ掛け用フックは，けん引作業には使用しないでください。



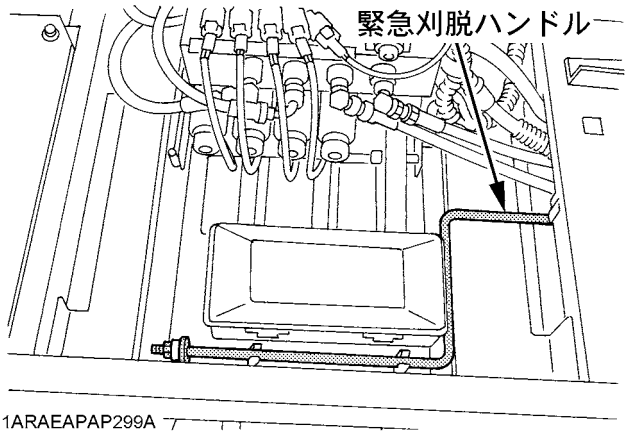
1ARAEAPAP155B

重　要

＊ このコンバインを使って，けん引作業はしないでください。故障の原因になります。

■緊急刈脱ハンドルについて

グレンタンクをオープンしたとき，工具箱横にあるレバーは，メータユニット液晶ディスプレイ部にエラーコード（E-048）が表示されると同時に刈取・脱こくクラッチレバーが操作できなくなったときに使用する緊急用のハンドルです。(刈取・脱こくクラッチレバーが操作できなくなったときは，必ず購入先に直ちに連絡してください。)



1ARAEAPAP299A

付表

主要諸元

農機型式名			クボタ R1001	クボタ R1201
商品名			WR 572	WR 698
区分			M	
機体寸法	全長(mm)		4765	4780
	全幅(mm)		2110	2250
	全高(mm)		2380	
機体質量(kg)			3620	3730
エンジン	型式名		V3600-TE3-C1	V3800DICR-TE3-C2
	種類		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼルターボ	
	総排気量(L{cc})		3.620 {3620}	3.769 {3769}
	出力／回転速度(kW{PS}/rpm)		52.9 {72.0} /2600	72.1 {98.0} /2600
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(L)		86	
	始動方式		セルモータ式	
	バッテリ(V・Ah)		12・83〔105E41R〕	
走行部	クローラ 中心距離(mm)		1155	1205
	クローラ 幅×接地長(mm)		500×1780	550×1780
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})		19.9 {0.203}	18.7 {0.191}
	最低地上高(mm)		200～290	
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕	
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕	
	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕 倒伏：０～0.97 標準：０～1.53 高速：０～2.65	〔副変速〕 倒伏：０～1.02 標準：０～1.63 高速：０～2.79
		後進		
	旋回方式		ブレーキターン	
刈取部	刈取り条数(条)		5	6
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		1720～1770	1980～2030
	刈取装置形式		往復動刃式〔ツイン刈刃〕	
	刃幅(mm)		1690	1940
	変速段数(段)		走行副変速同調２段＋引起し３段	
	刈高さ範囲(mm)		35～150	
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式	
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式	
	こぎ胴	径×幅(mm)	420×1130	
		回転速度(rpm)	505	519
	処理胴（１）	径×幅(mm)	240×100〔２番処理胴〕	
		回転速度(rpm)	1237	
	処理胴（２）	径×幅(mm)	140×800〔拡散胴〕	
		回転速度(rpm)	613	
	２番還元方式		スクリュ式	
	揺動板	幅×長さ(mm)	800×1730	
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引	

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ R1001	クボタ R1201
商品名			WR 572	WR 698
区分			M	
こく粒処理部	処理方式		グレンタンク式	
	排出方式		スクリュコンベア式	
	タンク容量(L{袋})		1550 {約31袋} 〔１袋約50Ｌ〕	
	旋回範囲(度)・旋回方式		365〔右，左〕・電動モータ式	
	昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45・油圧式	
	排出高さ〔作業時〕(mm)		2000～5100	
	排出長さ〔作業時〕(mm)		2900～4300	
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ カッタ切断長さ：60/180㎜切換え式〔切断刃：セラミック切断刃〕 ●シュータ式拡散装置	
	オプション		●カッタ後部ドロッパ　●スクリュ式拡散装置	
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	
		自動車体水平制御	○	
		アンローダ自動旋回制御	○	
		自動エンジン停止	○（刈取・排わら・カッタ）	
		エンジン正逆転ファン制御	○	
		刈取オートクラッチ 刈取部上昇時搬送駆動停止機能	○	
	方向微調整スイッチ		○	
	バイブロシャッタ		○	
	警報装置		燃料，充電，油圧，水温（オーバーヒート），もみ満杯 もみ中間［698］，負荷，刈取詰まり，２番詰まり シーブ，排わら詰まり，カッタ詰まり，エンジン停止	
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300〔H仕様：500～1200〕	
倒伏適応性(度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下	
作業能率〔計算値〕a/hr{分/10a}			66～13 {10～46}	81～15 {8～40}

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊ 保証書	1
＊ メンテナンスブック	1
＊ 取扱説明書確認カード	1
＊ 取扱説明書	1
＊ 取扱説明書収納ビニール袋	1
＊ 本機カバー	1
＊ ほこりよけカバー	1
＊ 前分草ガイド （45 ページ参照）	1
＊ ボルト （前分草ガイド取付け用）	1
＊ 反射シート	1
＊ ７ボックススパナ（四角） （121 ページ参照）	1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

◆ 刈取部

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品　番	品　名	対象型式
5H824-00000	WRM572（３連）	572
5H847-00000	WRM698（３連）	698

■刈取スタンド

刈取部を安定した状態で取外すためのスタンドです。

品　番	品　名	対象型式
5H601-87100	スタンド，アッシ (カリトリ)	全型式

■刈取り防じんカバー

運転席側へ飛散してくるごみやちりを防ぐカバーです。

品　番	品　名	対象型式
5H667-95010	カバー，アッシ (ボウジン)	572
5H665-95010	カバー，アッシ (ボウジン)	698

◆ 脱こく部

■種子用交換部品

品　番	品　名	対象型式
5K190-91300	交換部品，アッシ (シュショウ)	全型式

■キャノピ

グレンタンク装置型の雨よけ，日よけです。

品　番	品　名	対象型式
5H681-00000	CP-698　キャノピ	全型式

◆ こく粒処理部

■バックミラー

機体後方確認用のミラーです。

品　番	品　名	対象型式
5H601-92100	ミラー，キット (コウホウ)	全型式

※ドロッパ装着時は取付けられません。

◆ 排わら処理部

■スクリュ式拡散装置

品　番	品　名	対象型式
57258-00000	W-61	全型式

■カッタ後部ドロッパ

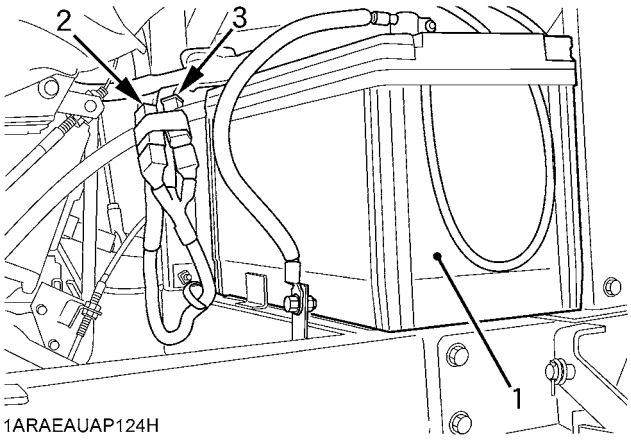
長わらのまま，一定量をきれいに集束落下させます。

品　番	品　名	対象型式
57248-00000	D-61	全型式

消耗部品(純正部品を使いましょう)

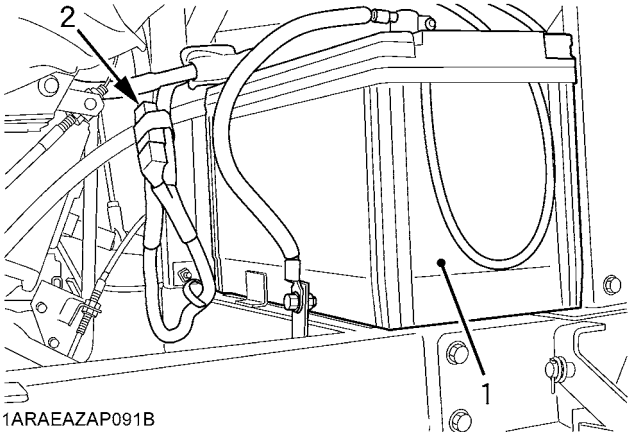
◆ バッテリ・スローブローヒューズ

[572]

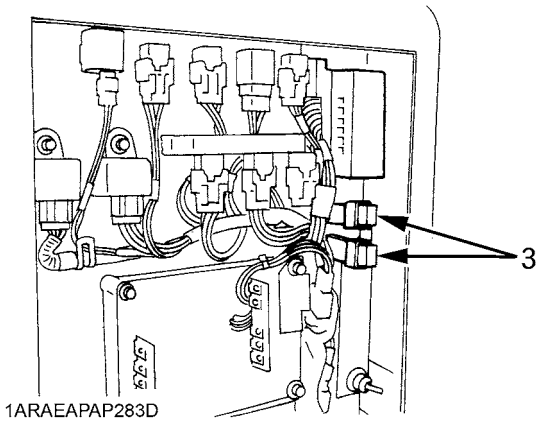


[572]

[698]

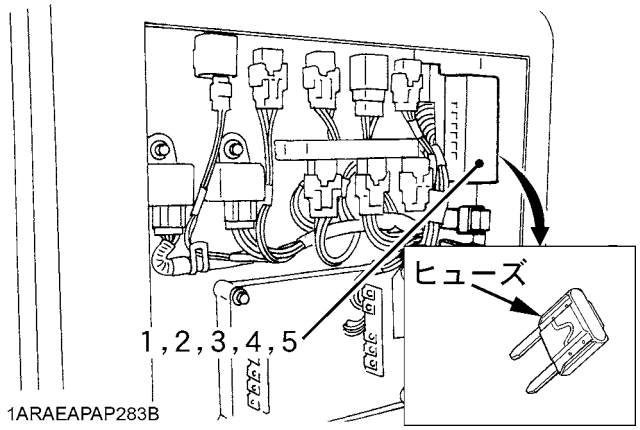


[698]



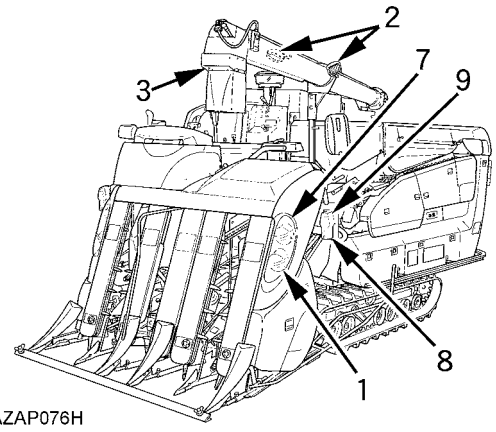
図番	品名	品番	対象型式
1	バッテリ	07908-2509-0	全型式
2	スローブローヒューズ (65A)	33780-7555-0	
3	スローブローヒューズ (45A)	5H601-4166-0	

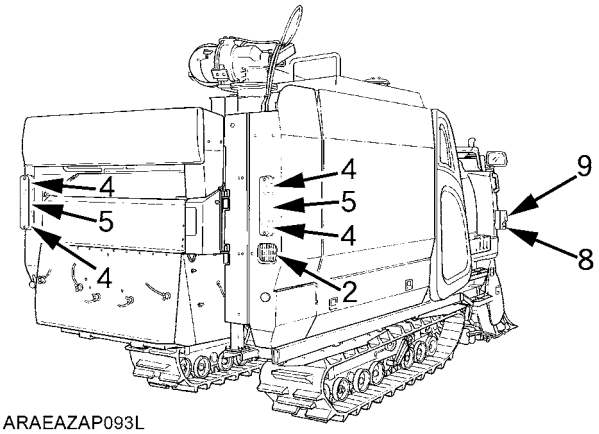
◆ ヒューズ

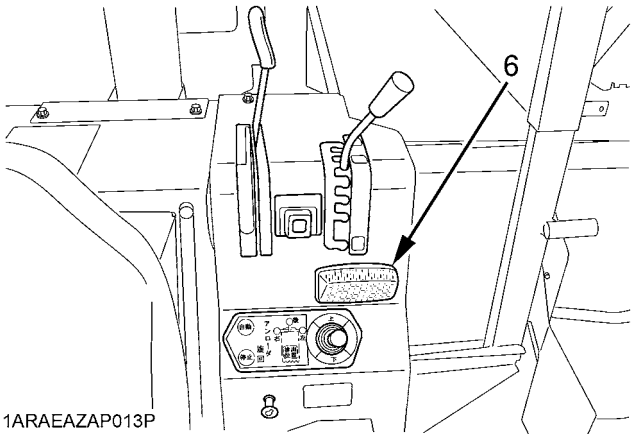


図番	品名	品番	対象型式
1	5A オートヒューズ	66426-8001-0	全型式
2	ヒューズ 7.5A	58622-4148-0	
3	ヒューズ 15A	35820-7556-0	
4	ヒューズ 20A	36919-5665-0	
5	ヒューズ（オート ,25A)	32741-3048-0	

◆ ランプ（電球）

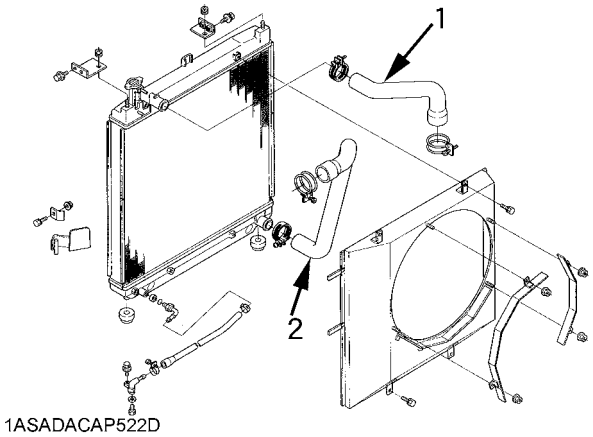






図番	品名	品番	対象型式
1	バルブ (12V35W, ハロゲン)	T1275-9106-0	全型式
2	ランプバルブ (12V55W)	3G710-7590-0	
3	ランプバルブ	34150-3421-2	
4	バルブ (12V21W)	T2255-9912-0	
5	バルブ (12V21/5W)	5K110-6562-0	
6	バルブ (12V/10W)	5H601-4179-0	
7	バルブ (12V35W, ハロゲン)	T1275-9106-0	
8	バルブ (12V5W)	T1370-9914-0	
9	バルブ (12V21W)	T1370-9911-0	

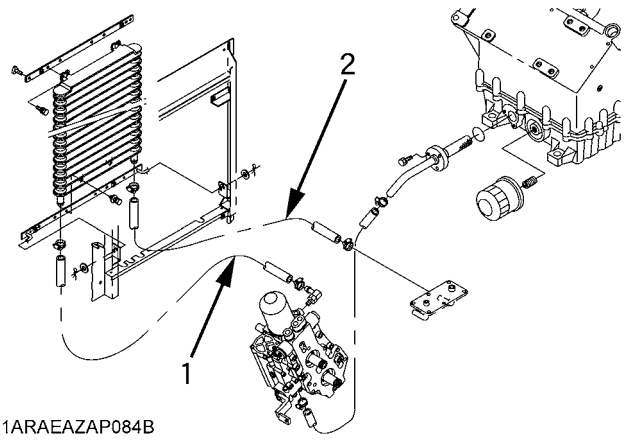
◆ ラジエータホース



1ASADACAP522D

図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (1, ウォータ)	5H601-2555-0	全型式
2	ホース (2, ウォータ)	5H601-2556-0	

◆ オイルクーラホース

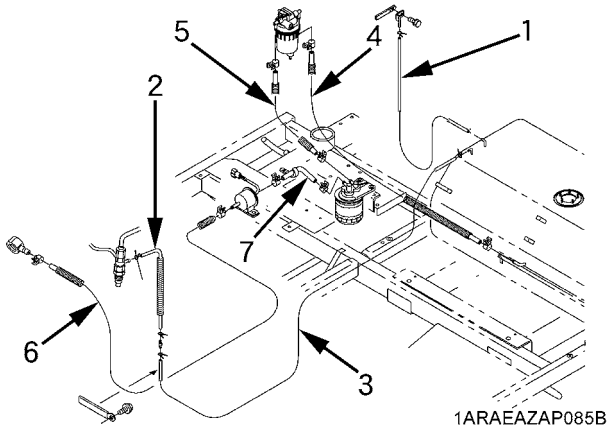


1ARAEAZAP084B

図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (1, HST ドレン)	5H601-2764-0	全型式
2	ホース (2, HST ドレン)	5H601-2765-0	

◆ フューエルパイプ

[572]

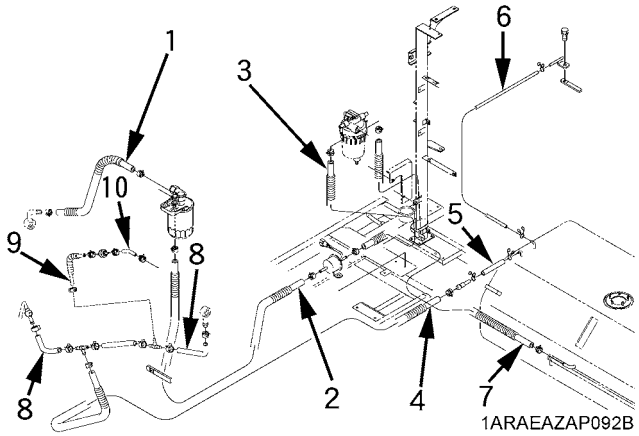


1ARAEAZAP085B

図番	品名	品番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-40700	全型式
2	チューブ (1, フューエル)	5H821-2691-2	
3	フューエルチューブ	09661-41900	
4	フューエルチューブ	09661-81350	
5	フューエルチューブ	09661-80525	
6	フューエルチューブ	09661-82400	
7	フューエルチューブ	09661-80130	

[572]

[698]

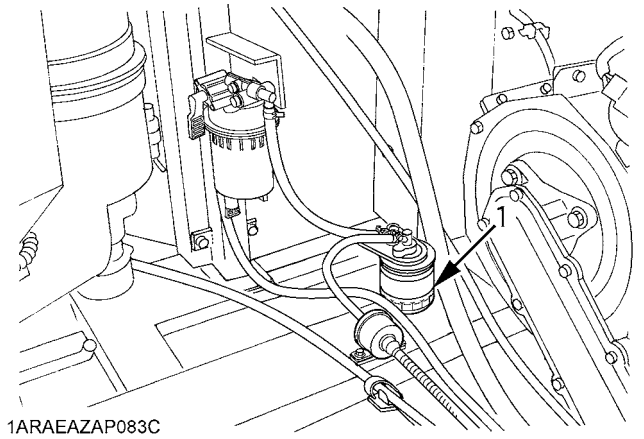


図番	品名	品番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-80380	全型式
2	フューエルチューブ	09661-82400	
3	フューエルチューブ	09661-80525	
4	フューエルチューブ	5H844-2699-0	
5	フューエルチューブ	5H844-2698-0	
6	フューエルチューブ	09661-40700	
7	フューエルチューブ	09661-81350	
8	フューエルチューブ	5H801-2711-0	
9	フューエルチューブ	5H801-2712-0	
10	フューエルチューブ	5H801-2713-0	

[698]

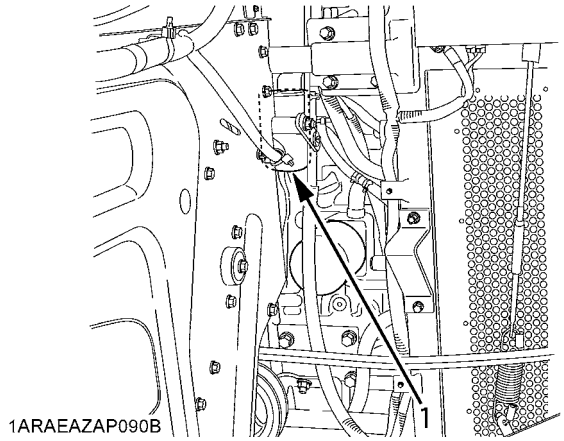
◆ フューエルフィルタカートリッジ

[572]



[572]

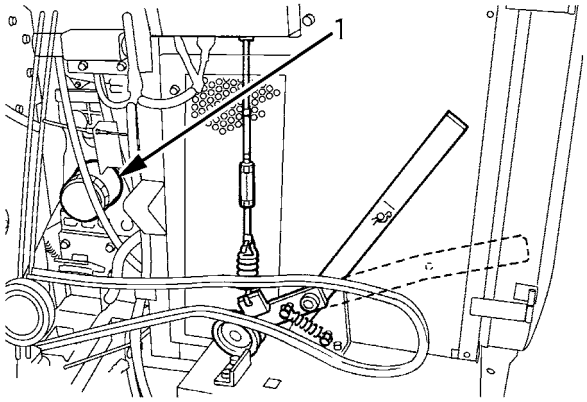
[698]



[698]

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ，アッシ（フューエル）	52000-2680-0	572
2	フィルタ，アッシ（フューエル）	5H801-2720-0	698

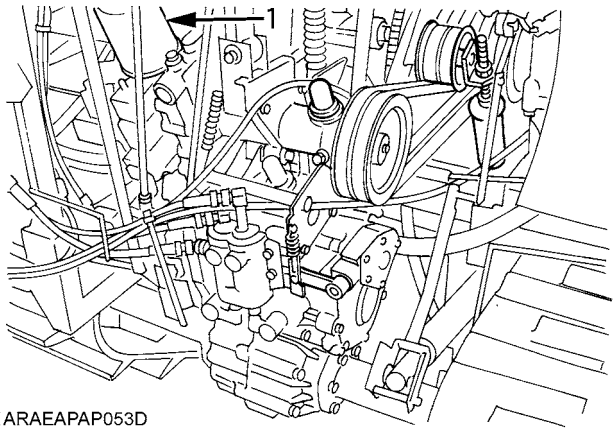
◆ エンジンオイルフィルタカートリッジ



1ARAEAPAP121I

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ (オイル，カートリッジ)	1C020-3243-0	全型式

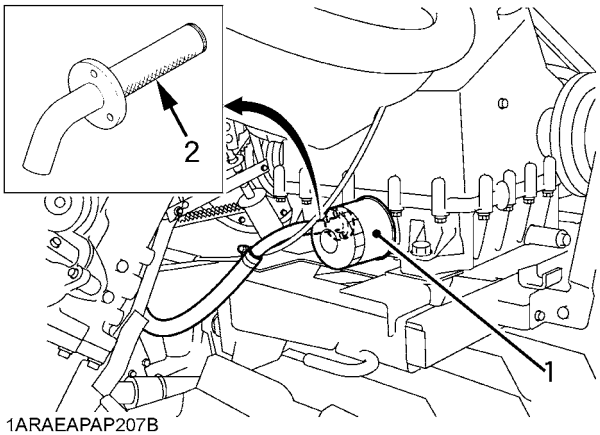
◆ HST オイルフィルタカートリッジ



1ARAEAPAP053D

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ（HST）	TA240-5990-0	全型式

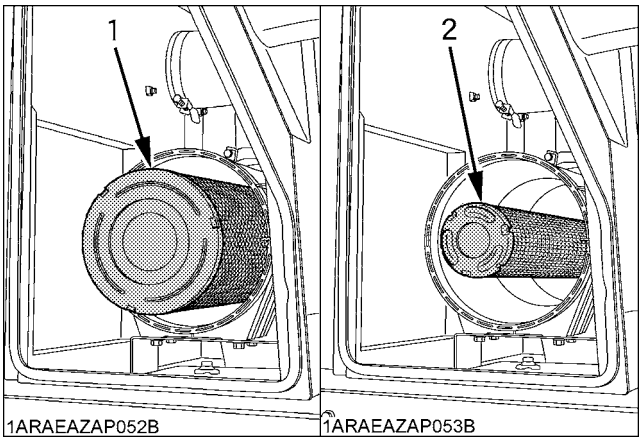
◆ 油圧オイルフィルタカートリッジ
◆ HST 吸入フィルタ



1ARAEAPAP207B

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ	5H601-1224-0	全型式
2	フィルタ（HST スイコミ）	5H601-1219-0	

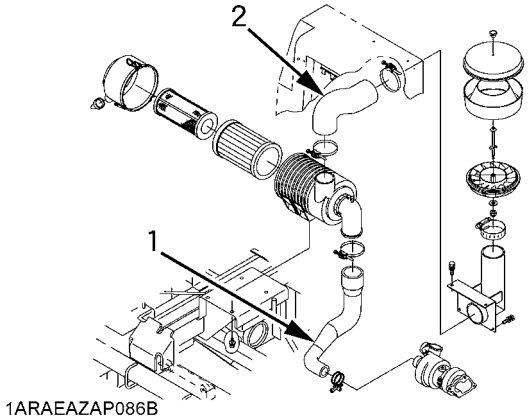
◆ エアクリーナ



1ARAEAZAP052B 1ARAEAZAP053B

図番	品名	品番	対象型式
1	エアクリーナエレメントアッシ	59700-2611-2	全型式
2	エレメント（インナー）	55231-2615-0	

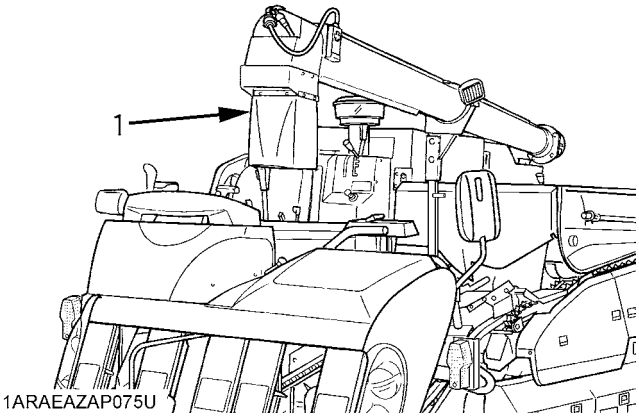
◆ インレットパイプ



1ARAEAZAP086B

図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（2，インレット）	5H821-2624-0	572
1	ホース（2，インレット）	5H844-2624-0	698
2	ホース（1，インレット）	5H658-2623-0	全型式

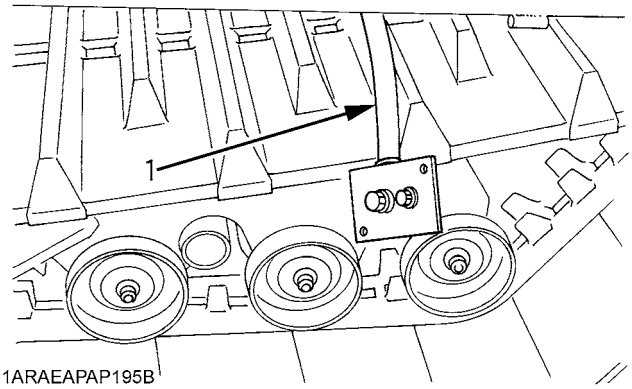
◆ 吐出口ブーツ



1ARAEAZAP075U

図番	品名	品番	対象型式
1	ブーツ	5G246-3158-0	全型式

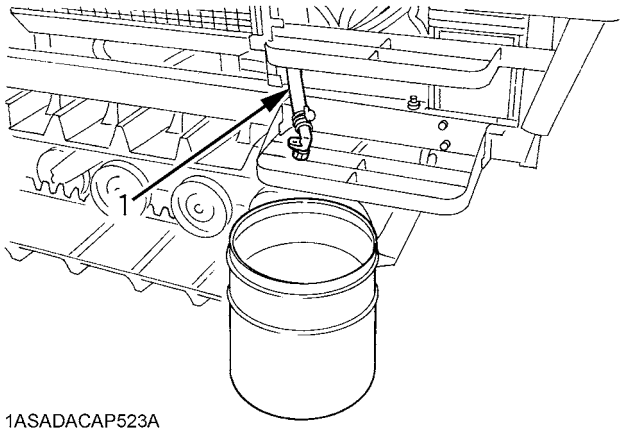
◆ オイルドレーンゴムホース



1ARAEAPAP195B

図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（オイルドレーン）	5H601-2521-0	全型式

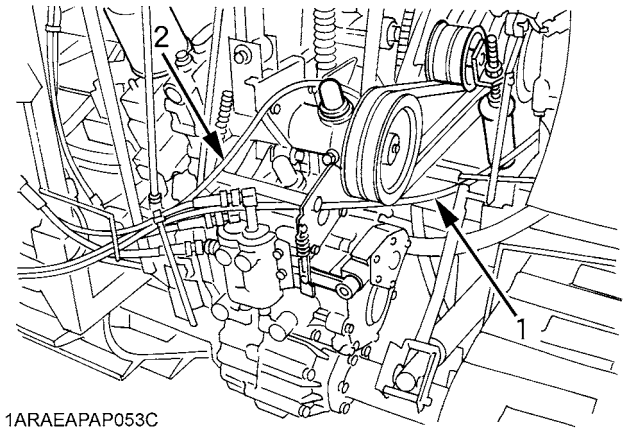
◆ 排水ホース



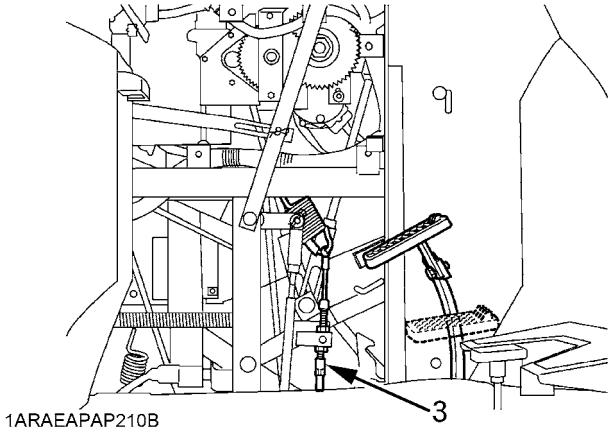
1ASADACAP523A

図番	品名	品番	対象型式
1	ホース （ドレーン，ウォータ）	5H601-2554-0	全型式

◆ 各ワイヤ



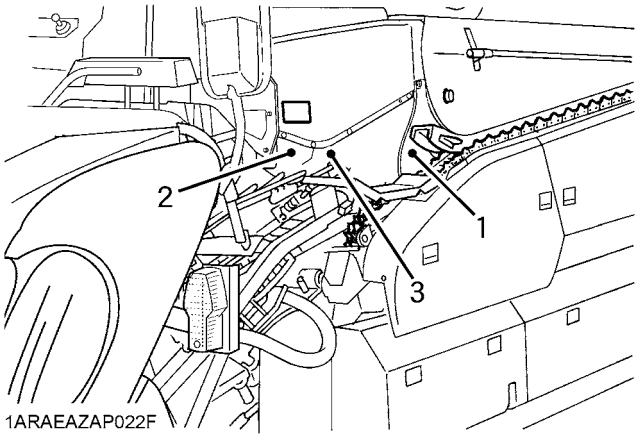
1ARAEAPAP053C



1ARAEAPAP210B

図番	品名	品番	対象型式
1	ケーブル (ダッコククラッチ)	5H618-3165-0	全型式
2	ケーブル (カリトリクラッチ)	5H601-3164-0	
3	ケーブル（ブレーキ）	5H601-3216-2	

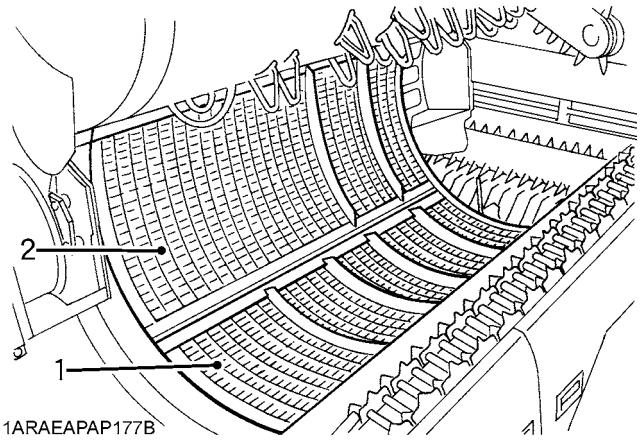
◆ フロントハンプ



1ARAEAZAP022F

図番	品名	品番	対象型式
1	ハンプ（1，フロント）	5K190-6112-0	全型式
2	ハンプ（2，フロント）	5K190-6113-0	
3	ハンプ（3，フロント）	5K190-6114-0	

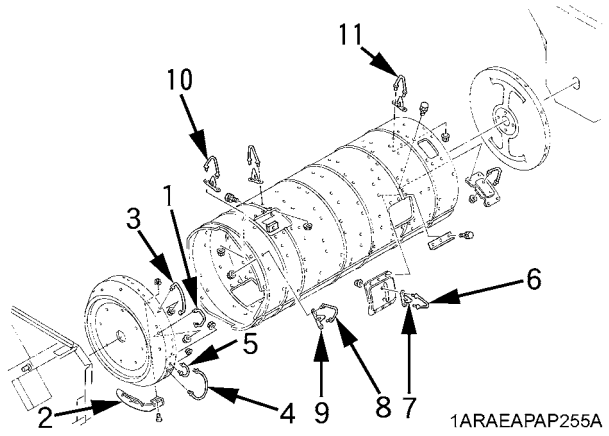
◆ 受あみ



1ARAEAPAP177B

図番	品名	品番	対象型式
1	コンケーブ (コウシ８，シタ)	5K198-2111-0	全型式
2	コンケーブ (コウシ８，ウエ)	5K198-2112-0	

◆ こぎ歯

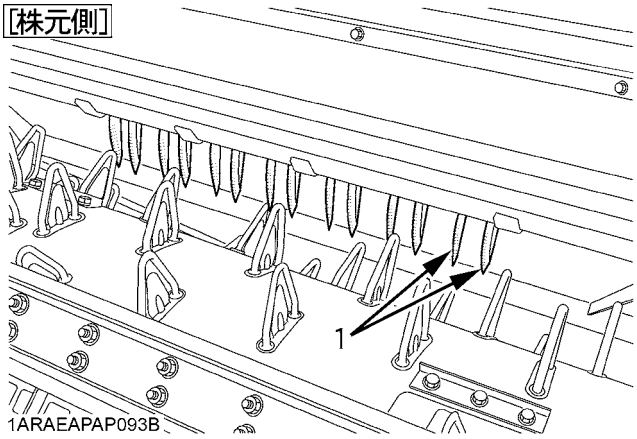


1ARAEAPAP255A

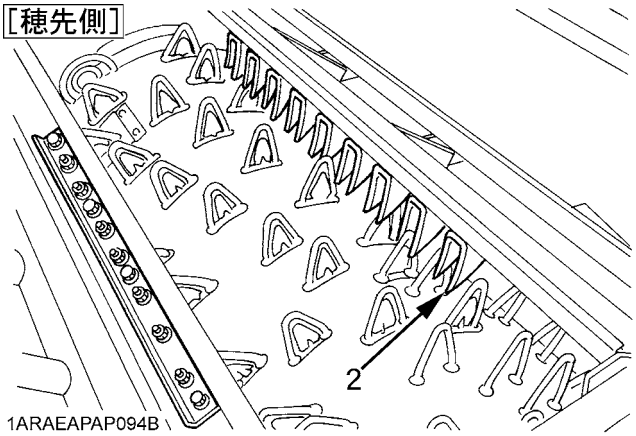
図番	品名	品番	対象型式
1	セイソシ（1）	5K190-2234-2	全型式
2	セイソシ（イタ１）	5K190-2235-0	
3	セイソシ（2，ヘンケイ）	5K190-2237-0	
4	セイソシ（2）	5K190-2238-2	
5	ダイ３セイソシシヨウ	53551-2174-2	
6	ナミハ	53821-2248-3	
7	イタコキハ	53821-2249-0	
8	ダイ１ホキョウシ	53821-2244-3	
9	イタホキョウシ	53821-2246-0	
10	ダイ２ホキョウシ	53821-2247-3	
11	コキハ（ヘンケイ）	53981-2251-2	

◆ わら切刃

[株元側]



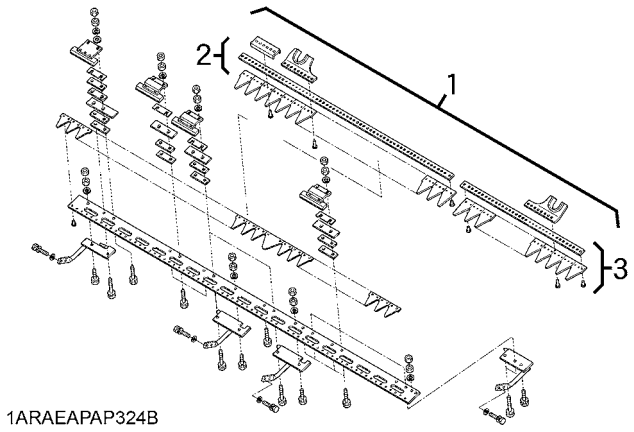
[穂先側]



図番	品名	品番	対象型式
1	セツダンバ	5K190-2135-0	全型式
2	セツダンバ	53981-2123-0	

◆ 刈刃

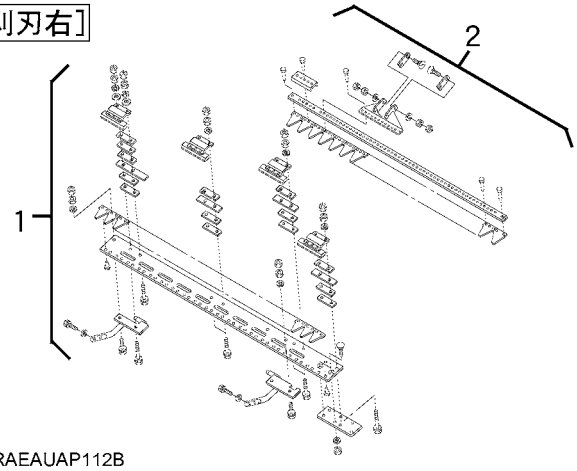
[572]



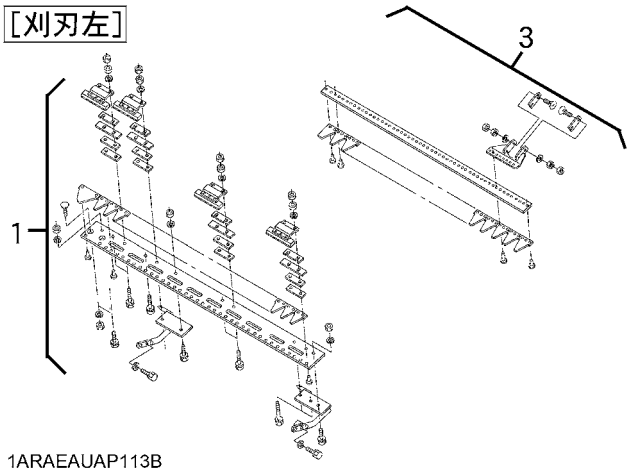
[572]

[698]

[刈刃右]



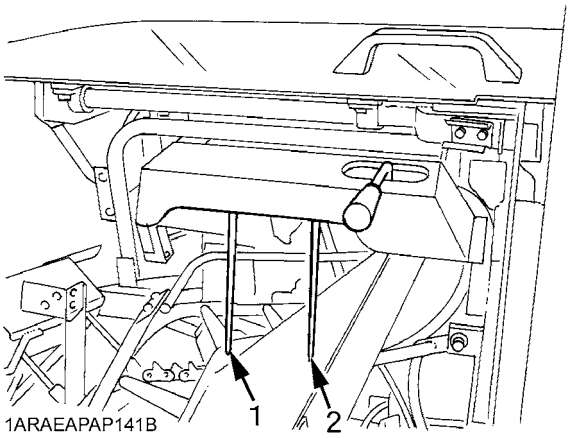
[刈刃左]



[698]

図番	品名	品番	対象型式
1	刈刃アッシ	5H868-5960-0	572
1	刈刃アッシ	5H861-5905-0	698
2	刈刃コンプ（R）	5H868-5985-0	572
2	刈刃アッシ（R）	5H861-5906-0	698
3	刈刃コンプ（L）	5H868-5970-0	572
3	刈刃アッシ（L）	5H861-5907-0	698

◆ 穂先センサ



1ARAEAPAP141B

図番	品名	品番	対象型式
1	スイッチ，アッシ (ホサキ，250)	5H601-7560-0	全型式
2	スイッチ，アッシ (ホサキ，210)	5H601-7570-0	

◆ 各チェーン

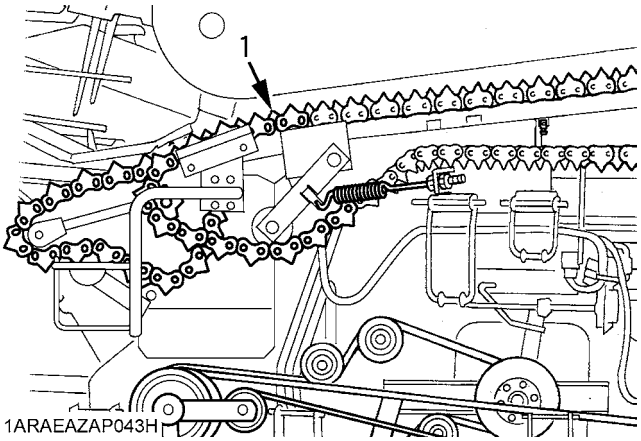
● 株元供給チェーン

● こぎ深さチェーン

1ARAEAPAP465D

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン，アッシ (39，キョウキュウ)	5H803-6610-0	全型式
2	チェーン，アッシ (46，フカサ)	5H803-7130-0	

● フィードチェーン

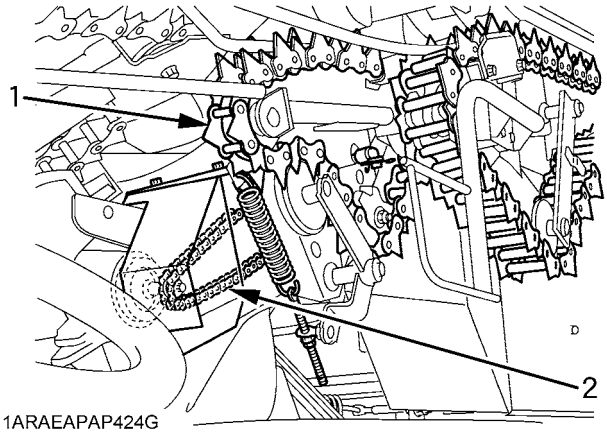


1ARAEAZAP043H

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン，アッシ (フィード 122)	5K116-4211-0	全型式

● 供給サポートチェーン

● 供給サポートチェーン駆動チェーン

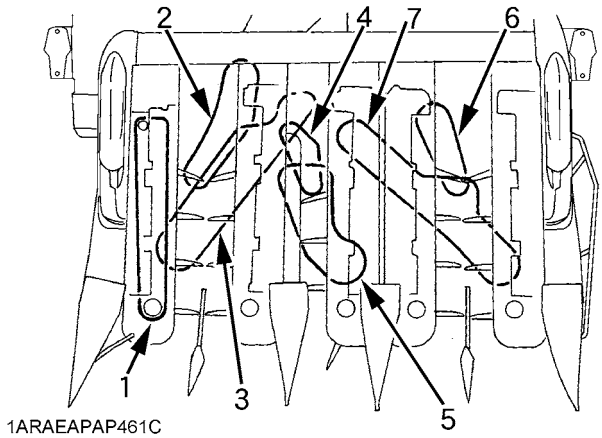


1ARAEAPAP424G

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン，アッシ (31，サポート)	5H861-6680-0	全型式
2	チェーン，アッシ (サポートクドウ)	5H658-6660-0	全型式

- **引起しチェーン**
- **右穂先・株元チェーン**
- **中穂先・株元チェーン**
- **左穂先・株元チェーン**

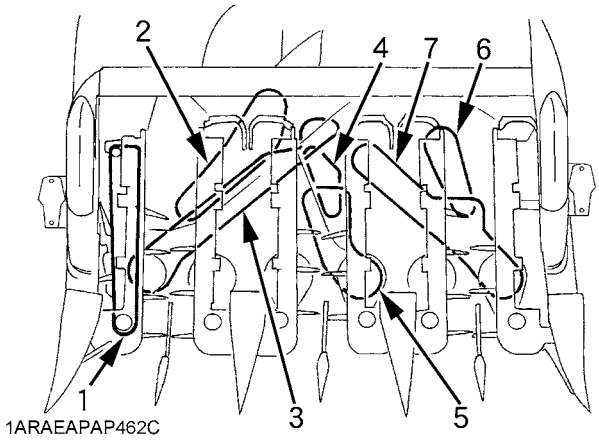
[572]



1ARAEAPAP461C

[572]

[698]

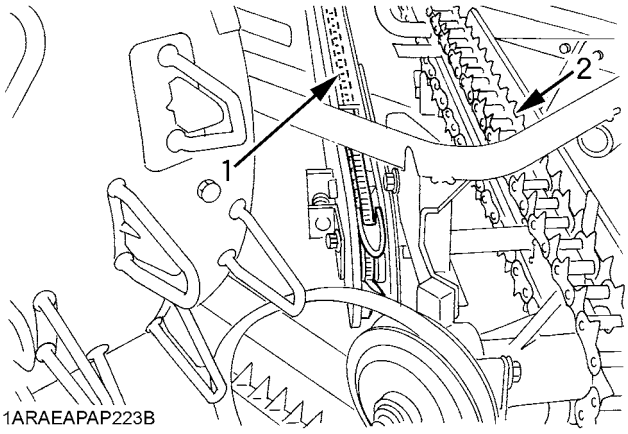


1ARAEAPAP462C

[698]

図番	品名	品番	対象型式
1	引起しチェーン爪アッシ	52200-5401-0	全型式
2	チェーン，アッシ (R，ホサキツメ)	5H603-6701-0	572
		5H601-6701-0	698
3	チェーン，アッシ (81，ミギ)	5H868-6360-0	572
	チェーン，アッシ (88，ミギ)	5H803-6360-0	698
4	チェーン，アッシ (C，ホサキツメ)	5H603-6905-0	572
		5H601-6905-0	698
5	チェーン，アッシ (35，ナカ)	5H868-6910-0	572
	チェーン，アッシ (41，ナカ)	5H803-6910-0	698
6	チェーン，アッシ (L，ホサキツメ)	5H603-6501-0	572
		5H601-6501-0	698
7	チェーン，アッシ (56，ヒダリ)	5H868-6320-2	572
	チェーン，アッシ (64，ヒダリ)	5H867-6320-2	698

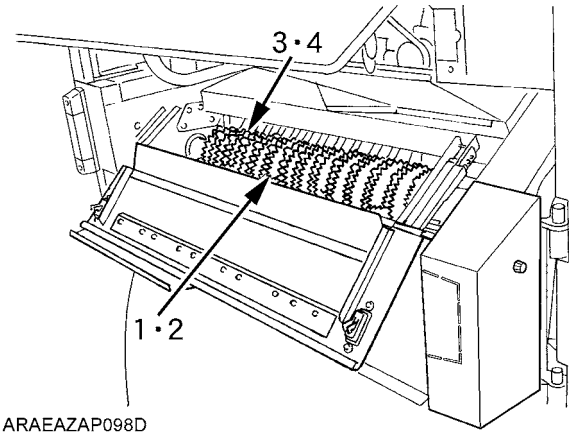
- **排わら穂先・株元チェーン**



1ARAEAPAP223B

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーンアッシ（ハイワラホサキ）	5K190-4410-0	全型式
2	チェーン（ハイワラ）	53981-4311-0	

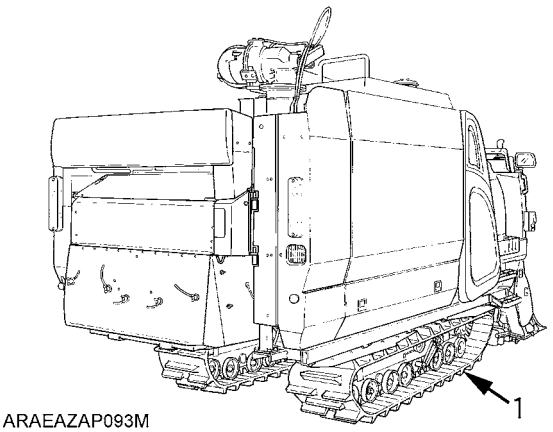
◆ カッタ刃・供給刃



1ARAEAZAP098D

図番	品名	品番	対象型式
1	セツダンバ (200 × 21 セラミック D)	57745-5248-0	全型式
2	セツダンバ (170 × 21 セラミック D)	57745-5246-0	
3	カキコミバ 160	57781-5212-0	
4	ロータ (160)	57745-5612-0	

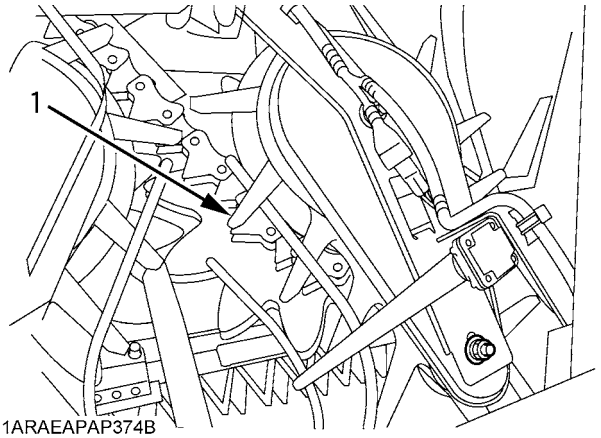
◆ クローラ



1ARAEAZAP093M

図番	品名	品番	対象型式
1	クローラ (500, 56TI)	5H672-2312-0	572
	クローラ (550, 56K)	5H618-2312-0	698

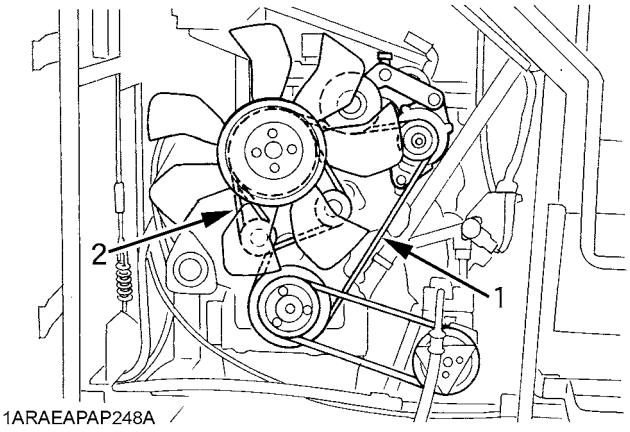
◆ 突起付ベルト



1ARAEAPAP374B

図番	品名	品番	対象型式
1	ベルト (突起付)	5H601-6212-0	全型式

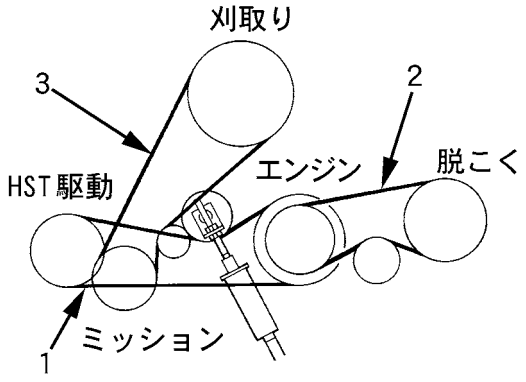
◆ ファン駆動ベルト



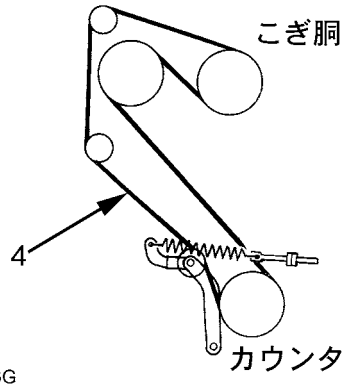
1ARAEAPAP248A

図番	品名	品番	対象型式
1	ベルト (V リブド, 1315)	5H601-2598-0	全型式
2	ベルト (V リブド, 670)	5H601-2599-0	

◆ 各ベルト

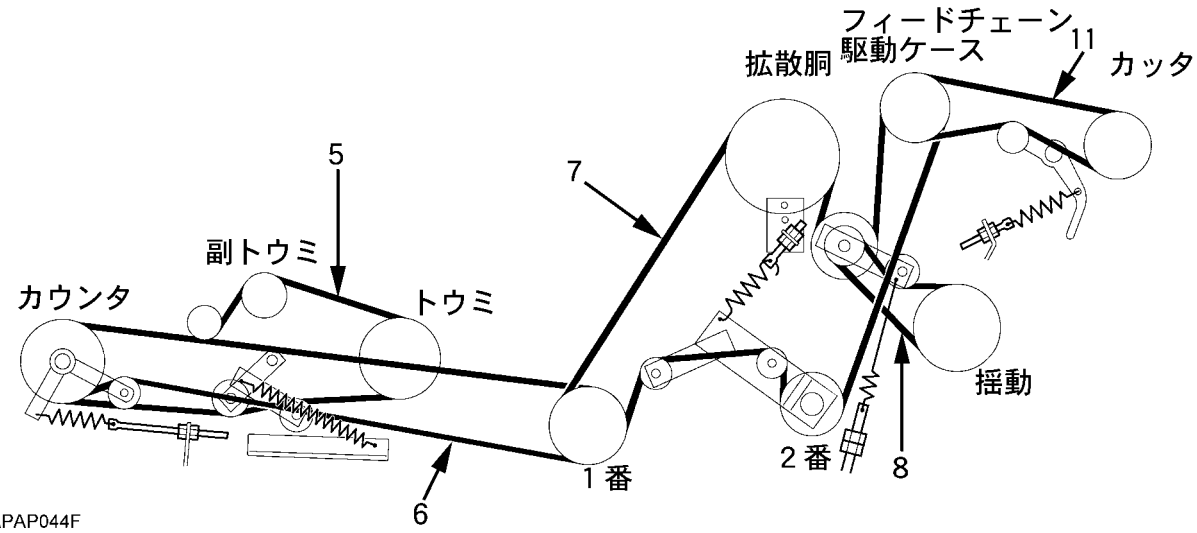


1ARAEAPAP069D



1ARAEAPAP106G

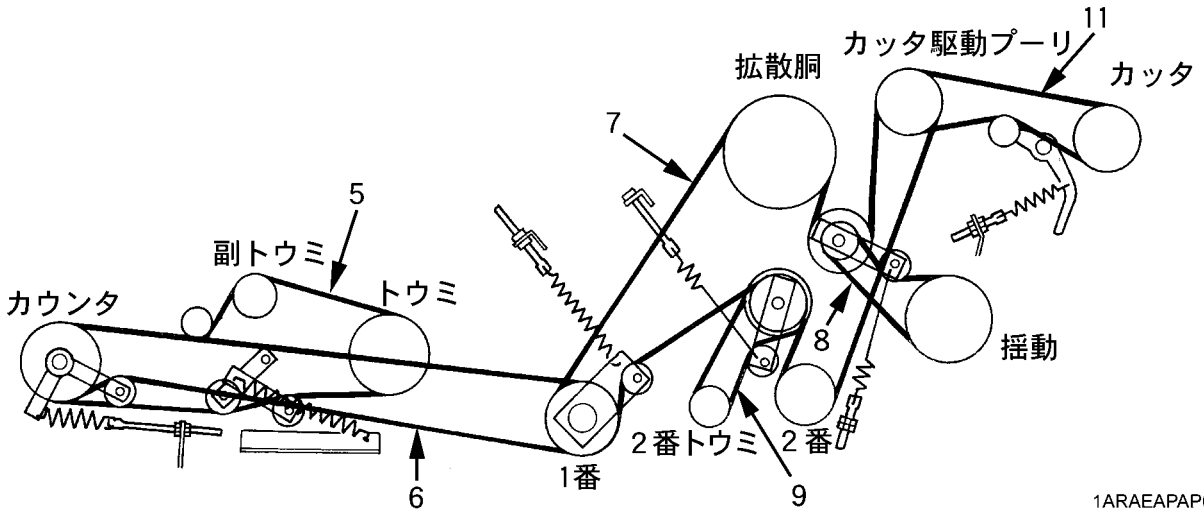
[572]



1ARAEAPAP044F

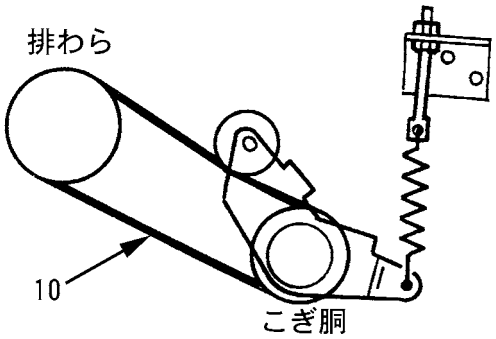
[572]

[698]

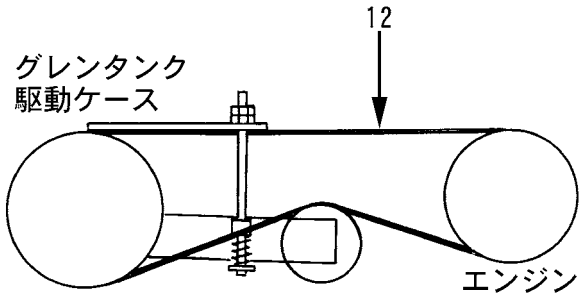


1ARAEAPAP060D

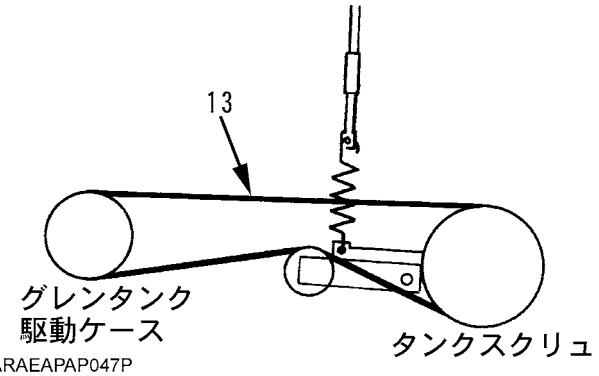
[698]



1ARAEAPAP022M



1ARAEAPAP024N



1ARAEAPAP047P

図番	名　称	品　名	品　番	対象型式
1	ミッション駆動ベルト	Vベルト（コグC59）	5H601-1146-0	全型式
		Vベルト，アッシ（コグC59）	5H601-1140-0	
2	脱こく駆動ベルト	Vベルト（コグB44）	5H601-1157-0	
3	刈取駆動ベルト	Vベルト（C57）	5H601-1175-0	
4	こぎ胴駆動ベルト	Vベルト（B153）	5K190-7111-0	
5	トウミ駆動ベルト	Vベルト（トクB86）	5K198-7114-0	
6	1番駆動ベルト	Vベルト（C117）	5K198-7112-0	
7	2番駆動ベルト	Vベルト（C149）	5K180-7113-0	572
		Vベルト（C164）	5K110-7113-0	698
8	揺動駆動ベルト	Vベルト（B43,K）	5K124-7115-0	全型式
9	2番トウミ駆動ベルト	Vベルト（B38）	5K110-7122-0	698
10	排わらチェーン駆動ベルト	Vベルト（B39,K）	5K124-7117-0	全型式
11	カッタ駆動ベルト	Vベルト（B-55,6A）	5K191-7115-0	
12	タンク駆動ベルト	Vベルト（コグC65）	5G217-8126-0	
13	タンククラッチ駆動ベルト	Vベルト（C68）	5G200-8137-0	

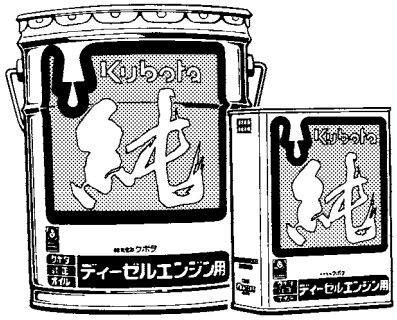
クボタ純オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

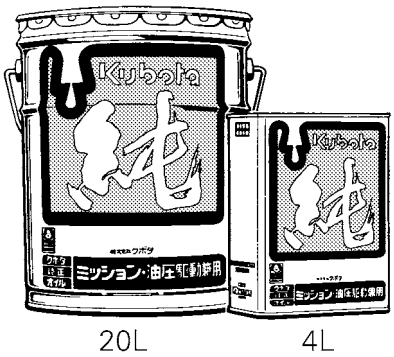
お買求めは，購入先へご用命ください。

- **D10W-30 スーパー CD**
  （ターボ付きディーゼルエンジン用）
  D10W-30 スーパー CF
  （ターボ付きディーゼル CRS エンジン用）



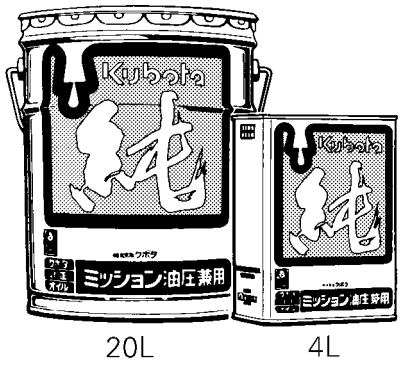
1ARADAFAP393A

- **スーパー UDT-2**
  （油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）



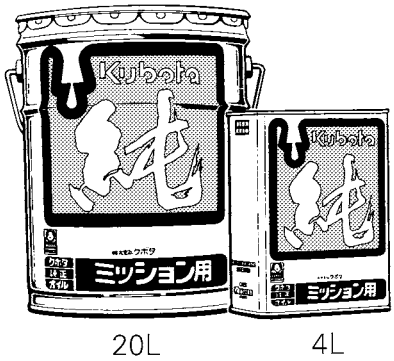
1ARADAFAP394A

- **M80B（ミッション油圧兼用）**



1ARADAFAP395A

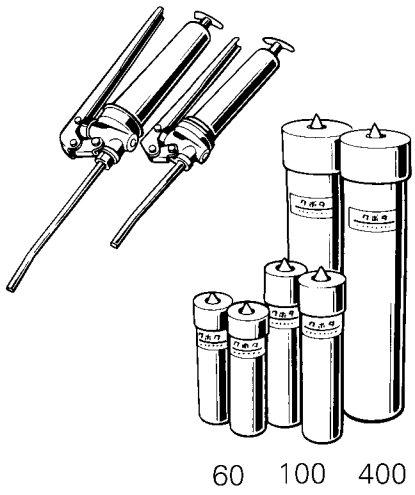
- **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**



1ARADAFAP396A

■クボタ純グリース

- **No. 2**



1ARADAFAP397A

索引

英数字

1 番駆動ベルト 147
2 番駆動ベルト 147
2 番トウミ駆動ベルト 148
HST オイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジの交換・HST 吸入フィルタの洗浄・交換ついて 134
HST 入力フランジのオイル 119

あ

アクセルレバー 9
アンローダからもみが排出されないとき 190
アンローダ自動旋回制御装置 24
アンローダリモコンスイッチ 27
アンローダレバー 25

い

移動走行について 35

う

受あみの脱着 82
運転席（シート） 12
運転席下カバー及び運転席下側板の脱着 69

え

エアクリーナの点検･掃除･交換 127
エンジンオイル 115
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 133
エンジンシステム異常ランプ 17
エンジン停止スイッチ 15
エンジンの始動と停止のしかた 31

お

オイル，フィルタ類の交換とチェーン，ベルト，クローラの張り調整 104
オイルはクボタ純オイルをお使いください。. 208
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 194

か

各部チェーンの点検･調整 150
各部のオープン（開閉）と脱着のしかた 69
各部のグリース 122
各部の掃除 89
各部の掃除と注油のしかた 88
各部の注油 94
各部ベルトの点検･調整 139
各部ワイヤの点検・調整 135
カッタオープン 74
カッタ駆動ベルト 149
カッタ後部ドロッパ 195
カッタ刃の交換 170
カッタ左サイドカバーの脱着 85
カッタ部の点検･調整･増締め 166
株元供給チェーン 154
刈取オートクラッチ 24
刈取りかき込みペダル 14
刈取下降ロックスイッチ 13
刈取駆動ベルト 145
刈取作業後の手入れ 186
刈取作業のしかた 51
刈取作業の手順 52
刈取スタンド 194
刈取り防じんカバー 194
刈刃駆動ケース 118
刈刃の高さ調節 63
刈刃の点検・調整 159

き

機体方向説明 4
キャノピ 194
給･注油（水）点検一覧表 112
供給サポートチェーン 157
供給サポートチェーン駆動チェーン 157
緊急刈脱ハンドルについて 191

く

クボタ純オイル 208
クボタ純グリース 208
グレンタンクオープン 86
グレンタンク下カバーの脱着 85
クローラの点検･調整 183

け

けん引フックについて 191

索引

こ

こぎ室送じん調節レバーの調節 63
こぎ胴オープン 70
こぎ胴駆動ベルト 146
こぎ歯の点検･交換 163
こぎ深さチェーン 157
コンバインの準備 41, 45
コンバインの積込み･積降しのしかた 42
コンビネーションスイッチ･ホーンスイッチ . 18

さ

作業に合わせた各部の調整･調節のしかた ... 61
作物とほ場の条件 44
作物に合わせた変速の選びかた 56
作物の条件 44

し

シーブケースの脱着 75
自動エンジン停止装置がはたらいたとき 188
自動こぎ深さ制御装置 22
自動車体水平制御装置（モンロー） 20
始動のしかた 32
手動こぎ深さスイッチ 23
種子用交換部品 194
主変速レバー･副変速レバー 10
主要諸元 192
準備のしかた 45
使用者が行なってはいけない修理 105
消耗部品（純正部品を使いましょう） 195
新車時の扱いかた 31

す

スイスイデバイダ 194
水平操作レバー 22
スクリュ式拡散装置 195

せ

旋回のしかた 39
洗車時の注意 105

そ

装置の名称と各部のはたらき 5, 19
走行前の準備 36
その他 191

た

脱こく・刈取クラッチレバー 13
脱こくクラッチワイヤ･刈取クラッチワイヤ . 137
脱こく駆動ベルト 145
タンク駆動ベルト 149
タンククラッチ駆動ベルト 150

ち

チャフ調節レバー 15
駐車ブレーキワイヤ 136
長期格納時 186

て

定期点検 103
定期点検一覧表 106
停止のしかた 34
停車・駐車のしかた 40
手刈り（枕刈り）脱こくのしかた 60
電気の各配線コード，各ヒューズの点検･交換 179

と

トウミ駆動ベルト 145
トウミ調節レバー 15
トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）の開度の調節 64
道路走行について 40
吐出口ブーツの点検･交換 174
ドライブローラの点検・左右入換え・交換 .. 185
トラック上での処置 43
トラックとあゆみ板の準備 41
トラックローラ（転輪）の点検 184
トラックローラ部への注油 121
トランスミッションケースオイル 117

な

中穂先チェーン･左穂先チェーン 153
ならし運転について 31

に

日常点検項目 29

ね

燃料 114
燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換 114

は

廃棄物の処理について 104
排出調整板の調整 65
排じん調節板の調整 64
パイプ・ホース類の点検 128
排わら株元チェーン 158
排わら切換えカバーのオープン 86
排わら切換えワイヤ 138
排わらチェーン押えの点検・調整・交換 174
排わらチェーン駆動ベルト 149
排わら穂先チェーン 159
バックミラー 195
発進のしかた 37
バッテリの点検・交換 175
パワーアップこぎ胴スイッチ 14
パワーステアリングレバー・方向微調整スイッチ 11
反射器の点検・交換 183

ひ

引起しカバーの脱着 83
引起しサイドカバー右・左の脱着 82
引起しチェーン 152
引起し爪高さの調節 62
引起し変速レバー 13
非常エンジン停止レバー 10
左サイドカバーの脱着 83

ふ

ファン駆動ベルト 143
フィードチェーン 158
フィードチェーンオートクラッチワイヤ 136
フィードチェーン駆動ケースオイル 120
付属部品 194
フットレスト 12
フューエルフィルタカートリッジの交換 131
ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 11
プレクリーナの点検・掃除 126

ほ

補助搬送（突起付）ベルト 146
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除・オイルクーラフィンの掃除 129
防じんカバーオープン 69
ほ場の刈りかたと旋回のしかた 55
ほ場の出入りのしかた 51
ほ場の準備 45
ほ場の条件 44
ほ場の出入りのしかた 51
補助搬送（突起付）ベルト 146

ま

毎日の作業後 186

み

右株元チェーン・中株元チェーン・左株元チェーン 155
右デバイダの調節 62
右穂先チェーン 153
ミッション駆動ベルト 145

め

メインスイッチ 9
メータユニット 16
メータユニットによる異常と処置 66

も

もみが詰まる 190
もみの排出のしかた 56
もみ排出スイッチ 15

ら

ラジエータ冷却水の点検・交換 124
ランプ（電球）の点検・交換・ホーンスイッチの点検 182

れ

レール台ブッシュへの注油 120

ゆ

油圧オイルタンクオイル 118
油水分離器（セパレータ）の点検・排水・掃除 130
輸送について 41

よ

揺動駆動ベルト 148

わ

わらが詰まる 188
わら切刃の点検・組換え・交換 164

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（　　）　　－		型式名 区分 車台番号（製造番号） エンジン型式 エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式 機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

北海道事務所：電(011)376-4434	〒061-1274	北海道北広島市大曲工業団地３－１
秋田事務所：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所：電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182－１
東京事務所：電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５－２－36
新潟事務所：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上１－14-15
金沢事務所：電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956－１
名古屋事務所：電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町１－１
大阪事務所：電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜１－１－１
岡山事務所：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
米子事務所：電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１－７－３
熊本事務所：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846－１
株式会社四国クボタ本社：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647－３

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター：電(072)241-1375	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64

WR572/698
AS. F. 8-8. 2. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　5H821-8552-5